明石市

明石城下町町屋跡

－　山陽電鉄本線（明石Ⅱ期）連続立体交差事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　－

平成26（2014）年3月

兵庫県教育委員会

山陽電鉄西新町駅構内から東へ

D −1 地区から東へ

出土土製品

D地区出土陶磁器類・土製品・石製品

D地区出土瓦質土器

D地区溝出土土器

出土陶磁器

出土胞衣壺

出土瓦

出土硯 等

例　言

1　本書は、明石市西新町２丁目・３丁目に所在する明石城下町町屋跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、山陽電鉄本線（明石Ⅱ期）連続立体交差事業に係り、兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、兵庫県立考古博物館を調査機関として実施した。また、出土品整理は、兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が実施した。

3　調査の推移

（発掘作業）

確認調査　平成 19 年４月 24 日～平成 19 年４月 27 日
実施機関：兵庫県立考古博物館
平成 21 年１月 30 日～平成 21 年３月 18 日
実施機関：兵庫県立考古博物館

本発掘調査　平成 21 年１月 30 日～平成 21 年３月 18 日
実施機関：兵庫県立考古博物館
工事請負：株式会社　坂平組
平成 21 年６月１日～平成 21 年６月５日
実施機関：兵庫県立考古博物館
直接執行対応
平成 21 年８月 17 日～平成 21 年９月 16 日
実施機関：兵庫県立考古博物館
工事請負：株式会社合同建設
平成 23 年７月 12 日～平成 23 年８月 11 日
実施機関：兵庫県立考古博物館
工事請負：株式会社合同建設

（出土品整理作業）

平成 24 年４月１日～平成 25 年３月 31 日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成 25 年４月１日～平成 26 年３月 31 日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
遺物写真撮影委託：株式会社　クレアチオ

4　本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　上田健太郎・久保弘幸・深江英憲・渡辺　昇が担当した。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　本書に使用した方位は国土座標（第Ⅴ系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。（世界測地系に換算）

本文目次

第１章　調査の経緯と経過 ……（深江英憲）１
　第１節　調査に至る経過
　第２節　調査の概要
　第３節　整理作業
第２章　遺跡の位置と環境 ……（深江）６
第３章　発掘調査の成果
　第１節　遺構 ……（渡辺　昇・久保弘幸・上田健太郎・深江）８
　　１　A 地区の調査
　　２　B 地区の調査
　　３　C 地区の調査
　　４　D 地区の調査
　第２節　遺物 ……（久保・深江）23
第４章　自然科学分析
　第１節　明石城下町町屋跡における動物遺存体同定 ……（株式会社古環境研究所）32
　第２節　明石城下町町屋跡における樹種同定 ……（株式会社古環境研究所）39
第５章　まとめ …… 47

挿図目次

第１図　明石城下町町屋跡と周辺の関連遺跡 …… ６
第２図　明石城下町町屋跡出土の動物遺存体…… 37
第３図　明石城下町町屋跡出土の貝類 …… 38
第４～８図　明石城下町町屋跡出土の木材Ⅰ～Ⅴ …… 42 ～ 46

表目次

第１表　D-1 地区土坑一覧表 …… 23
第２表　D-2 地区土坑一覧表 …… 23
第３表　出土遺物観察表 …… 24 ～ 31
第４表　種名表 …… 32
第５表　明石城下町町屋跡 D 地区 SK110 から出土した魚骨集計表 …… 35
第６表　明石城下町町屋跡 D 地区 SK111 から出土した魚骨集計表 …… 35
第７表　明石城下町町屋跡 D 地区 SK116 から出土した魚骨集計表 …… 36
第８表　明石城下町町屋跡における樹種同定結果 …… 39

巻頭写真図版目次

巻頭写真図版１　山陽電鉄西新町駅構内から東へ
D-1地区から東へ
巻頭写真図版２　出土土製品
巻頭写真図版３　D地区出土陶磁器類・土製品・石製品
巻頭写真図版４　D地区出土遺物
巻頭写真図版５　出土胞衣壺・瓦・石硯等

図版目次

図版1　調査区配置図
図版2　A地区遺構平面図
図版3　A地区北壁断面図
図版4　A地区西壁断面図
図版5　A地区瓦敷き遺構・土坑・胞衣壺平面図・断面図
図版6　A地区SD01平面図・断面図
図版7　B地区上層遺構面平面図
図版8　B地区埋甕１・２平面図・断面見通し図
図版9　B地区SD01平面図・断面図・見通し図
図版10　B地区下層遺構面平面図
図版11　B地区南壁断面図
図版12　C地区上層遺構面平面図・B地区遺構対照図
図版13　C地区上層遺構平面図
図版14　C地区上層遺構平面図・断面図
図版15　C地区上層遺構断面図
図版16　C地区下層遺構面平面図・B地区遺構対照図
図版17　C地区下層遺構平面図
図版18　C地区下層遺構平面図・断面図
図版19　C地区下層遺構断面図
図版20　D-1地区・D-2地区遺構平面図
図版21　D-1地区土坑平面図・断面図①
図版22　D-1地区土坑平面図・断面図②
図版23　D-1地区土坑平面図・断面図③
図版24　D-1地区土坑平面図・断面図④
図版25　D-1地区土坑平面図・断面図⑤
図版26　D-1地区土坑平面図・断面図⑥
図版27　D-1地区溝平面図・断面図①
図版28　D-1地区溝平面図・断面図②
図版29　D-1地区井戸平面図・断面見通し図
図版30　D-2地区土坑平面図・断面図①
図版31　D-2地区土坑平面図・断面図②
図版32　D-2地区土坑平面図・断面図③
図版33　D-2地区溝平面図・断面図
図版34　出土土器①
図版35　出土土器②
図版36　出土土器③
図版37　出土土器④
図版38　出土土器⑤
図版39　出土土器⑥
図版40　出土土器⑦
図版41　出土土器⑧
図版42　出土土器⑨
図版43　出土土器⑩
図版44　出土土器⑪
図版45　出土土器⑫
図版46　出土土器⑬
図版47　出土土器⑭
図版48　出土土器⑮
図版49　出土土器⑯
図版50　出土土器⑰
図版51　出土土器⑱
図版52　出土土器⑲
図版53　出土土器⑳
図版54　出土土器㉑
図版55　出土土器㉒
図版56　出土土器㉓
図版57　出土土器㉔
図版58　出土土器㉕
図版59　出土石器①
図版60　出土石器②
図版61　出土木器①
図版62　出土木器②
図版63　出土木器③
図版64　出土木器④
図版65　出土木器⑤
図版66　出土金属器①
図版67　出土金属器②
図版68　出土金属器③
図版69　出土金属器④
図版70　出土銭拓影①
図版71　出土銭拓影②
図版72　出土銭拓影③

写真図版目次

写真図版１　A地区全景（西から）
A地区全景（西から）
A地区全景（東から）
写真図版２　調査区北壁（南東から）
調査区西壁（東から）
写真図版３　埋甕１・２　胞衣壺１（北から）
胞衣壺１（東から）
胞衣壺２・３（東から）

SK03（南から）
SK04（西から）
写真図版４　SK05 断面（東から）
SK05 漆椀出土状況（南から）
SK06（南から）
SK09（西から）
左上：SK14 遺物出土状況（北から）
右上：SK16 断面（東から）
左：SK26・27 断面（南から）
写真図版５　左：SK28 断面（南から）
瓦敷き遺構（上から）
瓦敷き遺構（東から）
左：瓦敷き遺構下層（上から）
写真図版６　SD01（西から）
SD01 断面（西から）
SD01 板材検出状況（上から）
SD01 埋桶断面（西から）
SD01 埋桶（上から）
写真図版７　B 地区全景（西から）
写真図版８　B 地区東半部（西から）
B 地区西半部（西から）
写真図版９　埋甕１・２（南から）
左上：埋甕１（西から）
右上：埋甕２（北から）
左：土坑状遺構（東から）
写真図版 10　左上：SK09 遺物出土状況（北から）
右上：SD01 断面（東から）
左：SK04（北から）
左上：作業状況①
右上：作業状況②
左：作業状況③
写真図版 11　C 地区上層面近景（東から）
C 地区上層面全景（東から）
写真図版 12　C 地区上層面全景（西から）
C 地区上層面全景（南西駅舎側から）
写真図版 13　煉瓦敷溝（南西から）
SK03 断面（南から）
SK04（北東から）
SK06 断面（北西から）
SK07（南から）
SK08：胞衣壺（南から）
SK08：胞衣壺内部（南から）
SK09 断面（北西から）
写真図版 14　SK12（西から）
SK12 埋桶（西から）
SK13 断面（北東から）
SK14 断面（西から）
SK15 断面（南から）
SK17 断面（東から）
SK18 断面（北から）
SK19（東から）
写真図版 15　SD01 断面（東から）
SD02 断面（東から）
SD16 断面（北から）
SD20（西から）
C 地区下層面近景（東から）
写真図版 16　C 地区下層面全景（東から）
C 地区下層面全景（西から）
写真図版 17　C 地区下層面全景（南西駅舎側から）
SK26 断面（東から）
SK28 断面（東から）
SK29 断面（東から）
SK30・31（南から）
写真図版 18　SK32 断面（東から）
SK33 断面（北から）
SK35（南から）
SK37 断面（西から）
SK39 断面（北西から）
SK40（西から）
SK41 断面（東から）
SK51（南から）
写真図版 19　SK52 断面（南から）
SD34 断面（南から）
作業状況①
作業状況②
写真図版 20　D-1 地区調査前状況（東から）

D-1 地区機械掘削状況
D-1 地区調査状況
D-1 地区東半部（南西から）
D-1 地区東半部（西から）
写真図版 21　D-1 地区全景（西から）
D-2 地区全景（東から）
写真図版 22　D-1 地区礎石建物跡（北西から）
D-1 地区礎石建物跡（南西から）
D-1 地区 SD01・02 重複状況
D-1 地区 SD01・08 分岐部の状況
D-1 地区 SK04 断面（南東から）
D-1 地区 SK04 東縁土器出土状況（北西から）
D-1 地区 SK05 完掘状況（南から）
D-1 地区 SK18 完掘状況（南から）
写真図版 23　D-1 地区 SE15 井筒部断面（南から）
D-1 地区 SE15（南から）
D-1 地区 SE15 全景（南から）
D-1 地区 SE15 断割断面
D-1 地区 SK16 断面（南から）
D-1 地区 SK16 完掘状況（南から）
D-1 地区 SK16 全景（西から）
D-1 地区 SK16 断割状況（南から）
写真図版 24　D-1 地区 SK22・23 断面（西から）
D-1 地区 SK24 断面（南から）
D-1 地区 SK24 遺物出土状況（北から）
D-1 地区 SD27 木樋断面（東から）
D-1 地区 SK28 断面（東から）
写真図版 25　D-1 地区 SD33 内胞衣壺出土状況（北東から）
D-1 地区 SK40 完掘状況（北から）
D-1 地区 SX37 検出状況（南から）
D-1 地区 SX37 断面（西から）
D-2 地区西壁標準地層断面（東から）
写真図版 26　D-2 地区 SK112 および周辺土坑群（南から）
D-2 地区 SK112 検出状況（南から）
D-2 地区 SK112 完掘状況（南から）
D-2 地区 SK112 断面（南から）
D-2 地区 SK129 検出状況（南から）
D-2 地区 SK129 炭層除去後（南から）
D-2 地区 SK129 断面（南西から）
D-2 地区 SK130 断面（南から）
写真図版 27　A 地区出土土器①
写真図版 28　A 地区出土土器②
写真図版 29　A 地区出土土器③
写真図版 30　A 地区出土土器④
写真図版 31　A 地区出土土器⑤
写真図版 32　A 地区出土土器⑥・B 地区出土土器①
写真図版 33　B 地区出土土器②
写真図版 34　B 地区出土土器③
写真図版 35　B 地区出土土器④
写真図版 36　C 地区出土土器①
写真図版 37　C 地区出土土器②
写真図版 38　C 地区出土土器③
写真図版 39　C 地区出土土器④
写真図版 40　C 地区出土土器⑤
写真図版 41　C 地区出土土器⑥
写真図版 42　C 地区出土土器⑦
写真図版 43　C 地区出土土器⑧
写真図版 44　D 地区出土土器①
写真図版 45　D 地区出土土器②
写真図版 46　D 地区出土土器③
写真図版 47　D 地区出土土器④
写真図版 48　D 地区出土土器⑤
写真図版 49　D 地区出土土器⑥
写真図版 50　D 地区出土土器⑦
写真図版 51　D 地区出土土器⑧
写真図版 52　D 地区出土土器⑨
写真図版 53　D 地区出土土器⑩
写真図版 54　D 地区出土土器⑪
写真図版 55　D 地区出土土器⑫
写真図版 56　D 地区出土土器⑬
写真図版 57　D 地区出土土器⑭
写真図版 58　D 地区出土土器⑮

写真図版 59　D 地区出土土器⑯
写真図版 60　D 地区出土土器⑰
写真図版 61　D 地区出土土器⑱
写真図版 62　D 地区出土土器⑲
写真図版 63　出土石器①
写真図版 64　出土石器②
写真図版 65　出土木器①
写真図版 66　出土木器②
写真図版 67　出土木器③
写真図版 68　出土木器④
写真図版 69　出土金属器①
写真図版 70　出土金属器②
写真図版 71　出土金属器③
写真図版 72　出土金属器④
写真図版 73　出土金属器⑤（古銭）
写真図版 74　出土金属器⑥（古銭）
写真図版 75　出土金属器⑦（古銭）

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経過

明石城下町町屋跡は、明石城武家屋敷の南縁付近、及び明石川西側の旧西国街道沿いに所在する。本報告書における明石城下町町屋跡の調査箇所は、明石市西新町２丁目・３丁目に位置し、旧山陽電鉄西新町駅の駅舎、旧軌道敷き部分（新設高架部分）、仮設軌道敷き部分に当たる。

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所（明石鉄道高架対策室）は、踏切遮断による交通渋滞及び踏切事故の解消、安全性の向上と騒音の減少、周辺住民等の利便性の向上等を目的として、山陽電鉄本線連続立体交差（第Ⅱ期）事業を計画した。同事業は、山陽電鉄大蔵谷駅から明石川までの第Ⅰ期工事に引き続き、明石川以西の西新町駅周辺整備を含めた林崎松江海岸駅に至る区間を高架化するものである。

本事業の計画が進む中、平成 18 年６月に分布調査を実施し（遺跡調査番号 2006078）、事業対象範囲の西側で周知の埋蔵文化財包蔵地である「船上城跡」、また東端で同じく「明石城武家屋敷」、「明石城下町町屋跡」の範囲内に当たる事が判明したため、兵庫県東播磨県民局長からの依頼「平成 18 年 11 月 20 日付け東播（加土）第 1600 号」に基づき、同年 12 月の確認調査（遺跡調査番号 2006149）を皮切りに、事業の進捗に伴い、随時確認調査を実施した。

その結果、船上城跡の範囲内については、遺構及び遺物が認められなかったため、工事施工可の取り扱いが成された（平成 19 年７月 24 日付け兵考第 1348 号・平成 21 年３月 31 日付け兵考第 3350 号の取扱い回答文書による）。また、山陽電鉄西新町駅の駅舎周辺、仮設軌道敷き部分では、遺構及び遺物が認められた（上記取扱い回答文書に同じ）ため、平成 20 年度には、兵庫県東播磨県民局長からの依頼「平成 20 年 11 月 25 日付け東播（加土）第 1517」に基づき、仮設軌道敷き部分の本発掘調査を実施し（遺跡調査番号 2008152）、平成 21 年度には、同依頼「平成 21 年５月 25 日付け東播（加土）第 1160 号」に基づき、旧西新町駅舎の一部を調査した（遺跡調査番号 2009162・2009193）。更に、仮設駅舎及び仮設軌道敷きでの列車運行に移行後の平成 23 年度には、同依頼「平成 23 年４月６日付け東播（加土）第 1008 号」に基づき、新設高架部分に当たる旧軌道敷き部分の本発掘調査を実施した（遺跡調査番号 2011176）。

分布調査及び確認調査、本発掘調査の体制は、以下の通りである。

１　分布調査（遺跡調査番号：2006078）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　　調査第１班　主査　山上雅弘

技術職員　上田健太郎

調査期間：平成 18 年６月 20 日

調査面積：61,000 ㎡

２　確認調査①（遺跡調査番号：2006149）「船上城跡」

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所　　企画調整班　主査　中川　渉

調査期間：平成 18 年 12 月８日

調査面積：8 ㎡

確認調査②―１（遺跡調査番号：2007050）「船上城跡」

確認調査②－２（遺跡調査番号：2007067）「明石城武家屋敷」

確認調査②－３（遺跡調査番号：2007068）「明石城下町町屋跡」

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１班　主査　山上雅弘

主査　池田征弘

調査期間：平成 19 年４月 24 日～平成 19 年４月 27 日

調査面積：102 ㎡（確認調査②－１～３）

確認調査③－１（遺跡調査番号：2008227）「船上城跡」

確認調査③－２（遺跡調査番号：2008233）「明石城下町町屋跡」

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１班　主査　別府洋二

主査　深江英憲

調査期間：平成 21 年１月 30 日～平成 21 年３月 18 日

調査面積：40 ㎡（確認調査③－１）

調査面積：　6 ㎡（確認調査③－２）

３　本発掘調査①（遺跡調査番号：2008152）　A 地区

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１班　主査　別府洋二

主査　深江英憲

調査期間：平成 21 年１月 30 日～平成 21 年３月 18 日

調査面積：88 ㎡

本発掘調査②（遺跡調査番号：2009162）　B 地区

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第２班　主査　深江英憲

調査期間：平成 21 年６月１日～平成 21 年６月５日

調査面積：75 ㎡

本発掘調査③（遺跡調査番号：2009193）　C 地区

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１班　担当課長補佐　久保弘幸

主任　上田健太郎

調査期間：平成 21 年８月 17 日～平成 21 年９月 16 日

調査面積：153 ㎡

本発掘調査④（遺跡調査番号：2011176）　D 地区

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　　調査第１課　担当課長補佐　渡辺　昇

担当課長補佐　久保弘幸

調査期間：平成 23 年 7 月 12 日～平成 23 年 8 月 11 日

調査面積：258 ㎡

第２節　調査の概要

当該調査は、山陽電鉄連続立体交差（第Ⅱ期）事業に伴う、国道撤去工事及び高架本体工事の工程に合わせて実施した。従って、前節の本発掘調査①（A 地区）は仮設軌道敷きに当たる部分を調査、本発掘調査②･③は西新町駅仮設駅舎設置に伴う調査、本発掘調査④は仮設軌道敷き設置後の旧軌道敷き（新設高架）部分の調査と、事業の進捗に従って、順次実施していった。

１ A 地区

A 地区は、山陽電鉄と国道２号線及び南北方向の西新町線に挟まれた部分に位置する。約 60cm の盛土を除去すると砂やシルト質土によって整地された面が検出されるが、近代以降の井戸や煉瓦積み枡、土管等によって撹乱を受けている。

整地層は非常にきれいな砂やタタキ状の土が調査区西端部に広がっており、胞衣壺と思われる土師器壺が２基埋設され、旧西国街道に面する事を踏まえると、屋敷地の表側と想定される。また、竈状土坑と思われる被熱痕跡のある土坑も検出した。

東西方向に走る溝（SD01）を検出した。SD01 は後世の撹乱によって大きく失われているが、屋敷境の溝と想定され、調査区東端では木桶状の板材が置かれ、西方延長上の調査区西端付近では溝と同一方向に並べられた丸瓦を含めた瓦敷き遺構を検出した。

SD01 の南側には便甕と考えられる埋甕やゴミ穴として利用された埋桶が L 字状に配置されており、屋敷裏や脇の様相を示している。また、溝の北側にも埋桶状のゴミ穴を検出しており、南側と同じ様相を呈している。SD01 が設けられた整地層の下層には、大畦畔と思われる起伏のある土層が認められ、この層の延びる方向が SD01 と重複するため、旧来田畑であった土地の区画の名残が、町屋として整備される時の屋敷割りの一部として採用されたと考えられる。

本調査区からは、土師器、陶磁器、染付磁器、土人形、瓦の他、木桶、漆器椀等の木製品、銅銭、胴匙、釘等の金属製品が出土している。

２　B 地区

B 地区は、旧山陽電鉄西新町駅の駅舎北側出口南側に仮設駅舎階段を設置する事に伴い、当該工事箇所を調査区とした。

本調査区の調査では、上層遺構面において、江戸期から残る現在の駅東側の南北の通り及びその一本西側に並行する南北の通りに直行する石組み水路（SD01：C 地区の SD20）や埋甕を検出し、西側の通りに町屋西側通りに重複する間知石石組みと煉瓦敷きを検出した。また、下層においては、土坑等の遺構の中で検出した板材が上層の SD01 と並行しており、両遺構面の遺構が基本的に同様の町割りの中で設けられた事が窺える。更に、下層遺構面では板材に直行する様に配置された石列（２石）が認められ、この石列の延長上（南北方向）から西側の遺構が希薄になる事から、屋敷境等に伴うものとも考えられる。その他、特出されるのは、調査区西側の下層遺構面で検出した溝と、上層遺構面で検出した間知石石組みと煉瓦敷きである。明治期の当該地の地図（明治 19 年測量）では、現在の西新町駅東側の南北通りを中心に、東西方向に家屋が建ち並び、その外縁を何らかの施設で区画している状況が認められる。この西側外縁の区画施設が、本調査区の上層遺構面で検出した間知石石組みと煉瓦敷きに当たるものと

考えられ、現在の地図の通りにも一致する。また、明治期の地図では、外縁から西側は水田が広がり、町の広がりが通り周辺に限定されている状況は、江戸期の絵図とも符合するため、町屋のあり方が少なくとも江戸期から明治期まで殆ど変わっていなかった事が想定される。従って、同様に並行する下層遺構面の溝については江戸期の町屋境に伴う区画溝の可能性が高いと考えられる。

本調査区での出土遺物は、内容としてはＡ地区とそれ程差異はないが、亀形、虚無僧形、鳩笛形等、土人形のバリエーションが多い事が窺える。

３　Ｃ地区

Ｃ地区は、旧山陽電鉄西新町駅の駅舎北側出口南側及び東側に位置し、Ｂ地区調査区の北壁に接する。遺構面は、Ｂ地区と同様、30 ～ 40cm 層厚の整地層を挟んで、上層遺構面と下層遺構面が存在する。上層遺構面では、柱穴・土坑・溝・焼土等の遺構を検出した。土坑の中には、桶を埋設したものが複数認められ、江戸時代後期の便槽と推定された。また、胞衣壺４基の埋設も確認された。調査区西側ではＢ地区の延長上にある煉瓦敷き溝が認められた。

下層遺構面では、整地層除去後に残存していた遺構をまとめたため、一部には上層遺構面上で検出しきれなかった遺構が混在している可能性も考えられ、実際の当該遺構面の遺構は極少ないものと考えられる。当該遺構面では、土坑、溝の他、旧河道と思われる流路を検出した。出土遺物の内容はＢ地区と同様である。

４　Ｄ地区

Ｄ地区は、旧軌道敷き（新設高架部分）に位置し、駅プラットホーム内の部分をＤ－１地区、駅東側踏切を挟んだ東側の部分をＤ－２地区とした。

Ｄ－１地区は、柱穴・礎石建物跡・土坑・井戸・溝・焼土等の遺構を検出した。

礎石建物跡は、調査区東側に位置し、東側と北側が調査区外に延びる。調査区内では、東西３間、南北１間分を検出した。礎石には花崗岩が用いられていた。

土坑の中には、桶を埋設したものが複数認められ、江戸時代末の便槽と推定される。土坑の大部分は廃棄土坑と推定され、その中には、明治期に設けられたと考えられる大規模な廃棄土坑も認められた。

井戸は、下部に桶を埋設し、上部に漆喰枠を設けたものである。

溝は、旧町屋の町屋境を示すものと考えられ、一部には木桶を埋設したものが認められる。この屋敷境の溝は、明治期には土管（下水管）が埋設されている。

焼土は、竈に伴うものと推定される。上部構造は既に完全に破壊されていたが、調査の結果、浅い凹みにブロック状の焼土が大量に埋積していた。

Ｄ－２地区では、柱穴・礎石（建物跡か？）・土坑・竈・溝等の遺構を検出した。

礎石は調査区東部に位置していたが、礎石間の距離が大きく、礎石の配置がやや不規則であった事から、建物跡か否かを判断するのはやや躊躇される。石材は竜山石であった。

１区同様土坑の中には、桶を埋設したものが認められ、江戸時代末の便槽と推定されたが、その大部分は廃棄土坑と考えられる。

溝は、旧町屋跡の屋敷境を示すものと考えられる。この屋敷境は明治期には土管（下水管）が埋設されている。本調査区では、下水管敷設の際に、煉瓦造りの集水枡が３箇所設けられていた。煉瓦の中には、岸和田煉瓦の製品であることを示す「＋」の刻印が認められるものがあった。

竈は２基検出した。何れも上部構造は破壊されており、燃焼室の床面及び灰の掻き出し口のみが遺存

していた。竈は、地表に浅い掘方を設け、そこに粘土を積み上げる事で構築されており、２基の内１基では、灰の掻き出しを容易にするため、燃焼室床面に板石２枚を立てて掻き出し用の溝を設けていた。

本調査区の出土遺物は、周辺地区での内容に加え、礎石、土管、大型の釘等が顕著である。

第３節　整理作業

当該事業に係る出土品整理作業は、平成 24・25 年度の２箇年で実施した。

１ 平成 24 年度の整理作業

作業は、水洗い、ネーミング、接合・補強、金属器保存処理を行った。

整理作業に係る体制は以下の通りである。

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部

整理保存課　　副課長　篠宮　正

　　副課長　岡本一秀

２ 平成 25 年度の整理作業

作業は、実測・拓本、復元、写真撮影、写真整理、遺構図補正、トレース、レイアウト、分析鑑定、木器保存処理、報告書印刷・刊行である。

整理作業に係る体制等は以下の通りである。

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部

整理保存課　　副課長　長濱誠司

　　副課長　岡本一秀

第２章　遺跡の位置と環境

明石城下町町屋跡周辺では、明石城を中心とする江戸期の遺跡以外に、縄文時代以降の多くの遺跡が存在する。本章では、特に明石城関連の江戸期の遺跡のみを限定して取り上げる事とする。

船上城（１）は、明石海峡に面した地にあって、海峡及び明石川の湿地帯に接して築城された平城（水城）である。本丸とされるすぐ東側には本丸を囲う様に古城川が流れ、本丸の西に広がる城下町「林」、その西側の高浜川を外堀として設け、城と共に城下町を含めた防御を固めている。また、古城川の東にあって河口付近で合流する乙樋川は東側の外堀とされる。築城は天正 14 年（1586）。天正 13 年（1585）に豊臣秀吉が断行した「天正の国替え」で、明石与四郎則実に代わって明石郡を与えられた高山右近重友が明石城（枝吉城）に入城後、築城したとされる。

明石城武家屋敷（２）は、明石城下及び明石川西側の旧西国街道東側沿線付近に所在する。城下では、中堀と外堀の間に位置し、外堀と海の間に町屋が配された。この都市計画には、明石の地に立ち寄っていた剣豪宮本武蔵が携わったとされる。

１船上城跡　　２明石城武家屋敷　３明石城公園遺跡　４大明石窯跡　５明石城下町町屋跡
６国指定史跡明石城

第１図　明石城下町町屋跡と周辺の関連遺跡

明石城公園遺跡（３）は、明石城の縄張りの内、本丸、二の丸の北側桜堀を挟んで北側と郷ノ池、陸上競技場、野球場といった国指定史跡明石城（６）の史跡指定外の部分に当たる。

大明石窯跡（４）は、明石城公園遺跡北側の北向き斜面に位置する近世窯跡である。

明石城下町町屋跡（５）は、明石城武家屋敷の外縁部に位置し、本報告書に当たる部分は明石川西側の旧西国街道沿いに当り、街道を挟んで東側は足軽屋敷となる。

国指定史跡明石城（６）は、明石海峡を望む丘陵先端部分に築城された平山城で、本丸付近には築城以前に柿本人麻呂を祀る人丸塚があったとされる。本城は、元和３年（1617）、大阪の役の戦功により明石十万石を賜った小笠原忠真が信濃より入部し、二代将軍徳川秀忠の命により築城した。築城に際し、その資材には、一国一城令で廃城となった三木城・高砂城・船上城・伏見城等の解体された用材が使用されたという。人磨山の台地上には、西から本丸・二の丸・三の丸（現在の東の丸）が築かれ主郭とされ、主郭南面には坤櫓と巽櫓が建ち並び、南西隅には巨大な天守台も築造されたが、天守は建てられなかった。

第３章　発掘調査の成果

第１節　遺構

遺構については、Ａ地区・Ｂ地区・Ｃ地区・Ｄ（Ｄ－１・Ｄ－２）地区の順に掲載する。遺構名は各調査地区で個別に付しているため、同一遺構名が存在する。また、各地区の遺構名は発掘調査と本報告との遺構名表示の齟齬を避けるため、発掘調査時で付した名称をそのまま使用する。

１　Ａ地区の調査

本地区は、平成19年度の確認調査（2007068－G22：図版１）の結果、土坑等が検出されたため、平成20年度に本発掘調査を実施した。主な検出遺構は以下の通りである。なお、遺物のみ掲載しているものは、遺構平面図内に明示し、個別の解説は割愛した。

（１）瓦敷き遺構（図版２・５　写真図版５）

調査区西端で検出した。東西検出長約90cm、南北検出長約140cmを測る。遺構の南面には平瓦を立てて東西方向に配置し、中央には丸瓦の内面を上に向けて重ね、やはり東西方向に配置する。また、その周辺に角礫及び瓦片が集積する。その延長上には屋敷境の溝と考えられる遺構（SD01）があるため、屋敷境の溝に伴う遺構と考えられる。

（２）埋甕（図版２　写真図版１・３）

埋甕１

調査区中央南よりで検出した。直径約70cmを測る不定円形を呈し、土坑内に丹波焼甕（15）を埋設する。所謂便甕と考えられる。

埋甕２

調査区中央南よりに位置し、埋甕１の南側に隣接する。直径約50cmを測る円形を呈する。土坑内に丹波焼甕（16）を埋設する。所謂便甕である。出土遺物は、砥石（Ｓ４・Ｓ５）である。

（３）胞衣壺（図版２・５　写真図版１・３）

胞衣壺１

調査区中央南よりで検出した。埋甕１・２の東側に隣接する。直径約20cmを測る円形ピット中に埋設している。壺内には遺物及び内容物等は認められなかった。遺物としては､胞衣壺本体（17）である。

胞衣壺２

調査区西壁付近で検出した。一辺約40cmを測る不定方形土坑内にあって、北側に胞衣壺３が連立する。土層堆積状況から胞衣壺３の埋設後に再掘削して埋設したと考えられる。壺内には遺物及び内容物等は認められなかった。遺物としては、胞衣壺本体（18）である。

胞衣壺３

調査区西壁付近で検出した。一辺約40cmを測る不定方形土坑内にあって、南側に胞衣壺２が連立する。土層堆積状況から胞衣壺２に先行して埋設したと考えられる。壺内には軒平瓦（図化せず）が出土したが、内容物等は認められなかった。遺物としては、胞衣壺本体（19）である。

（４）土坑（図版２・５　写真図版１・３）

SK05

調査区中央で検出し、SK06の東側で隣接する。東西長約150cm、南北長約110cmを測る不定長方形

を呈し、深度は約 35cm を測る。土層①層下面で段状となっており、再掘削したものと考えられる。

SK06

調査区中央で検出し、SK05 の西側で隣接する。直径約 100cm を測る円形状を呈し、深度約 75cm を測る。土層④層下面で平坦になっており、再掘削後再度土坑の床面となったと考えられる。

（５）溝（図版２・６　写真図版１・６）

SD01

調査区東壁から東西方向で検出したが、後世の土管等の撹乱により大きく失われている。東西検出長約 8.4m、南北幅約 100 ～ 140cm を測り、深度は約 20cm を測る。溝内の一部には杭や木樋状の板材、礫が認められ、東端には木桶を埋設している。木桶は直径約 100cm の円形土坑内に、直径約 65cm の桶を埋設したもので、集水枡としての機能を持っていると考えられる。出土遺物は、木桶内に染付磁器蓋（20）・碗（21）、木桶本体（W1 ～ W14）が出土している。

２　B 地区の調査

本地区は、平成 20 年度の確認調査（2008227 － 1 Tr：図版１）で胞衣壺等が検出され、駅舎やホーム等の施設以外には遺構面が残存している事を受け、工事の工程上緊急の調査が必要になったため、平成 21 年度に本発掘調査を実施した。主な検出遺構は以下の通りである。なお、遺物のみ掲載しているものは、遺構平面図内に明示し、個別の解説は割愛した。

【上層遺構】

（１）埋甕（図版７・８　写真図版９）

埋甕１

調査区東側南壁付近で検出し、北側で埋甕２と隣接する。直径約 65cm、深度約 40cm を測る円形土坑内に、丹波焼甕を埋設している。上半部は欠損しており、所謂便甕と考えられる。出土遺物は、埋甕本体（56）が出土している。

埋甕２

調査区東側で検出し、南側で埋甕１と隣接する。直径約 60cm、深度約 40cm を測る円形土坑内に、丹波焼甕を埋設している。上半部は欠損しており、所謂便甕と考えられる。埋甕埋土上面には薄い板材の上に完形の硯と銅銭が認められ、廃絶時に木蓋をして、その上に硯と銅銭を置いたものが、土圧により落ち込んだものと考えられる。出土遺物は、石製硯（S14）、銅銭（M65・M66）が出土した他、埋甕本体（57）が出土している。

（２）石組み水路（図版７・９　写真図版８・11）

SD01

調査区東側で検出した。調査区の南壁から北壁に至る東西方向の石組みを伴う水路と考えられる溝で、東西検出約 8.6m、南北幅約 120 ～ 150cm、深度約 20cm を測り、調査区北壁延長上にある C 地区 SD20 と同一遺構である。床面の両端を溝状に掘り窪め、その掘方上に石組みを配したものと考えられ、北側の一部で石組みが残存しているが、大半が失われており、抜き取られたものと考えられる。西新町駅東側の南北方向の道路（旧西国街道）とほぼ直行方向にあり、道路（旧街道）側まで延びると考えられる。出土遺物は、無釉陶器擂鉢（58）、染付磁器小皿（59）、軒丸瓦（89）、鉄釘（M18 ～ M21）が出土している。

（３）間知石石組みと煉瓦敷遺構（図版７・12　写真図版７・８）

調査区西端で検出した。南北検出長約 200cm、東西幅約 120 ～ 180cm を測り、調査区を南北に縦断する２段の間知石組みの西側には、小口側を南北に向け、東西７列幅で敷かれた煉瓦敷遺構を検出した。間知石と煉瓦が接する部分（東側）には漆喰で目貼りが施され、反対の西側でも（間知石は認められないが）同様の漆喰が認められる。恐らく、煉瓦敷遺構の西側も東側と同様に間知石の石組みが存在したものと考えられ、水路機能があったものと考えられる。

間知石石組みと煉瓦敷遺構は、南北方向に延長すると、西新町駅東側の南北方向の道路（旧西国街道）と平行する１本西側の道路と重なっている。また、その道路は山陽電鉄本線南側にも続いており、間知石石組みと煉瓦敷遺構も同様に続いていくものと考えられる。

【下層遺構】

下層遺構面で検出した遺構については、下層整地層上面での検出が困難であったため、上層面以下の整地層を無遺物層まで掘り下げて検出した。従って、実際の掘削面は判然としない。また、遺構の一部には上層遺構面で検出できなかった遺構も含まれている可能性がある。

（１）土坑（図版 10　写真図版７・10）

土坑は、調査区東側で集中して検出した。

SK01

調査区東壁付近で検出した。直径約 65cm を測る不定円形状を呈する。床面が比較的平らであり、埋桶の可能性が考えられる。

SK02

調査区東端で検出した。直径約 65cm を測る不定円形状を呈する。床面が比較的平らであり、埋桶の可能性が考えられる。

SK03

調査区東端で検出した。直径約 50cm を測る不定円形状を呈する。床面が比較的平らであり、埋桶の可能性が考えられる。

SK04

調査区東端で検出した。一辺約 90cm を測る隅丸方形状を呈する。出土遺物は、土師器小皿（65）が出土している。

SK05

調査区東端で検出し、北側が SK-04 に切られる。直径約 55cm を測る不定円形状を呈する。出土遺物は、用途不明の銅製品（M16）、銅銭（M85 ～ M87）が出土している。

SK06

調査区東端で検出した。最大検出長約 110cm を測る不定隅丸三角形状を呈する。

SK07

調査区北東隅で検出した。東西検出長約 150cm、南北検出長約 200cm を測る浅い落ち込みである。北西側の掘方付近に２石の石列が認められる。また、遺構内には東西検出長約 180cm、南北幅約 40cm の薄い板材が出土したため、小規模の水路が存在した可能性も考えられる。出土遺物は、丹波焼甕（66）が出土している。

SK11

調査区東壁付近で検出した。東西検出長約 50cm、南北検出長約 150cm を測る不定楕円形状を呈する。

（２）溝（図版 10　写真図版７・８）

SD02

調査区西側で検出した。溝の方向は、上面で検出した間知石石組みと煉瓦敷遺構と平行に延びており、東側掘方のみを検出した。西側の掘方は、近現代撹乱で削平されており、削平部分には大量の瓦片や陶磁器片が投棄されていた。出土遺物は、施釉陶器鉢（69）・行平鍋（70）・蓋（71）・碗（72）・甕（73）、染付磁器皿（74）・碗（75）・仏飯具（77）、土製鳩笛（87）を図化している。

３　C 地区の調査

（１）概要と基本層序

C 地区の調査区は東西に長細く、東から西に向かって緩やかに傾斜しており東西の端部での比高差は 20cm 程度である。基本層序は、表土及び盛り土を除去した直下に上層遺構面が存在し、整地層を挟んで下層遺構面、地山層となる。なお、整地層は概ね 30 ～ 40cm の層厚をもち、下層遺構面との間には、明石川の氾濫によると推定される砂礫層が存在する。

各遺構のほとんどは上層遺構面において検出し、下層遺構面にも、整地層除去後に一定量の遺構を検出したものの整地層上面で検出することのできなかった上層遺構の残存部分であるものが含まれている可能性が考えられる。なお、調査区全域に無数の撹乱が及び、特に上層遺構面においてはその影響が大きく遺構面はわずかに残された島状に検出される状況となっている。

（２）上層の遺構（図版 12 ～ 15　写真図版 11 ～ 15）

ア　土坑

SK03

調査区東端部で検出した。北東部分に撹乱を受ける。掘方は長径 49cm、短径 38cm 以上、検出面からの深さ 13cm を測る。埋土は１層のみで、炭粒を含む。

SK04

調査区東端部で検出した。掘方は長径 64cm、短径 44cm、検出面からの深さ 28cm を測る。埋土は３層に分かれ、最下層では炭と焼土と地山土をブロック状に含む。底部付近から染付磁器皿（93）が出土している。

SK05

調査区東端部で検出した。北西部分に撹乱を受ける。掘方は長径 36cm 以上、短径 39cm 以上、検出面からの深さ 19cm を測る。埋土は１層のみであるが、炭と焼土ブロックを顕著に含んでいる。

SK06

調査区東端部で検出した。掘方は長径 56cm、短径 44cm、検出面からの深さ 9cm を測る。横断面形は逆台形状を呈し、埋土は１層のみであるが、地山をブロック状に含み、焼土と炭をよく含んでいる。

SK07

調査区東端部で検出した。北東部分に撹乱を受ける。掘方は長径 36cm 以上、短径 26cm を測る。底部付近のみの検出となり、底面が焼けており、わずかに残存した埋土には炭粒を含んでいる。

SK08

調査区東部で検出した。掘方は長径 24cm 以上、短径 28cm、検出面からの深さ 17cm を測る。蛸壺

を用いた胞衣壺（100）であると考えられ、壺底部付近に扁平な円礫が水平に配されている。

SK09

調査区東部で検出した。掘方は長 40cm 以上、短径 34cm、検出面からの深さ 9cm を測る。埋土は２層に分かれ、いずれの層も地山をブロック状に含み、１層では多量の炭粒と少量の焼土ブロックを含む。

SK12

調査区東部で検出した埋桶である。掘方は長径 55cm、短径 45cm、検出面からの深さ 29cm を測る。桶の底板は一部のみ残存し直径は不明ながら、残存する弧形及び底径から約 40cm に復元される。側板は高さ 25cm 程まで残存する箇所も認められる。平瓦が側板に沿って立てかけられるように出土している。埋土は２層に分かれ、２層では薄皮状の石灰質成分がラミナ堆積している。

SK13

調査区東部で検出した。掘方は長径 82cm、短径 65cm 以上、検出面からの深さ 28cm を測る。横断面形は逆台形状を呈し、埋土は灰黄褐色細砂の１層のみで、わずかに炭粒を含む。

SK14

調査区東部で検出した。掘方は長径 1.97m、短径 1.29m 以上、検出面からの深さ 74cm を測る。裏込め内側の上部を漆喰の枠をめぐらせ、横断面形ボウル状となる掘込みが土層断面より観察され、上部の直径 66cm を測る。粘性の強いシルトをブロック状に含み人為的に埋められた可能性が考えられる。

SK15

調査区東部で検出した。掘方は長径 46cm、短径 37cm、検出面からの深さ 7cm を測り、横断面形は浅い皿状を呈す。埋土はシルト混じりの暗灰色粗砂の１層のみで、緊密度がやや高い。

SK17

調査区東部で検出した。掘方は長径 29cm、短径 24cm、検出面からの深さ 9cm だが、残存する壺上部から底部までの深さは21cm を測る。蛸壺を用いた胞衣壺(103)であろう、横断面形は逆台形状を呈する。

SK18

調査区東部で検出した。掘方は直径 33cm の円形を呈し、検出面からの深さ 10cm の横断面形ボウル状を呈する。埋土はにぶい黄褐色細砂の１層のみであり、粘土をブロック状に含む。

SK19

調査区東部で検出した埋桶である。掘方は長径 75cm、短径 68cm、検出面からの深さ 57cm を測る。上部に漆喰の枠がめぐり、内側に桶の板材が認められる。桶の底板は直径約 45cm で、側板は高さ 18cm まで残存している。粘性の強いシルトをブロック状に含み人為的に埋められた可能性が考えられる。

イ　溝

SD01

調査区東端部で検出した。長さ 1.23m、最大幅 25cm、検出面からの深さ 5cm を測り、横断面形は浅いＵ字状を呈する。埋土はオリーブ褐色細砂の１層のみである。

SD16

調査区東部で検出した。東側を確認トレンチに切られるが、長さ 2.23m、幅 49cm 以上を検出し、検出面からの深さ 9cm を測る。埋土は小礫まじり黄褐色極細砂～細砂の１層のみで、地山をブロック状に含む。

SD20

調査区西部で検出し、南側はＢ地区に続いている（Ｂ地区 SD01）。Ｃ地区においては長さ 8.53m にわ

たって検出し、最大幅 1.41m、検出面からの深さ 27cm を測り、横断面形は逆台形状を呈するが中央付近が若干深くなる。埋土は 5 層に分かれ、最終段階では平行する 2 本の溝に分かれて埋没している。

ウ　柱穴

P10

調査区東部で検出した。掘方は直径 24cm、検出面からの深さ 11cm、柱痕は直径 8.6cm を測る。

P11

調査区東部で検出した。掘方は直径 16cm、検出面からの深さ 8cm を測る。柱痕は直径 7.7cm で、裏込め土中には焼土ブロックを少量含む。

（３）下層の遺構（図版 16 ～ 19　写真図版 15 ～ 19）

ア　土坑

SK26

調査区東端部で検出した。P27 に切られる。掘方は長径 80cm、短径 58cm、検出面からの深さ 14cm を測り、埋土の全体が炭と粘性の強いシルト質の混入物で構成される。

SK28

調査区東端部で検出した。SK29 に切られる。掘方は長径 67cm、短径 56cm 以上、検出面からの深さ 15cm を測る。埋土は 1 層のみで、粗砂が中心となり礫をかむ。横断面形はボウル状を呈する。

SK29

調査区東端部で検出した。SK28 を切る。掘方は長径 81cm、短径 56cm、検出面からの深さ 18cm を測る。埋土は 3 層に分かれるが、いずれの層でも炭と地山をブロック状に含み 1 層がより顕著である。

SK30

調査区東部で検出した。SK31 に切られる。掘方は長径 23cm 以上、短径 23cm 以上、検出面からの深さは 19cm、残存する壺上部から底部までの深さは 22cm を測る。蛸壺を用いた胞衣壺（104）で、壺の傾斜角度は約 75 度を測り、垂直方向に近い。埋土は壺の内外ともにやや粗く緊密度の低い砂で構成される。

SK31

調査区東部で検出した。SK30 を切る。掘方は長径 33cm、短径 24cm 以上、検出面からの深さ 13cm だが、残存する壺上部から底部までの深さは 18cm を測る。蛸壺を用いた胞衣壺（105）であると考えられ、壺の傾斜角度は 90 度に限りなく近い。埋土は裏込め土が地山ブロックを含むシルトまじりの細砂で、壺内部は細砂を主体とするが緊密度と粘質が低い。

SK32

調査区東端部で検出した。掘方は長径 91cm、短径 86cm、検出面からの深さ 11cm を測る。埋土は 3 層に分かれ、円形のまとまりとなる 1 ・ 2 層とその周囲の 3 層に分かれること、 2 層ではシルト質の細砂がラミナ状に堆積することなどから、木製容器などが存在した可能性が考えられる。

SK33

調査区東部で検出した。掘方は長径 72cm 以上、短径 61cm、検出面からの深さ 6cm を測り、横断面形は浅い皿状を呈する。埋土は緊密度と粘性の低い粗砂で構成される 1 層のみである。

SK35

調査区東部で検出した。SK37 を切り、東側に攪乱を受ける。掘方は長径 36cm 以上、短径 29cm、検出面からの深さ 18cm を測り、横断面形は逆台形に近いボウル状を呈する。壺は傾斜角度 30 度に傾い

て横たわった状態で出土し、蛸壺を用いた胞衣壺（106）であると考えられる。

SK37

調査区東部で検出した。SK35 に切られ、東側は攪乱を受ける。掘方は長径 66cm 以上、短径 69cm、検出面からの深さ 15cm を測る。埋土は均質な粗い砂層１層のみで、緊密度、粘性ともに低い。

SK38

調査区東部で検出した。掘方は長径 85cm、短径 70cm、検出面からの深さ 11cm を測る。埋土は粗い砂層１層のみで､小礫を非常に多く含んでおり下層遺構面の上部を覆う砂礫層に起因するものであろう。

SK39

調査区東部で検出した。掘方は長径 61cm、短径 44cm、検出面からの深さ 21cm を測り、横断面形は浅い皿状を呈する。埋土は中砂を中心とする比較的粗い砂で構成される１層のみである。

SK40

調査区東部で検出した埋桶である。掘方は長径 92cm、短径 83cm、検出面からの深さ 37cm を測り、横断面形は逆台形状を呈する。埋土中に薄膜状に桶の板材の痕跡を残し、底板の直径は 42cm で側板は最大で高さ 7cm まで残存する。埋土は３層に分かれ、裏込めとなる１・３層では小礫を多く含んだ砂礫層で、桶内部の２層は中砂をよく含む緊密度の低い砂層である。

SK41

調査区東部で検出した。掘方は長径 52cm、短径 41cm、検出面からの深さ 22cm を測る。長さ 15 ～ 19cm 程度の複数の細長い亜角礫が底部付近から斜めに立った状態で出土している。埋土は粗い砂層１層のみで、小礫を多く含んでおり下層遺構面の上部を覆う砂礫層に起因するものであろう。

SK42

調査区東部で検出した。掘方は長径 69cm、短径 48cm であり、東西に２つの柱穴が切り合う。東側の柱穴が西側の柱穴を切り、東側の柱穴は直径 31cm、検出面からの深さ 17cm、西側の柱穴が直径 27cm、検出面からの深さ 14cm を測る。東側の柱穴の埋土には、拳大の礫が充填されている。

SK43

調査区東部で検出した。北側は調査区外に及んでいる。掘方は長径 42cm 以上、短径 43cm 以上、検出面からの深さ 16cm を測り、横断面形はボウル状を呈する。

SK44

調査区東部で検出した。掘方は長径 37cm、短径 31cm、検出面からの深さ 12cm を測る。埋土は粗い砂層１層のみで、小礫を多く含んでおり下層遺構面の上部を覆う砂礫層に起因するものであろう。

SK45

調査区東部で検出した。掘方は長径 51cm、短径 41cm、検出面からの深さ 14cm を測る。埋土は粗い砂層で、小礫を多く含んでおり下層遺構面の上部を覆う砂礫層に起因するものであろう。

SK46

調査区中部で検出した。掘方は長径 54cm、短径 52cm、検出面からの深さ 8cm を測り、横断面形は浅い皿状を呈する。埋土は１層のみである。

SK47

調査区中部で検出した。掘方は長径 41cm、短径 34cm、検出面からの深さ 15cm を測り、横断面は逆台形を呈する。埋土は１層のみで、炭粒とを地山ブロックを含む。上部から瓦が出土している。

SK49

調査区中部で検出した。掘方は長径 57cm、短径 55cm、検出面からの深さ 10cm を測り、横断面形は逆台形を呈する。埋土は２層に分かれ、１層は２層に比べて粗く小礫を多く含んでいる。

SK50

調査区西部で検出した。上部の削平が激しいが、掘方は長径 29cm、短径 25cm、検出面からの深さ 8cm を測る。埋土は、小礫を多く含む粗い砂層１層のみで構成される。

SK51

調査区西部で検出した。掘方は長径 33cm、短径 29cm、検出面からの深さ 11cm を測る。埋土はシルト混じりの砂層の１層のみで、瓦と蛸壺の破片が含まれていた。

SK52

調査区西部で検出した。掘方は長径 68cm 以上、短径 62cm、検出面からの深さ 18cm を測り、横断面形は逆台形だが底部の範囲が西側に偏っている。埋土は２層に分かれ、２層が粗い砂層であるのに対し１層は小礫を含みながらも比較的細かい砂層である。

イ　溝

SD34

調査区東部で検出した。南北両端で攪乱を受け、長さ 3.12m にわたって検出し、最大幅 82cm、検出面からの深さ 24cm を測る。横断面形はＶ字形に近いが底部はＵ字形に近い形状をなす。埋土は２層に分かれ、底部は砂礫層を掘り抜いているためか２層は比較的粗い砂が顕著に堆積している。

ウ　柱穴

P36

調査区東部で検出した。掘方は直径 26cm、検出面からの深さ 12cm を測る。

P48

調査区中部で検出した。掘方は直径 55cm、検出面からの深さ 13cm、柱痕は直径 20cm を測る。

（４）小結

上層及び下層の２遺構面において江戸時代後期を中心とする遺構及び遺物を検出した。

上層遺構面では、柱穴・土坑・溝・焼土などの遺構が検出された。土坑の中には、桶を埋設したものが複数認められ、江戸時代後期の便槽と推定される。また胞衣壺の埋設も４基が確認され、いずれも蛸壺が転用されている。

上層遺構面から下層遺構面に至る間には整地層が認められ、城下町を形成する際に、盛土・整地された地層である蓋然性が考えられる。整地層内には、江戸時代後期を中心とした遺物が多量に包含されていた。整地層の下位には、明石川の氾濫によると推定される砂礫層が存在する。

下層遺構面では、土坑、溝のほか、旧河道が検出されている。整地層除去後に検出された遺構を下層遺構面として認識しているが、その一部は整地層上面で把握できなかった遺構の残存と推定されるもので、実際に、整地前に形成された遺構はごく少ないものと思われる。

比較的密集した状況で、多数の遺構が検出された。その状況と出土遺物の内容から、調査地には江戸時代後期～末の町屋が設けられていたと考えてよかろう。家屋や敷地の構造の詳細については、調査地が狭小であった上、特に昭和以降の撹乱が著しかったことから、把握することができなかった。

４　D地区の調査

（１）調査区の位置

平成 23 年度の本発掘調査区は明石市西新町 3 丁目にあり、山陽電鉄の西新町駅を隔てて、平成 21 年度調査区の南に位置する。調査区は山陽電鉄下り線（明石～姫路間）の軌道下にあたり、西新町踏切を隔てて西側（1 区）と東側（2 区）に分かれている。

（２）調査地点の層序

調査着手前まで電車の軌道敷であったため、調査区内の層序は、通常の遺跡とは大きく異なる。模式的に示すならば、最上層は軌道敷の砕石、その下位に軌道敷設前の旧表土、以下に整地層（複数）を挟んで明石川により堆積した砂礫層（最終面）となる。ただしこれはごく狭い範囲で見られた、最も遺存状況の良好な場所での模式的断面であり、調査区内の広い範囲が、軌道砕石層下に撹乱層を挟みその直下が遺構面となっていた。遺構は、整地層上面ないしはその掘削過程、および明石川によって形成された砂礫層上面などで検出されたが、調査区全域にわたり遺構面の撹乱が著しいことから、各遺構の検出位置（層準）を正確に決定することはできなかった。

また本来、発掘調査では検出された掘り込みが遺構か否かを判断して調査を進めるが、本遺跡においては、遺跡そのものの成立時期が江戸時代末であること、以後、1923 年に山陽電鉄の明石～姫路間が開通するまでの間、町屋の敷地として間断なく利用されてきたこと、山陽電鉄開通の際に撹乱を受けていること等により、遺構か否かを直ちに判断できない場合も多かった。従って、判断できないものについては、遺構として調査をおこない、最終的に出土遺物を検討した結果によって遺構か否かを判断した。掘削の最終面は、調査区全域に広がる、明石川によって形成された砂層ないしは砂礫層である。

（３）1 区の遺構と遺物

ア　概要

1 区では、礎石建物跡・土坑・井戸・溝・柱穴・焼土面等の遺構が検出された。遺構は、調査区ほぼ全域に分布するが、特に東・北側で濃密である。遺構の中でまず注目されるのは、平行して北西－南東に延びる溝である。これらは町屋の地割りを示す境界溝である。礎石建物跡は、調査区北東隅で検出され、溝とほぼ平行する方位を見せる。

最も多く検出されたのは土坑である。総数の約 1/3 は埋桶ないしはその可能性があるもので、これらはいずれも便槽と思われる。その他は、明確に廃棄土坑と判断されたものを除くと、機能不明である。

他の遺構は、柱穴・胞衣壺・井戸等であり、いずれも家屋ないしはその敷地内設けられた、日常生活に密着した遺構群である。

なお、特に文中で触れていない遺構の計測値については、章末の表に一括している。また遺物についても、後掲の表に一括して掲載している。

イ　遺構と遺物

（ア）礎石建物（図版 20・21　写真図版 20 ～ 22）

調査区北東隅に位置する 1 棟が検出された。調査区内では建物の南西部にあたる 3 間× 1 間のみが検出され、北東部は調査区外に広がる。長径が 30cm ～ 50cm ほどの、平坦面をもつ石材を礎石として用いており、柱間は梁行きで 1.2m、桁行きで 1.0m である。確実に建物跡に伴う遺構・遺物はないが、建物の範囲内で土坑 2 基が検出されており（SK03・04）、うち 1 基の肩部からは焙烙がまとまって出土している。

（イ）溝（図版 20・27・28　写真図版 20 ～ 22）

北西－南東の方位をもつものと、これに直交して合流するものとが見られる。また、集水桝を付設したものも見られる。町屋敷地間の境界を示すものである。これらの境界溝内には土管が敷設されていたが、これは幕末来の溝が明治期以降に改修された結果と判断している。境界溝以外に数条の素掘り溝があるが、これらは屋敷地内に補助的に設けられたものと思われる。

SD01・SD02・SD08

調査時の便宜上、個別に遺構番号を付しているが、本来は一連の溝として機能していたものであろう。北西－南東の延びを見せる SD01 に、SD02･SD08 が直交して合流する。SD01 は屋敷地の境界溝であり、SD02･08 は敷地内から境界溝への排水溝である。いずれの溝内にも陶器製土管が敷設されていた。また、SD08 の南端には、コンクリート製の集水桝が設けられていた。

上記の状況から、これらの溝が最終的に機能を喪失したのは明治期のことと判断されるが、境界溝としての SD01 自体は、江戸時代に設けられたものが明治期にも継続して使用されたと思われる。

SD06

SD01 と平行し、SD02 を切って設けられた溝である。調査区の北壁際にあり、調査当初は土坑と認識していたが、内部に土管が敷設されていたことから、溝として報告する。SD02 との重複はあるものの、埋土、土管の特徴などから、実質的な年代差はごく小さいものと思われる。

SD12

SD01 に平行して隣接する素掘りの溝である。ごく浅いものであることから、境界溝のようなものではなく、これに付随した補助的な溝と思われる。丹波焼壺（319）、肥前系磁器の蕎麦猪口（320）等が出土している。

SD25

SD01 の西に位置し、これとほぼ直交方向にのびる素掘りの溝であるが、SD01 との交差部は調査区外となるため不明である。ごく浅く、特に付随した遺構も有しないことから、雨落ちのような簡易な機能をもつものであろう。土師器、陶器擂鉢、磁器碗等（322 ～ 329）が出土している。

SD33・39

SD01 の南に位置し、これと平行に延びる溝である。東半を SD33、西半を SD39 と呼称しているが、これは調査時の便宜上であり、SD33・39 は同一の溝である。SD33 と 39 の間には、埋桶をもつ土坑 SK41 が設けられており、集水桝の機能を果たしていた可能性が高い。東半の溝底から、丹波焼壺を用いた胞衣壺（331）が出土しているが、これは溝埋没後に埋設されたものである。

SD34

SD34 は SD01・SD33・39 とほぼ平行する素掘りの溝である。ごく浅く、特に付随した遺構も有しないことから、雨落ちのような簡易な機能をもつものであろう。

（ウ）土坑（図版 20 ～ 26　写真図版 20 ～ 25）

土坑は、合計 25 基が検出された。これらは、①円形に近い平面形と急斜度の掘り方をもち、内部に木桶を埋設したか、もしくはその可能性があるもの、②不整形で大型の廃棄土坑、③円形ないし楕円形の掘り方のもの、等に分類できる。

SK03

調査区東部に位置する、不整楕円形の土坑である。埋土内からはコンクリート片が出土しており、明

らかに撹乱土坑である。江戸時代末の陶磁器・瓦等も出土しているが、図示可能なものはない。

SK04

調査区東端に位置する、楕円形の土坑である。ごく浅い土坑であり、内部は黄褐色シルト～粘土によって人為的に充填されており、その下位には、薄い炭層が認められた。土坑の東肩部には、焙烙（197・198）がまとまって出土したこと、土坑が礎石建物内にあることから、竈の基底部であった可能性がある。焙烙は 19 世紀以降の所産と思われる。

SK05

調査区北東隅に位置する楕円形の土坑で、急斜度の掘り込みを見せる。内部は礫混じりの砂で埋没していた。江戸時代末の陶磁器・焙烙が出土しているが、図示可能なものはない。

SK09

SD08 の南端に接続する、コンクリート製の集水桝である。江戸時代末に設けられた集水桝を、明治期にコンクリートで改変したものと考えられる。少数であるが、江戸時代末の陶磁器類が出土している。図示可能なものは染付磁器花生（もしくは徳利：199）のみである。

SK10・11

調査区北壁際に位置する円形の土坑で、いずれも埋桶が存在したと考えられる。SK11 は SK10 に切られている。土坑内からは、江戸時代末の陶磁器類が出土しているが、図示可能なものはない。

SK13

SE15 を切る、不整楕円形の撹乱土坑であるが、埋土中より江戸時代末の陶磁器類が出土している。

SK14

SE15 の掘り方を切る。大型の土坑であるが、掘り込みが極めて浅く、底面がほぼ水平であることなどから、土坑ではなく整地層の一単位を土坑と錯認して掘削した可能性があるものの、土坑であることを完全に否定する根拠も薄弱なため記載しておく。江戸時代末の陶磁器類・瓦が出土している。

SK16・20

長方形を呈する同一の掘り方内に設けられた 2 基の土坑で、SK20 が SK16 を切っている。SK16 には桶が埋設されていた。掘り方は北東－南西に軸をもつ長方形で、SK16 はその西半に位置する。掘り方の東半には、同じ大きさの桶を埋めるだけの空間があることから、本来は SK16 と並んで埋桶が存在した可能性が高い。SK16 が埋没して機能を喪失した後に SK20 が掘削されていることから、SK20 は、SK16 の機能を代替するための土坑であった可能性がある。幕末～明治期の陶磁器類（268・281）が出土している。

SK17

調査区北東部に位置する円形の土坑で、内部には桶が埋設されていた。桶の遺存状況は劣悪で、わずかに底板を残すのみである。

SK18

SK17 と並ぶような位置にある円形の土坑で、内部には桶が埋設されていた。桶の遺存状況は劣悪で、わずかに底板を残すのみである。染付磁器（203）が出土している。

SK19

調査区東部に位置する、不整形なごく浅い土坑で、SE15の掘り方に切られる。機能は明らかではない。

SK22・23

当初、別の土坑と考えて調査したが、最終的には同一の大型廃棄土坑であることが明らかになった。調査区北部に位置し、不整形な掘り方を見せる。極めて多量の瓦、陶磁器類が投棄されていたが、19 世紀前半代以降の遺物を含むことから、幕末～明治期におこなわれた屋敷の取り壊しに伴う廃棄土坑と推察される（221 ～ 267・269 ～ 280・282 ～ 316）。

SK24

調査区北部に位置する、楕円形で急斜度の掘り込みを見せる土坑である。SD25 を切っている。土坑底にわずかに板が残存していたことから、埋桶が存在した可能性がある。多数の陶磁器類（204 ～ 212）が出土しているが、明治期以降のものを含むことから、遺構の埋没もこの時期にあたるものだろう。

SK28・29・36

調査区北部に位置し、重複し合う土坑群である。東端に位置する SK28 に次いで SK29 が掘り込まれ、さらに SK36 が掘られている。平面形はいずれも不整楕円形を呈し、SK28・29 は下底面を 2 段に掘り込むなど、類似する点の多い土坑群である。土坑内からは、江戸時代末の陶磁器類が出土している。SK28 より、軒丸瓦、瀬戸焼染付等（213 ～ 215）が出土している。19 世紀前半以降の所産である。

SK30

SK36 の南に位置する、不整形な土坑である。土坑内は黄褐色の砂で埋没していた。丹波焼壺（216）を図示する。

SK31

調査区南壁際に位置する、楕円形の土坑である。土坑内はブロック状を呈する砂～シルトで、人為的に埋没されていた。少数の陶磁器類、瓦が出土している。

SK35

調査区北壁際に位置する楕円形の土坑で、SK22・23 を切る。自然埋没しており、埋土の中位には炭を多く含む層が堆積していた。土師器灯明台（217）、無釉陶器火入れ（218）を図示する。

SK38

調査区中央北に位置する楕円形の土坑である。土坑内は黒褐色砂で自然埋没していた。土坑内からは少数の江戸時代末の陶磁器類と、須恵器片が出土している。

SK40

調査区南西隅に位置する楕円形の土坑である。土坑内には桶が埋設されていたが、側板上部がわずかに遺存するのみで、底板は依存していなかった。

SK41

SD33・39 の間に位置する楕円形の土坑である。土坑内には桶が埋設されていたが、板は痕跡状に残るのみである。SD33・39 の集水桝であったと考えられる。「大明年製」銘をもつ染付磁器蓋（219・220）が出土している。

（エ）井戸（図版 20・29　写真図版 20・21・23・25）

SE15

調査区中央東寄りで、1 基のみが検出された。直径 2.8m の不整円形の掘り方中央に、直径 1m の井戸枠が設けられていた。井戸の深さは 1.9m を測り、井戸枠上部 95cm は漆喰製、以下は木桶である。井戸内は砂礫で充填されており、陶磁器類（317・318）・瓦が出土している。

【焼土面】

SX37

調査区西部に位置する焼土面である。長径 80cm、短径 70cm を測り、表面は赤褐色に変色していた。中央部で断ち割って断面調査をしたところ、変色は検出面から 10cm に達していたことから、短期的に形成された焼土ではなく、竈の基底部等、長期にわたって形成されたものの可能性が高いと思われる。

【柱穴】

調査区全域で、8 基の柱穴が検出された。しかし、柱穴の並びを確認することはできず、建物等規格性の高い構造物の柱であったか否か、判断できなかった。顕著な出土遺物もないことから、各柱穴の所属時期を判断することは困難である。なお、一部の柱穴には柱根部が遺存していた。

ウ　その他の遺物（図版 57・58　写真図版 59 ～ 62）

整地層、撹乱層等より出土した遺物のうち、主要なものを図示している（353 ～ 385）。18 世紀後半から明治期にわたる陶磁器類が混在しており、城下町の成立、発展に伴ってたびたびおこなわれた整地、撹乱によって混在するに至ったものと思われる。

（４）2 区の遺構と遺物

ア　概要

2 区では、土坑・井戸・溝・柱穴・竈等の遺構が検出された。遺構は、調査区ほぼ全域に分布し、特に密度の濃淡は看取されないが、土坑は調査区中央部付近で重複が目立つ。遺構の中では、1 区同様に平行して北西－南東に延びる溝があり、これらは町屋の地割りを示す境界溝である。

最も多く検出されたのは土坑である。1 区と異なり、埋桶ないしはその可能性があるものは少なく、明確に廃棄土坑と判断されたものを除くと、大部分の土坑については、機能不明である。

他の遺構は、柱穴・井戸等であり、いずれも家屋ないしはその敷地内設けられた、日常生活に密着した遺構群である。

なお、特に文中で触れていない遺構の計測値については、章末の表に一括している。また遺物についても、後掲の表に一括して掲載している。

イ　遺構

（ア）溝（図版 20・33　写真図版 21）

北西－南東の方位をもつものと、これに直交して合流するものとが見られる。また、集水桝 1 か所が付設されていた。町屋敷地間の境界を示すものである。これらの境界溝内には土管が敷設されていたが、これは幕末来の溝が明治期以降に改修された結果と判断している。境界溝以外に数条の素掘り溝があるが、これらは屋敷地内に補助的に設けられたものと思われる。

SD120・121 が調査区中央を北西－南東に延び、SD118 はこれに直交して接続する。いずれも境界溝と考えられる。SD121 内には土管が敷設されており、1 区同様、江戸時代末に設けられた境界溝が、明治期にも継続して使用されたと思われる。

SD118 より出土した施釉陶器（342）、SD120 より出土した土製品（螺髪？：343）を図示する。

（イ）土坑・竈（図版 20・31・32　写真図版 21・26）

SK101

調査区西端に位置し、約 1/2 は調査区外に広がる。調査区内では瓢箪形ないしは不整形な平面形と、

緩やかな掘り込みを見せる。

SK105

調査区西半に位置する不整楕円形の土坑である。掘り込みはごく浅く、皿状を呈する。染付磁器皿（333）を図示する。

SK106

調査区西半に位置する卵形の土坑である。緩やかな掘り込みを見せ、土坑底では柱穴 2 基が検出された。肥前系染付青磁碗（334）を図示する。18 世紀後半代の所産である。

SK108

調査区西半に位置する円形の土坑である。掘り込みはごく浅く、皿状を呈する。

SK109

調査区西半に位置する楕円形の土坑である。緩やかな掘り込みを見せ、埋土上部には平瓦をまとめて廃棄している。

SK110

調査区西半に位置する楕円形の土坑である。緩やかな掘り込みを見せ、人為的に埋められている。

SK111

調査区西半中央に位置する円形の土坑である。急斜度の掘り込みを見せ、底面は丸く掘られている。丹波焼擂鉢（335）、巴文軒丸瓦（336）を図示する。

SK112

調査区西半中央に位置する竈である。SK111・115・116 に切られており、著しく形態を損ねているが、本来は瓢箪形を呈していたものであろう。燃焼部と焚口部の間に、厚さ 4cm ほどの板石 2 枚を立てており、この部分には炭が厚く堆積していた。竈体は黄褐色シルト～粘土で構築されており、内面は被熱して赤褐色に変色していた。

SK115

調査区西半中央に位置する楕円形の土坑である。緩やかな掘り込みを見せ、人為的に埋められている。SK112 の焚口部を切る。

SK116

調査区西半中央に位置する円形の土坑である。急斜度の掘り込みを見せる。陶磁器類が出土しており、4 点を図示した（337 ～ 340）。338 ～ 340 の碗は銅板刷りで施文されており、明治期以降の所産と思われる。

SK117

調査区東半中央に位置する円形の土坑である。急斜度の掘り込みを見せ、底面が平坦に整えられていることから、埋桶が存在した可能性がある。

SK122

調査区南東隅に位置する土坑であるが、その半ばが調査区外に広がる。SD120 を切る。

SK123

調査区東端に位置する楕円形の土坑で、約 1/2 が調査区外に広がる。底面は平坦である。

SK124

調査区東端に位置する楕円形の土坑で、約 1/2 が調査区外に広がる。緩やかな掘り込みを見せる。

SK127

調査区中央南に位置する長楕円形の土坑である。底面は舟底状を呈し、土坑底中央に方形の石が置かれていた。

SK129

調査区北東隅に位置する竈である。瓢箪形を呈していたと思われるが、撹乱のため焚口部を失っている。黄褐色シルト～粘土で竈体を構築している。底面には広く炭層が堆積している。

SK130

調査区北東隅に位置する円形の土坑である。急斜度の掘り込みを見せ、土坑内には桶が埋設されていた。桶の深さは 20cm ほどで、これより上位は漆喰枠が設けられていた。

（ウ）井戸（図版 20　写真図版 21）

調査区西部北壁際で検出された。遺構と判断して調査をおこなったが、埋土より近代～現代の板ガラス等が出土したため調査を終了した。埋土中より、江戸時代末に属する陶磁器類が少量出土している。

（エ）柱穴（図版 20　写真図版 21）

調査区中央～東部で 5 基が検出され、うち 1 基には柱痕が遺存していた。1 区同様、柱穴の配列などは不明であり、建物跡を復元することはできない。また、柱穴内からの出土遺物はほとんどなく、時期を判断することができない。SP119 より出土した施釉陶器蓋（332）を図示する。

ウ　その他の遺物（図版 56・58　写真図版 57・59・62）

整地層、撹乱層等より出土した遺物のうち、主要なものを図示している（344 ～ 352・386）。これらのうち 357 は 17 世紀後半に属すると思われる唐津焼緑釉碗で、今回の調査で出土した近世遺物中で、最も古い段階の遺物である。

（５）小結

平成 23 年度の調査区では、江戸時代末（19 世紀代）を中心とした遺構群が検出されたが、一部の遺構は 18 世紀代に遡る可能性が残る。主要な遺構は、当該期の町屋における屋敷地の区画溝と、建物跡に伴う土坑、埋桶、竈、井戸などであるが、残念ながら今回の調査区はごく狭小であるため、各区画の面積、建物の規模などについては不明である。

また､D-1 区では町屋の取り壊しにかかると思われる大型の廃棄土坑（SK22･23）も検出されており、江戸時代末の遺物が多量に出土していることから、調査地周辺の一部家屋では、明治初期に大規模な建物の更新がおこなわれた可能性がある。

出土遺物には 18 世紀後半～ 19 世紀後半に至る、在地明石産の擂鉢、丹波焼甕、徳利、擂鉢等、瀬戸焼、肥前系染付磁器、京焼系陶磁器類など、多様な生活関連製品が認められ、当該期の明石城下町での商品流通の一端を示している。

第１表　D-1 地区土坑一覧表

番号	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	形態	備考
3	172	(90)	16	不整楕円	コンクリート片出土　撹乱
4	82	69	12	楕円	東肩部に炮烙一括出土　黄褐色シルト～粘土で人為埋没 底に炭層　竈の基礎か
5	80	78	40	楕円	礫混砂で埋没
7	147	(80)	5		消滅
9	46	42	23		コンクリート集水桝
10	64	(50)	46	円	埋桶　　SK11 を切る
11	(58)	-	28	円	埋桶？
13	126	120	54	不整楕円	撹乱
14	326	192	6	不整形	浅い　土坑とするよりは、整地土の一単位を土坑状に掘削してしまったものか
16	164	84	36	長方形	埋桶（板の残りは良い）　底に団扇状の竹製品　長方形掘方内に、土坑 16 と 20 が並列　20 が 16 を切る
17	60	58	32	円	埋桶　底板のみわずかに遺存
18	52	50	26	円	埋桶　底板のみわずかに遺存
19	126	(74)	10	不整	ごく浅い　SE-15 掘り方に切られる
20	86	86	26	円	SK-16 と同じ掘方内　SK-16 を切る
22/23				不整	不整形な大型廃棄土坑　瓦を大量廃棄
24	134	106	62	楕円	底面に板が残存　埋桶の可能性
28	150	(126)	38	不整楕円	底面は２段に掘り込む
29	(126)	(74)	32	不整楕円	底面は２段に掘り込む　自然埋没　SK-36 に切られる
30	128	88	13	不整	黄褐色砂で埋没
31	82	(80)	21	楕円	ブロック状の人為埋土
35	110	81	36	楕円	砂～砂礫で自然埋没　　中位に炭を含む層が堆積
36	(106)	106		不整楕円	砂礫で自然埋没
38	102	90	12	楕円	黒褐色砂で埋没
40	64	55	26	楕円	埋桶　側板上部がわずかに遺存　底板は遺存せず
41	78	66	45	楕円	埋桶　板はわずかに遺存するのみ

第２表　D-2 地区土坑一覧表

番号	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	形態	備考
101	65	(20)	25	不整	緩やかな掘り込み
105	100	85	6	不整楕円	浅い皿状
106	90	75	30	卵形	緩やかな掘り込み　２段掘り　土坑底に柱穴２基
108	97	91	4	円	浅い皿状
109	82	55	21	楕円	埋土上部に平瓦を埋める　緩斜
110	91	46	20	楕円	緩やかな掘り込み　人為埋土
111	72	67	61	円	急斜度の掘り込み　底面は丸い
112	(155)	100	30	瓢箪形	竈　焚口部・燃焼部は土坑に切られる　焚口部に板石を立てる　土坑底には炭が堆積
115	75	61	18	楕円	緩やかな掘り込み　人為埋土
116	75	74	53	円	急斜度の掘り込み　底面は丸い
117	53	53	25	円	急斜度の掘り込み　埋桶か
122	(145)	(113)	27	不明	SD-120 を切る
123	113	(50)	28	楕円？	底面は平ら
124	61	(33)	15	楕円？	緩やかな掘り込み
127	162	46	25	長楕円	船底状　土坑底中央に方形の石材
129	(116)	84	7	瓢箪形	竈　焚口部を失う　黄褐色粘土で竈体を形成　底面に炭層
130	84	(74)	30	円	埋桶　桶は遺存悪　底から高さ 20 センチ　それより上位は漆喰

第２節　遺物

遺物については、全地区共に陶磁器、染付磁器を中心として、瓦、土人形、焜炉、土管等の土器、陶製品、硯や礎石等の石製品、木桶等の木製品、釘・銅銭等の金属製品等、近世～近代の遺物が出土している。その内容等が近似しており、出土遺物一点一点の解説は、紙面の制限上困難であるため、それを割愛し、出土遺物観察表（第３表）に集約した。ご了承いただきたい。

第３表　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（ｃｍ）							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
1	34	27	施釉陶器	皿	11.8	2.9	4.55					A	P05
2	34	27	無釉陶器	擂鉢	(31.0)	13.3	14.8					A	SK03
3	34	27	無釉陶器	擂鉢	(30.1)	10.7	(13.3)					A	SK04
4	34	27	染付磁器	小皿	(8.7)	3.0	3.85					A	SK04
5	34	27	染付青磁	碗	11.4	6.6	4.4					A	SK04
6	34	27	土師質	?	内径 11.9					1.55		A	SK04
7	34	27	瓦転用	面子				4.0	3.75	1.55		A	SK04
8	34	27	土師器転用	面子				5.2	5.4	1.2		A	SK04
9	34	27	施釉陶器	蓋	14.0	3.4						A	SK09(埋桶)
10	34	27	土製品	人形				(4.9)	4.3	2.7		A	SK09
11	34	28	無釉陶器	擂鉢	31.2	12.6	14.7					A	SK14
12	34	28	土師器	胞衣壺	(13.2)	(10.0)						A	SK16
13	34	28	染付磁器	花瓶		(7.9)	4.8				腹径 7.0	A	SK16
14	34	28	瓦質	十能				(13.1)	(8.7)	(3.7)		A	SK26
15	35	28	丹波焼	甕	−	(47.8)	24.7					A	埋甕 1
16	35	28	丹波焼	甕	−	(35.8)	−					A	埋甕 2
17	36	29	土師器	胞衣壺	11.2	13.5	11.05					A	胞衣壺 1
18	36	29	土師器	胞衣壺	(11.1)	14.0	8.1					A	胞衣壺 2
19	36	29	土師器	胞衣壺	12.4	13.3	9.6					A	胞衣壺 3
20	36	29	染付磁器	蓋	9.05	2.75						A	SD01 内埋桶
21	36	29	染付磁器	碗	10.05	4.6	3.35					A	SD01 内埋桶
22	36	29	施釉陶器	灯明台	5.7	3.5	4.7					A	貝溜り
23	36	29	染付磁器	碗	(10.4)	5.55	(4.2)					A	貝溜り
24	36	29	染付磁器	台付碗	−	(8.4)	6.9					A	貝溜り
25	36	29	土製品	七輪	20.3	19.9	(17.6)					A	整地層
26	36	30	施釉陶器	灯明皿	6.6	1.4	2.8					A	整地層
27	36	30	染付青磁	碗の蓋	9.9	3.6						A	整地層
28	36	30	染付青磁	碗	(7.2)	6.8	4.4					A	整地層
29	36	30	染付磁器	御神酒徳利	−	(9.4)	4.85					A	埋桶付近面精査
30	36	30	無釉陶器	擂鉢	(25.85)	9.2	12.3					A	機械掘削
31	36	30	施釉陶器	小皿(灯明皿)	6.05	1.4	2.5					A	機械掘削
32	36	30	施釉陶器	蓋	7.7	2.8						A	機械掘削
33	36	30	青白磁	蓋	6.7	(1.1)						A	機械掘削
34	36	30	染付磁器	蕎麦猪口	6.75	5.9	5.35					A	機械掘削
35	36	30	ガラス製品	びん	2.25	12.55	3.85					A	機械掘削
36	36	30	土師器	コンロ	(18.0)	15.5	−					A	貝溜り
37	36	30	土師器		(9.0)	2.15	(4.2)					A	貝溜り
38	36	30	瓦質土器	埚	(29.6)	11.9	(20.8)					A	南端撹乱
39	37	31	施釉陶器	擂鉢	23.5	10.1	12.55					A	南端撹乱
40	37	31	土製品	家 (屋根)				棟 5.73	梁 3.3		高さ 3.7	A	面精査
41	37	31	瓦転用	面子				4.5	4.52	1.7		A	整地層
42	37	31	瓦転用	面子				5.85	5.84	1.5		A	撹乱
43	37	31	土師器　柿釉	燭台	4.05	(1.4)	−					20G	明石城武家屋敷確認調査遺物参考
44	37	31	染付磁器	花瓶(ミニチュア)	1.2	5.05	3.0					2007068−22G	
45	37	31	染付磁器	蓋	4.9	2.85	6.6					2007068−22G	
46	37	31	瓦	軒丸瓦	瓦当 10.7			(9.8)		1.25		A	SK26
47	37	31	瓦	軒平瓦		瓦当 3.6		(8.0)	(12.9)	1.3		A	SK28
48	37	31	瓦	鬼瓦		(13.9)		(22.6)	19.8	3.5		A	SK33
49	38	31	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.9			2.8	14.1			A	SK33
50	38	32	瓦	丸瓦		4.8		22.8	12.5	1.3		A	SK33
51	38	32	瓦	丸瓦		5.4		23.3	12.6	1.5		A	SK33
52	39	32	瓦	丸瓦		4.5		22.1	12.5	1.2		A	SK33
53	39	32	瓦	丸瓦		5.6		23.0	12.95	1.45		A	SK35
54	39	32	瓦	軒平瓦		瓦当 3.7		(4.1)	(12.0)	1.85		A	面精査
55	39	32	瓦	軒丸瓦		(6.7)		(25.2)	(13.25)	1.7		A	西壁瓦溜り
56	40	32	丹波焼	甕	−	(38.2)	21.85				最大径 52.1	A	埋 甕 1
57	40	32	丹波焼	甕	−	(34.9)	23.2				最大径 44.6	B	埋 甕 2
58	41	33	無釉陶器	擂鉢	(38.3)	(16.5)	(17.0)					B	SD01
59	41	33	染付磁器	小皿	8.4	2.6	3.3					B	SD01
60	41	33	土師器	焙烙	(27.3)	(6.75)	(28.8)					B	土坑状遺構
61	41	33	土師器	蛸壺	−	(10.9)	10.6				最大径 13.4	B	土坑状遺構
62	41	33	施釉陶器	碗	(10.8)	6.8	6.7					B	土坑状遺構
63	41	33	染付磁器	皿	(13.8)	3.15	(8.2)					B	土坑状遺構
64	41	33	丹波焼	甕	(18.0)	(21.5)	(11.6)					B	遺構面精査
65	41	33	土師器	皿(灯明皿)	9.9	1.7	6.75					B	SK04
66	41	33	丹波焼	甕	(19.25)	25.7	14.8					B	SK07
67	41	33	土師器	焙烙	(31.0)	(4.8)	(28.6)					B	SK09
68	41	33	土師器	皿 (灯明皿)	(10.5)	1.95	5.3					B	SX01
69	41	33	施釉陶器	鉢	−	(5.7)	(8.8)					B	SD02　墨書あり
70	41	34	施釉陶器	行平鍋把手	−	(6.4)	−					B	SD02
71	41	33	施釉陶器	蓋	6.65	2.7					摘径 2.0	B	SD02
72	41	34	施釉陶器	碗	(10.95)	7.3	5.05					B	SD02
73	42	34	施釉陶器	甕	(30.6)	28.2	21.4					B	SD02
74	42	34	染付磁器	皿	(24.0)	3.0	(16.6)					B	SD02
75	42	34	染付磁器	碗	9.1	5.1	4.05					B	SD02
76	42	34	染付磁器	小碗	(7.5)	3.9	2.9					B	機械掘削
77	42	34	染付磁器	仏飯具	(7.55)	6.0	3.85					B	SD02
78	42	34	染付磁器	蓋	7.8	(2.5)	−					B	機械掘削
79	42	34	染付磁器	皿	11.6	3.9	4.4					B	機械掘削
80	42	34	磁器	香炉	11.65	5.0	5.2					B	機械掘削

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
81	42	35	瓦質土器	羽釜	(23.4)	(15.5)	(21.4)					B	レンガ敷西側堆積
82	42	35	土師器	小皿	(9.05)	1.8	(4.35)					1Tr	
83	42	35	土師器	小皿	(7.45)	1.4	3.75					1Tr	
84	42	35	土師器	小皿(灯明皿)	7.5	1.45	3.2					1Tr	
85	42	35	土師器	小皿	(8.3)	2.25	(6.25)					1Tr	
86	42	35	土製品	人形(虚無僧)				3.85	2.3	1.4		B	SK10
87	42	35	土製品	土笛(鳩笛)				縦 3.75	横 5.9	2.1		B	SD02
88	42	35	土製品	亀				5.8	4.1	1.8		B	機械掘削
89	43	35	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.7			(3.35)		1.5		B	SD01
90	43	35	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.0			(5.5)		1.3		B	上層土坑状遺構
91	43	35	瓦	軒丸瓦	瓦当 15.3			(9.6)		1.65		B	SD02
92	43	35	瓦	軒丸瓦				(10.3)		1.25		B	下層機械掘削
93	44	36	染付磁器	皿	(12.5)	3.5	4.45					C	SK04
94	44	36	施釉陶器	壺	(11.1)	(7.75)	−				腹径(14.4)	C	SK05
95	44	36	施釉陶器	徳利	(3.1)	(11.4)	−				最大径(10.8)	C	SK05
96	44	36	染付磁器	皿	(13.1)	3.7	(7.6)					C	SK05
97	44	36	染付磁器	皿	(12.25)	3.95	4.95					C	SK05
98	44	36	白磁	碗	13.9	(3.25)						C	SK05
99	44	36	白磁	碗	13.65	4.3	4.5					C	SK05
100	44	36	土師器	胞衣壺	−	(15.7)	13.0					C	SK08 胞衣壺
101	44	36	瓦	鬼瓦		7.15		縦(9.8)	(11.7)			C	SK12 内部
102	44	37	無釉陶器	擂鉢	−	(6.45)	(14.15)					C	SK13
103	44	36	土師器	胞衣壺	−	(11.5)	9.4					C	SK17 胞衣壺？
104	44	36	土師器	マダコ壺(胞衣壺)	(13.75)	21.05	(10.8)					C	SK30
105	44	36	土師器	マダコ壺(胞衣壺)	(12.45)	(23.1)	10.6					C	SK31
106	44	36	土師器	マダコ壺(胞衣壺)	(12.4)	21.6	11.4					C	SK35
107	44	36	土師器	胞衣壺	−	(14.7)	9.3					C	SK51
108	45	37	無釉陶器	擂鉢	(31.4)	(6.8)	−					C	SD16
109	45	37	無釉陶器	擂鉢	(33.4)	(5.8)	−					C	SD20 北端
110	45	37	施釉陶器	碗	−	(2.5)	(3.7)					C	SD20
111	45	37	施釉陶器	灯明皿	7.8	1.8	4.8					C	SD22
112	45	37	施釉陶器	鉢	−	(4.5)	(11.4)					C	SD22
113	45	37	白磁	小碗	(7.7)	5.0	(3.1)					C	SD20
114	45	37	染付磁器	碗	−	(3.8)	4.2					C	SD20
115	45	37	染付磁器	碗	−	(3.2)	6.2					C	SD20 北端
116	45	37	染付磁器	碗	−	(3.9)	2.9					C	SD20 北端
117	45	37	磁器	灯明皿	(7.2)	2.7	(4.9)					C	SD20 北端
118	45	38	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.2			(2.4)		瓦当 1.6		C	SD20
119	45	38	陶胎染付	碗	−	(4.3)	(4.4)					C	SX21
120	45	38	染付磁器	碗	(9.8)	5.0	(4.4)					C	SX21
121	45	37	丹波焼	擂鉢(片口部)	−	(3.5)	−					C	SR53
122	45	38	土師器	焙烙	(34.4)	(4.2)	(35.6)					C	SR53
123	45	38	丹波焼	甕	(22.6)	(16.5)	−					C	SR53
124	45	38	弥生土器	壺	−	(2.8)	6.6					C	撹乱
125	45	38	須恵器	鉢	−	(2.9)	−					3G	船上城跡確認調査遺物参考
126	45	38	須恵器	鉢	(24.2)	(5.25)						5G	船上城跡確認調査遺物参考
127	45	38	須恵器	鉢	(22.4)	(2.95)	−					3G	船上城跡確認調査遺物参考
128	45	38	須恵器	鉢	(22.1)	(3.0)						3G	船上城跡確認調査遺物参考
129	45	38	須恵器	鉢	(26.2)	(3.55)						5G	船上城跡確認調査遺物参考
130	45	38	土師器	小皿	8.4	2.0	6.2					C	整地層
131	45	38	土師器	小皿	(8.4)	2.2	(6.0)					C	整地層
132	45	38	土師器	小皿	(9.0)	2.45	(6.4)					C	整地層
133	45	38	土師器	小皿	(10.0)	1.95	(7.0)					C	整地層
134	45	38	土師器　柿釉	小皿	6.4	1.1	4.9					C	撹乱
135	46	38	土師器	小皿	(7.6)	(1.4)	3.4					C	撹乱
136	46	38	土師器	灯明皿	9.9	1.6	3.7					C	整地層
137	46	38	土師器	皿	(9.7)	1.9	(5.3)					C	撹乱
138	46	38	土製品	小壺	(1.8)	2.6	3.0					C	撹乱
139	46	38	土師質	塙	(26.0)	4.75						C	撹乱
140	46	39	土師器	焼炉	(21.6)	(5.0)	−					C	整地層
141	46	38	土師器	焙烙	(30.9)	(4.45)	−					C	整地層
142	46	38	土師器	焙烙	(30.0)	(5.3)	(30.3)					C	撹乱
143	46	38	土師器	焙烙	(30.7)	(6.6)	−					C	整地層
144	46	38	土師器	焙烙	(33.8)	(6.5)	(34.6)					C	撹乱
145	46	39	瓦質	?		9.35		(18.6)	(8.5)			C	撹乱
146	46	39	土師器	灯明具	5.7	5.4	(5.4)					C	撹乱
147	46	39	土師器	灯明具	5.8	5.4	5.5					C	整地層
148	46	39	無釉陶器	蓋	11.4	(0.95)				0.75		C	撹乱
149	46	39	陶器	壺	(4.0)	8.5	(6.8)					C	整地層
150	46	39	陶器	小壺	(8.4)	5.3	−					C	撹乱
151	46	39	陶器	盤	(18.6)	3.4	(15.8)					C	整地層
152	46	39	陶器	擂鉢	(20.9)	8.45	(11.8)					C	整地層
153	46	39	無釉陶器(明石焼)	擂鉢	(28.5)	10.5	(13.7)					C	整地層
154	47	39	陶器	擂鉢	(31.4)	(4.2)	−					C	整地層
155	47	39	無釉陶器(明石焼)	擂鉢	(36.4)	13.4	16.6					C	撹乱
156	47	39	陶器	底部	−	(4.45)	(20.6)					C	整地層
157	47	40	陶器	甕	(21.0)	(18.2)	−					C	整地層
158	47	40	施釉陶器	甕	−	(7.8)	(12.6)					C	撹乱
159	47	40	施釉陶器	鉢	−	(6.1)	9.8					C	整地層
160	47	40	施釉陶器	皿	(24.4)	6.8	(9.2)					C	撹乱

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
161	47	40	陶器	蓋	3.5	3.55	8.8					C	撹乱
162	47	40	施釉陶器	碗	(12.2)	4.5	3.7					C	SR53
163	47	40	施釉陶器	碗	−	4.7	7.0					C	撹乱
164	47	40	施釉陶器	碗	9.55	5.85	4.75					C	撹乱
165	47	41	施釉陶器	火入れ	9.55	7.6	5.7					C	撹乱
166	47	40	染付青磁	蓋	(9.2)	2.6	−					C	撹乱
167	47	40	染付青磁	蓋	9.9	3.2					摘径 4.45	C	整地層
168	47	41	染付青磁	碗	(12.75)	7.15	(5.4)					C	撹乱
169	47	41	染付磁器	碗	(11.4)	6.4	(4.6)					C	撹乱
170	47	41	染付磁器	碗	(7.7)	4.5	3.2					C	撹乱
171	47	41	染付磁器	碗	(10.5)	4.7	4.35					C	撹乱
172	47	41	染付磁器	碗	(9.7)	5.5	4.2					C	撹乱
173	47	41	染付磁器	碗	(9.2)	5.0	(3.2)					C	整地層
174	47	41	染付磁器	碗	−	(4.2)	3.9					C	撹乱
175	47	41	染付磁器	碗	(9.8)	5.25	3.8					C	撹乱
176	47	41	染付磁器	皿	12.95	3.65	4.85					C	撹乱
177	47	41	染付磁器	皿	(13.0)	3.8	7.2					C	撹乱
178	48	42	青磁	火入れ	(10.3)	8.55	(7.6)					C	撹乱
179	48	42	染付磁器	碗	(7.7)	6.7	(7.7)					C	整地層
180	48	42	白磁	紅皿	2.35	1.0	0.9					C	撹乱
181	48	42	染付磁器	仏飯具	5.3	5.8	3.4					C	撹乱
182	48	42	染付磁器	線香筒	(2.7)	13.6	(5.6)					C	機械掘削
183	48	42	染付磁器	皿	(13.8)	2.95	7.95					C	撹乱
184	48	42	染付磁器	皿	(14.0)	(3.8)	(7.5)					C	撹乱
185	48	42	染付青磁	碗	−	(5.8)	5.95					C	撹乱
186	48	42	無釉磁器	鉢？	(17.8)	(3.9)						C	撹乱
187	48	42	土製品	蓋				5.1	5.0	1.5		C	撹乱
188	48	42	土師器			(2.0)		5.1	5.2			C	面精査
189	48	43	瓦	軒丸瓦	瓦当 14.6			25.5		1.4		C	整地層
190	48	43	瓦	道具瓦？				縦(10.2)	横(11.15)	2.2～2.7		C	撹乱
191	48	43	土製品	土錘				3.2	1.1	1.1		C	面精査（第1面）
192	48	43	土製品	土錘				4.75	1.45	1.4		C	撹乱
193	48	43	土製品	人形				(3.3)	(3.9)	(1.5)		C	撹乱
194	48	43	土製品	人形				(4.2)	(5.75)	(5.7)		C	撹乱
195	48	43	土製品	人形				(4.05)	4.35	1.75		C	撹乱
196	48	43	磁器	人形				(6.05)	(3.95)	2.3		C	撹乱
197	49	44	土師器	焙烙	(35.2)	(5.7)	(36.3)					D-1	SK04 東縁　19世紀代
198	49	44	土師器	焙烙	(35.15)	5.3	(35.4)					D-1	SK04 東縁　19世紀代
199	49	44	染付磁器	花瓶	−	(12.1)	5.2				腹径 5.7	D-1	SK09　19世紀代
200	49	44	施釉陶器	擂鉢	(33.2)	8.8						D-1	SK16　19世紀代
201	49	44	土製品	面子				4.8	4.7	1.0		D-1	SK16　三階菱文
202	49	44	土製品	屋根？				(2.1)	4.4	1.1		D-1	SK16
203	49	44	染付磁器	蕎麦猪口？	−	(1.9)	4.4					D-1	SK18 南半
204	49	44	陶器	碗	(7.8)	3.85	(3.6)					D-1	SK24
205	49	44	陶器	碗	(8.0)	3.8	(3.7)					D-1	SK24
206	49	44	染付磁器	小碗	6.95	4.2	3.2					D-1	SK24 施文はプリントによる「富貴国香開　印」の銘　近代
207	49	44	施釉陶器	乗燭	5.2	3.15	3.0					D-1	SK24
208	49	45	施釉陶器	灯明台	6.2	4.1	4.5					D-1	SK24
209	49	45	染付青磁	皿	(10.3)	2.1	(5.8)					D-1	SK24　クローム青磁　近代
210	49	45	無釉陶器	植木鉢	19.7	10.6	10.15					D-1	SK24
211	49	45	青磁	鉢	(13.9)	4.5	(8.8)					D-1	SK24
212	49	45	染付磁器	蓋	4.7	0.9	−					D-1	SK25 19世紀末を上限年代とする明治期の所産
213	49	45	染付磁器 (瀬戸焼)	皿	(10.1)	2.1	(5.8)					D-1	SK28 清朝青花写　19世紀前葉～中葉
214	49	45	白磁	碗	7.9	5.2	(4.0)					D-1	SK28
215	49	45	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.4			(6.95)		1.55		D-1	SK28 三つ巴文　珠文14個
216	49	45	丹波焼	壺	(12.5)	(9.05)						D-1	SK30
217	49	45	土師器　柿釉	灯明台	6.45	5.6	(5.6)					D-1	SK35　皿部内面施釉
218	49	45	無釉陶器	火入れ (煙草灰入)	−	(4.3)	12.05					D-1	SK35 口縁部に多数の打痕
219	49	45	染付磁器 (瀬戸焼)	蓋	9.0	2.7					摘径 3.4	D-1	SK41 「大明年製」銘　18世紀後半
220	49	45	染付磁器 (瀬戸焼)	蓋	(8.9)	2.95					摘径 3.7	D-1	SK41 「大明年製」銘　18世紀後半
221	50	45	土製品	人物頭部？				1.9	2.5	1.0		D-1	SK22(+SK23)
222	50	46	土師器　柿釉	小皿	5.9	1.3	2.7					D-1	SK22(23)　内面施釉
223	50	46	土師器　柿釉	小皿	6.15	1.2	2.85					D-1	SK22･23　内面施釉
224	50	46	土師器　柿釉	小皿	(7.2)	1.3	3.4					D-1	SK22(+SK23)　内面施釉
225	50	46	土師器　柿釉	灯明台	6.55	5.6	6.2					D-1	SK22(23)　皿部内面施釉
226	50	46	土師器　柿釉	灯明台	(6.0)	5.25	(5.3)					D-1	SK22(+SK23) 皿部内面施釉
227	50	46	土師器	柄				(14.8)	(5.7)	2.2		D-1	SK22(+SK23) 外面に草花文
228	50	46	土師器　柿釉	灯明台	−	(16.3)	9.9					D-1	SK22(23) 外面施釉後に草花文を線刻
229	50	46	土師器	焜炉	(26.6)	(8.65)	−					D-1	SK22(+SK23)
230	50	46	土師器	炮烙	−	(4.6)	−	(15.5)	(7.6)	−		D-1	SK22(+SK23)　隅丸方形
231	50	46	土師器	焜炉	−	(4.9)	(11.0)					D-1	SK22(23)　脚部側面に刻印
232	50	46	施釉陶器	小皿	6.6	2.5	2.8					D-1	SK22(23)
233	50	46	施釉陶器	小皿	6.6	1.49	3.0					D-1	SK22(23)

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
234	50	47	施釉陶器	乗燭	5.7	3.2	3.25					D-1	SK22(23)
235	50	47	施釉陶器	灯明台	6.7	4.5	5.1					D-1	SK22(23)
236	50	47	施釉陶器	灯明台	3.6	3.9	4.8					D-1	SK22(23)
237	50	47	備前焼	壺	6.4	9.1	7.9				腹径 10.45	D-1	SK22・23　鉄漿壺か
238	50	47	施釉陶器	火入れ	(10.4)	8.2	(10.0)					D-1	SK22・23 底部に「ミシロ」と判読される墨書
239	50	47	無釉陶器	擂鉢	(32.0)	(10.8)						D-1	SK22・23
240	50	47	無釉陶器	擂鉢	(32.6)	(8.65)	-					D-1	SK22・23
241	50	47	無釉陶器 (明石焼)	擂鉢	(35.9)	(13.6)	(16.7)					D-1	SK22・23
242	51	47	無釉陶器 (明石焼)	擂鉢	-	(4.8)	13.05					D-1	SK22・23
243	51	47	無釉陶器 (明石焼)	擂鉢	(30.2)	(12.2)	14.8					D-1	SK22
244	51	47	丹波焼	甕	(19.9)	(7.9)						D-1	SK22・23 肩部に取手状の粘土紐貼付
245	51	48	丹波焼	甕	(25.7)	(5.8)						D-1	SK22・23
246	51	48	丹波焼	甕	(19.3)	(16.5)	-					D-1	SK22(+SK23)
247	51	48	丹波焼	甕	(19.8)	22.9	12.0					D-1	SK22・23
248	51	48	施釉陶器	鉢	(22.2)	(10.15)	-					D-1	SK22・23　19 世紀代
249	51	48	無釉陶器	片口鉢	(22.7)	(9.45)	-					D-1	SK22・23
250	51	48	丹波焼	徳利	4.05	(14.9)	-					D-1	SK22(+SK23)
251	51	48	丹波焼	徳利	4.6	(23.6)	(9.3)					D-1	SK22・23
252	51	48	丹波焼	徳利	3.75	24.3	9.85		幅 13.65			D-1	SK22(+SK23) 文字をイッチン描きする
253	52	48	施釉陶器	蓋	4.8	1.5	-					D-1	SK22(+SK23)
254	52	48	施釉陶器	蓋	8.05	3.85						D-1	SK22・23
255	52	48	施釉陶器	蓋	9.8	4.5	-					D-1	SK22(+SK23)
256	52	48	施釉陶器	蓋	9.8	3.4	7.4					D-1	SK22・23
257	52	48	施釉陶器	蓋	11.1	3.9	8.8					D-1	SK22(+SK23)
258	52	48	施釉陶器	蓋	8.05	2.2						D-1	SK22・23
259	52	49	施釉陶器	蓋	10.8	2.85						D-1	SK22・23
260	52	49	施釉陶器	蓋	8.05	1.5						D-1	SK22・23
261	52	49	施釉陶器	灯明台	6.0	5.5	4.0					D-1	SK22(+SK23)
262	52	49	丹波焼	徳利	-	(7.7)	7.4					D-1	SK22・23
263	52	49	施釉陶器	蓋	17.8	4.3	-					D-1	SK22(+SK23)
264	52	49	施釉陶器	蓋	18.0	(3.35)	-					D-1	SK22・23 265 の蓋か　軟質陶器
265	52	49	施釉陶器	鍋	18.0	12.0	(8.35)					D-1	SK22(+SK23)　軟質陶器
266	52	49	施釉陶器	行平鍋把手		(6.65)						D-1	SK22・23
267	52	49	施釉陶器	猪口	6.8	3.6	2.4					D-1	SK22(+SK23)
268	52	49	施釉陶器 (京焼系)	碗	(7.9)	5.6	3.8					D-1	SK16 いわゆるピラ掛け碗
269	52	49	施釉陶器	碗	(7.75)	7.75	5.35					D-1	SK22・23　煎茶碗
270	52	49	施釉陶器	蓋	5.15	1.0	6.8					D-1	SK22(23)
271	52	49	施釉陶器	不明	-	(7.4)			幅 (10.3)			D-1	SK22(+SK23) 何らかの装飾品か
272	52	49	施釉陶器	土瓶？	9.7	13.2	8.1					D-1	SK22(+SK23)
273	52	49	施釉陶器	土瓶？	(10.0)	15.2	9.0					D-1	SK22・23
274	52	50	瓦質土器	羽釜	(23.9)	17.7	19.95				鍔部 (31.2)	D-1	SK22(+SK23)　鉄釜写
275	52	50	瓦質土器	羽釜	-	(6.35)	-					D-1	SK22(+SK23) 鉄釜写　外面に草花文陽刻
276	52	50	瓦質土器	羽釜	(19.45)	(16.4)	-				鍔部 (27.4)	D-1	SK22(+SK23) 鉄釜写　外面に草花文陽刻
277	53	50	白磁	蓋	7.35	1.45					最大径 9.2	D-1	SK22・23
278	53	50	白磁	小碗	6.75	3.3	3.05					D-1	SK22(+SK23)
279	53	50	青磁	瓶	-	(6.6)	(7.1)					D-1	SK22(+SK23)
280	53	50	染付磁器	蓋 (壺または鉢)	8.25	2.8	-					D-1	SK22(23)
281	53	50	染付磁器 (瀬戸焼)	蓋	8.55	2.5						D-1	SK16
282	53	50	染付磁器 (瀬戸焼)	蓋	(9.6)	(3.0)	-					D-1	SK22(+SK23)
283	53	50	染付磁器	蓋	(9.6)	3.3					つまみ径 4.1	D-1	SK22・23
284	53	50	陶器	皿？	-	-	-					D-1	SK22(+SK23) 京焼系緑釉陶器
285	53	50	染付磁器	小碗	6.6	3.0	2.6					D-1	SK22(23)
286	53	51	染付磁器 (肥前系)	丸文碗	8.4	2.55	3.4					D-1	SK22(+SK23)
287	53	51	染付磁器 (瀬戸焼)	小碗	(8.0)	4.5	(3.8)					D-1	SK22
288	53	51	染付磁器	碗	9.0	4.75	3.5					D-1	SK22・23
289	53	51	染付磁器 (瀬戸焼)	碗	(9.2)	4.75	(5.2)					D-1	SK22
290	53	51	染付磁器 (肥前系)	碗	(9.2)	5.0	(3.9)					D-1	SK22(+SK23) 瑠璃釉碗　明末製品の模倣 19 世紀代
291	53	51	染付磁器 (瀬戸焼)	碗	(9.6)	5.4	4.2					D-1	SK22(+SK23)
292	53	51	染付磁器 (瀬戸焼)	碗	13.4	7.1	4.7					D-1	SK22・23
293	53	52	染付磁器	碗	8.4	5.8	3.7					D-1	SK22(+SK23)
294	53	51	染付磁器	碗	(9.75)	4.95	4.35					D-1	SK22・23
295	53	52	染付磁器 (肥前系)	碗	(11.8)	(6.0)	5.1					D-1	SK22(+SK23) くらわんか手　18 世紀前半
296	53	52	染付磁器	碗	(10.75)	6.1	5.8					D-1	SK22・23

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(ｃｍ)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
297	53	52	染付磁器	碗	11.1	6.3	6.1					D-1	SK22(+SK23)
298	53	52	染付磁器	碗	(11.4)	6.4	6.1					D-1	SK22(+SK23)
299	53	52	染付磁器	鉢	14.15	3.9	8.1					D-1	SK22(23)
300	53	53	染付磁器	鉢	(13.05)	3.7	(7.7)					D-1	SK22(+SK23)
301	53	53	染付磁器	鉢	(13.4)	3.9	(8.0)					D-1	SK22(+SK23)
302	53	53	染付磁器	鉢	9.3	4.2	8.05					D-1	SK22・23　焼き継ぎ
303	53	53	染付磁器	湯のみ	6.2	5.2	3.4					D-1	SK22・23
304	53	53	染付磁器	湯のみ	(7.3)	5.4	(4.1)					D-1	SK22・23
305	53	53	染付磁器	徳利	-	(7.8)	3.0					D-1	SK22(+SK23)
306	53	53	染付磁器	花生	3.85	12.65	4.3					D-1	SK22(+SK23)
307	53	53	染付磁器	皿	(24.4)	2.8	(16.5)					D-1	SK22
308	53	54	染付磁器	大皿	29.1	5.5	20.0					D-1	SK22・23 型打皿　口錆を施す
309	53	54	土製品	灯籠		5.3			2.9	2.9		D-1	SK22・23
310	54	54	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.0			(3.1)		瓦当 1.4		D-1	SK22・23 三つ巴文　珠文は 12 個
311	54	54	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.4			(2.5)		瓦当 1.9		D-1	SK22・23 三つ巴文　珠文は 16 個
312	54	54	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.4			(9.6)		1.45		D-1	SK22・23　三つ巴文
313	54	54	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.5			(2.1)		瓦当 1.8		D-1	SK22・23 三つ巴文　珠文は 16 個
314	54	54	瓦	棟瓦				(14.9)	6.85	4.9		D-1	SK22・23
315	54	54	瓦	軒平瓦		瓦当 4.0		(8.1)	(13.1)	1.5		D-1	SK22・23　唐草文
316	54	54	土師器	焜炉	-	32.15			(14.55)	奥行 34.3		D-1	SK22(23)
317	55	54	無釉陶器 (明石焼？)	鉢	43.4	16.59	20.0					D-1	SE15 断ち割り 明石または堺産
318	55	54	染付磁器	碗	(9.2)	4.95	4.0					D-1	SE15 断ち割り　外面瑠璃釉
319	55	55	丹波焼	壺	(21.95)	(8.9)						D-1	SD12 底
320	55	55	丹波焼	壺	-	(18.2)	(13.9)				腹径 (25.8)	D-1	SD12 底
321	55	55	染付磁器	蕎麦猪口	8.7	7.35	6.4					D-1	SD12　19 世紀後半
322	55	55	土師器　柿釉	蓋		3.6			9.6・7.3			D-1	SD25　東山焼
323	55	55	施釉陶器	小皿	7.15	2.0	3.1					D-1	SD25
324	55	55	土師器	七輪	(12.9)	(3.75)						D-1	SD25　(外面に施釉)
325	55	55	施釉陶器	擂鉢	(27.8)	(12.5)	(14.4)					D-1	SD25
326	55	55	無釉陶器	擂鉢	(31.1)	12.2	(15.4)					D-1	SD25
327	55	56	染付磁器	小碗	7.2	2.75	2.2					D-1	SD25
328	55	56	染付磁器	碗	9.45	5.6	4.0					D-1	SD25
329	55	56	染付磁器	花生	2.6	10.7	7.4					D-1	SD25
330	55	56	土師器	小皿	5.2	0.8	2.6					D-1	SD27 東半 たちわり 内面施釉
331	55	56	丹波焼	壺	(17.15)	(23.1)	12.65					D-1	SD33 内 胞衣壺
332	56	56	施釉陶器	蓋	15.2	(2.2)						D-2	SP119
333	56	56	染付磁器	皿	(14.4)	2.7	(7.9)					D-2	SK105
334	56	56	染付青磁 (肥前系)	碗	-	(5.6)	(4.4)					D-2	SK106　18 世紀前半
335	56	56	丹波焼	擂鉢	(33.1)	(8.4)	-					D-2	SK111
336	56	56	瓦	軒丸瓦				径 13.65	14.0	1.7		D-2	SK111 三つ巴文　珠文は 16 個
337	56	57	施釉陶器	徳利	1.6	9.7	3.4					D-2	SK116 外面に瑠璃釉　19 世紀代
338	56	57	染付磁器	湯呑	7.7	4.1	3.7					D-2	SK116　銅版刷の松竹梅
339	56	57	染付磁器	湯呑	6.7	4.5	3.1					D-2	SK116　銅版刷の菊文
340	56	57	染付磁器	湯呑	7.8	4.1	3.5					D-2	SK116　銅版刷の松竹梅
341	56	58	施釉陶器	土管								D-1	SK130
342	56	57	施釉陶器	蓋	11.2	3.0	4.9					D-2	SD118
343	56	57	土製品	螺髪？	径 3.2	2.03						D-2	SD120、北端
344	56	57	施釉陶器	蓋	14.7	(3.5)	-					D-2	№.4 ～№.(4+7)
345	56	57	施釉陶器	蓋	16.3	5.8	-					D-2	整地層
346	56	57	施釉陶器	鉢	(14.1)	7.5	6.15					D-2	整地層
347	56	57	施釉陶器	鉢	(17.9)	9.9	(7.0)					D-2	整地層
348	56	57	白磁	小皿	4.4	1.1	2.15					D-2	整地層
349	56	57	白磁	小皿	5.7	1.5	2.6					D-2	整地層
350	56	59	染付磁器	花生	(3.0)	(9.5)	5.5					D-2	整地層　19 世紀前半以降
351	56	59	染付磁器 (瀬戸焼)	皿	7.5	2.6	3.7					D-2	整地層　19 世紀前半以降
352	56	59	瓦	軒丸瓦	瓦当 13.7			(2.4)		瓦当 2.4		D-2	撹乱 三つ巴文　珠文は 13 個
353	57	59	土師器	焙烙	(36.0)	4.4						D-1	№.1 ～№.2
354	57	59	施釉陶器 (京焼系)	碗 (煎茶碗)	5.3	4.05	5.1					D-1	整地層・撹乱 外面に「源氏香」を施文
355	57	59	施釉陶器	灯明台	6.9	4.35	4.4					D-1	№.1 ～№.2 間
356	57	59	施釉陶器 (瀬戸焼)	碗	9.1	4.8	4.0					D-1	№.0 ～ 1 間 腰錆碗　19 世紀前半以降
357	57	59	施釉陶器 (唐津焼)	碗（緑釉）	-	(2.9)	4.8					D-1	№.0 ～№.1　17 世紀後半
358	57	59	無釉陶器	火入れ	(13.2)	5.7	9.0					D-1	№.0 ～№.1
359	57	59	丹波焼	甕	(22.1)	(10.5)						D-1	№.0 ～№.1
360	57	59	土師器	胞衣壺	(12.8)	13.1	9.2					D-1	№.1 ～№.2
361	57	59	土師質	胞衣壺	-	(11.8)	13.0					D-1	№.1 ～№.2 間
362	57	60	無釉陶器	擂鉢	(24.4)	8.5	(12.2)					D-1	整地層
363	57	60	施釉陶器	擂鉢	(24.8)	9.9	(12.4)					D-1	№.1 ～№.2 間
364	57	60	無釉陶器	擂鉢	(27.55)	(10.3)						D-1	SD02 付近清掃時
365	57	60	無釉陶器	鉢	(44.3)	(20.15)						D-1	撹乱
366	58	60	染付磁器 (京焼系)	蓋	12.35	3.3					摘 5.6	D-1	撹乱 染付はプリントによる 明治期以降

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
367	58	60	赤絵磁器	蓋	12.8	2.6					摘 5.55	D-1	撹乱　金襴手　明治期以降
368	58	60	染付磁器(肥前系)	小皿	10.0	2.6	4.5					D-1	撹乱　19 世紀前半
369	58	60	染付磁器(肥前系)	碗	(8.0)	3.6	4.0					D-1	漢字崩しの染付
370	58	61	染付磁器(京焼系)	碗	-	(3.2)	5.6					D-1	№.2 ～№.3
371	58	61	染付磁器(肥前系)	碗	(10.2)	5.25	(4.0)					D-1	№.1 ～№.2 間 18 世紀前半
372	58	61	染付青磁	碗	(11.1)	5.6	(3.8)					D-1	礎石建物付近 精査面 18 世紀前半
373	58	61	染付磁器	碗	(9.9)	7.2	(5.0)					D-1	礎石建物付近 精査面
374	58	61	染付磁器	碗	(14.7)	6.1	(6.1)					D-1	染付はプリントによる 明治期以降
375	58	61	染付磁器	鉢（段重）	10.75	2.45	10.0					D-1	19 世紀前半以降
376	58	62	染付磁器(肥前系)	油壺	2.0	6.5						D-1	整地層　№.0 ～№.1
377	58	61	染付磁器	花生	(8.2)	37.5	(9.6)					D-1	コンクリート東側攪乱 近代以降
378	58	62	染付磁器(肥前系)	御神酒徳利	-	(9.8)	5.0					D-1	18 世紀後半
379	58	62	染付磁器(肥前系)	御神酒徳利	2.0	10.6	3.4				腹径 4.8	D-1	東撹乱
380	58	62	染付磁器(肥前系)	御神酒徳利	1.6	11.4	4.2				腹径 6.3	D-1	№.1 ～№.2 間
381	58	62	染付磁器	湯呑	(5.2)	6.0	(3.4)					D-1	整地層・撹乱 内面瓔珞文　近代以降
382	58	62	染付磁器	水滴		1.8		5.0	3.45			D-1	整地層・撹乱
383	58	62	施釉磁器	香炉	(9.0)	3.65						D-1	整地層・撹乱
384	58	62	土製品	鞴羽口	8.25	(9.7)					腹径 8.4	D-1	撹乱
385	58	62	土製品	人形(頭部)		0.8		2.45	1.75			D-1	精査面　№.0 ～№.1+2
386	58	62	磁器	人形		4.85			3.4	2.25		D-2	機械掘削　明治期以降
387～389		58	施釉陶器	土管								D-1	
390～394		58	煉瓦	煉瓦								D-1 D-2″	整地層・撹乱層等出土「＋」「－」の刻印・櫛描の「×」等が見られる「＋」は岸和田煉瓦株式会社製 いずれも明治前期以降
S1	59	63	石製品	砥石				16.3	5.7	2.1		2008227 -1Tr	
S2	59	63	石製品	砥石				15.3	5.7	2.05		A	SK04
S3	59	63	石製品	硯				(13.55)	5.95	1.1		A	SK03
S4	59	63	石製品	砥石				(17.35)	7.75	4.2		A	埋甕 2
S5	59	63	石製品	砥石				(12.05)	6.2	1.7		A	埋甕 2
S6	59	63	石製品			9.3		14.1	11.1			A	SK32
S7	59	63	石製品	石臼		13.4		31.6	15.8			A	撹乱 1
S8	60	64	石製品	灯籠		8.2		31.7	31.2			A	SK09(埋桶)
S9	60	64	石製品	礎石		9.9		12.1	12.5			A	土管(東西)撹乱
S10	60	64	石製品	碁石(黒)				2.25	2.2	0.45		A	面精査
S11	60	64	石製品	碁石(黒)				2.2	2.15	0.6		A	SK04
S12	60	64	石製品	硯		2.5		12.9	7.3	2.15		B	レンガ敷西側堆積
S13	60	64	石製品	硯				12.5	7.1	2.4		D-1	SK22･23
S14	60	64	石製品	硯		2.4		13.8	7.8	1.95		B	埋甕 2
W1	61	65	木器	桶(側板)				(28.9)	14.7	1.8		A	SD01　埋桶
W2	61	65	木器	桶(側板)				(26.3)	14.8	1.9		A	SD01　埋桶
W3	61	65	木器	桶(側板)		2.85		(26.2)	14.55	2.05		A	SD01　埋桶
W4	61	65	木器	桶(側板)		2.4		(27.3)	14.3	2.0		A	SD01　埋桶
W5	61	65	木器	桶(側板)				(25.8)	14.2	1.7		A	SD01　埋桶
W6	61	65	木器	桶(側板)				(25.7)	13.7	1.95		A	SD01　埋桶
W7	61	65	木器	桶(側板)				(28.9)	13.8	1.55		A	SD01　埋桶
W8	61	65	木器	桶(側板)				(23.5)	13.95	1.55		A	SD01　埋桶
W9	61	65	木器	桶(側板)				(21.8)	14.95	1.6		A	SD01　埋桶
W10	61	65	木器	桶(側板)				(22.4)	13.0	2.0		A	SD01　埋桶
W11	61	65	木器	桶(側板)				(25.9)	14.9	1.8		A	SD01　埋桶
W12	62	65	木器	桶(側板)				(21.1)	14.1	1.9		A	SD01　埋桶
W13	62	65	木器	桶(側板)				(17.8)	12.3	1.9		A	SD01　埋桶
W14	62	66	木器	桶(底板)				55.55	55.45	2.3		A	SD01　埋桶
W15	63	67	木器	杭				(48.75)	9.5	6.3		D-2	SP103
W16	63	67	木器	杭				(29.9)	8.2 5.3	7.6 4.6		D-2	SP126
W17	63	67	木器	側板				(19.6)	11.4	0.8		D-1	SK16 桶内
W18	63	67	木器	側板				(46.1)	17.2	0.9		D-1	SK16 桶内
W19	63	67	木器	側板				(46.4)	14.4	0.8		D-1	SK16 桶内
W20	63	67	木器	側板				(41.0)	7.3	1.0		D-1	SK16 桶内
W21	64	67	木器	側板				(38.6)	4.2	1.0		D-1	SK16 桶内
W22	64	67	木器	側板				(36.5)	8.6	0.9		D-1	SK16 桶内
W23	64	67	木器	側板				(33.7)	8.1	0.7		D-1	SK16 桶内
W24	64	67	木器	側板				(10.1)	5.6	1.0		D-1	SK16 桶内
W25	64	67	木器	側板				(8.0)	9.0	1.1		D-1	SK16 桶内
W26	64	67	木器	桶(底板)				41.55	43.1	2.6		D-1	SK16
W27	65	68	木器	板				35.4	11.7	1.2		D-1	SK16 桶内
W28	65	68	木器	板				28.6	5.75	1.0		D-1	SK16 桶内
W29	65	68	木器	部材				(23.0)	3.2	2.8		D-1	SK16 桶内
W30	65	68	木器	桶(側板)				(27.9)	15.75	1.1		D-1	SK16 桶内
W31	65	68	木器	桶(側板)				(24.95)	13.4	0.6		D-1	SK16 桶内
W32	65	68	木器	桶(側板)				28.5	8.1	0.9		D-1	SK16 桶内

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(ｃｍ)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
W33	65	68	木器	桶(側板)				(14.8)	6.9	0.9		D-1	SK16 桶内
W34	65	68	木器	団扇				31.1	15.0	0.8		D-1	SK16
W35	65	68	木器	桶				(19.5)	10.5	1.5		D-1	SK24
M01	66	69	鉄製品	鎌				(8.3)	3.7	0.32		2008227-1Tr	
M02	66	69	鉛製品	?				6.9	0.78	0.95		2008227-1Tr	
M03	66	69	鉄製品	?				(5.33)	1.45	0.52		2008227-1Tr	
M04	66	69	鉄製品	刀子の柄				(8.28)	1.35	0.44		A	SK04
M05	66	69	鉄製品	釘				(2.62)	0.31	0.3		A	SK04
M06	66	69	鉄製品	釘				(2.71)	0.53	0.53		A	SK09
M07	66	69	鉄製品	釘				(2.6)	2.35	0.57		A	SK09
M08	66	69	鉄製品	釘				(2.82)	0.3	0.32		A	SK09
M09	66	69	鉄製品	釘				(4.7)	0.4	0.4		A	SK28
M10	66	69	鉄製品	釘				(2.0) (1.8)	0.48 0.35	0.45 0.35		A	SE01
M11	66	69	鉄製品	釘				(5.1)	0.38	0.38		A	貝溜まり
M12	66	69	銅製品	?				(16.4)	(4.88)	(0.05)		A	貝溜まり下層
M13	66	69	鉄製品	釘				(6.9)	0.5	0.45		A	整地層
M14	66	69	鉄製品	刀子				(7.55)	1.35	0.4		A	整地層
M15	66	69	鉄製品	刀子				(5.78)	(1.37)	0.45		A	整地層
M16	66	69	銅製品	?				7.3	径 0.26			B	SK05
M17	66	69	鉄製品	紐通し?				(8.58)	0.34	0.33		B	埋甕 2
M18	66	69	鉄製品	釘				(11.4)	2.25	1.75		B	SD01
M19	66	69	鉄製品	釘				(7.9)	1.75	1.4		B	SD01
M20	66	69	鉄製品	釘				(12.5)	2.3	1.3		B	SD01
M21	67	70	鉄製品	釘				(12.4)	2.75	2.15		B	SD01
M22	67	70	銅製品	笄				13.8	1.1	0.19		C	SK19
M23	67	70	鉄製品	釘				(3.75)	0.5	0.5		C	SK40
M24	67	70	鉄製品	釘				(11.35)	1.9	1.15		C	SD20 北
M25	67	70	鉄製品	釘				(10.0)	1.7	1.2		C	SD20 南畦部分
M26	67	70	鉄製品	釘				(9.6)	2.35	1.85		C	SD2 南畦部分
M27	67	70	鉄製品	釘				(8.4)	2.3	1.5		C	SD20 南
M28	67	70	鉄製品	釘				(5.8)	4.5	1.6		C	SD20 南
M29	68	70	鉄製品	釘				(5.0)	1.3	0.8		C	SD20 北
M30	68	70	銅製品	?				9.5	(9.2)	0.15		C	SR53
M31	68	70	銅製品	刀子				(16.78)	1.4	0.5		C	整地層
M32	68	70	鉄製品	釘				11.7	1.6	1.7		C	面精査（第 1 面）
M33	68	71	鉄製品	釘				(7.9)	0.37	0.43		D-2	SP102
M34	68	71	鉄製品	刀子				7.3	1.22	0.43		D-1	SK03
M35	68	71	銅製品	釘				3.38	径 0.4			D-1	SK18
M36	68	71	鉄製品	釘				(7.3)	0.36	0.33		D-1	SK18
M37	68	71	銅製品	笄				(12.8)	0.55	0.23		D-1	SK22･23
M38	68	71	鉄製品	釘				5.0	0.45	0.35		D-1	SK028
M39	68	71	銅製品	笄				12.0	0.75	0.4		D-1	SK029
M40	68	71	銅製品					(17.4)	(6.8)	(0.2)		D-1	SK029
M41	69	71	銅製品	笄				(8.08)	4.15	0.3		D-1	SK35
M42	69	71	銅製品	針?				(6.0)	径 0.14			D-1	SK35
M43	69	71	鉄製品	釘?				(5.5)	0.3	0.32		D-1	SK35
M44	69	71	鉄製品	?				5.15	3.52	0.53		D-1	SK38
M45	69	71	鉄製品	?				(2.68)	0.4	0.42		D-2	SK106
M46	69	71	鉄製品	釘				(4.05)	0.38	0.38		D-2	SK108
M47	69	71	鉄製品	?				(9.5)	2.49	0.43		D-2	SK110
M48	69	72	鉄製品	?				7.62	2.0	0.35		D-1	SD25
M49	69	72	鉄製品	釘				(5.7)	0.5	0.45		D-1	SD25
M50	69	72	鉄製品	釘				(6.75)	0.9	0.4		D-1	SD27
M51	69	72	鉄製品	釘				(3.7)	0.73	0.33		D-2	SD120
M52	69	72	鉄製品	釘				(3.3)	0.4	0.34		D-2	SD121
M53	69	72	鉄製品	釘				(3.9)	0.38	0.36			№.1～№.2
M54	69	72	鉄製品	釘				13.7	2.38	2.2		D-1	撹乱
M55	70	72	鉄製品	? 写のみ								C	
M56	70	72	鉄製品	釘 写のみ								2008227-1Tr	
M57	70	73	銅製品	寛永通寶								2008227-1Tr	下層
M58	70	73	銅製品	寛永通寶								A	SK13
M59	70	73	銅製品	寛永通寶								A	瓦溜まり
M60	70	73	銅製品	寛永通寶								A	面精査
M61	70	73	銅製品	寛永通寶								A	
M62	70	73	銅製品	寛永通寶「文」								A	整地層
M63	70	73	銅製品	銭?								A	整地層
M64	70	73	銅製品	寛永通寶								A	整地層
M65	70	73	銅製品	寛永通寶								B	埋甕 2
M66	70	73	銅製品	五銭								B	埋甕 2
M67	71	73	銅製品	寛永通寶								C	SK18
M68	71	73	銅製品	一銭								C	SK19
M69	71	74	銅製品	寛永通寶								C	面精査（第 1 面）
M70	71	74	銅製品	寛永通寶								C	整地層
M71	71	74	銅製品	寛永通寶「文」								C	整地層
M72	71	74	銅製品	寛永通寶「文」								C	整地層
M73	71	74	銅製品	寛永通寶								C	機械掘削

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)							出土地区	出土遺構等
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	その他		
M74	71	74	銅製品	寛永通寶「文」								C	確認トレンチ埋土
M75	71	74	銅製品	寛永通寶								C	撹乱中
M76	71	74	銅製品	寛永通寶								D-1	撹乱
M77	71	74	銅製品	寛永通寶								D-1	SK04 土器群内
M78	71	74	銅製品	寛永通寶「文」								D-1	SK14
M79	72	74	銅製品	寛永通寶「文」								D-1	SK14
M80	72	74	銅製品	寛永通寶								D-2	SD121
M81	72	75	銅製品	寛永通寶								D-2	整地層
M82		75	銅製品	寛永通寶								D-2	整地層
M83		75	銅製品	寛永通寶								D-2	表採
M84		75	銅製品	銭								A	SK09
M85		75	銅製品	銭								B	SK05
M86		75	銅製品	銭								B	SK05
M87		75	銅製品	銭								B	SK05
M88		75	銅製品	銭								D-2	SK116
M89		75	銅製品	銭？								D-1	SK18 桶内
M90		75	銅製品	銭								2007050-4G	

第４章　自然科学分析

第１節　明石城下町町屋跡における動物遺存体同定

株式会社古環境研究所

１．はじめに

日本の国土は火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれないのが一般的である。そのため動物遺存体が出土するのは貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰などが代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されている。また、歴史時代の遺跡の発掘調査が増加し、江戸、京都、大坂などの近世都市の発掘調査も増加し、近世の食文化や骨角製品の製作などの動物利用が明らかになりつつある。なお、同定に際しては、丸山真史博士にご協力いただいた。

２．試料

試料は、D 地区 SK22、SK23、SK24、SK35、SK110、SK111、SK116、SD25、遺物包含層、撹乱で出土した 732 点以上である（註）。

３．方法

試料は、肉眼および実体顕微鏡で観察し、現生骨格標本と形態的特徴を比較して種類を同定した。

４．結果

以下に種名（学名、和名）を示し、和名および粒数を表３－表５に示す。主要な分類群を写真に示す。

第４表　種名表

軟体動物門　Mollusca
腹足綱　Gastropoda
古腹足目　Vetigastropoda
サザエ科　Turbnidae
サザエ　*Turbo cornutus*
新腹足目　Neogastropoda
アッキガイ科　Muricidae
アカニシ　*Rapana venosa*
斧足綱　Bivalvia
カキ目　Ostreoida
イタボガキ科　Ostreidae
イタボガキ　*Ostrea denselamellosa*
マガキ　*Crassostrea gigas*
イタボガキ科の一種　*Ostreidae gen. et sp. indet.*
マルスダレガイ目　Veneroida
シジミ科　Corbiculidae
ヤマトシジミ　*Corbicula japonica*
マルスダレガイ科　Veneridae
アサリ　*Ruditapes philippinarum*
ハマグリ　*Meretrix lusoria*

脊椎動物門　Vertebrata
軟骨魚綱　Chondrichthyes
板鰓亜綱の一種（エイ・サメ類）
Elasmobranchii, order, fam., gen. et sp. indet.
硬骨魚綱　Osteichthyes
ウナギ目　Anguilliformes
ハモ科　Muraenesocidae
ハモ属の一種　*Muraenesox sp.*
ニシン目　Cluperiformes
ニシン科　Clupeidae
マイワシ　*Sardinops melanosticutus*
ニシン科の一種　*Clupeidae gen. et sp. indet.*
コイ目　Cyprinida
コイ科　Cyprinidae
コイ　*Cyprininus carpio*
フナ属の一種　*Carussius sp.*
ウグイ属の一種　*Tribolodon sp.*
コイ科の一種　*Cyprinidae gen. et sp. indet.*
サケ目　Salmoniformes
サケ科　Salmonidae
サケ属の一種　*Oncorhynchus sp.*
タラ目　Gadiformes
タラ科　Gadidae
タラ科の一種　*Gadidae gen. et sp. indet.*
ボラ目　Mugiliformes
ボラ科　Mugilidae
ボラ科の一種　*Mugilidae gen. et sp. indet.*
カサゴ目　Scorpaeniformes
フサカサゴ科　Scorpaenidae
フサカサゴ科の一種　*Scorpaenidae gen. et sp. indet.*
オニオコゼ科　Synanceiidae

オニオコゼ属の一種　*Inimicus sp.*
コチ科　Platycephalidae
メゴチ　*Suggrundus meerdervoortii*
コチ科の一種　*Platycephalidae, gen. et sp. indet.*
アイナメ科　Hexagrammidae
アイナメ属の一種　*Hexagrammos sp.*
スズキ目　Percidae
スズキ科　Percichthyidae
スズキ　*Lateolabrax japonicus*
アジ科　Carangiae
ブリ属の一種　*Seriola sp.*
アジ科の一種　*Carangiae, gen. et sp. indet.*
イサキ科　Haemulidae
ヒゲダイ属　*hapalogenys sp.*
タイ科　Sparidae
クロダイ属の一種　*Acanthopagrus sp.*
マダイ　*Pagrus major*
キダイ　*Dentex tumifrons*
タイ科の一種　*Sparidae, gen. et sp. indet..*
ニベ科　Sciaenidae
ニベ科の一種　*Sciaenidae, gen. et sp. indet.*
キス科　Sillaginidae
キス属の一種　*Sillago sp.*
ベラ科　Labroide
ベラ科の一種　*Labroidei, gen. et sp. indet.*
ミシマオコゼ科　Uranoscopidae
サツオミシマ？　*Ichthyscopus sannio ?*
アイゴ科　Siganidae
アイゴ科の一種　*Siganidae, gen. et sp. indet.*
カマス科　Sphyraenidae
カマス科の一種　*Sphyraenidae, gen. et sp. indet.*
タチウオ科　Trichiuridae
タチウオ科の一種　*Trichiuridae gen. et sp. indet.*
サバ科 Scombridae
サバ属の一種　*Scomber sp.*
サワラ　*Scomberomorus niphonius*
カレイ目　Pleuronectiformes
ヒラメ科　Bothidae
ヒラメ　*Paralichthys olivaceus*
カレイ科　Pleuronectidae
カレイ科の一種　*Pleuronectidae gen. et sp. Indet.*
フグ目 Tetraodonitiformes
カワハギ科　Monacanthidae
カワハギ科の一種　*Monacanthidae, gen. et sp. indet.*
フグ科　Tetraodonitidae
フグ科の一種　*Tetraodonitidae, gen. et sp. indet.*
鳥綱　Aves
キジ目　Galliformes
キジ科　Phasianidae
ニワトリ　*Gullus domesticus*
哺乳綱　Mammalia
齧歯目　Rodentia
ネズミ科　Muridae
ネズミ科の一種　*Muridae gen. et sp. indet.*

５．考察

同定の対象とした試料は、貝類 68 点、魚類 655 点、鳥類８点、哺乳類９点である。以下に、種類や部位を同定できたものについて記載する。

貝類のうち種を同定したものは、巻貝が９点、二枚貝が 48 点、計 57 点にのぼり、二枚貝が卓越する。巻貝では、アカニシ７点、サザエ２点を同定した。計測できた個体はないが、アカニシは殻長 100 ㎜を超える大きな個体ばかりである。二枚貝では、イタボガキが最多の 39 点を数えるのに対して、マガキは１点に留まり、いずれかを区別できないイタボガキ科が１点出土している。また、ヤマトシジミ４点、アサリ、ハマグリが２点ずつ出土している。アサリは殻高 18 ㎜程度、ハマグリは殻高 40 ㎜前後を測る。いずれの種類も明石近海で捕採できる種類ばかりであり、砂泥質の海岸、岩礁域、汽水環境の河口付近がその捕採地として想定できる。

魚類のうち類種を同定したものは軟骨魚綱 24 点、硬骨魚綱 626 点、計 650 点にのぼる。軟骨魚類は、全て椎体径 10 ㎜以下の小形のエイ・サメ類である。硬骨魚類ではフサカサゴ科が 229 点と他を圧倒しており、魚類の 36.6％を占める。それに続いて、アジ科 63 点、フグ科 36 点、マダイ 34 点、タイ科 32 点、ニベ科 27 点、サバ属 27 点、ニシン科 20 点、タチウオ科 18 点、ベラ科 14 点、サケ属 13 点、カレイ科 11 点、オニオコゼ属 10 点、クロダイ属９点、コイ科･ハモ属･ヒゲダイ属８点ずつ、ブリ属７点、マイワシ･ボラ科･キダイ６点ずつ、キス科･サワラ４点ずつ、スズキ・アイナメ属・ヒラメ３点ずつ、コイ・フナ属・コチ科・サツオミシマ？・メゴチ・アイゴ科２点ずつ、ウグイ属・サケ科・タラ科・カマス科・カワハギ科１点ずつを数える。遺構別に各種類の部位別出土量を表３－５に示す。海水産魚類が卓越しており、多量に出土したフサカサゴ科は、カサゴ属に類似しており、現代の明石付近でよく漁獲されるガシラなどが想定できる。また、サケ属、タラ科以外は、明石近海で漁獲できる種類である。サケ属は、河川と海洋を回遊する大型のサケ・マス類であり、瀬戸内海には降海性のサツキマスが生息しているが、寒海性のタラ科が出土していることから、北日本から持ち込まれた可能性もある。近世の大阪や京都の屋敷地のゴミ穴で出土する魚骨は、マダイなどのタイ科を主体とする魚種組成を示し、当遺跡とは異なる。一方、漁獲地近郊の魚類消費を示していると考えられる神戸市兵庫津遺跡第 14 次調査ではタイ科が占める割合は低く、魚体が小さなものが多いと言う点で、当遺跡と類似している。ただし、当遺跡の主体となる魚種はフサカサゴ科であるが、兵庫津遺跡ではフグ科、ウシノシタ科、オニオコゼ属などである。

鳥類のうち種類を同定したものは２点で、ニワトリの烏口骨と肩甲骨が１点ずつを数える。種類が判明しなかった６点は、いずれも趾骨であり、大型鳥類のものと思われる。大型鳥類の候補には、ツル科、コウノトリ科、ハクチョウ属、大型の猛禽類を上げることができる。ニワトリは食用と考えて差し支えないであろう。

哺乳類のうち種類を同定したものは７点であり、いずれもネズミ科である。椎骨５点、下顎骨（左）・大腿骨１点ずつが出土している。ネズミ科の中でも大型個体であり、クマネズミなど屋敷に棲みついていたものが、退治されたことが想定される。

６．まとめ

当遺跡では、魚類を主体として貝類、鳥類、哺乳類が出土している。魚類ではフサカサゴ科が多数出土していることが特徴的である。明石城下町近海で漁獲できる魚種が大部分を占め、コイ、フナ属、ウグイ属といった淡水魚も出土している。また、タラ科、サケ属は、遠隔地からの流通品であろう。貝類ではイタボガキが多く、巻貝ではアカニシ、サザエが、二枚貝ではハマグリ、アサリ、ヤマトシジミが出土しており、近海の砂泥域、岩礁域、河口付近での捕採が考えられる。鳥類と哺乳類は少量に留まるが、家禽のニワトリは食用と考えられるが、ネズミ科は家屋内で捕らえられ、ゴミ穴に投棄したなどのことが想定される。

註　小片が多数含まれており、出土した破片数はさらに多い。また、魚類は内臓骨を中心に同定しており、同定していない椎骨が含まれている。

第５表　明石城下町町屋跡　D 地区 SK110 から出土した魚骨集計表

SK110	主上顎骨		前上顎骨		歯骨		角骨		方骨		前鰓蓋骨		主鰓蓋骨		舌顎骨		椎骨	その他	計
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右			
エイ・サメ類																	1		1
アジ科																	1	稜鱗1	2
オニオコゼ属	1																		1
カレイ科							1												1
キス科					1	1	1	1											4
コイ科																1			1
サバ属					1			1									1	角舌骨(左)1	4
タイ科		1					1							1					3
タチウオ科																	4		4
ニシン科																	3		3
ニベ科																1			1
フグ科					1				1			1							3
フサカサゴ科	1	1				1	1		1		1		2				3	擬鎖骨(左1右1)2	13
ベラ科		1			1													下咽頭骨1	3
マダイ			1	1					1							1			4
メゴチ			1																1
計																			49

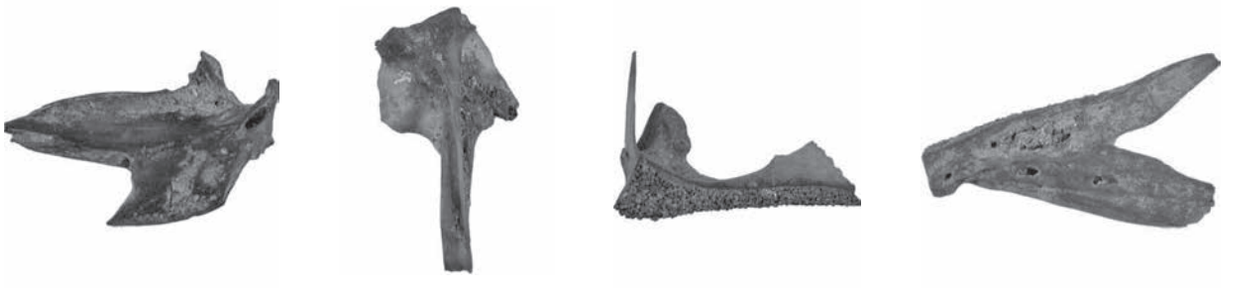
第６表　明石城下町町屋跡　D 地区 SK111 から出土した魚骨集計表

SK111	主上顎骨		前上顎骨		歯骨		角骨		方骨		前鰓蓋骨		主鰓蓋骨		舌顎骨		椎骨	その他	計
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右			
エイ・サメ類																	19		19
アジ科		1	4	1	2	1											7	擬鎖骨(右)1稜鱗32	49
イサキ？					1														1
ウグイ													1						1
オニオコゼ属		1	1	1	1		1					1	1					角舌骨(右) 1	8
カマス科																	1		1
カレイ科			1														5		6
カワハギ科																	1		1
キダイ		1		2	1													口蓋骨（左1右1）2	6
クロダイ属	1												1		1			口蓋骨(右)3	6
コイ													2						2
コイ科	1										1	1			1	1	1		6
コチ科					1													鋤骨1	2
サケ属					1												11	歯1	13
サツオミシマ？											1		1						2
サバ属														1			14	角舌骨(左1右1)2	17
サワラ							1										2	角舌骨(右)1	4
スズキ										1							1		2
ヒゲダイ属				2	1	1	2					1					1		8
タイ科	1	1									1	2	1	2			7	上擬鎖骨(右)2角舌骨(左2右1)3遊離歯1	21
タイ科？												1							1
タチウオ科			1		2	1		1									5	前上顎骨(左右不明)1	11
タラ科																	1		1
ニシン科																	6		6
ニベ科	1	1			1	1										1		神経頭蓋1	6
ハタ科？							1												1
ハモ属																	3	遊離歯2	5
ヒラメ																	3		3
フグ科	2	3	2	1	1	1			1	3			1	2			5	胸鰭部?(右)1口蓋骨(左)1前上顎骨/歯骨(左右不明)3	27
フサカサゴ科	14	15	9	10	9	7	9	5	7	7	6	9	6	3	10	6	10	角舌骨(左2右4)6擬鎖骨(左2右2)4口蓋骨(右)6鋤骨1上擬鎖骨(左5右4)9前頭骨(左8右2)10	178
フサカサゴ科？				2															2
フナ属														2					2
ブリ属																	4		4
ベラ科			2	2		2												下咽頭骨4	10
ボラ科													2						2
マイワシ					1	1							3				1		6
マダイ	1	3		1	3	2	3	2	1							1	1	口蓋骨(右)1	19
メゴチ																	1		1
計																			460

第７表　明石城下町町屋跡　D 地区 SK116 から出土した魚骨集計表

SK116	主上顎骨		前上顎骨		歯骨		角骨		方骨		前鰓蓋骨		主鰓蓋骨		舌顎骨		椎骨	その他	計
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右			
アイゴ科																	2		2
アイナメ科		1	1					1											3
アジ科						1							1					稜鱗10	12
エイ・サメ類																	4		4
オニオコゼ属													1						1
カレイ科			1														2	第1血管間棘1	4
クロダイ属				1			1											主上顎骨(左右不明)1	3
コイ科											1								1
サケ科																	1		1
サバ属									1					1			3	角舌骨(右)1	6
スズキ																		擬鎖骨(右)1	1
タイ科																		角舌骨(左1右1)2擬鎖骨(左2右1)3口蓋骨(左)1副蝶形骨2	8
タチウオ科																	3		3
ニシン科																	11		11
ニベ科	1	1	2					1	1	1						1	11	副蝶形骨1	20
ハモ属																	2	遊離歯1	3
フグ科											1			1				前上顎骨/歯骨(左右不明)1外翼状骨(左)1擬鎖骨(右)1口蓋骨(右)1	6
フサカサゴ科	3	2	4	2		2	2	5	1			1	3		1	1	4	前頭骨(左1右1)2角舌骨(左2右1)3擬鎖骨（右)1口蓋骨(左)1	38
ブリ属																	2	肩甲骨(左右不明)1	3
ベラ科				1															1
ボラ科													1	1			2		4
マダイ			1		1	2	1	1				1		1				口蓋骨(右)1前頭骨2	11
計																			146

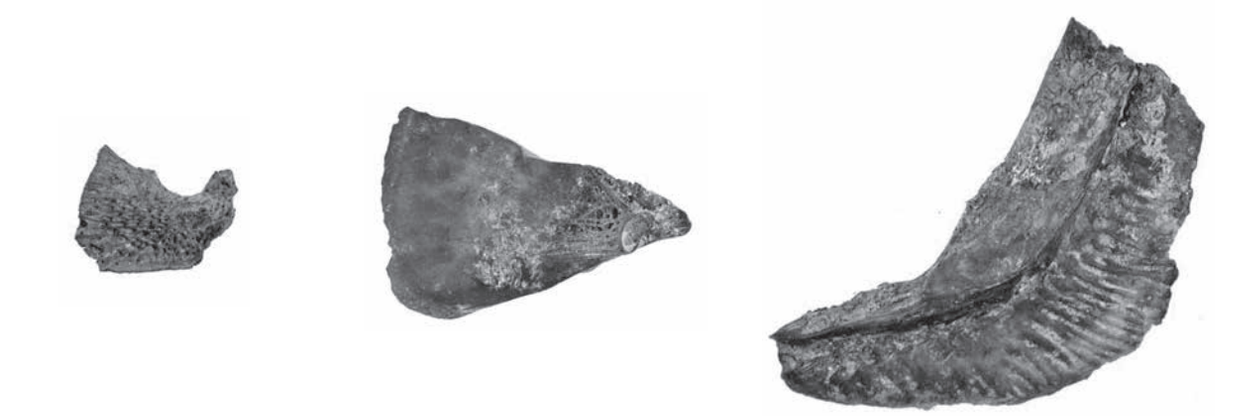
・SK111



1 フサカサゴ科角骨（10） 5.0 mm　2 フサカサゴ科下顎骨（93） 5.0 mm　3 フサカサゴ科前上顎骨（127） 5.0 mm　4 フサカサゴ科歯骨（134） 5.0 mm

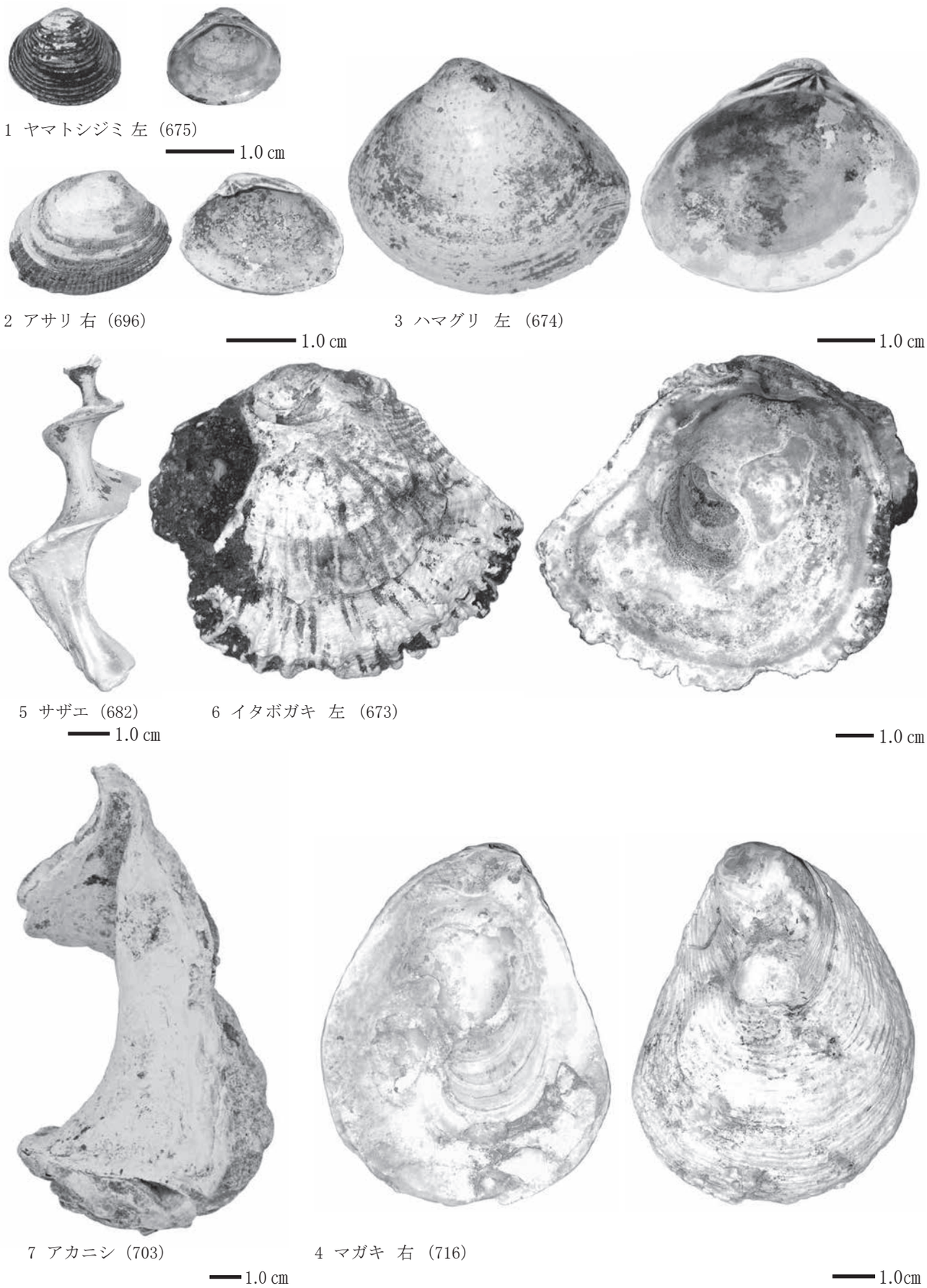
5 フサカサゴ科前鰓蓋骨（45） 5.0㎜　6 コチ科歯骨（156） 5.0 mm　7 マダイ歯骨（153） 5.0 mm

8 オニオコゼ属 前鰓蓋骨（30） 5.0mm　9 タチウオ科歯骨（２） 5.0mm　10 タチウオ科角骨（24） 5.0mm



11 サケ属角骨（25） 5.0mm　12 ボラ科 主鰓蓋骨（169） 5.0mm　13 タイ科 前鰓蓋骨（27） 5.0mm

第２図　明石城下町町屋跡出土の動物遺存体



第３図　明石城下町町屋跡出土の貝類

第２節　明石城下町町屋跡における樹種同定

株式会社古環境研究所

１．はじめに

本報告では、明石城下町町屋跡より出土した木製品に対して、木材解剖学的手法を用いて樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

２．試料と方法

試料は、明石城下町町屋跡より出土した桶底板、桶側板、漆椀、板材、団扇、杭などの木製品 13 点である。時期は江戸時代である。試料の詳細は結果とともに表１に記す。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって 40 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

３．結果

表８に結果を示し、各断面の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表８　明石城下町町屋跡における樹種同定結果

明細番号	器種など	報告番号	結果（学名／和名）	
1	桶底板	W14	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
1	桶底板（釘部分）	W14	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
2	桶側板	W1	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
17	漆椀	非掲載	Bambusoideae	タケ亜科
21	板材	W27	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
22	板材	W28	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
30	桶側板	W30	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
31	桶側板	W17	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
32	桶底板	W26	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
33	団扇	W34	Bambusoideae	タケ亜科
34	桶側板	W35	*Tsuga*	ツガ属
36	杭	W15	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
37	杭	W16	Cupressaceae	ヒノキ科

１）ツガ属　Tsuga　マツ科

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、１分野に２～４個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりツガ属に同定される。ツガには、ツガ、コメツガがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ 20 ～ 25m、径 50 ～ 80cm である。材は耐朽性、保存性ともに中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

２）スギ　Cryptomeria japonica D.Don　スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面:放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面:放射組織は単列の同性放射組織型で、1～12細胞高ぐらいである。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靭で、広く用いられる。

3）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl.　ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在するものが多い。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～10細胞高ぐらいである。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靭であり、耐朽性、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

4）ヒノキ科　Cupressaceae

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞がみられる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はやや小型であるが型及び1分野のおける個数は不明瞭である。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高ぐらいである。

以上の形質よりヒノキ科に同定される。ヒノキ科には、ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコなどがある。

5）タケ亜科　Bambusoideae　イネ科

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科に同定される。タケ亜科にはマダケ属、メダケ属、ササ属などがある。

4．考察

同定の結果、明石城下町町屋跡の木製品は、スギ8点、タケ亜科2点、ツガ属1点、ヒノキ1点、ヒノキ科1点であった。

スギが最も多く、桶底板、桶側板、板材、杭に使用されている。スギは木理通直で肌目は粗く、加工工作が容易で、大きな材がとれる良材である。タケ亜科は漆椀、団扇に使用されており、弾力性に富む。ヒノキとヒノキ科は、杭に使用されている。ヒノキを含むヒノキ科の木材は、概ね木理通直で肌目緻密、大きな材が取れる良材であり、特にヒノキは保存性が高い。ツガ属は桶側板に使用されており、木理概ね通直で肌目は粗く、重硬で加工はあまり容易ではない。

スギ、ヒノキ、ヒノキ科、ツガ属は温帯に広く分布する常緑針葉樹であり、いずれも高木となる。なおツガ属には温帯性のツガと亜高山性のコメツガがあり、温帯性のツガと考えられる。タケ亜科は温暖な地域に生育する。

以上から明石城下町町屋跡の木製品の樹種は、当時遺跡の近隣もしくは流通によってもたらされたとみなされよう。

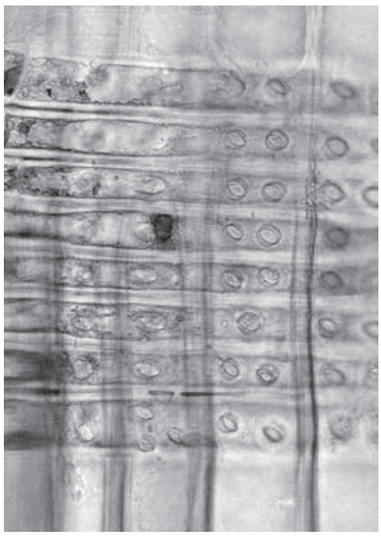
参考文献

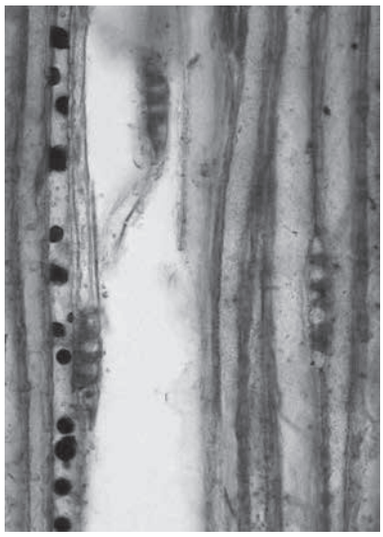
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296.

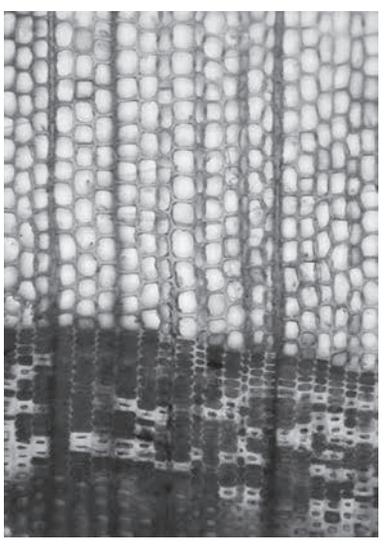
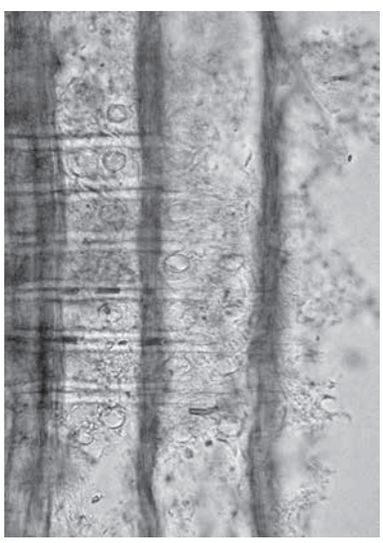
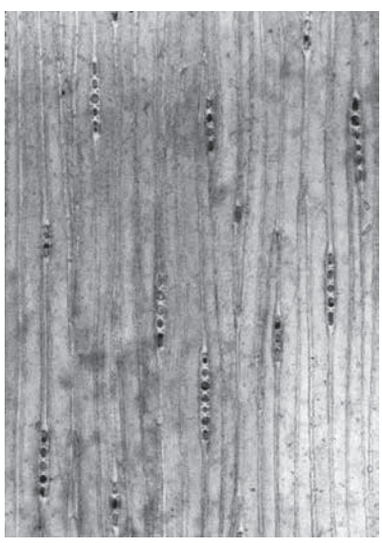
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第１号，植生史研究会，p.242.





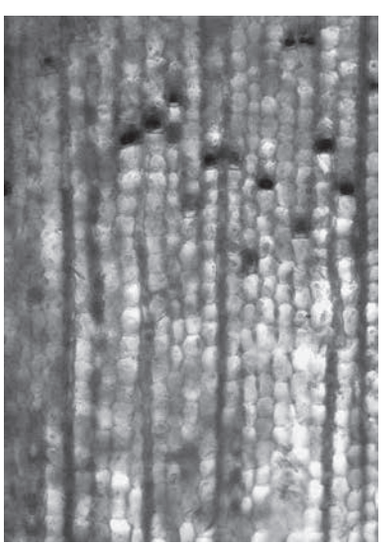
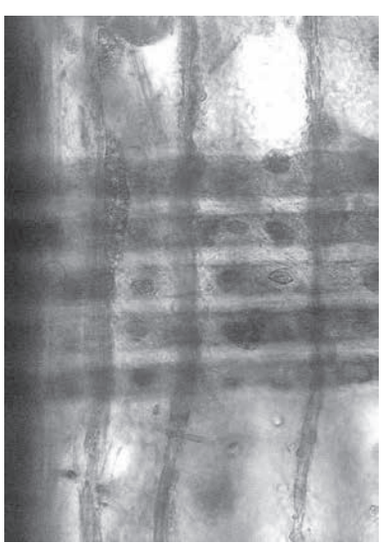
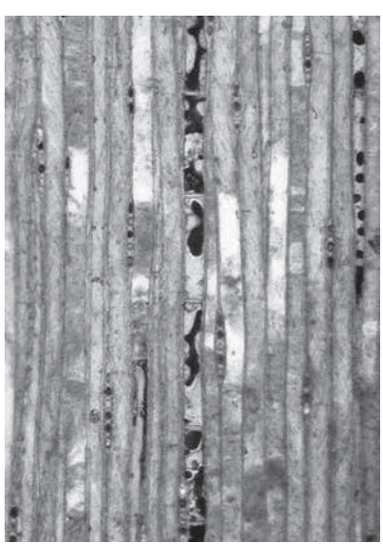
放射断面 ━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm　接線断面 ━━━━ : 0.1mm

１．明細番号１　桶底板　スギ

横断面 ━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm

２．明細番号１　桶底板（釘）　スギ

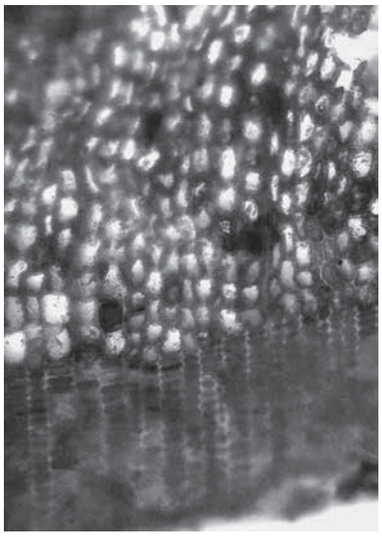
横断面 ━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm

３．明細番号２　桶側板　スギ

第４図　明石城下町町屋跡の木材Ⅰ

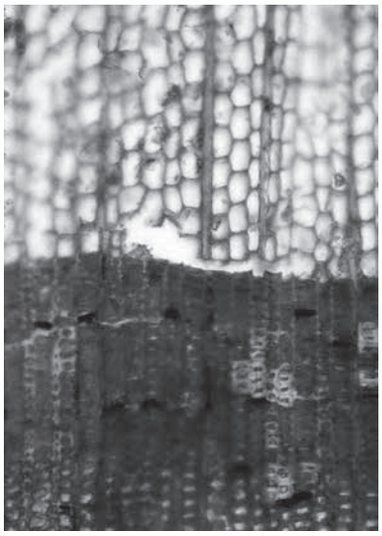
放射断面 ━━━━ : 0.2mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm

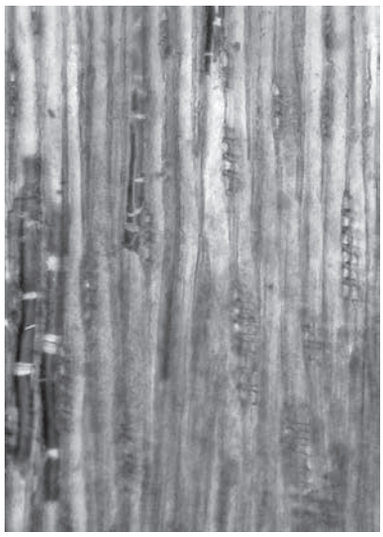
４．明細番号17　漆椀　タケ亜科



横断面 ━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm

５．明細番号21　板材　スギ

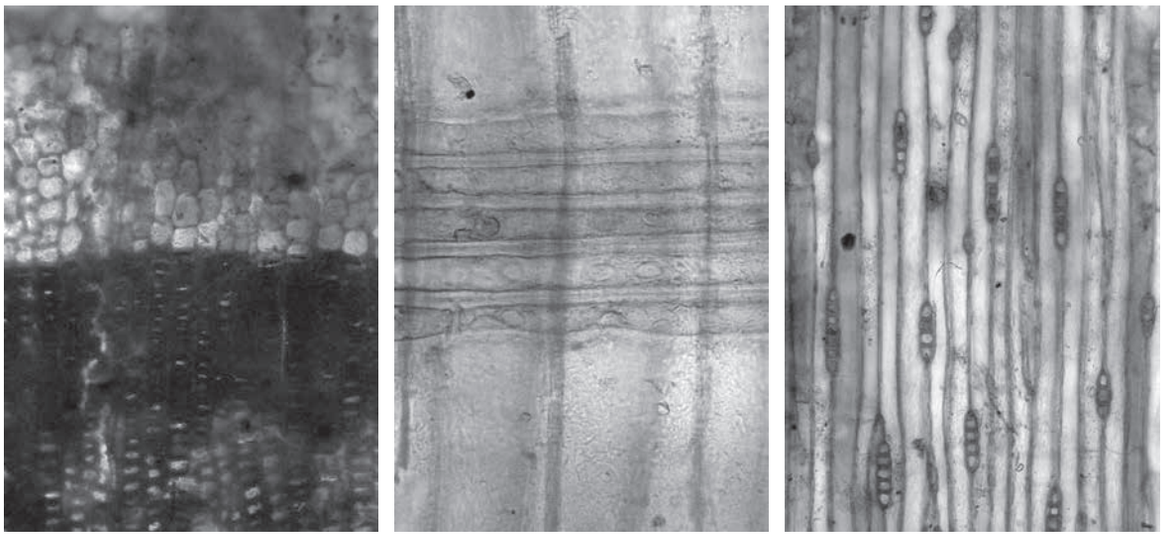




横断面 ━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━ : 0.2mm

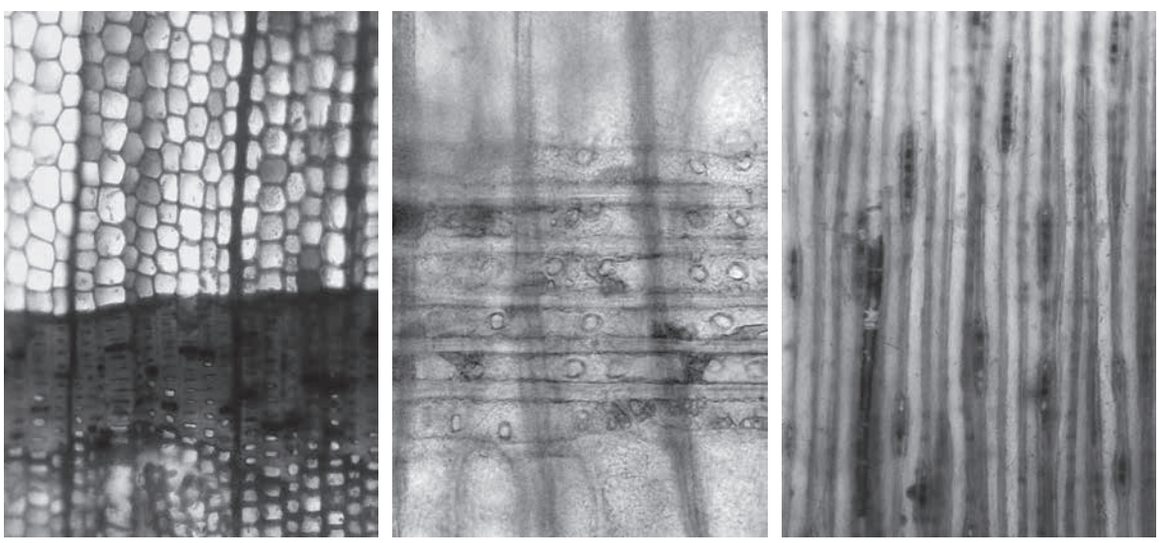
６．明細番号22　板材　スギ

第５図　明石城下町町屋跡の木材Ⅱ



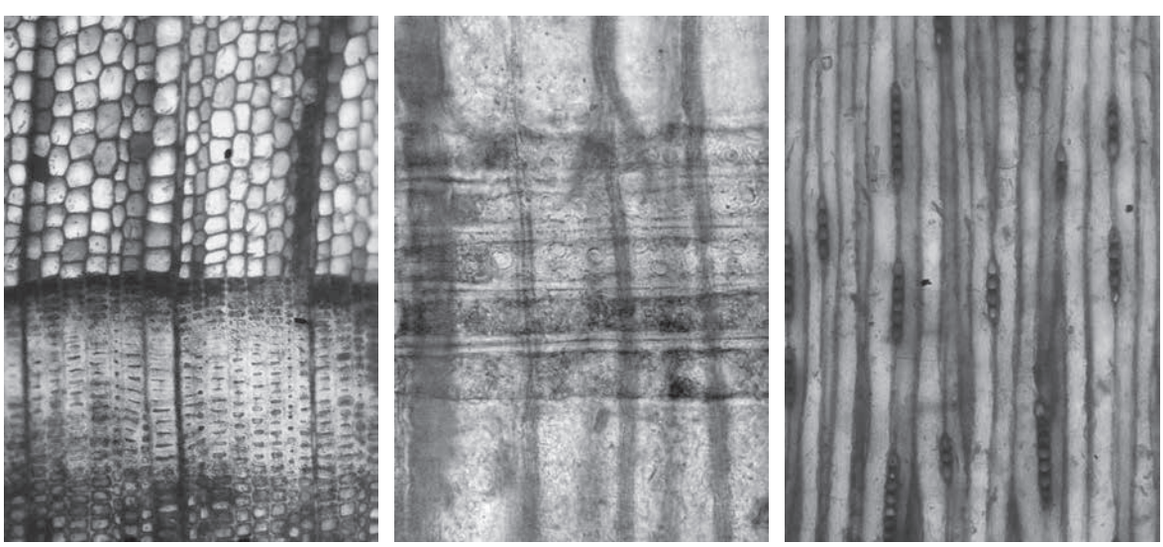
横断面 ━━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━━ : 0.2mm

７．明細番号30　桶側板　スギ



横断面 ━━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━━ : 0.2mm

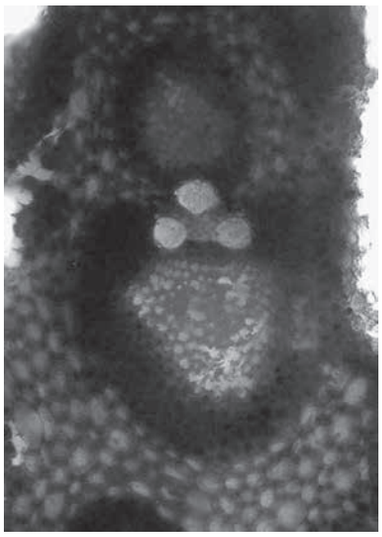
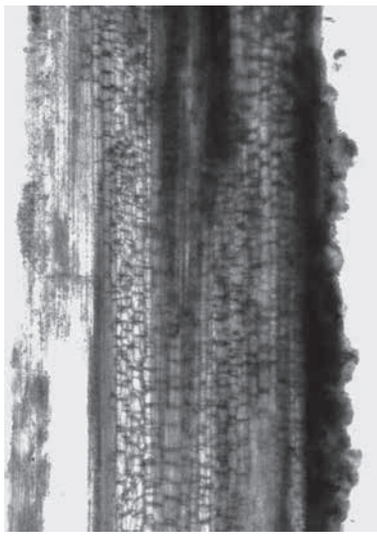
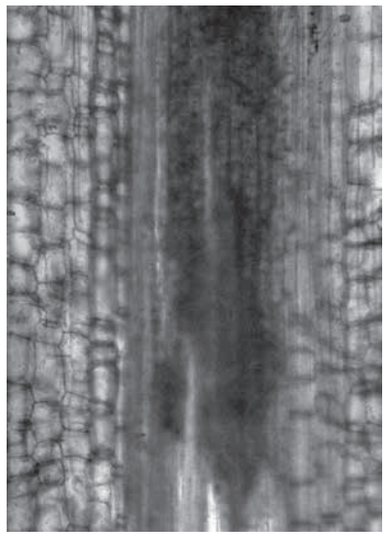
８．明細番号31　桶側板　スギ



横断面 ━━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━━ : 0.2mm

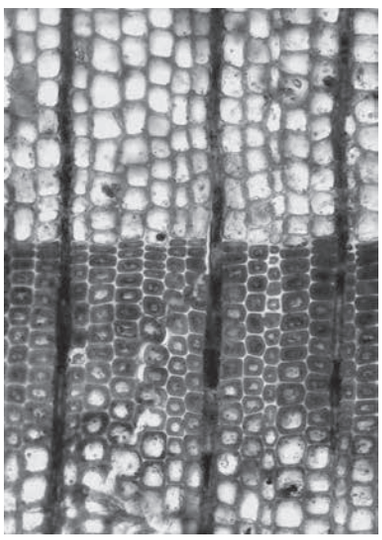
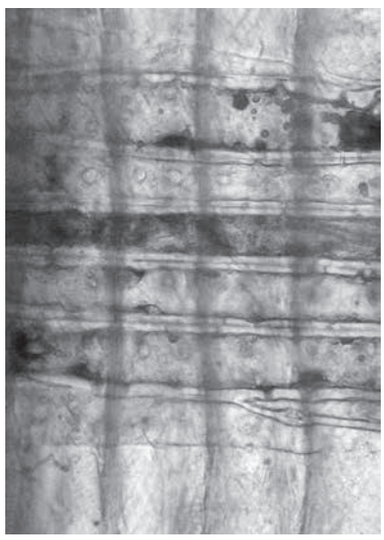
９．明細番号32　桶底板　スギ

第６図　明石城下町町屋跡の木材Ⅲ

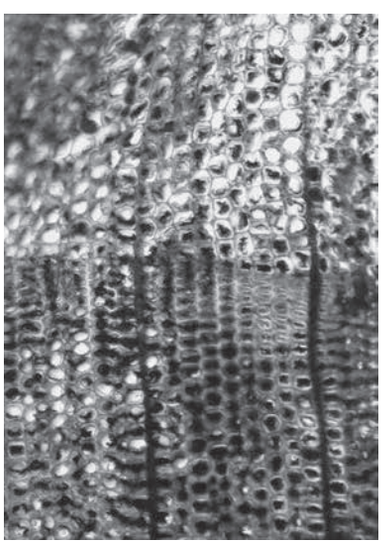
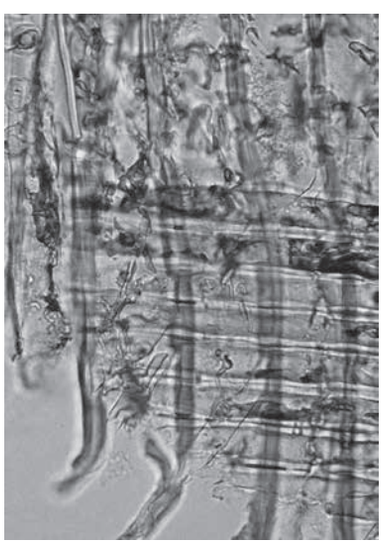
横断面 ━━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━━ : 0.5mm　接線断面 ━━━━━ : 0.2mm

10．明細番号33　団扇　タケ亜科

横断面 ━━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━━ : 0.2mm

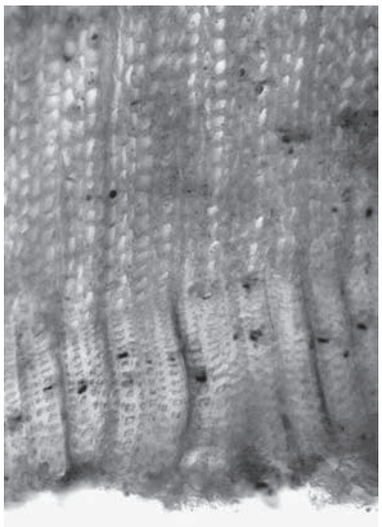
11．明細番号34　桶側板　ツガ属

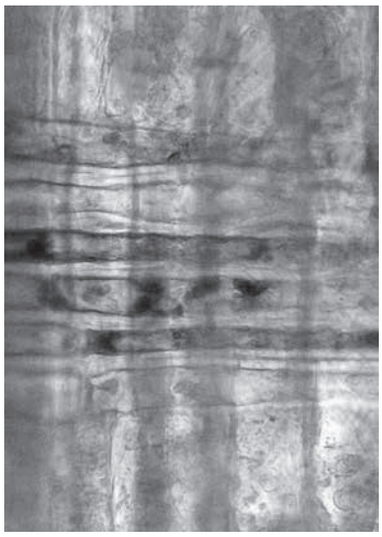
横断面 ━━━━━ : 0.2mm　放射断面 ━━━━━ : 0.05mm　接線断面 ━━━━━ : 0.2mm

12．明細番号36　杭　ヒノキ

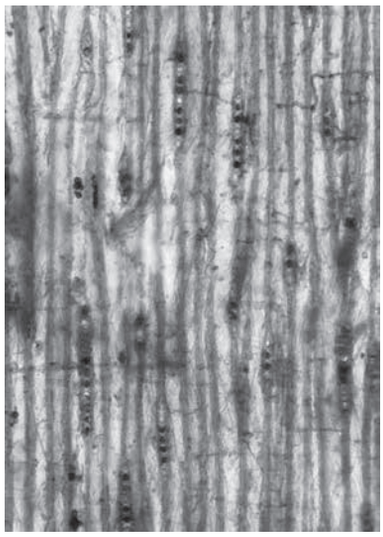
第７図　明石城下町町屋跡の木材Ⅳ



横断面 ━━━━━━ : 0.2mm



放射断面 ━━━━━━ : 0.05mm



接線断面 ━━━━━━ : 0.2mm

13. 明細番号37　杭　ヒノキ科

第８図　明石城下町町屋跡の木材Ｖ

第５章　まとめ

明石城下町は、明石城を中心として上級武家屋敷・足軽屋敷・町屋が、堀や街路によって分けられた町割りが行われており、明石川の西側においては南北方向に延びる街道（西国街道）を挟んで足軽屋敷と町屋が配置されていることが絵図等によって知られる。

当該事業に伴う山陽電鉄西新町駅駅舎及びその東側の本発掘調査では、礎石建物の一部や埋桶、埋甕、胞衣壺等、江戸時代の屋敷地の一部を想定させる遺構及び屋敷境の溝と考えられる東西方向の溝を検出しており、A 地区おいては調査区内で二軒の、D-1 地区内三軒の屋敷地にまたがっていることを窺わせる状況を呈している。江戸期の絵図によれば、西国街道を挟んで東側には足軽屋敷、西側（城下町縁辺部）には町屋が整備されており、当該本発掘調査地区に照らし合わせると、A 地区・D-2 地区が足軽屋敷、B 地区･C 地区･D-1 地区が町屋の位置に有ることが看取される。また、町屋の整備に際しては、個々の屋敷地割りについて、それ以前の土地利用が考慮されたものと考えられ、A 地区の屋敷境溝（SD01）の断割り断面観察において、溝と同一方向の大畦畔が存在する事が判明していることからも、町屋整備直前の耕作地割りを踏襲する形で、町屋整備が成されたことを窺わせる。

当該本発掘調査の D-2 地区検出の土坑（SK110･SK111･SK116）からは､魚類を主体として貝類の貝殻･鳥類・哺乳類の骨が出土している（第４章第１節　明石城下町町屋跡における動物遺存体同定を参考。以下同じ。）。魚貝類や鳥類（ツル科・コウノトリ科・ハクチョウ属・ニワトリ）の内ニワトリは食用と考えられ、哺乳類としてあげられるネズミ科の動物は、屋敷に棲みついていたものが、退治され土坑に投棄されたことが想定されるという。

また、出土骨の主体を成す魚類では、フサカサゴ科等（現在、所謂ガシラと呼ばれている魚種か）を始め、タイ科･アジ科･フグ科等の明石城下町近海で漁獲できる魚種が大半を占める他、淡水魚（コイ・フナ属・ウグイ属等）は明石川に棲息する魚種であり、貝類ではイボガキを中心に巻貝（アカニシ・サザエ等）、二枚貝（ハマグリ・アサリ・ヤマトシジミ等）等、近海の砂泥域、岩礁域、河口付近での捕採と考えられるという。これらは、何れも近隣漁場で水揚げされたものと考えられるが、この他にタラ科・サケ属の魚骨も出土しており、遠隔地からの流通品と考えられるものも認められる。

この様に、土坑内に廃棄された魚骨や貝殻の多種多様な状況は、豊富な漁場を誇る明石の海が間近にある明石城下町の暮らしぶりや遠隔地よりもたらされる物流等、その賑わいや活気を如実に表しているものと思われる。

報告書抄録

ふりがな	あかしじょうかまちまちやあと
書名	明石城下町町屋跡
副書名	山陽電鉄本線（明石Ⅱ期）連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第460冊
編著者名	深江 英憲・渡辺 昇・久保 弘幸・上田 健太郎
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
所在地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内）　TEL 079-437-5561
発行機関	兵庫県教育委員会
所在地	〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号　TEL 078-362-3784
発行年月日	平成26（2014）年3月28日
資料保管機関	兵庫県立考古博物館
所在地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号　TEL 079-437-5589

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間（遺跡調査番号）	調査面積（㎡）	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
明石城下町町屋跡	明石市西新町2丁目・3丁目	28203	040312	34°38′59	134°58′53	20070424～20070427（2007068） 20090130～20090318（2008152/2008233） 20090601～20090605（2009162） 20090817～20090916（2009193） 20110712～20110811（2011176）	4㎡ 88㎡ 6㎡ 75㎡ 153㎡ 258㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
明石城下町町屋跡		江戸時代	土坑、溝、埋甕、胞衣壺、埋桶、井戸	施釉陶器、染付磁器、胞衣壺、土製人形	

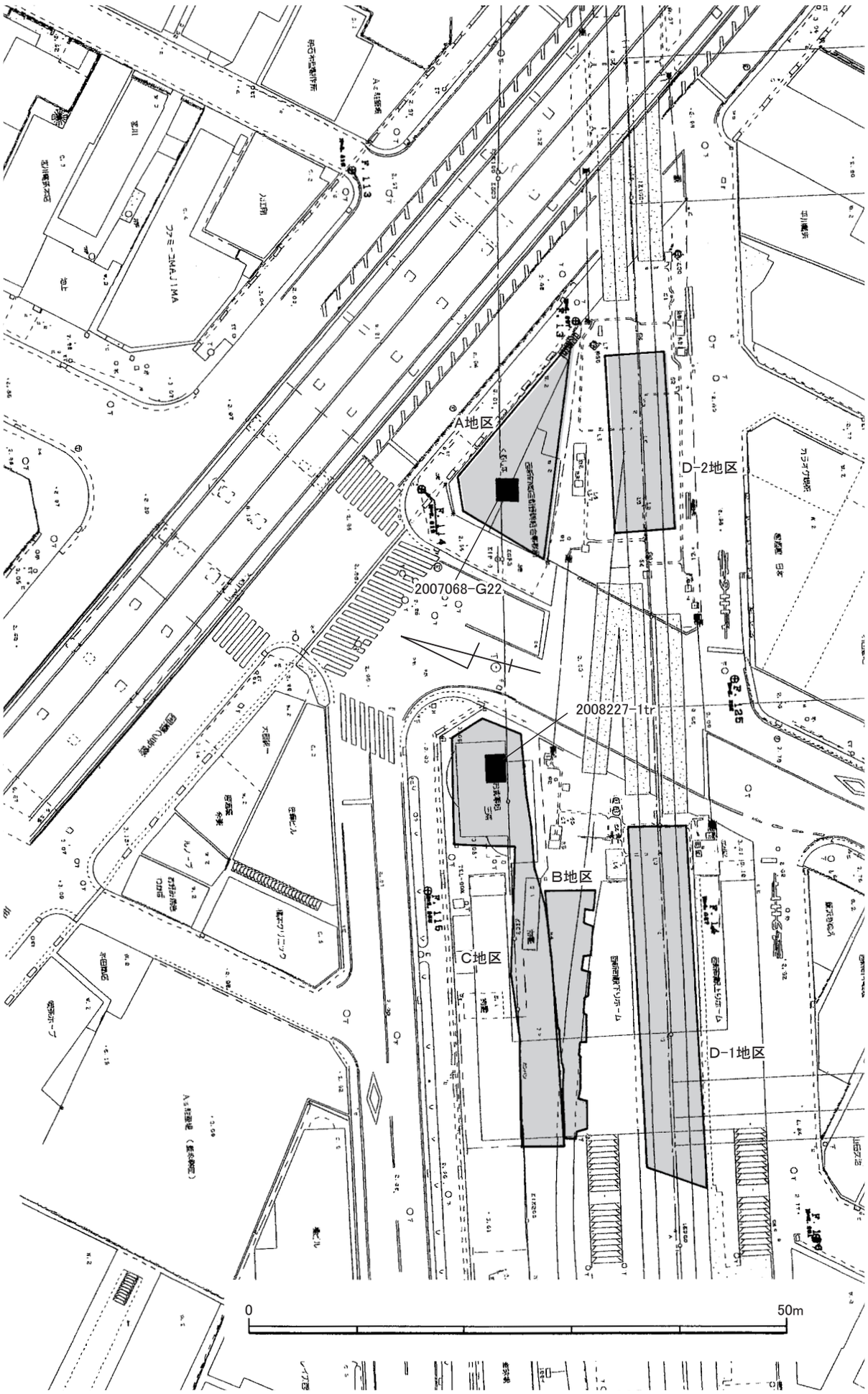
要約

明石城下町町屋跡は、旧明石市街地の西側に位置し、明石川西岸の沖積地に立地している。本報告書における本発掘調査地は、山陽電鉄西新町駅の駅舎跡、仮設軌道敷き及び旧軌道敷きである。

調査では、西新町駅東側踏切部分を南北に通る市道（旧西国街道）にほぼ直行する、屋敷境と考えられる東西方向の溝、町屋境と考えられる煉瓦敷き水路等の他、土坑・溝・埋甕・埋桶・胞衣壺等を検出した。

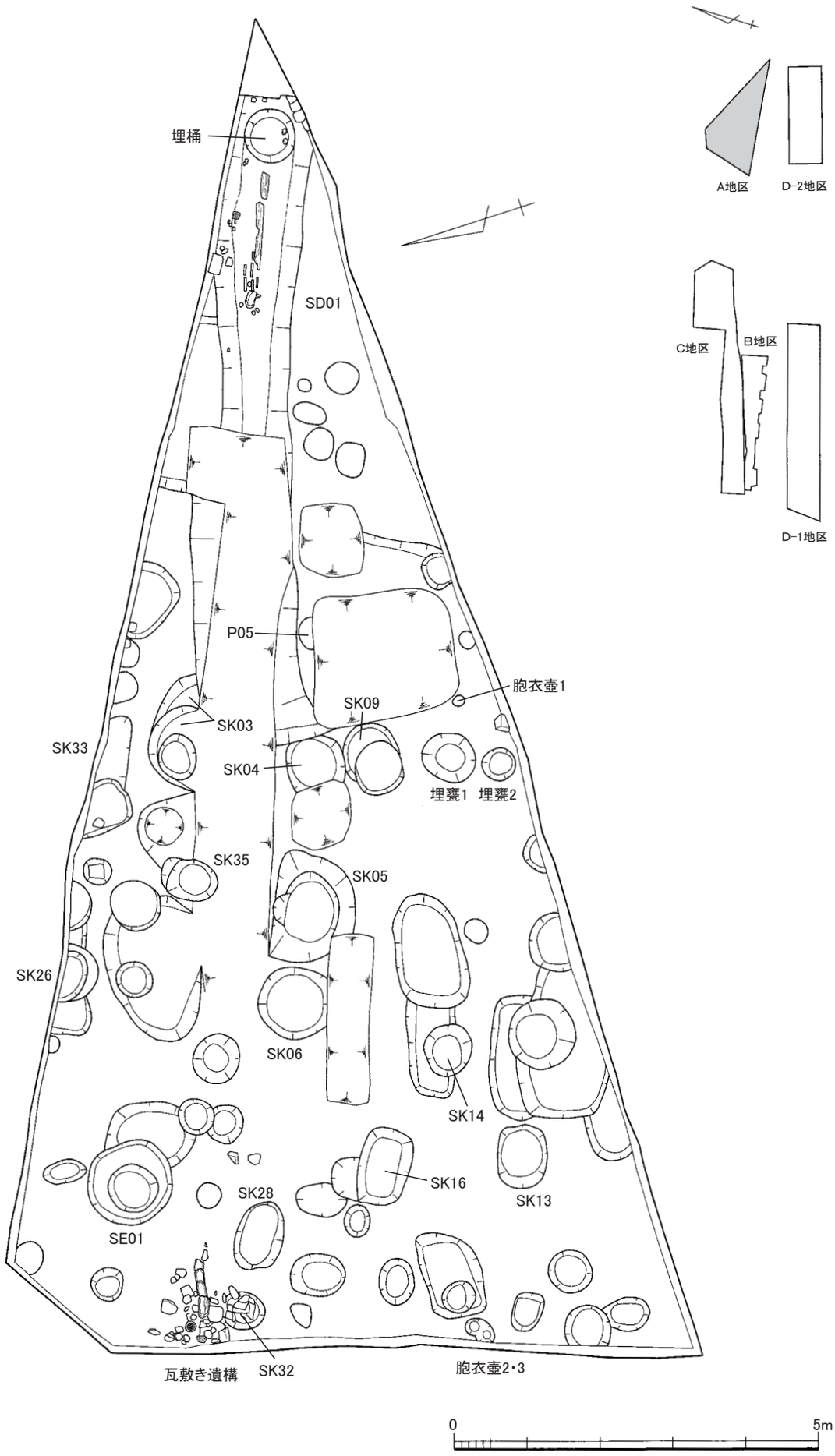
出土遺物は、近世の土師器・陶器・磁器等の土器類、人形・亀形・家形・鳩笛形等の土製品、瓦、桶・漆椀・団扇等の木器、釘・銅銭等の金属器がある。

図　　版



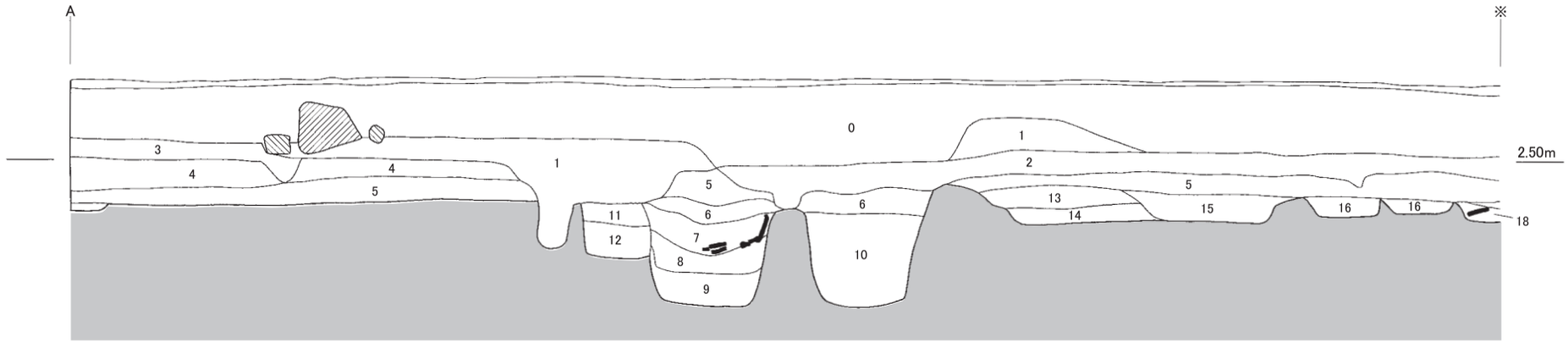
調査区配置図

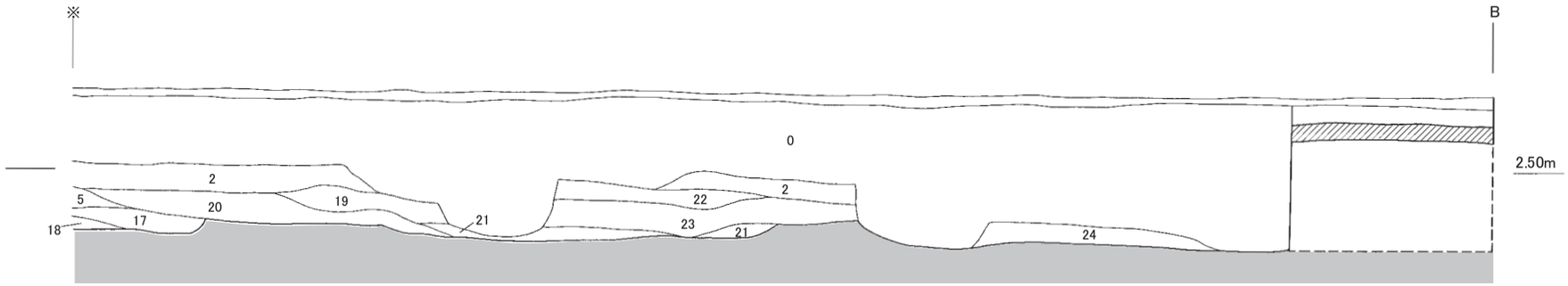
図版 2



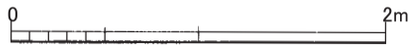
A地区　遺構平面図

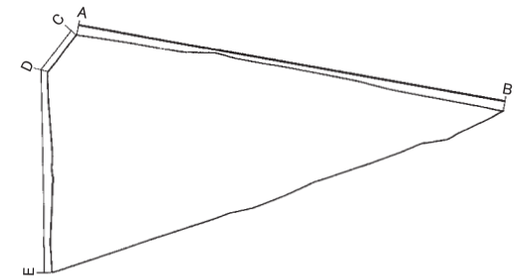
A地区　北壁断面図

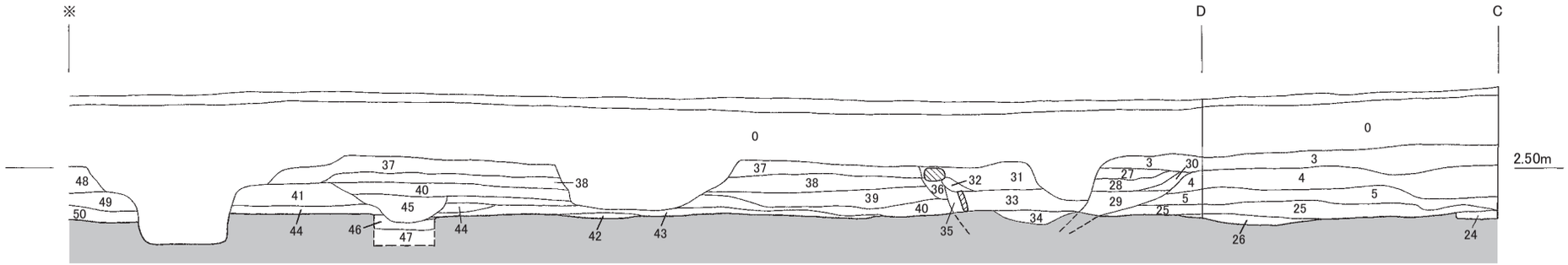


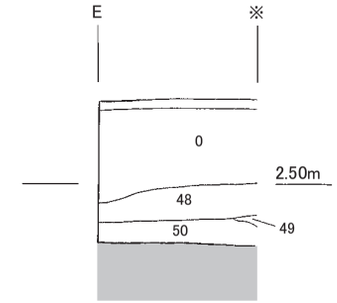


0	盛土・撹乱		
1	2.5Y 3/1	黒褐色	中粗砂 炭、コンクリート、ガラス、貝等含む：盛土・撹乱
2	5Y 2/2	オリーブ黒色	細砂（中粗砂含む）細礫含む 下層に炭が帯状に堆積
3	10YR 5/4	にぶい黄褐色	粗砂（細礫～小礫含む）：盛土
4	2.5Y 4/3	オリーブ褐色	中砂（粗砂含む）小礫、炭粒，含む：整地層
5	2.5Y 4/4	オリーブ褐色	中砂（粗砂含む）小礫、炭粒、瓦片含む：整地層
6	2.5Y 4/2	暗灰黄色	細砂（中粗砂含む）細礫、炭粒、瓦片、磁器片含む
7	2.5Y 4/3	オリーブ褐色	シルト混中砂（粗砂含む） 炭層とシルトのラミナ 下層瓦溜まり
8	2.5Y 6/2	灰黄色	シルト（中粗砂含む）炭粒少量含む
9	2.5Y 6/3	にぶい黄色	シルト
10	5Y 5/2	灰オリーブ色	シルト（中粗砂含む）瓦片、陶磁器多量に含む
11	5Y 4/2	灰オリーブ色	シルト混中粗砂 小礫、瓦片含む
12	5Y 4/1	灰色	シルト混粗砂 細礫～小礫含む
13	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト混中粗砂 小礫、炭粒、貝多量に含む
14	2.5Y 4/2	暗灰黄色	シルト混中粗砂 小礫
15	2.5Y 5/3	黄褐色	中砂～粗砂 細礫含む
16	2.5Y 4/2	暗灰黄色	シルト混細砂
17	2.5Y 4/4	オリーブ褐色	中粗砂 細礫含む
18	2.5Y 5/3	黄褐色	粗砂 細礫～小礫、瓦片含む
19	2.5Y 4/1	黄灰色	粗砂 細礫～小礫多量に含む
20	2.5Y 7/4	浅黄色	粗砂 細礫～小礫多量に含む
21	2.5Y 4/2	暗灰黄色	中砂～粗砂 細礫含む
22	5Y 4/1	灰色	シルト混中粗砂 細礫～小礫、炭粒含む
23	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	シルト混中砂 細礫～小礫、炭粒含む
24	2.5Y 4/2	暗灰黄色	粗砂

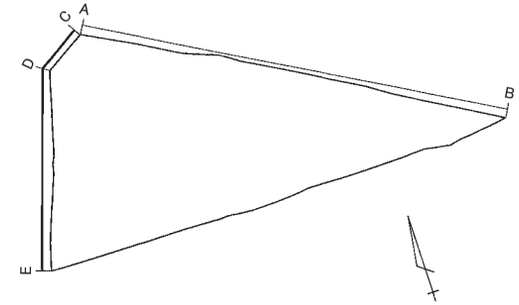






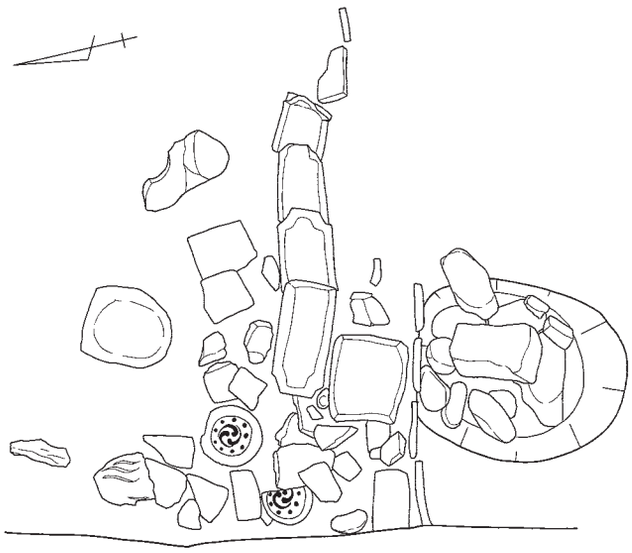


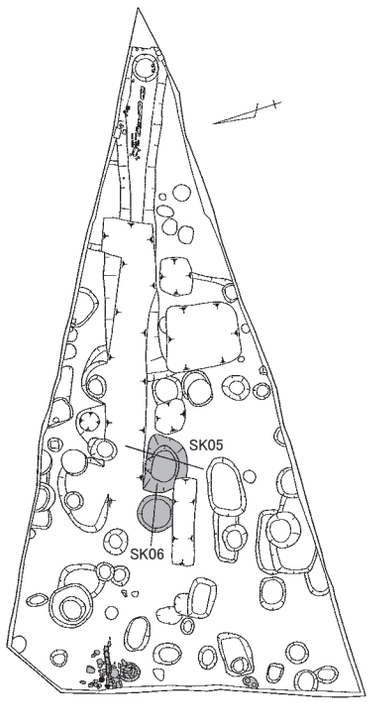
25	2.5Y	5/3	黄褐色	中砂～粗砂　細礫、瓦片含む
26	2.5Y	4/2	暗灰黄色	中砂～粗砂細礫～小礫、瓦片含む
27	2.5Y	5/3	黄褐色	シルト質極細砂（中砂含む）細礫、炭粒含む
28	2.5Y	3/2	暗オリーブ褐色	シルト混中粗砂　シルトブロック、炭粒含む
29	10YR	3/4	暗褐色	粗砂　細礫、黒褐色シルトブロック、炭粒含む
30	2.5Y	6/4	にぶい黄色	シルト質極細砂　28 層内の部分的堆積か
31	10YR	4/3	にぶい黄褐色	シルト混中粗砂　細礫、炭粒含む
32	2.5Y	4/3	オリーブ褐色	粗砂、細礫、炭粒含む
33	2.5Y	5/3	黄褐色	粗砂　細礫～小礫、炭粒含む
34	2.5Y	5/2	暗灰黄色	中砂～粗砂　小礫～中礫、瓦片、炭粒含む
35	2.5Y	5/3	黄褐色	中砂～粗砂　黄褐色シルト小ブロック、炭粒含む
36	2.5Y	5/3	黄褐色	シルト混中砂～粗砂　小礫含む
37	2.5Y	4/4	オリーブ褐色	中砂～粗砂　細礫含む
38	2.5Y	5/3	黄褐色	中砂～粗砂　細礫、炭粒含む
39	2.5Y	4/3	オリーブ褐色	中砂～粗砂（ややシルト含む）細礫、炭粒、瓦片含む
40	2.5Y	4/2	暗灰黄色	シルト混中砂（粗砂含む）細礫、炭、焼土帯状に堆積
41	2.5Y	4/3	オリーブ褐色	中砂（粗砂含む）細礫、炭粒、瓦片、黄褐色シルトブロック帯状に堆積
42	2.5Y	4/2	暗灰黄色	中砂～粗砂　細礫、炭粒、灰黄色シルトブロック混入
43	10YR	4/4	褐色	シルト質細砂（中粗砂含む）
44	2.5Y	5/2	黄褐色	粗砂　細礫含む
45	2.5Y	4/4	オリーブ褐色	中砂～粗砂
46	2.5Y	6/3	にぶい黄色	シルト質極細砂（中砂含む）炭粒含む
47	2.5Y	4/4	オリーブ褐色	シルト混粗砂　細礫～小礫含む
48	2.5Y	5/4	黄褐色	粗砂　細礫、炭粒含む
49	5Y	6/3	オリーブ黄色	粗砂
50	5Y	5/1	灰色	シルト混粗砂　細礫、炭粒含む



A地区　西壁断面図

瓦敷き遺構

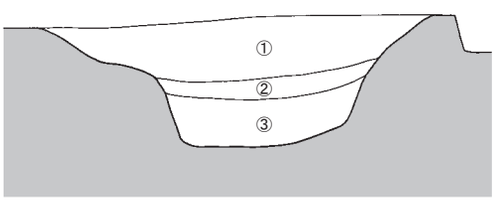




瓦敷き遺構　胞衣壺2・3

SK05

S　2.10m　N

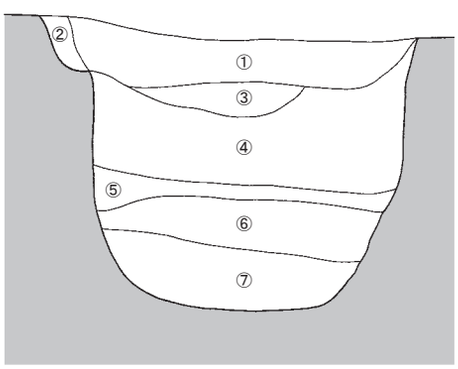


① 2.5Y 4/1　黄灰色　中砂～粗砂　細礫、炭粒含む
② 2.5Y 4/1　黄灰色　中砂～粗砂（ややシルト混）細礫、炭粒含む：①層と同じ
③ 5Y 3/2　オリーブ黒色　シルト混中砂　細礫、炭粒含む

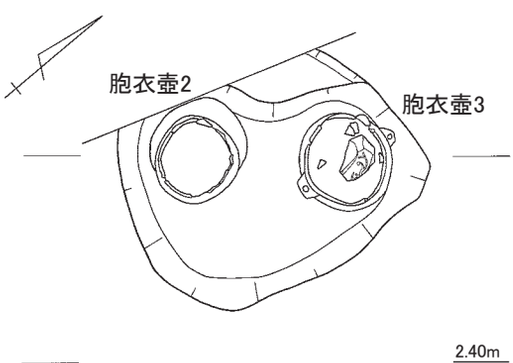
0　1m

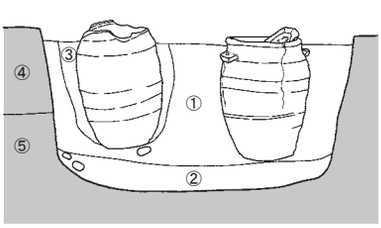
SK06

W　2.10m　E



① 2.5Y 6/4　にぶい黄色　中砂～粗砂　細礫、一部マンガン粒含む
② 2.5Y 6/2　灰黄色　シルト質極細砂　やや酸化
③ 2.5Y 6/3　にぶい黄色　中砂　細礫、一部シルトブロック混入
④ 2.5Y 6/3　にぶい黄色　中砂　一部マンガン粒、炭粒含む
⑤ 5Y 3/2　オリーブ黒色　細砂（中砂含む）細礫含む
⑥ 5Y 7/2　灰白色　粗砂　炭粒含む
⑦ 2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト質極細砂（中砂含む）瓦・陶磁器含む
※⑤層は SK06 のベース層となる　⑤～⑦層は別遺構の堆積と考えられる。

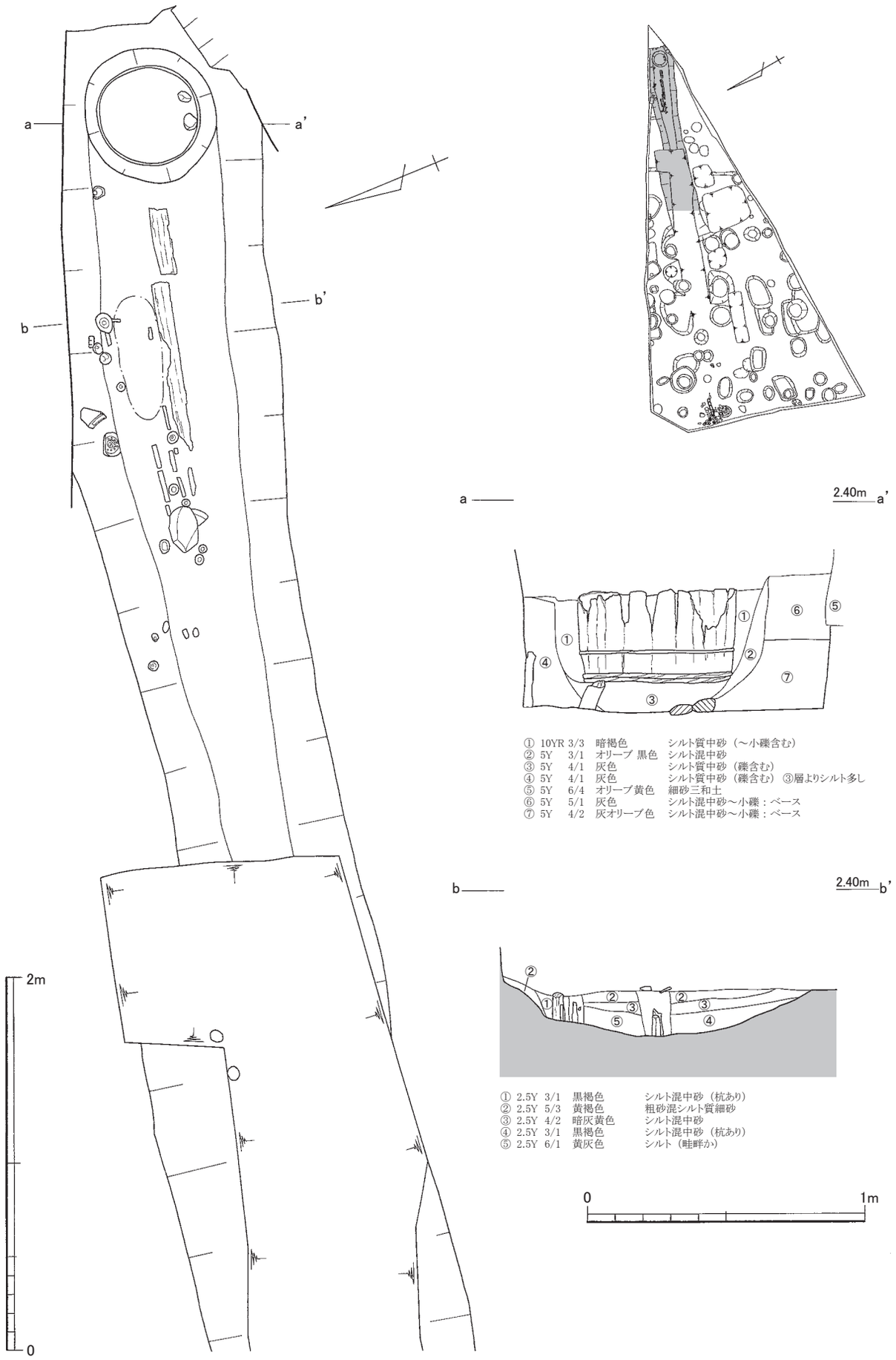




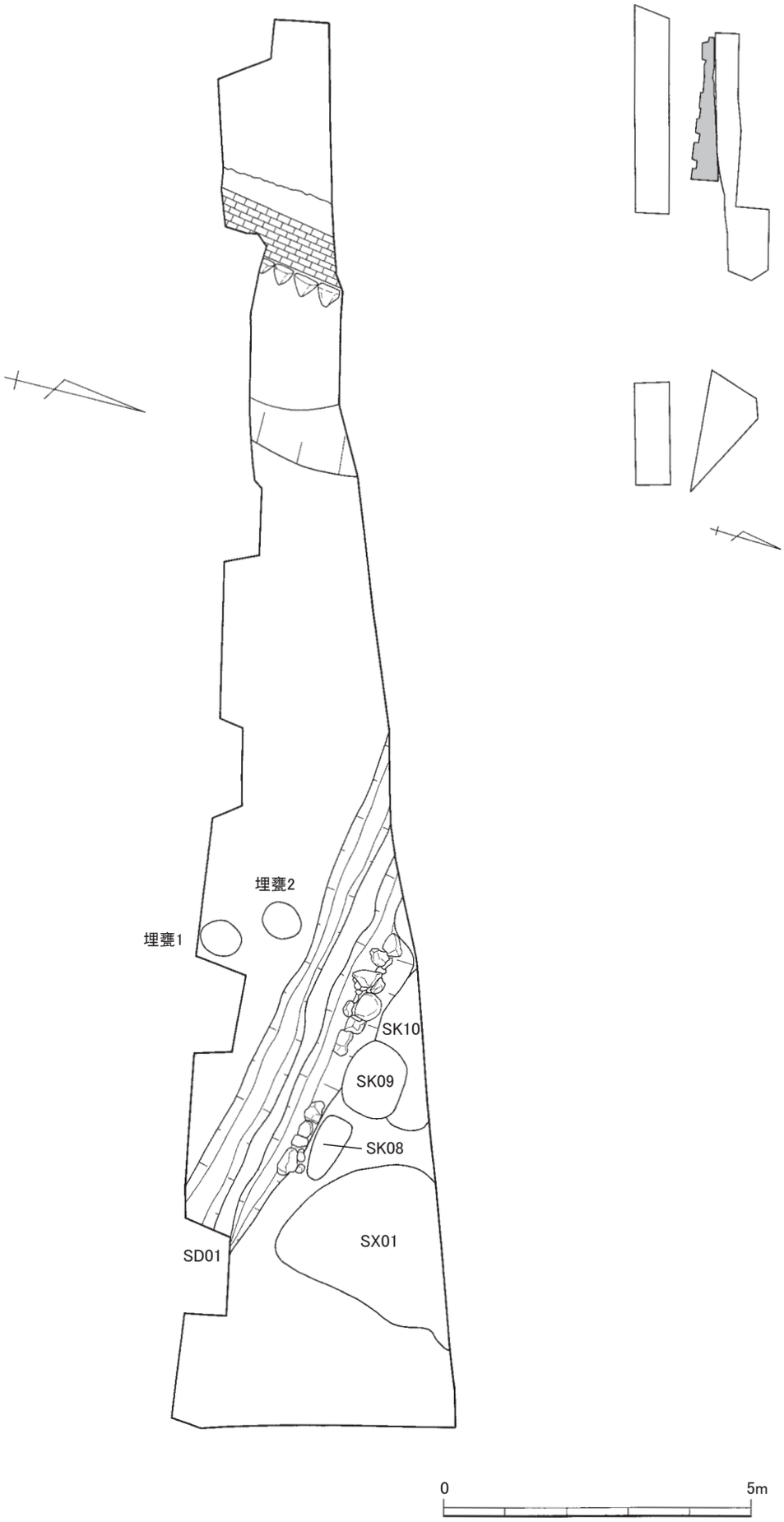
① 10YR 4/2　灰黄褐色　シルト混中砂　炭含む
② 10YR 4/4　褐色　シルト混中砂
③ 10YR 5/6　黄褐色　粗砂
④ 2.5Y 5/4　黄褐色　シルト質細砂（シルトブロック多し）：三和土
⑤ 2.5Y 4/3　オリーブ褐色　シルト混中砂～粗砂

0　50cm

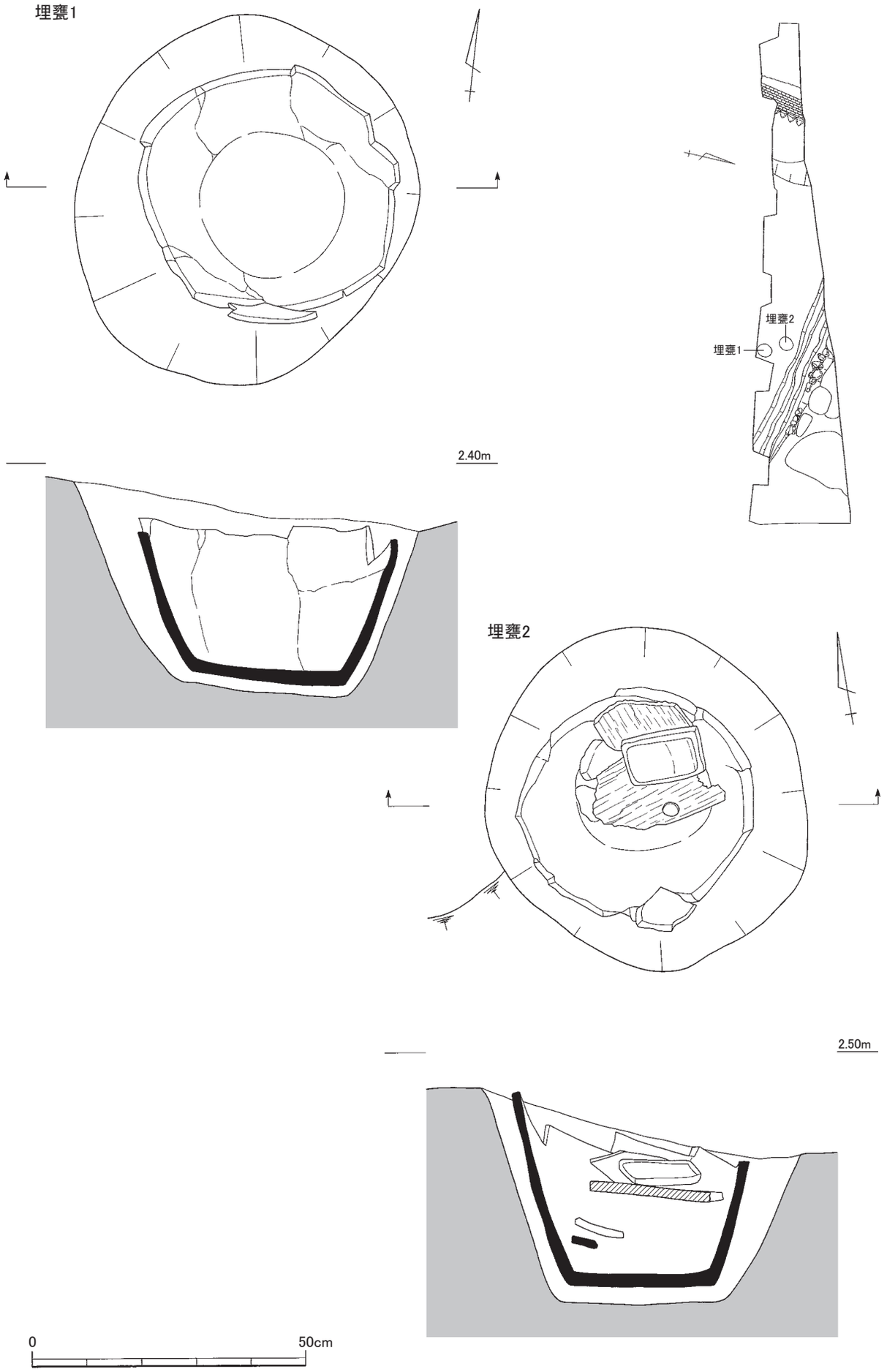
A地区　瓦敷き遺構・土坑・胞衣壺　平面図・断面図



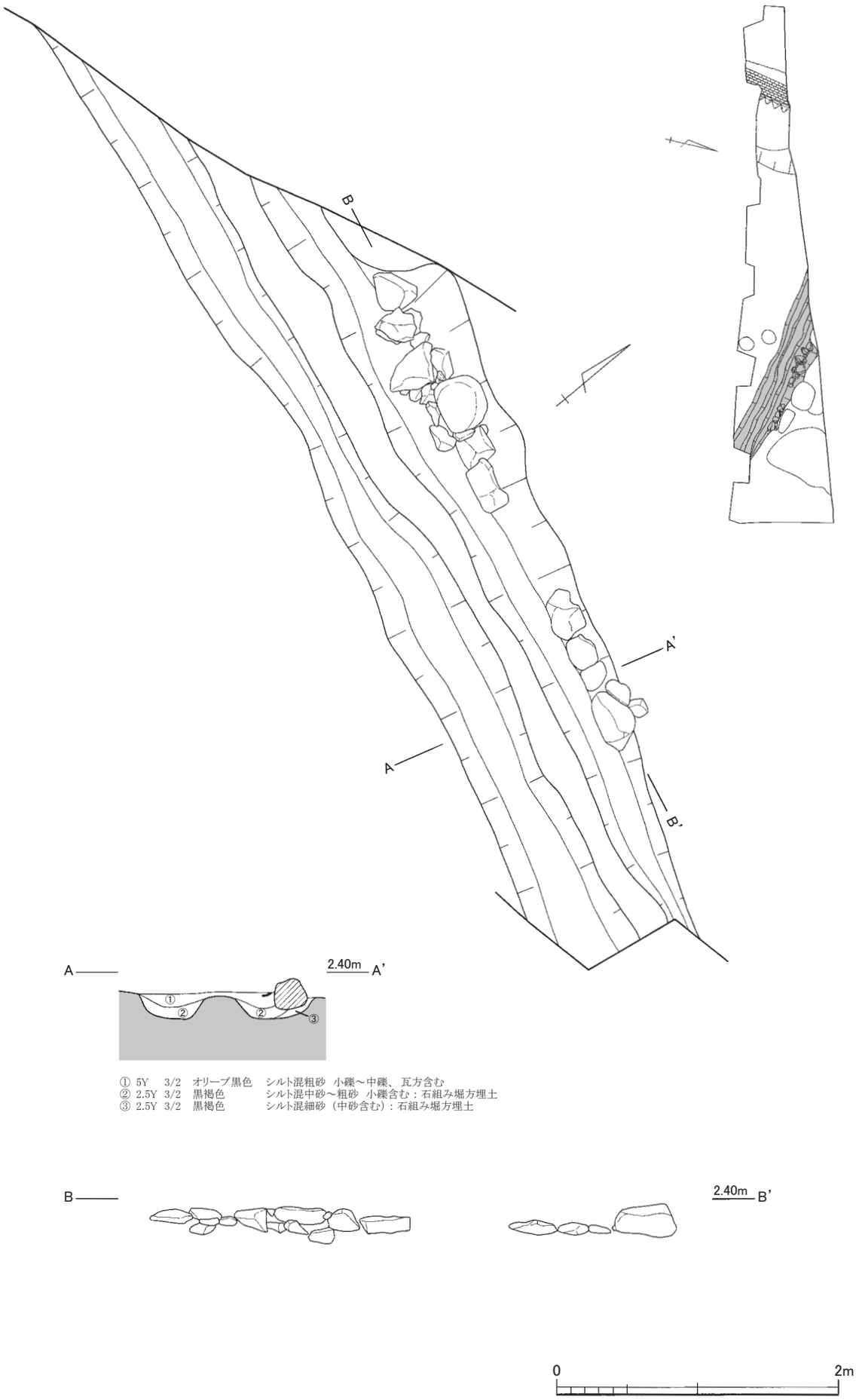
A地区 SD 01 平面図・断面図



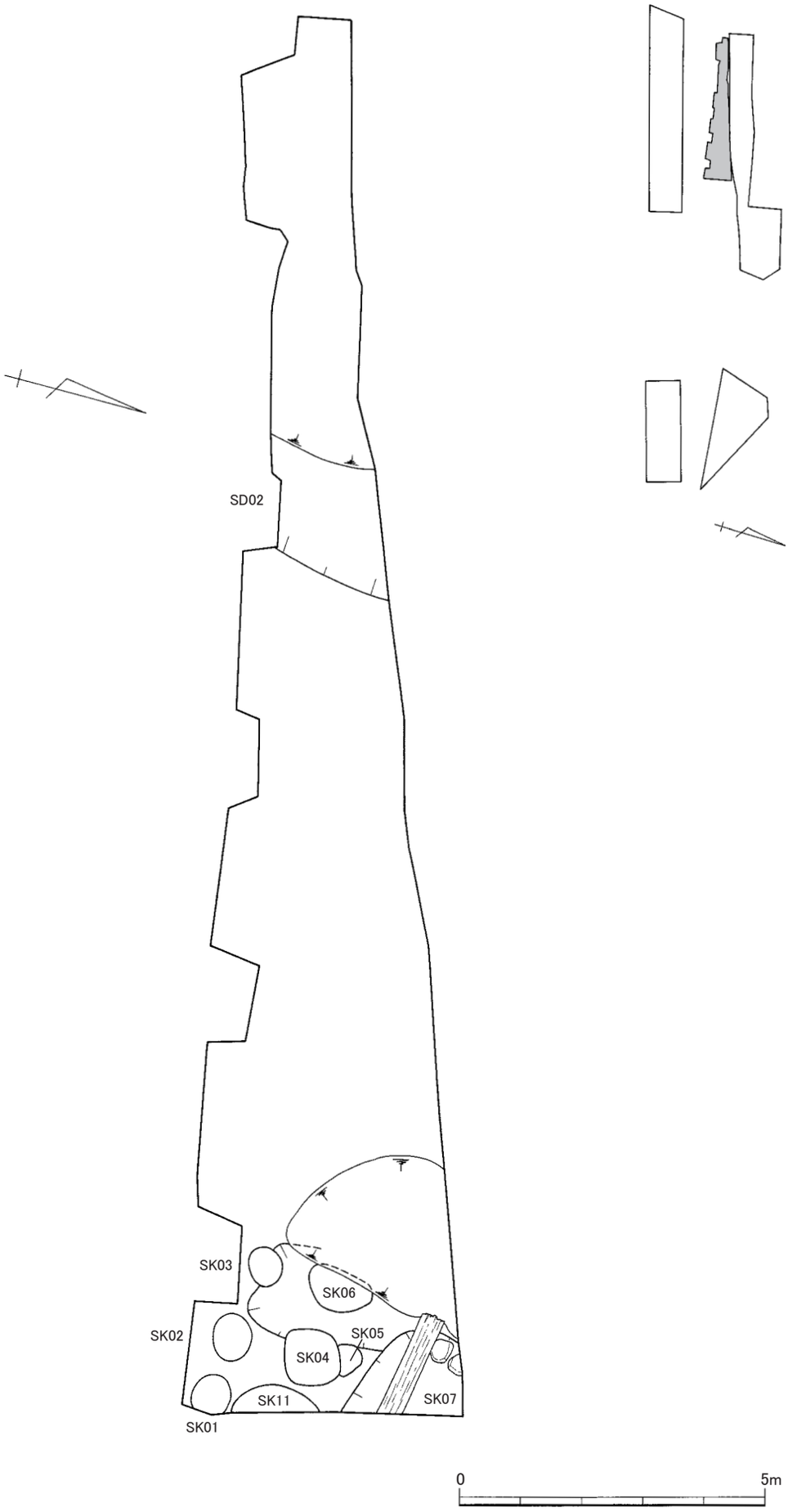
B地区　上層遺構面平面図



B地区　埋甕 1・2 平面図・断面見通し図

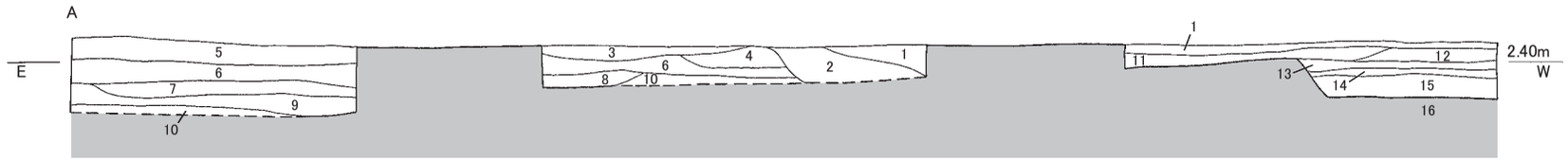


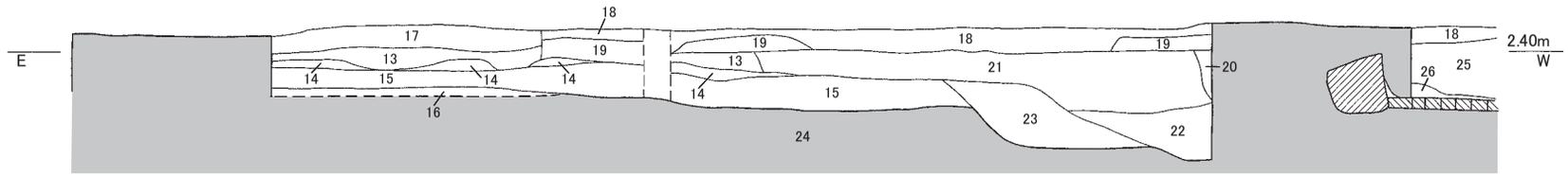
B地区 SD 01 平面図・断面図・見通し図

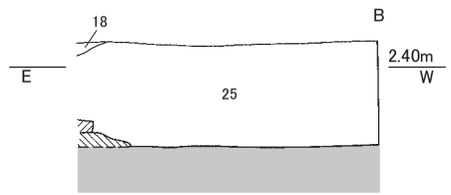


B地区　下層遺構面平面図

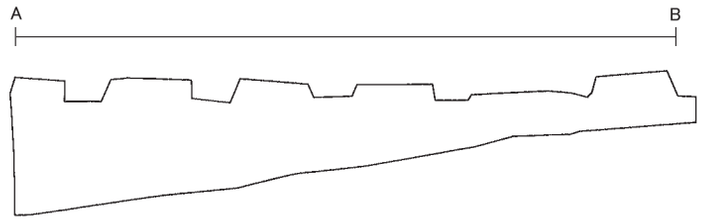
B地区 南壁断面図

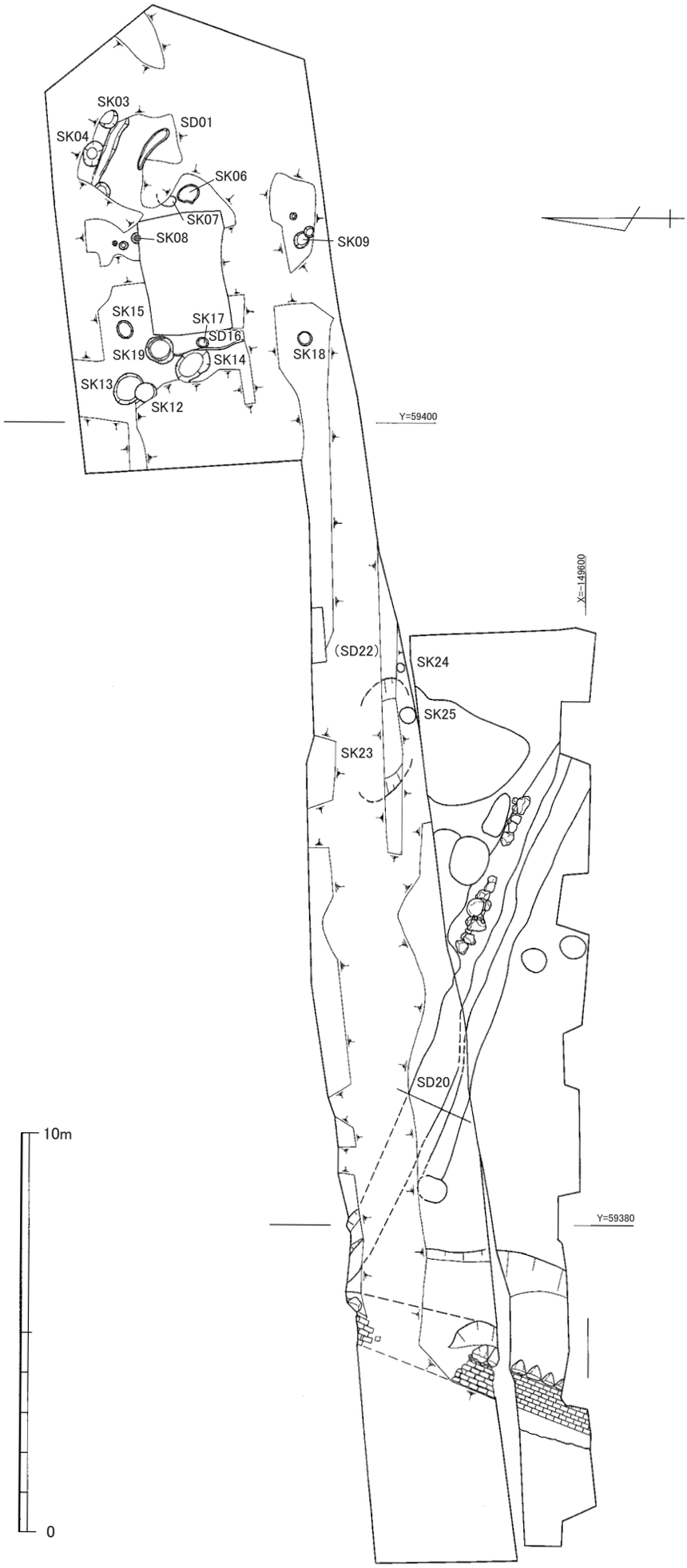




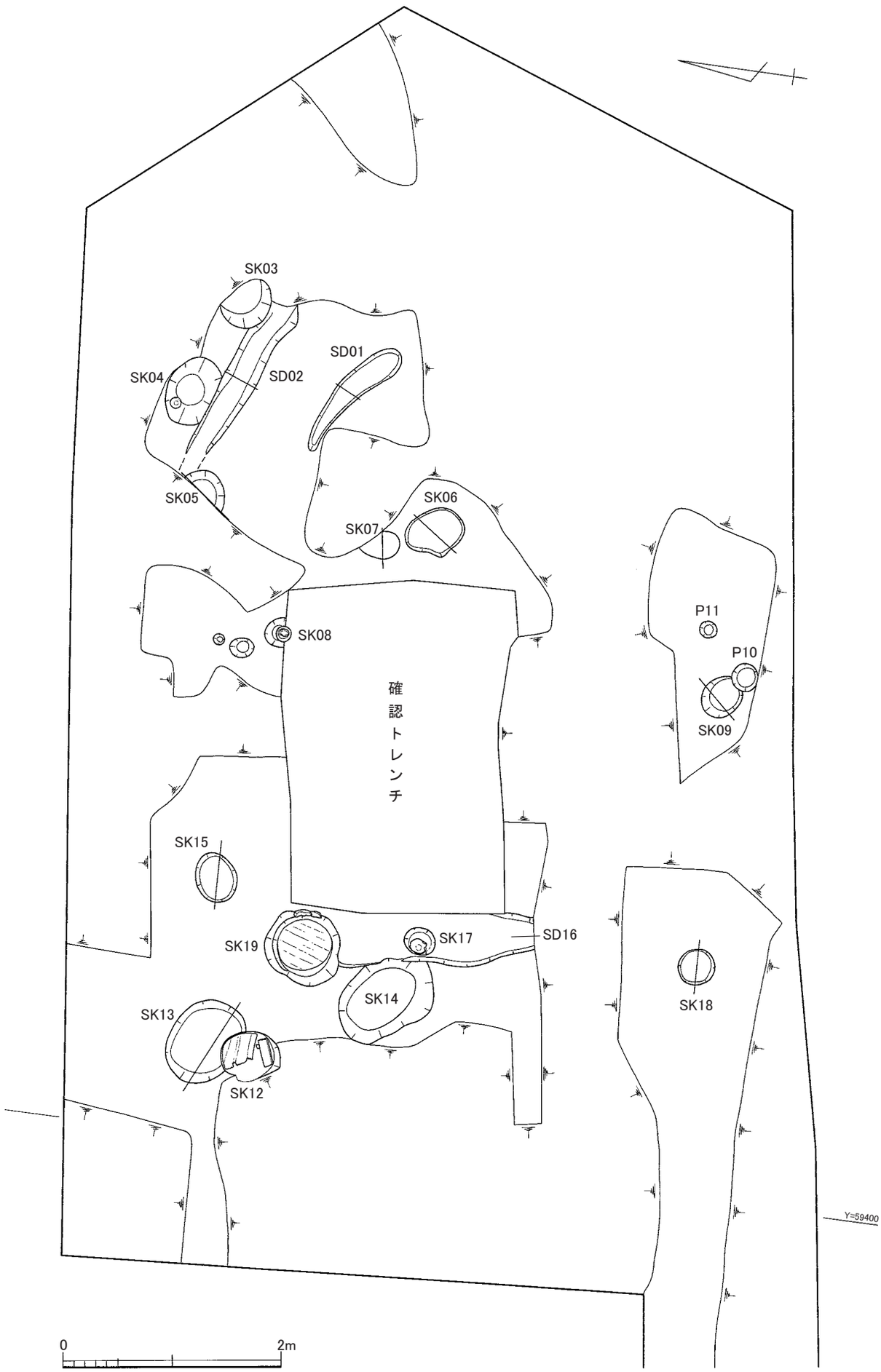


1	2.5Y	2/1	黒色	極細砂～細砂　小礫、中礫、炭含む：土管埋土
2	2.5Y	4/2	暗灰黄色	極細砂～細砂　粗砂、炭含む　小礫多量に含む
3	2.5Y	3/1	黒褐色	極細砂　粗砂、小礫小量含む　炭含む
4	2.5Y	5/1	黄灰色	極細砂～細砂　粗砂、小礫小量含む：6層に類似
5	2.5Y	5/2	暗灰黄色	極細砂～細砂　粗砂、小礫小量含む
6	2.5Y	5/1	黄灰色	極細砂～細砂　粗砂、小礫小量含む　炭小量含む
7	2.5Y	4/2	暗灰黄色	極細砂～細砂　粗砂、小礫含む
8	2.5Y	4/2	暗灰黄色	極細砂～細砂　粗砂、小礫小量含む：溝埋土
9	2.5Y	3/2	黒褐色	極細砂～細砂　粗砂、小礫含む
10	2.5Y	5/3	黄褐色	細砂　粗砂、小礫含む
11	2.5Y	4/2	暗灰黄色	極細砂～細砂　小礫小量含む　粗砂、炭含む
12	2.5Y	8/2	灰白色	中砂～粗砂　小礫多量に含む
13	2.5Y	4/1	黄灰色	シルト質極細砂～極粗砂　粗砂、炭小量含む
14	2.5Y	6/6	明黄褐色	極細砂
15	2.5Y	5/1	黄灰色	極細砂～細砂　粗砂～小礫、炭小量含む
16	10YR	5/3	にぶい黄褐色	細砂～中砂　粗砂～小礫多量に含む：ベース層の一部
17	2.5Y	5/1	黄灰色	極細砂　小礫、中礫多量に含む
18				コンクリート
19				栗石
20	2.5Y	3/1	黄褐色	極細砂～細砂　粗砂～中礫含む：煉瓦・溝の掘方
21	2.5Y	5/1	黄灰色	細砂　粗砂～中礫多量に含む
22	2.5Y	4/2	暗灰黄色	極細砂～細砂　粗砂多量に含む
23	5Y	5/1	黄灰色	細砂　粗砂多量に含む　小礫、中礫含む
24	2.5Y	4/1	黄灰色	極細砂～細砂　粗砂～中礫含む：ベース層
25	10YR	5/1	褐灰色	細砂～中砂　粗砂～小礫多量に含む
26	2.5Y	3/2	黒褐色	シルト質極細砂～極粗砂　粗砂～小礫多量に含む：煉瓦敷き上埋土

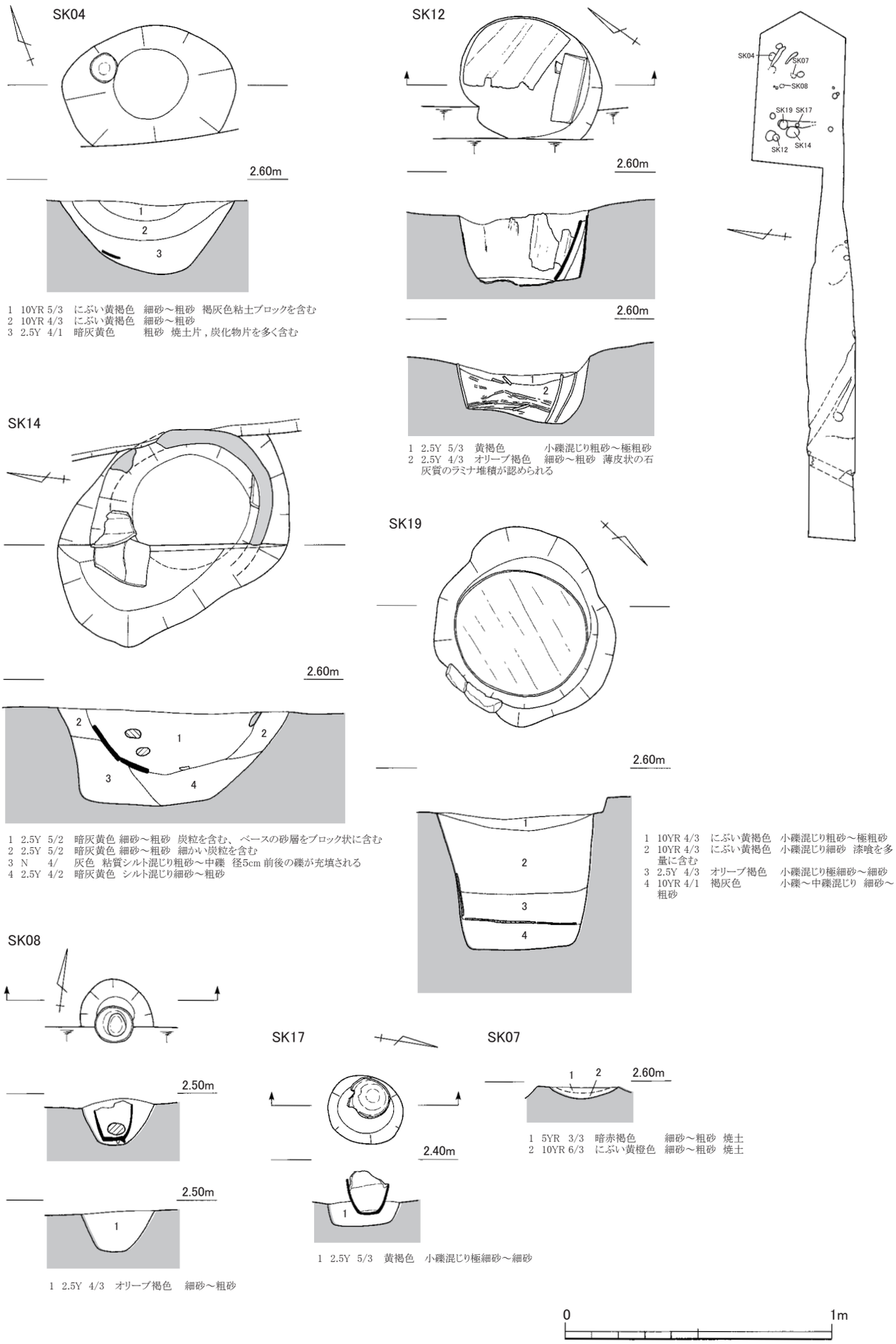




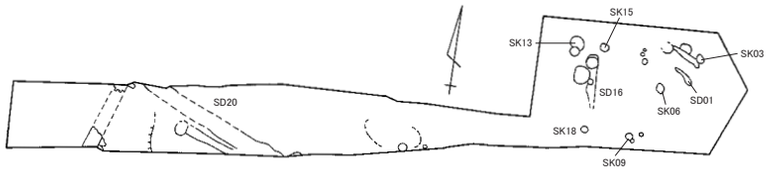
C地区　上層遺構面平面図・B地区　遺構対照図

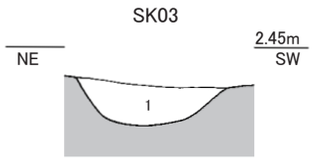

SK03
SD01
SK04
SD02
SK05
SK06
SK07
SK08
確認トレンチ
P11
P10
SK09
SK15
SK19
SK17
SD16
SK14
SK13
SK12
SK18
Y=59400
0
2m

C地区　上層遺構平面図

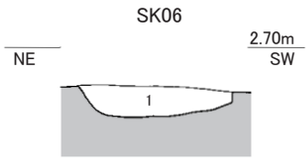


C地区 上層遺構平面図・断面図

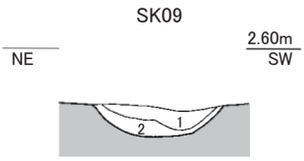




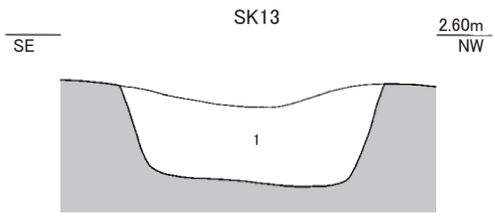
1 2.5Y 4/3 暗灰黄色 細砂～粗砂
黄褐色粘土ブロックを含む
炭を多量に含む



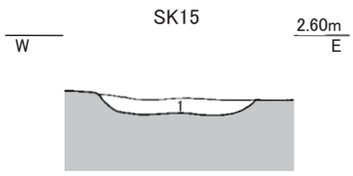
1 10YR 3/2 黒褐色 細砂～中砂



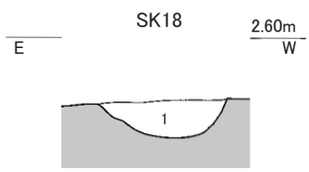
1 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂～中砂
2 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂～粗砂



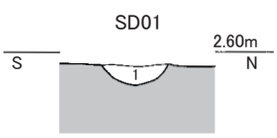
1 2.5Y 4/2 暗灰黄色 小礫混じり細砂～粗砂



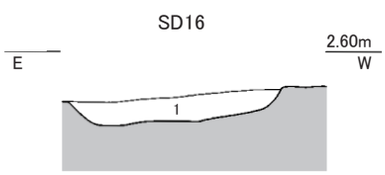
1 2.5Y 5/2 暗灰黄色 小礫混じり細砂



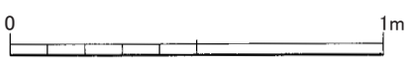
1 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂
明黄褐色粘土ブロックを含む

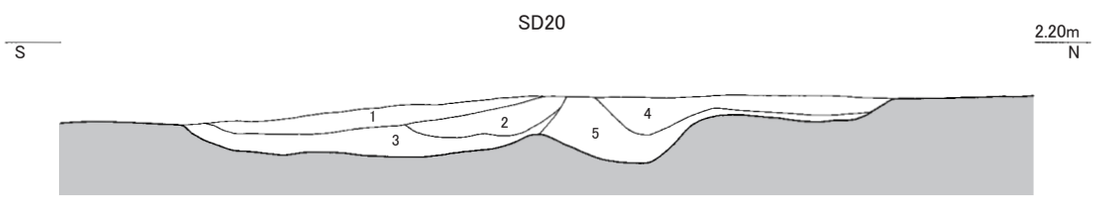


1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂



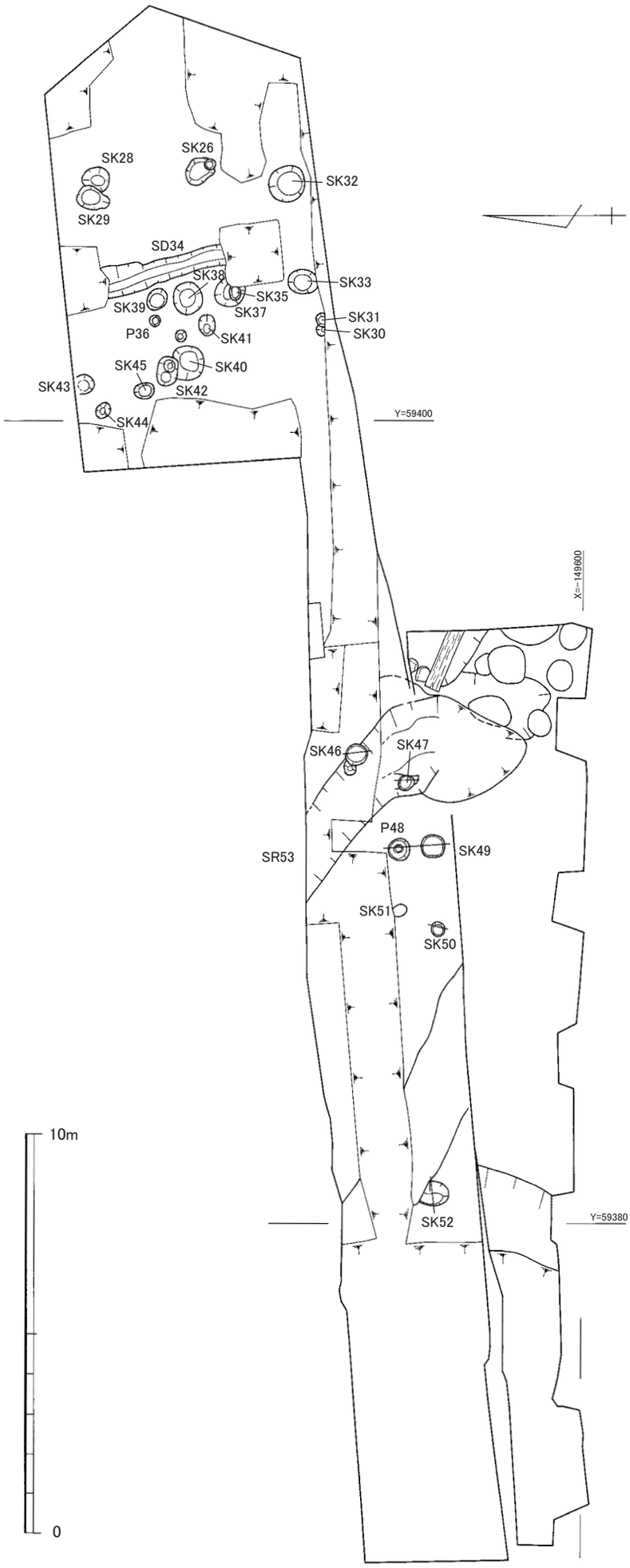
1 2.5Y 5/3 黄褐色 小礫混じり極細砂～細砂



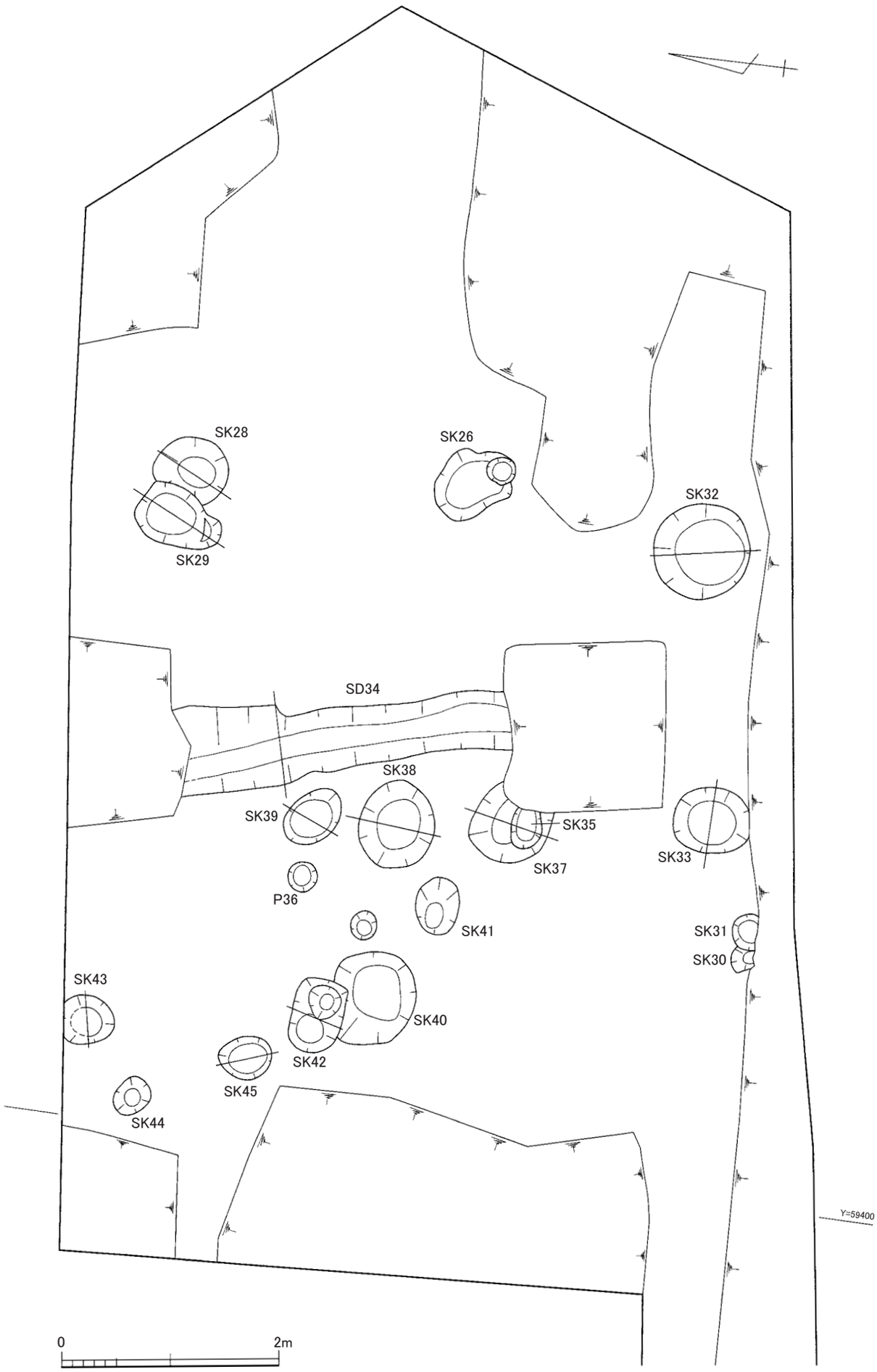


1 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂～粗砂
2 10YR 4/3 にぶい黄褐色 小礫混じり細砂～粗砂
3 2.5Y 4/1 黄灰色 砂質シルト
4 2.5Y 5/3 黄褐色 小礫混じり極細砂～細砂
5 2.5Y 4/2 暗灰黄色 シルト質細砂～粗砂

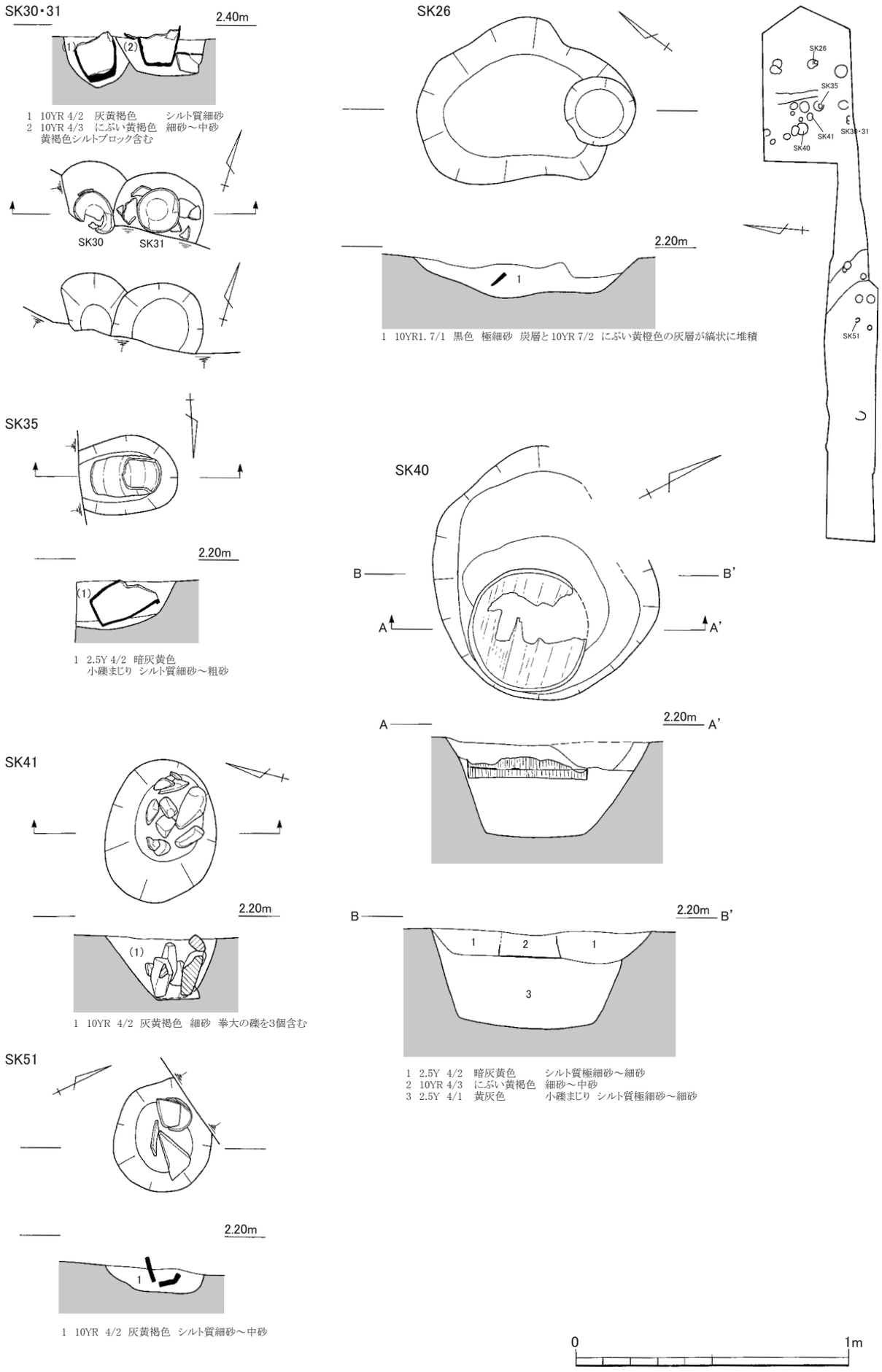
C地区 上層遺構断面図



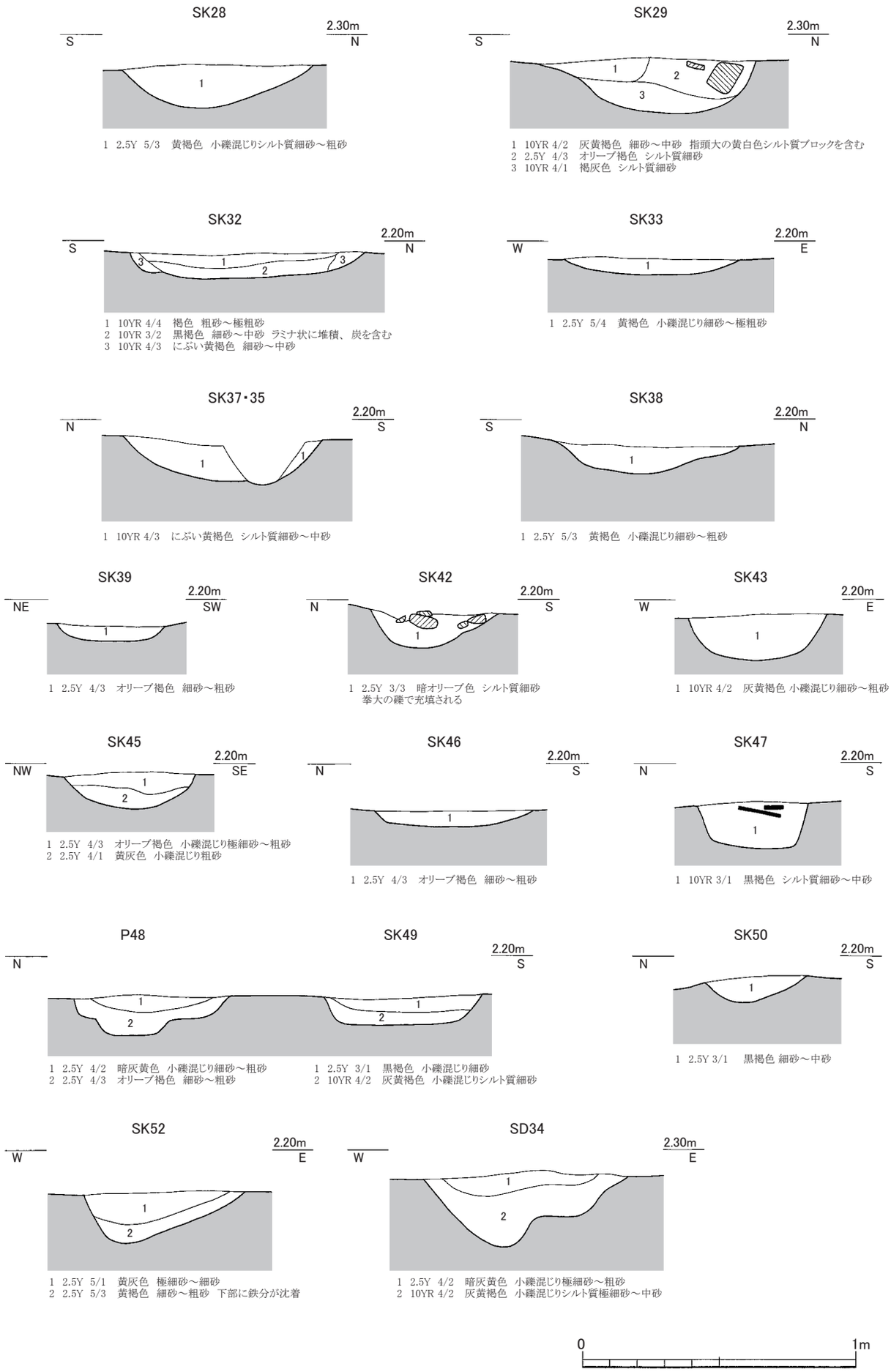
C地区　下層遺構面平面図・B地区　遺構対照図


SK28
SK29
SK26
SK32
SD34
SK38
SK39
SK35
SK37
SK33
P36
SK41
SK31
SK30
SK43
SK40
SK42
SK45
SK44
Y=59400
0
2m

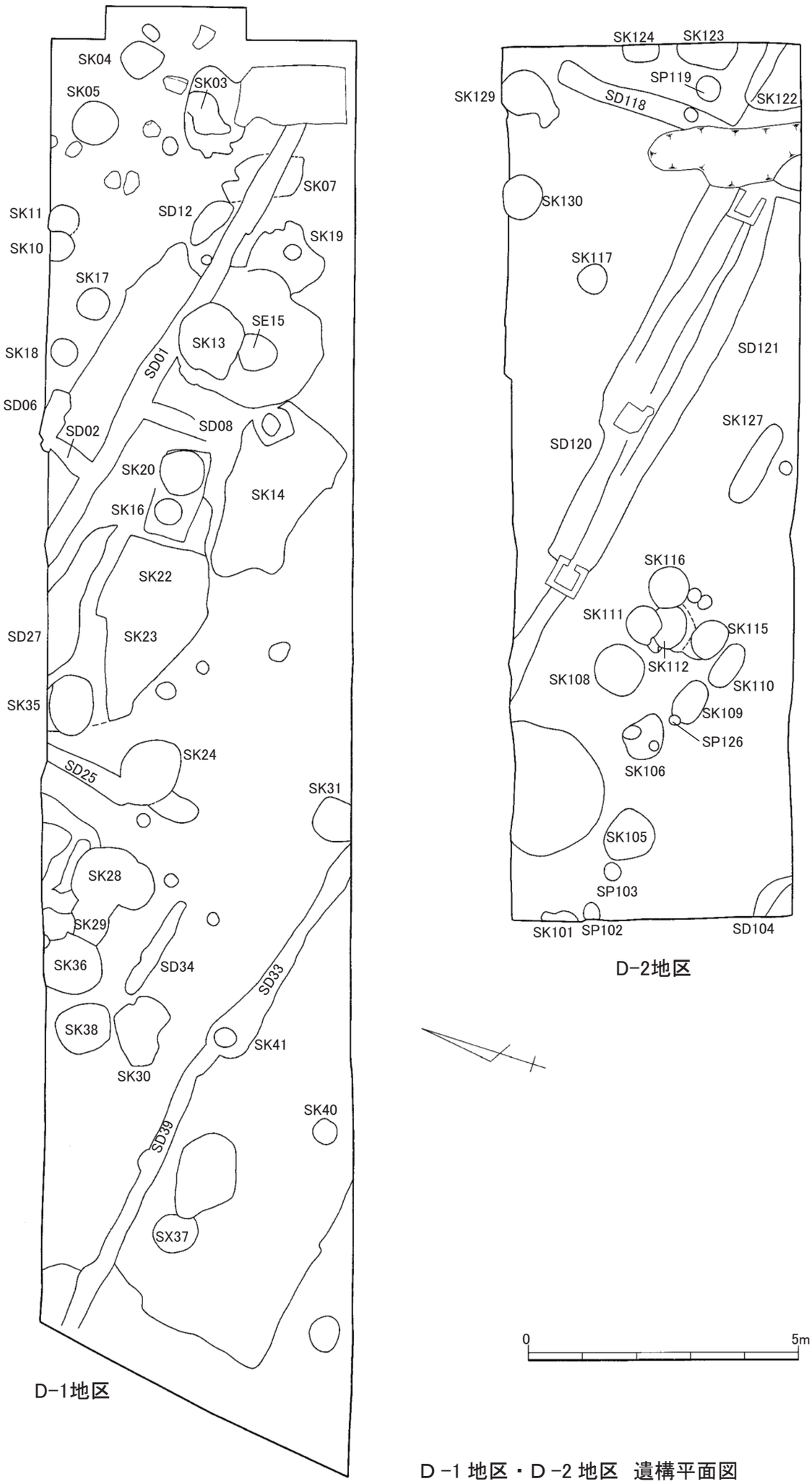
C地区　下層遺構平面図



C地区 下層遺構平面図・断面図

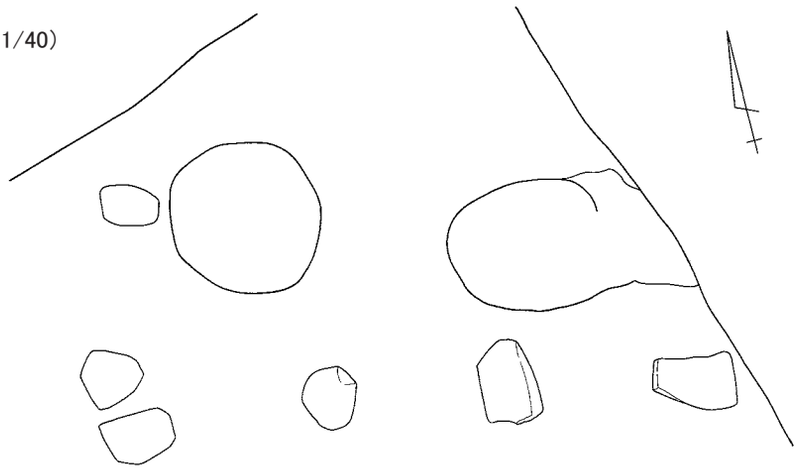

SK28
S
2.30m
N
1
1 2.5Y 5/3 黄褐色 小礫混じりシルト質細砂～粗砂
SK29
S
2.30m
N
1
2
3
1 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂～中砂 指頭大の黄白色シルト質ブロックを含む
2 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 シルト質細砂
3 10YR 4/1 褐灰色 シルト質細砂
SK32
S
2.20m
N
1
2
3
3
1 10YR 4/4 褐色 粗砂～極粗砂
2 10YR 3/2 黒褐色 細砂～中砂 ラミナ状に堆積、炭を含む
3 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂～中砂
SK33
W
2.20m
E
1
1 2.5Y 5/4 黄褐色 小礫混じり細砂～極粗砂
SK37・35
N
2.20m
S
1
1
1 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト質細砂～中砂
SK38
S
2.20m
N
1
1 2.5Y 5/3 黄褐色 小礫混じり細砂～粗砂
SK39
NE
2.20m
SW
1
1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂～粗砂
SK42
N
2.20m
S
1
1 2.5Y 3/3 暗オリーブ色 シルト質細砂
拳大の礫で充填される
SK43
W
2.20m
E
1
1 10YR 4/2 灰黄褐色 小礫混じり細砂～粗砂
SK45
NW
2.20m
SE
1
2
1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 小礫混じり極細砂～粗砂
2 2.5Y 4/1 黄灰色 小礫混じり粗砂
SK46
N
2.20m
S
1
1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂～粗砂
SK47
N
2.20m
S
1
1 10YR 3/1 黒褐色 シルト質細砂～中砂
P48
N
1
2
1 2.5Y 4/2 暗灰黄色 小礫混じり細砂～粗砂
2 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂～粗砂
SK49
2.20m
S
1
2
1 2.5Y 3/1 黒褐色 小礫混じり細砂
2 10YR 4/2 灰黄褐色 小礫混じりシルト質細砂
SK50
N
2.20m
S
1
1 2.5Y 3/1 黒褐色 細砂～中砂
SK52
W
2.20m
E
1
2
1 2.5Y 5/1 黄灰色 極細砂～細砂
2 2.5Y 5/3 黄褐色 細砂～粗砂 下部に鉄分が沈着
SD34
W
2.30m
E
1
2
1 2.5Y 4/2 暗灰黄色 小礫混じり極細砂～粗砂
2 10YR 4/2 灰黄褐色 小礫混じりシルト質極細砂～中砂
0
1m

C地区　下層遺構断面図

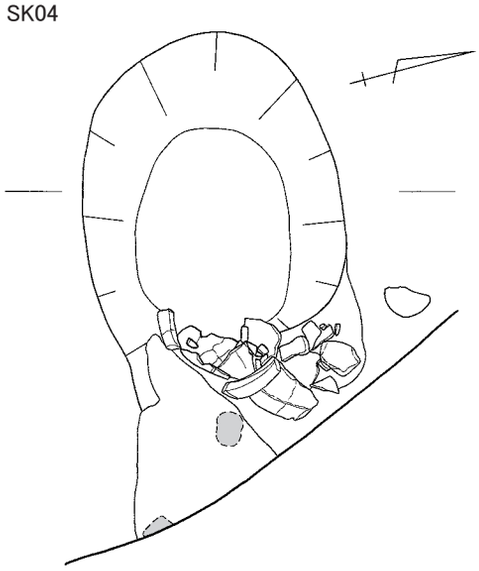


D－1 地区・D－2 地区　遺構平面図

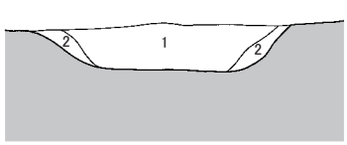
礎石建物（S＝1/40）



SK04

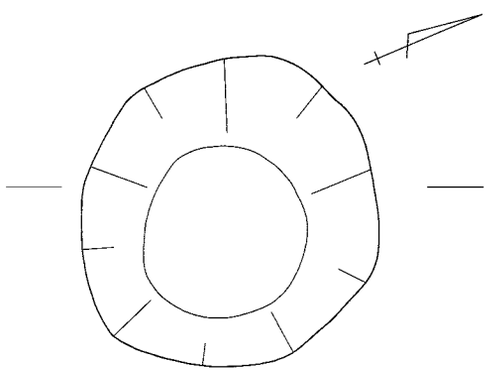


2.40m

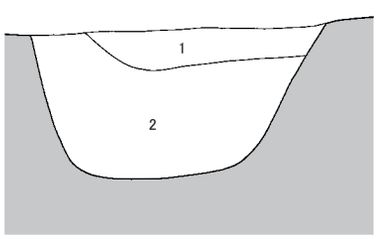


1　底は炭層（数層に分かれる）2.5Y3/1 黒褐色極細砂と 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂のラミナ
　粘土層も入る（2.5Y5/4 黄褐色シルト）
2　2.5Y　4/2　暗灰黄色 極細砂
2’ 2 層と同一層と思われるが色は 10YR5/2 灰黄褐色

SK05

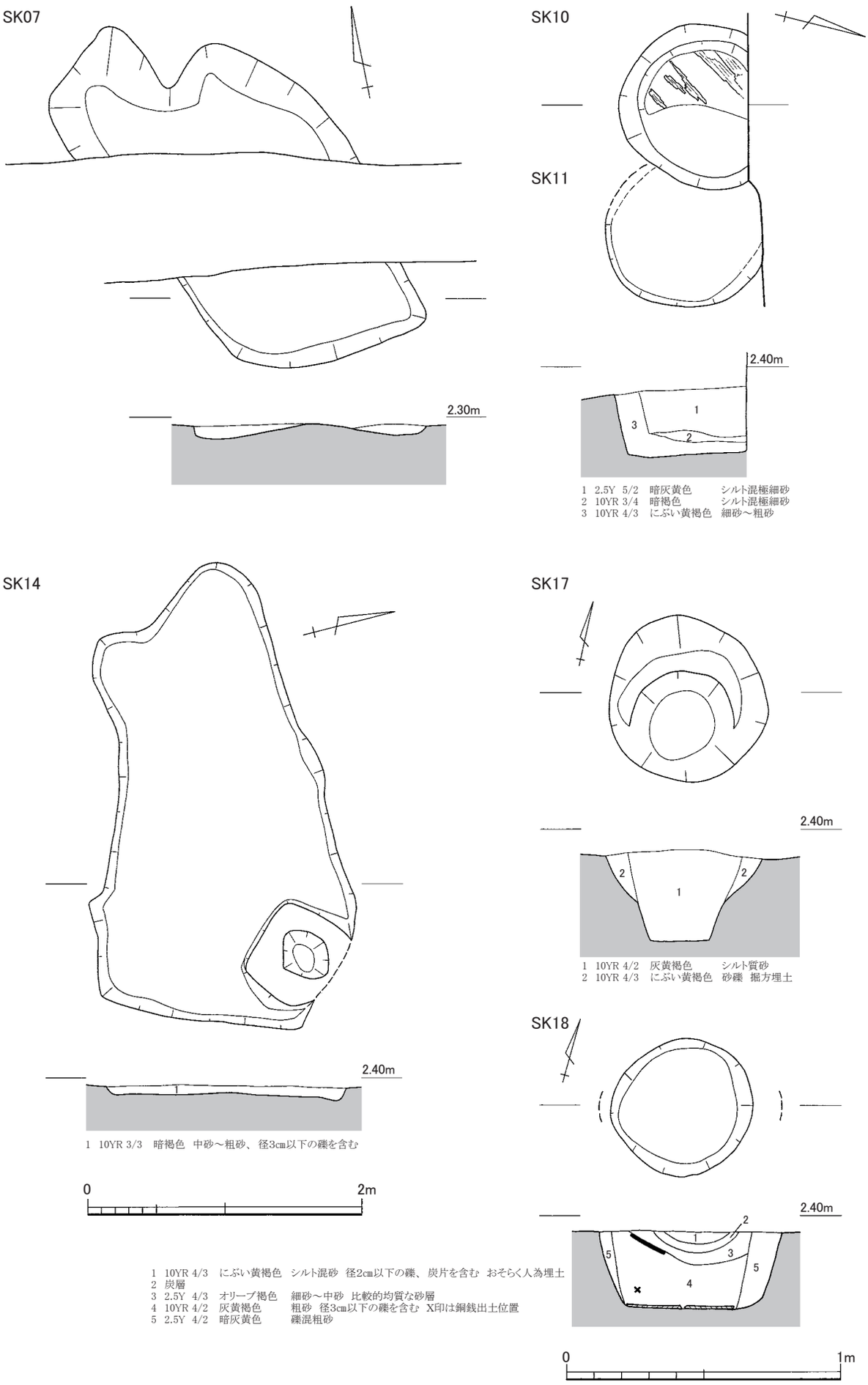


2.40m

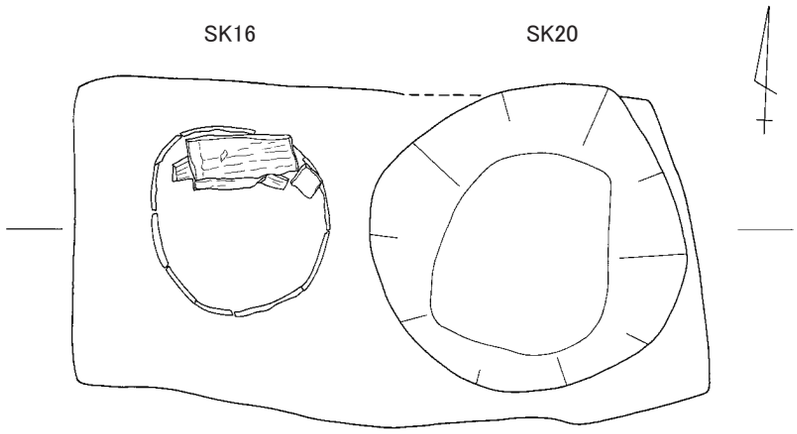


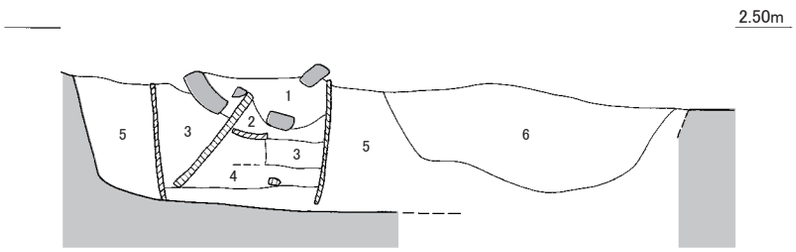
1　10YR 4/1　褐灰色 細砂～粗砂
2　基本は①と同じだが、 径3cm以下の礫を多く含む

D −1 地区　土坑平面図・断面図①

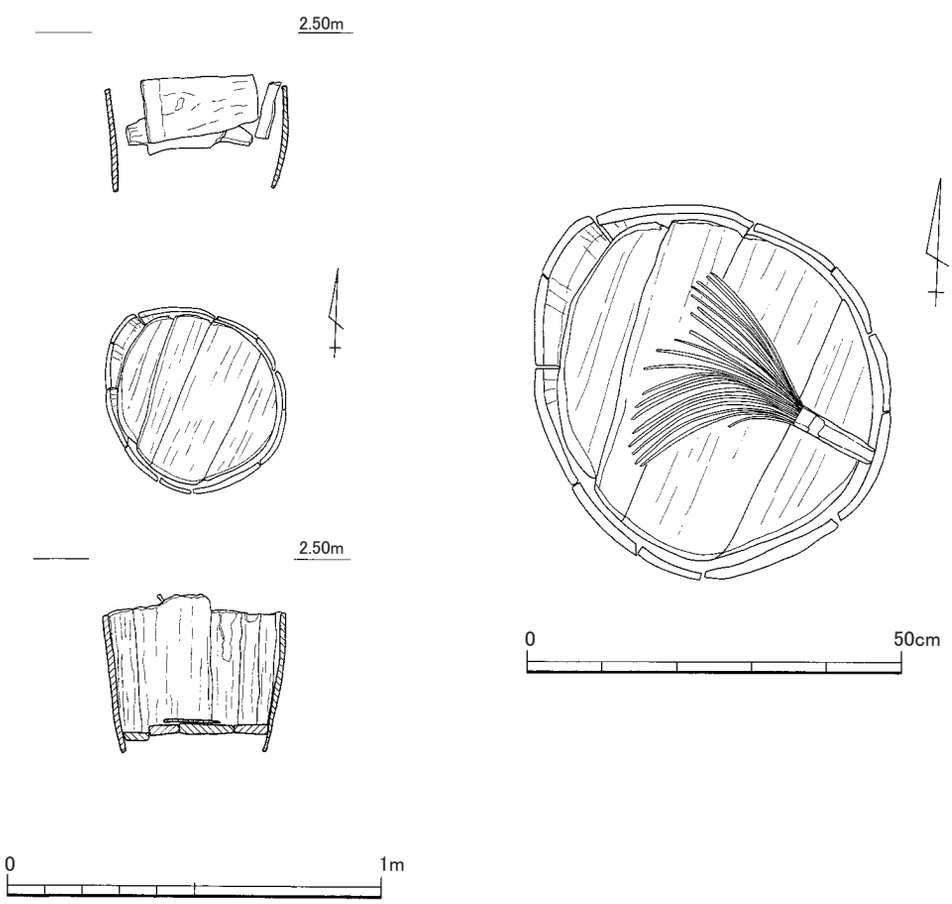


D－1 地区 土坑平面図・断面図②

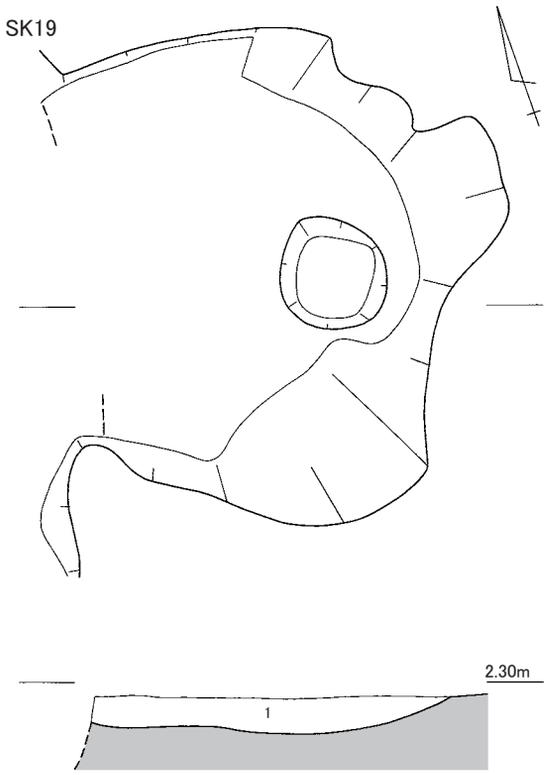




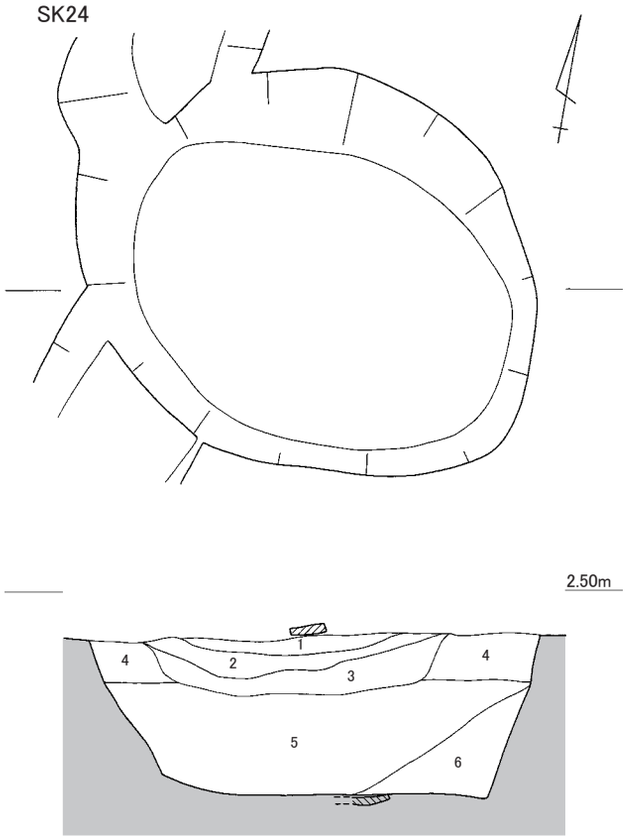
1 10YR 2/1 黒色 極細砂（漆喰含む）
2 10YR 3/1 黒褐色 シルト～シルト質極細砂
3 2.5Y 3/1 黒褐色 シルト質極細砂
4 10YR 3/3 暗褐色 細砂
5 2.5Y 4/1 黄灰色 細砂～粗砂 径5cm程の礫を含む
6 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト質細砂（瓦多く含む）



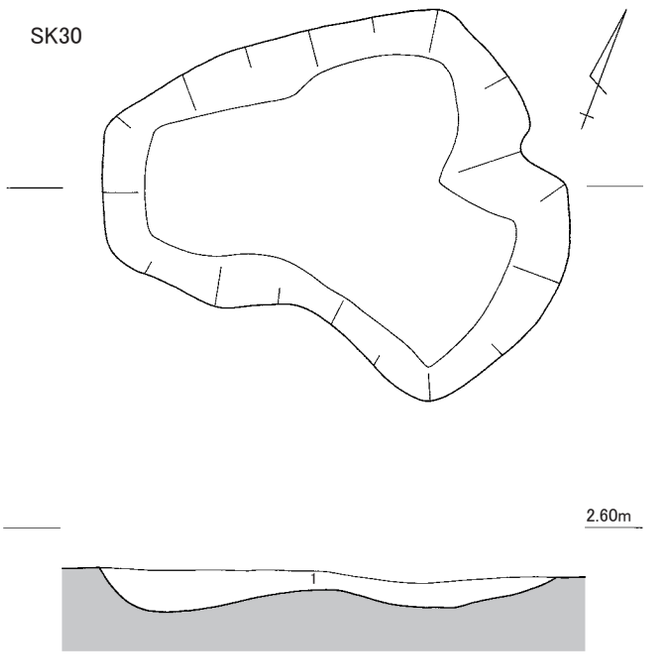
D－1 地区 土坑平面図・断面図③



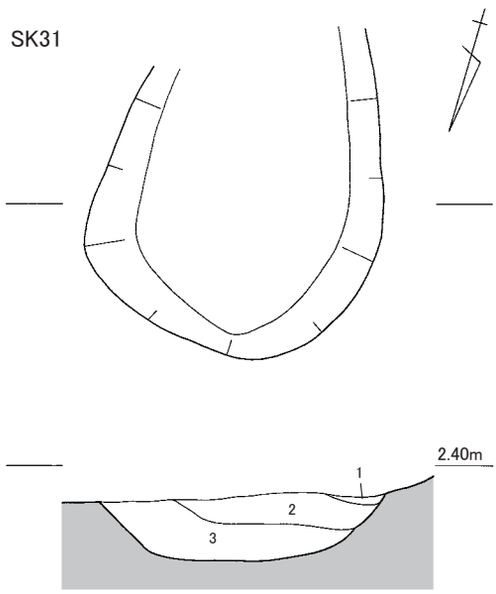
1　10YR 4/2　灰黄褐色　粗砂　径3㎝以下の礫を含む



1　2.5Y　3/1　黒褐色　細砂
2　2.5Y　4/2　暗灰黄色　細砂　東半は 2.5Y4/4 オリーブ褐色極細砂がラミナ状に入る
3　2.5Y　3/2　黒褐色　細砂　底面に有機物土層あり（10YR1.7/1 黒色シルト質極細砂）
4　2.5Y　4/1　黄灰色　細砂　小礫含む
5　2.5Y　3/1　黒褐色　中砂～細砂
6　10YR 3/3　暗褐色　細砂　2.5Y4/4 オリーブ褐色細砂層混じる

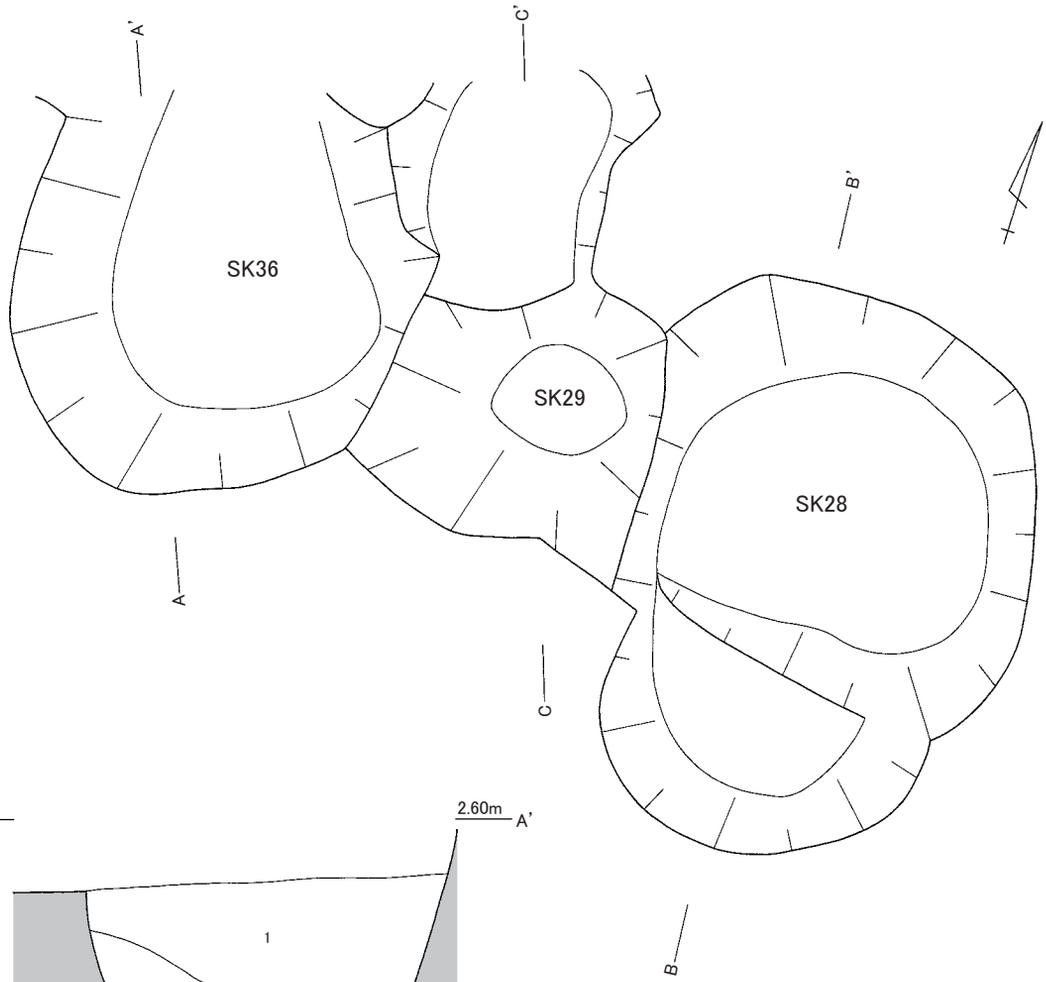


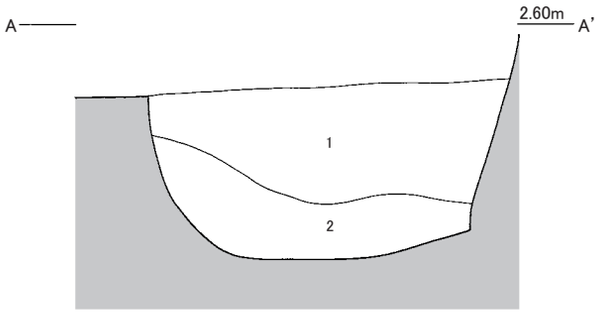
1　2.5Y　4/1　黄灰色　細砂～粗砂　径3㎝以下の礫を含む　人為埋土かどうか不明



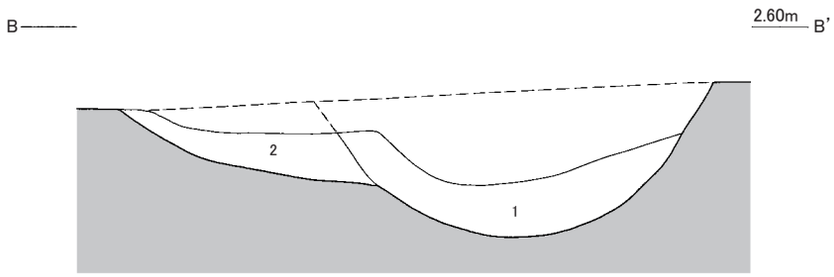
1　2.5Y　5/4　黄褐色 砂質シルト　焼土片を多く含む　ブロック状の人為埋土
2　2.5Y　4/1　黄灰色 細砂～粗砂　径2㎝以下の礫を含む　人為埋土
3　2.5Y　4/2　暗灰黄色 細砂～粗砂

D－1 地区　土坑平面図・断面図④

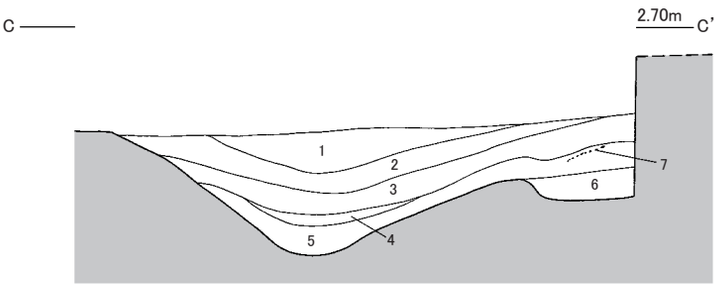




1 7.5YR3/3 暗褐色 砂礫 山電攪乱
2 10YR 3/1 黒褐色 砂礫 礫は径3cm以下主体



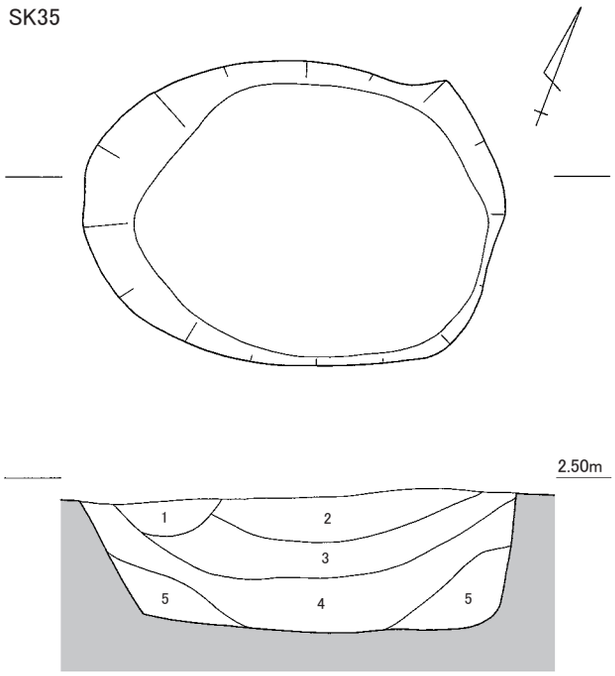
1 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 砂礫 礫は径5cm以下、淘汰の悪い砂、炭片混 多くの遺物を含む 人為埋土
2 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂 炭片混



1 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂～粗砂 人為埋土
2 10YR 2/2 黒褐色 炭混細砂
3 2.5Y 3/2 黒褐色 細砂～粗砂
4 炭層
5 2.5Y 4/1 黄灰色 細砂～中砂
6 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂～粗砂
7 層の境界付近に骨片の薄層をはさむ

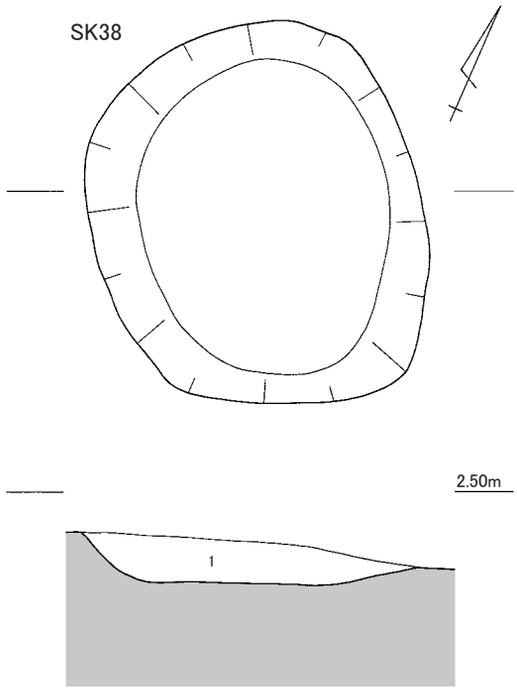
D－1 地区 土坑平面図・断面図⑤

SK35



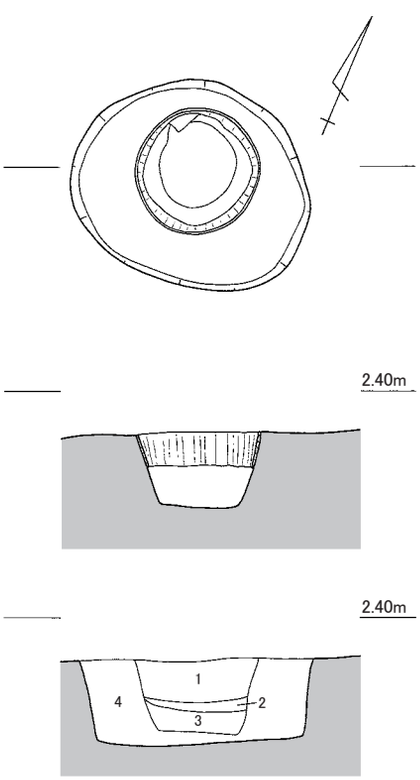
1 7.5YR3/3 暗褐色 砂礫 山電敷設畔の攪乱
2 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂～粗砂 平行ラミナが見える
3 2.5Y 3/1 黒褐色 炭混細砂 ラミナが見える
4 2.5Y 4/2 暗灰黄色 砂礫 礫は径2cm以下主体
5 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂～中砂

SK38



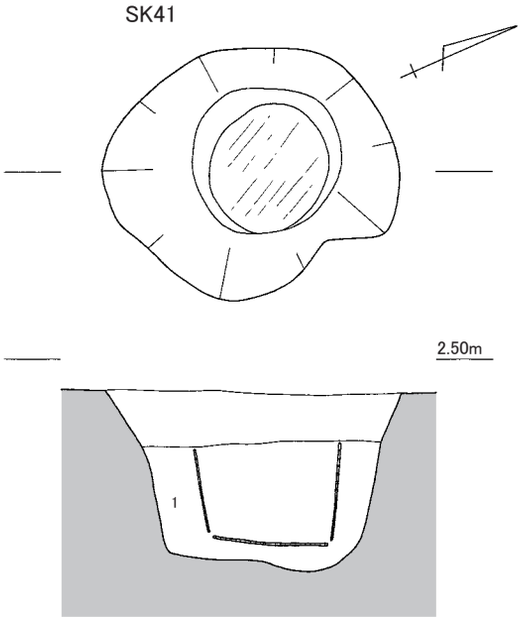
1 2.5Y 3/1 黒褐色 細砂 径2cm以下主体の礫を含む 炭粒を多く含む

SK40



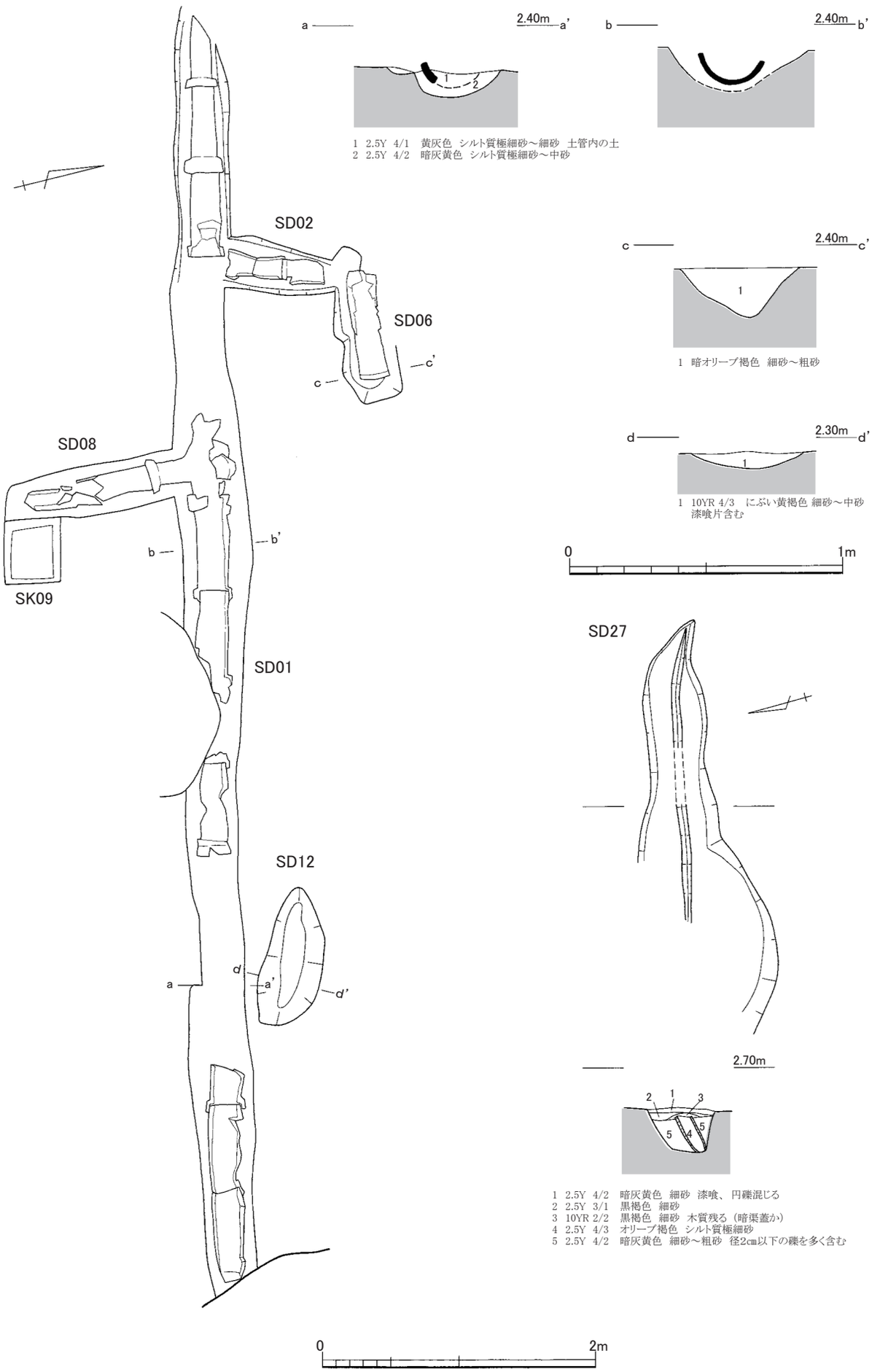
1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂～粗砂
2 2.5Y 4/1 黄灰色 細砂
3 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂
4 2.5Y 3/2 黒褐色 細砂 掘方埋土

SK41

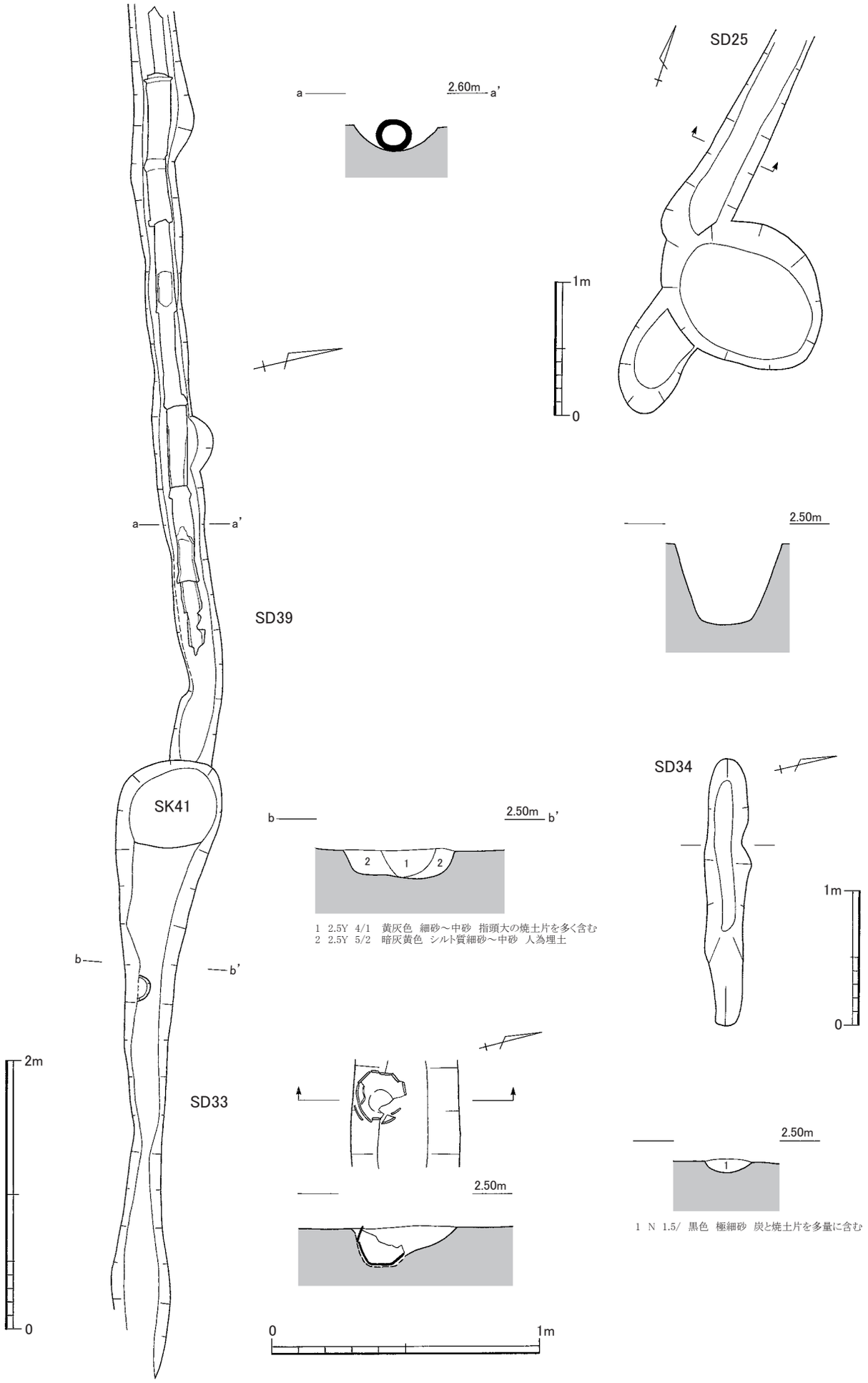


1 10YR 2/1 黒色 細砂 炭片、焼土片を多量に含む

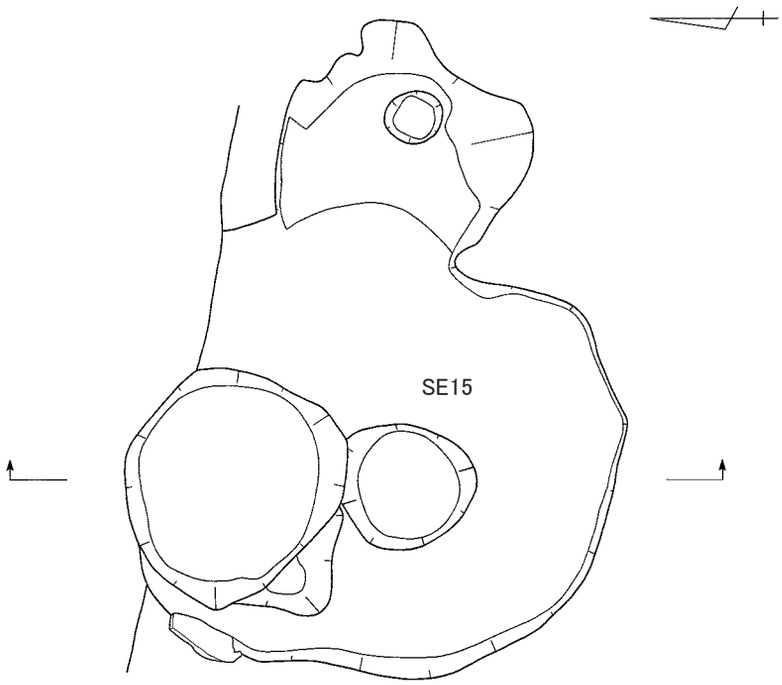
D −1 地区 土坑平面図・断面図⑥

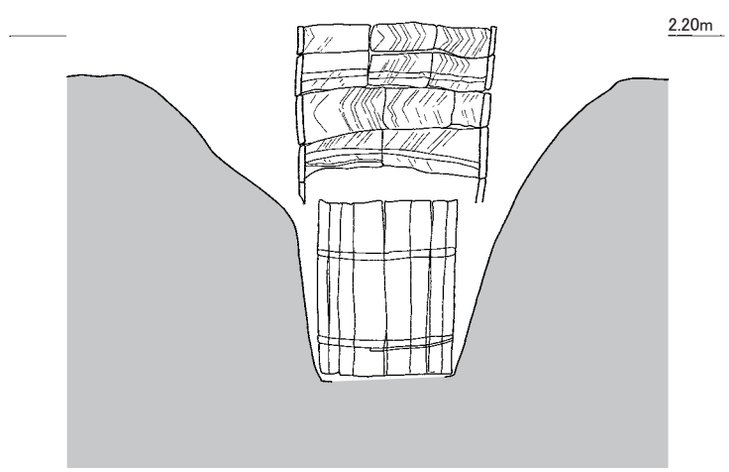


D－1 地区 溝平面図・断面図①

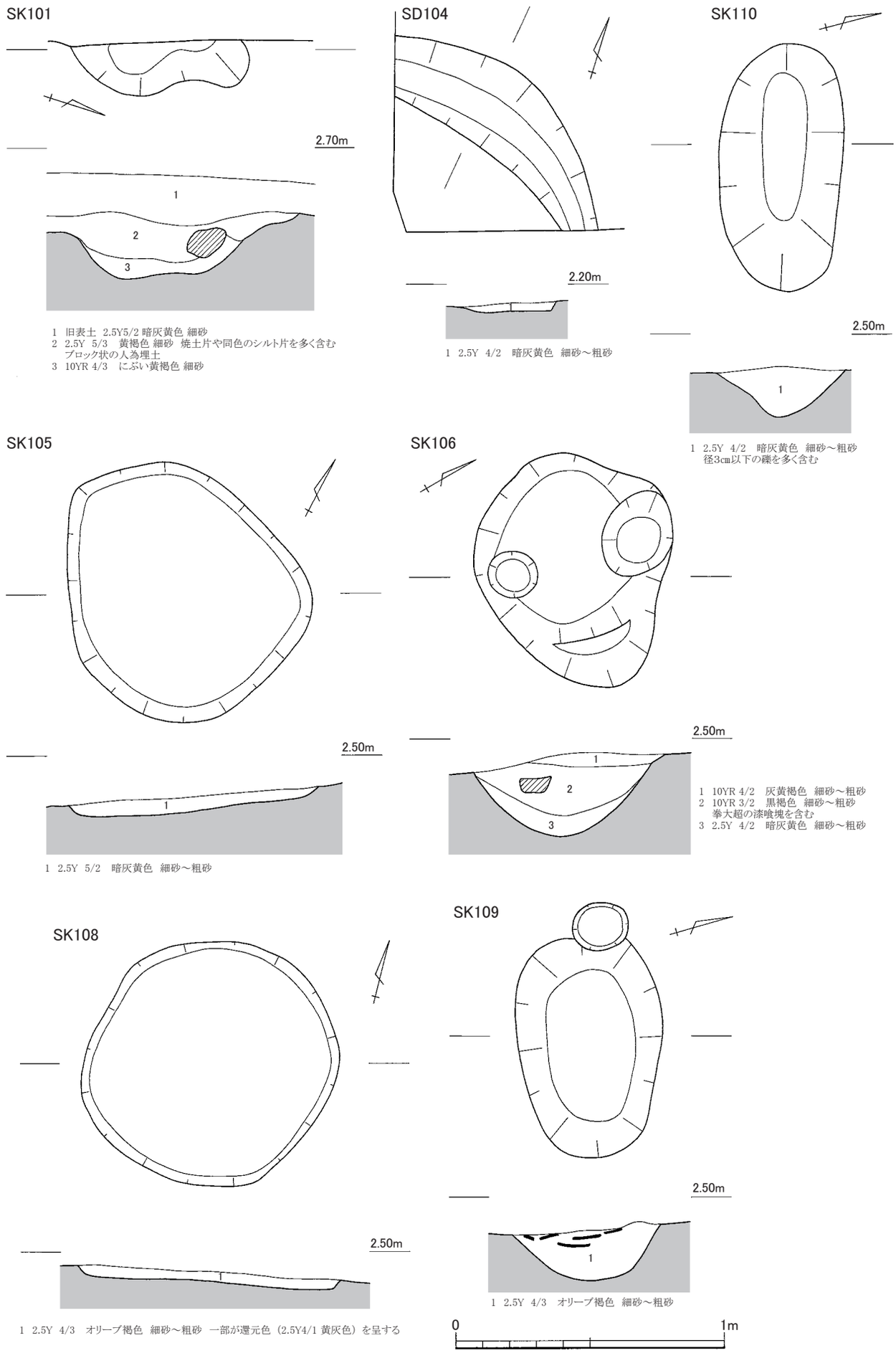


D－1 地区 溝平面図・断面図②

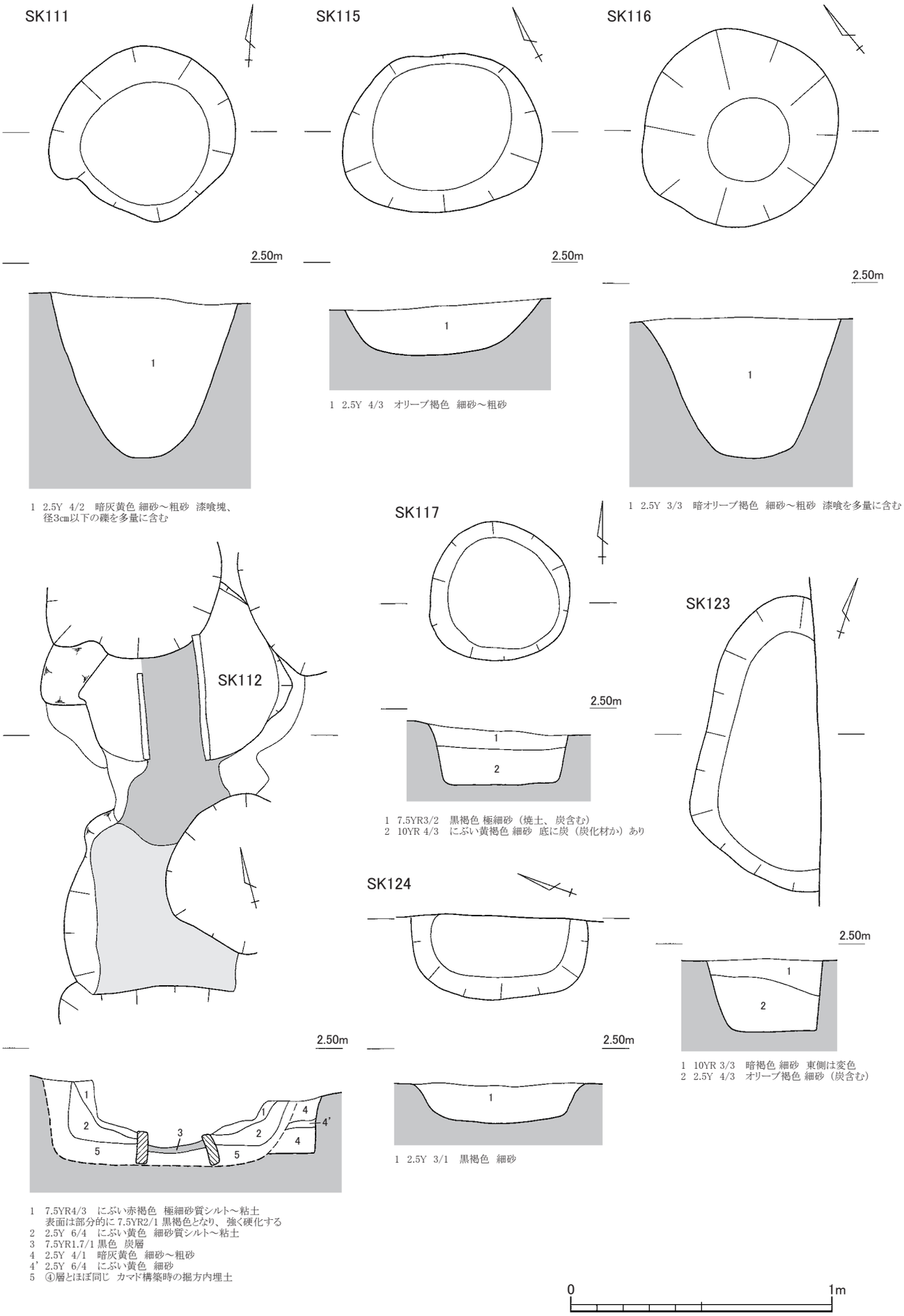




D −1 地区　井戸平面図・断面見通し図

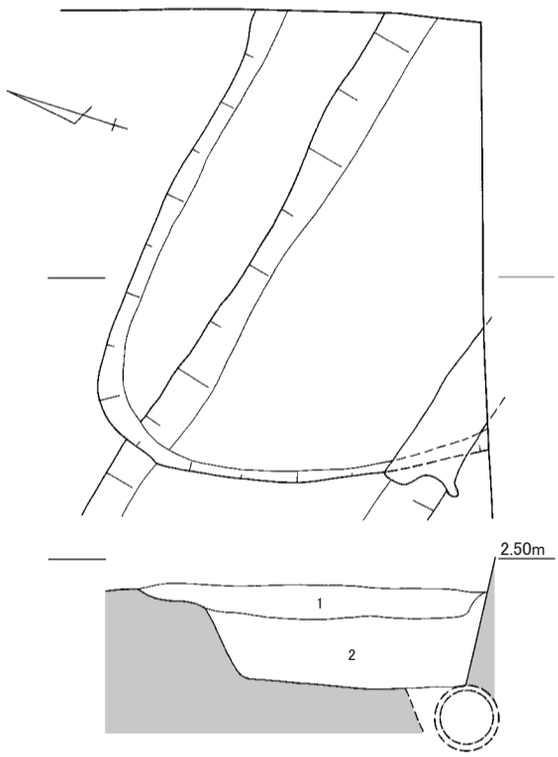


D -2 地区 土坑平面図・断面図①



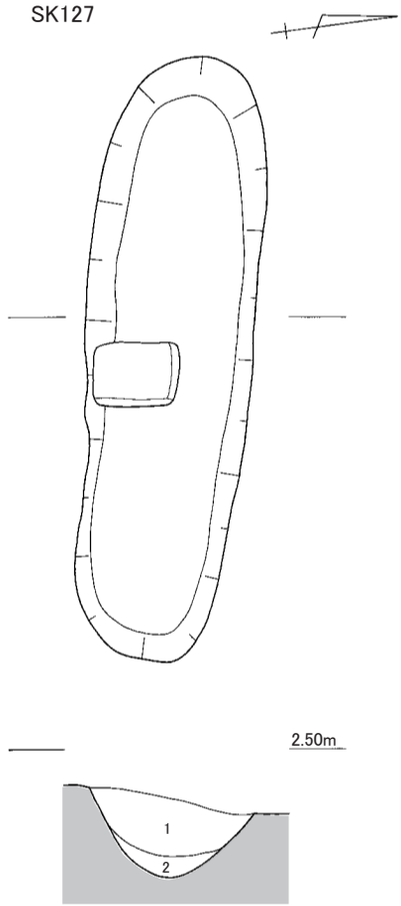
D -2 地区 土坑平面図・断面図②

SK122



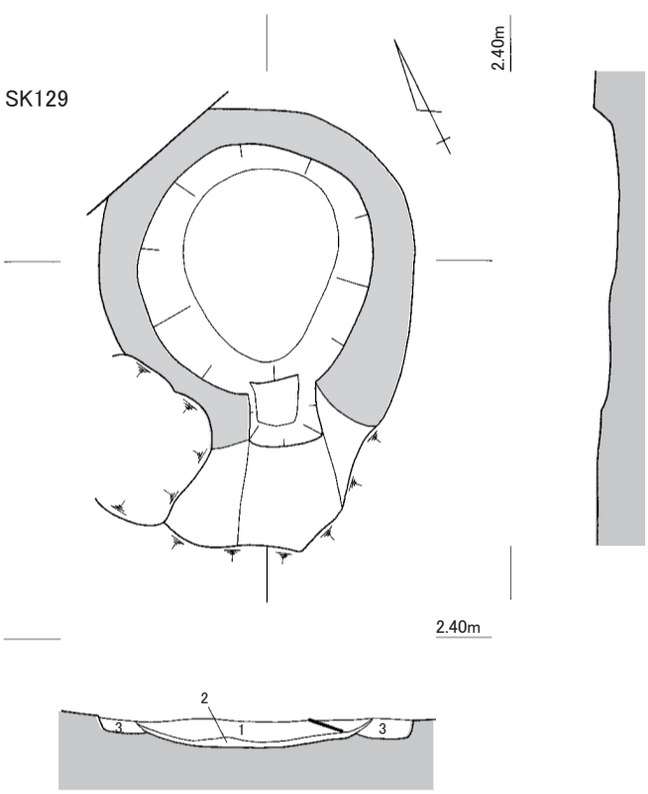
1 2.5Y 3/2 黒褐色 細砂
2 10YR 3/2 黒褐色 細砂 漆喰、炭、瓦入る

SK127



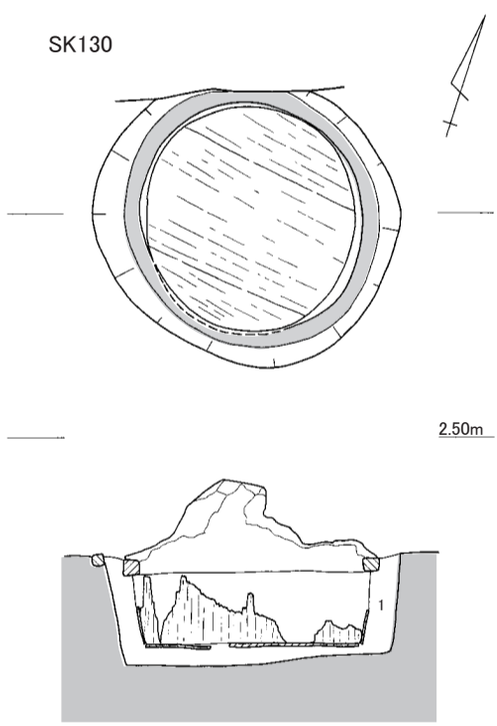
1 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 シルト質細砂 炭粒混
2 炭層

SK129



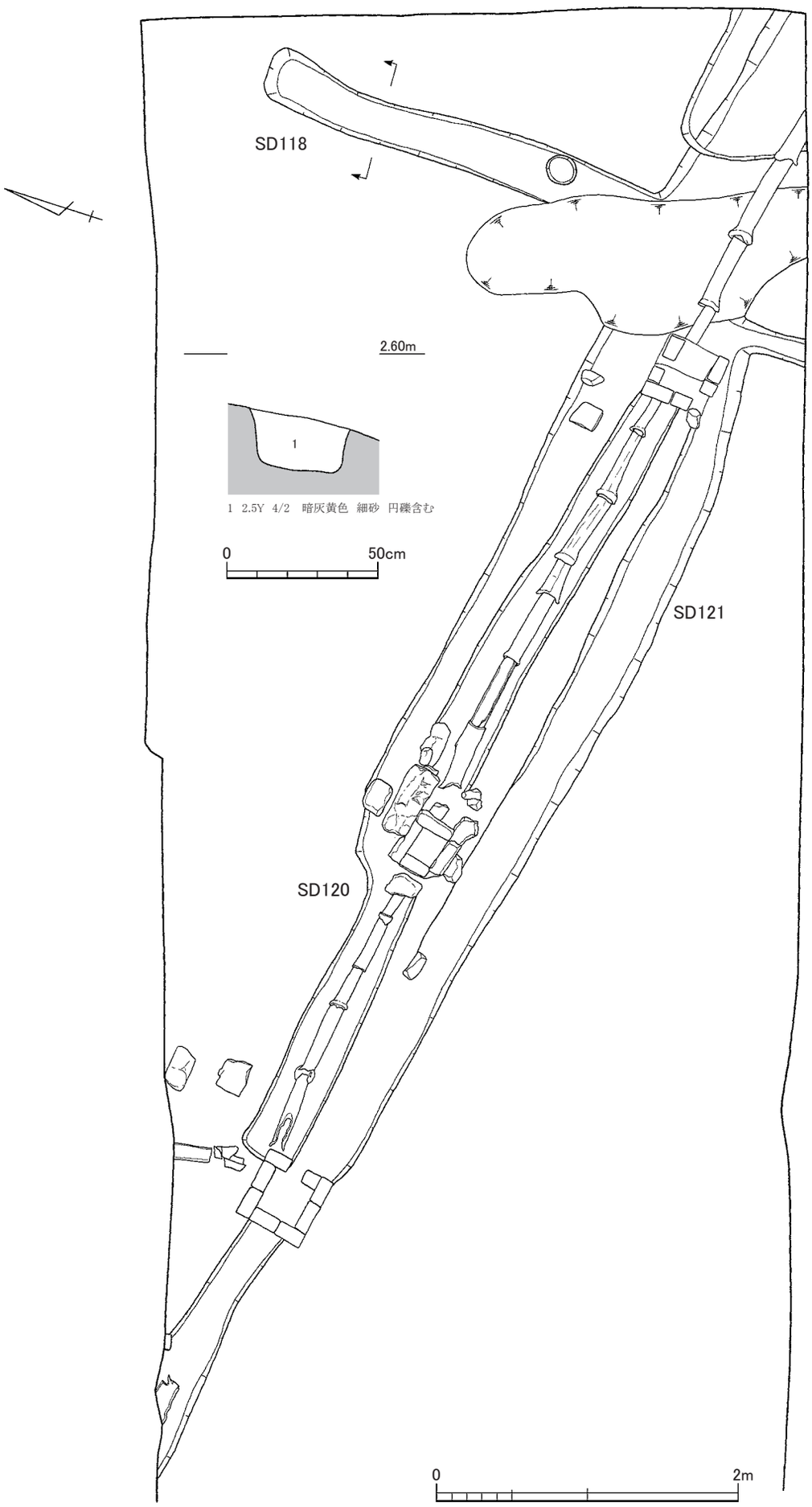
1 5YR 4/4 にぶい赤褐色
5YR 3/6 暗赤褐色
2.5Y 5/4 黄褐色
砂質シルト粘土のブロック状埋土
2 10YR 1.7/1 黒色 炭層
3 2.5Y 5/4 黄褐色 極細砂質シルト～粘土

SK130

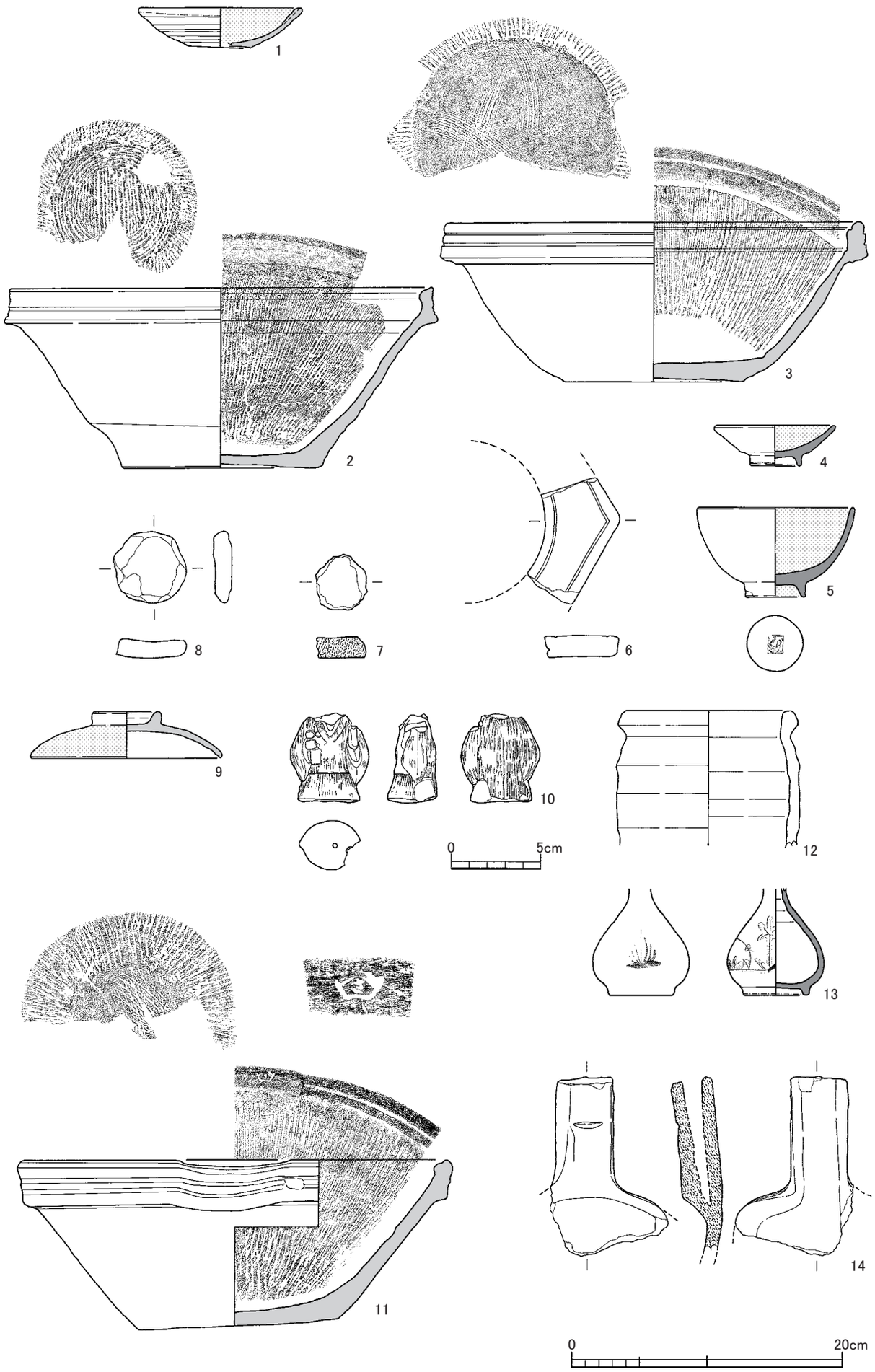


1 2.5Y 4/1 黄灰色 シルト混細砂～粗砂

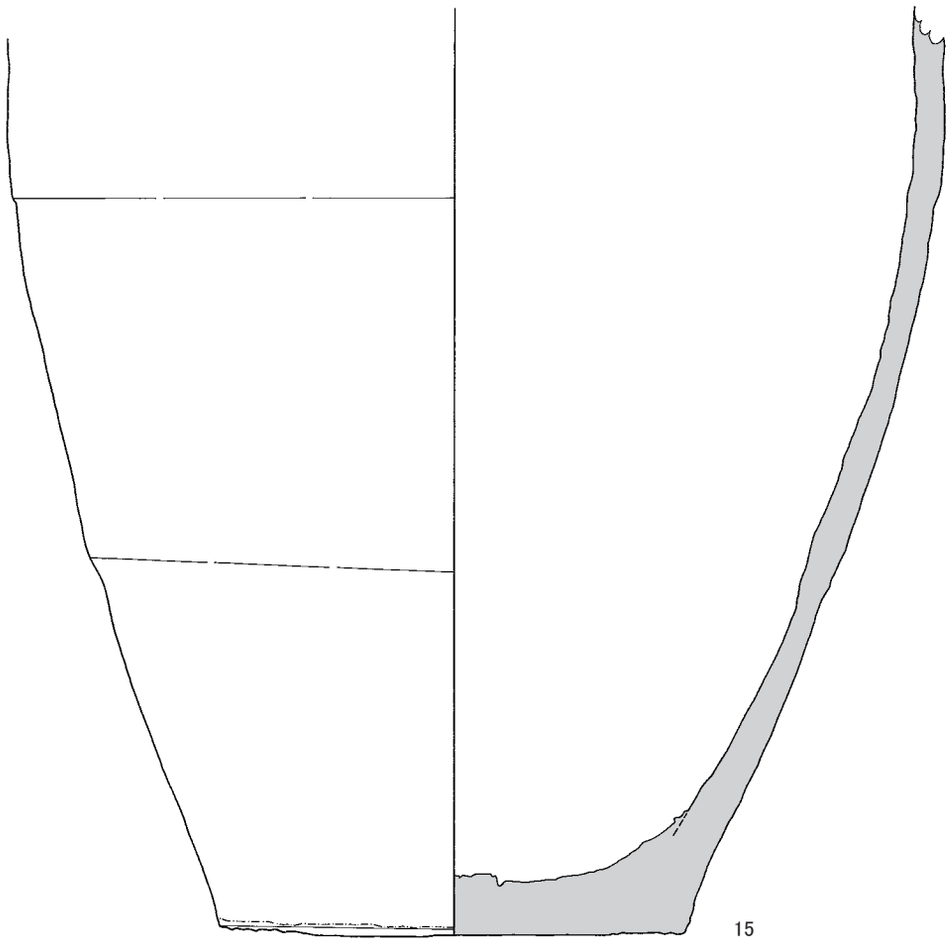
D −2 地区 土坑平面図・断面図③

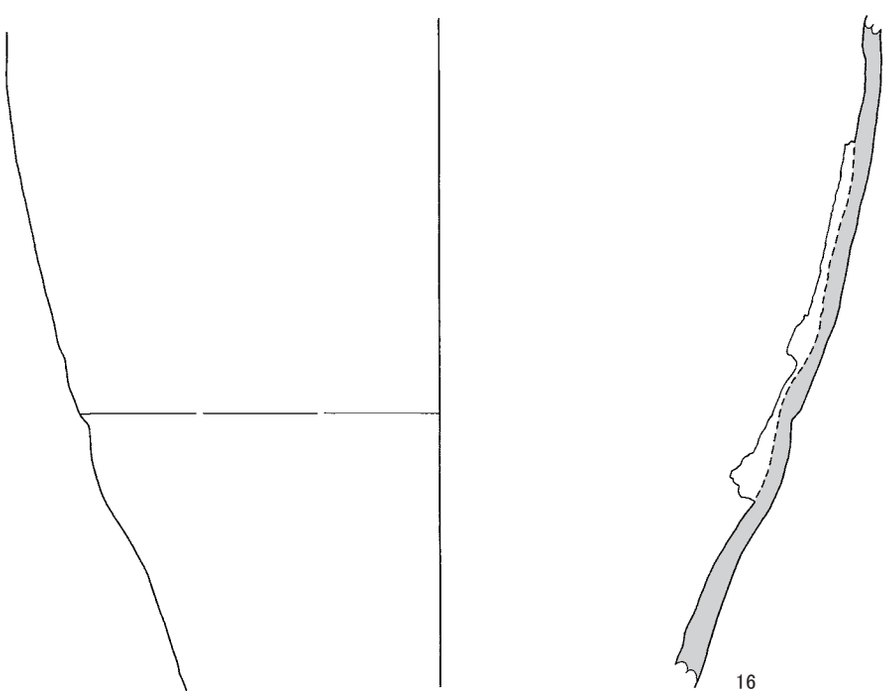


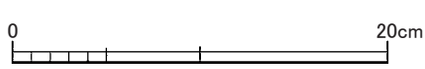
D −2 地区 溝平面図・断面図



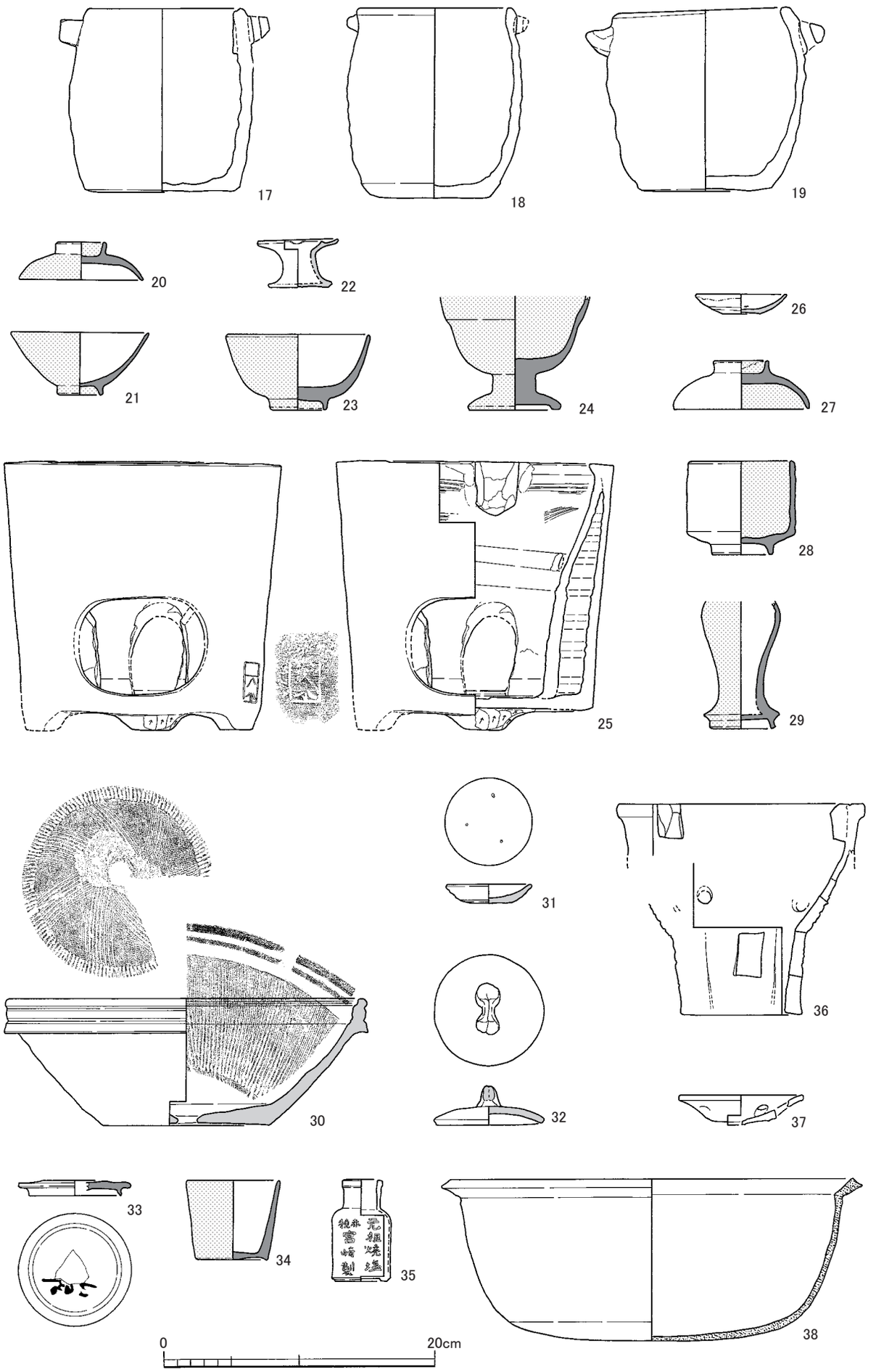
出土土器①



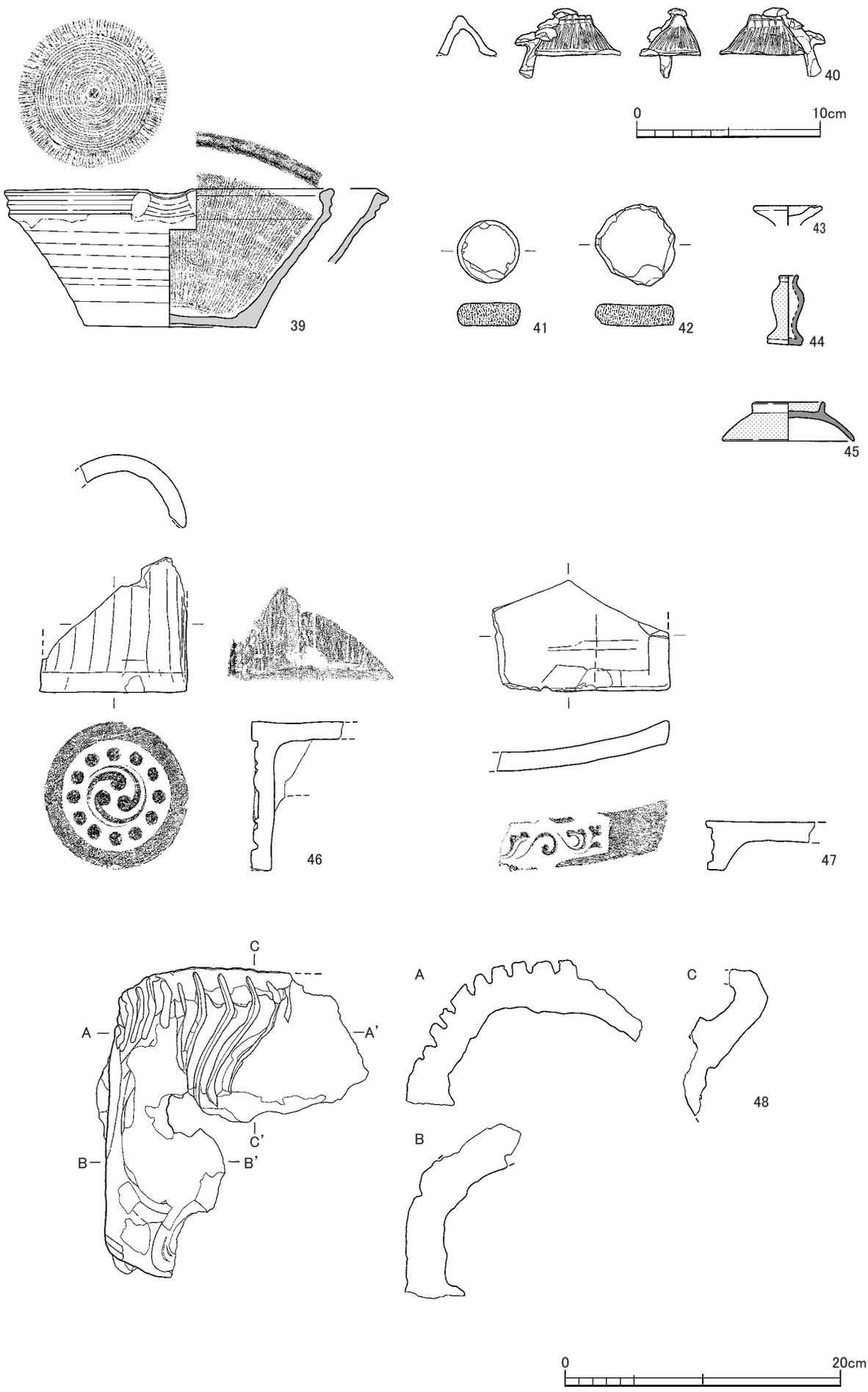




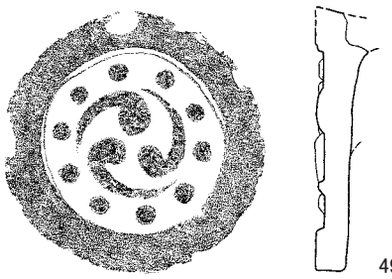
出土土器②



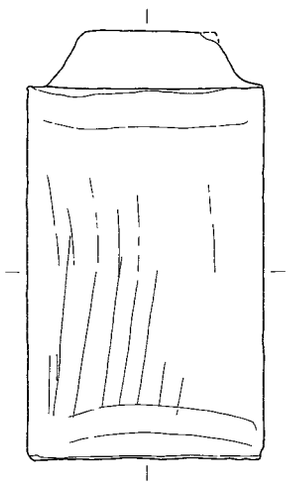
出土土器③

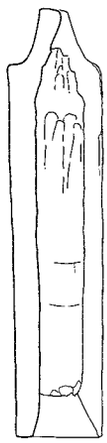


出土土器④

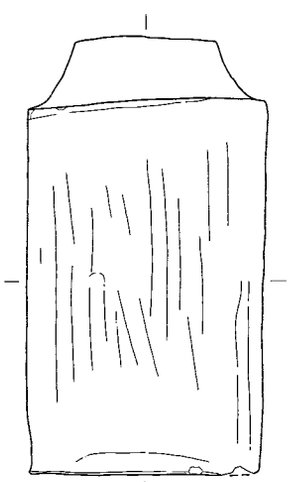


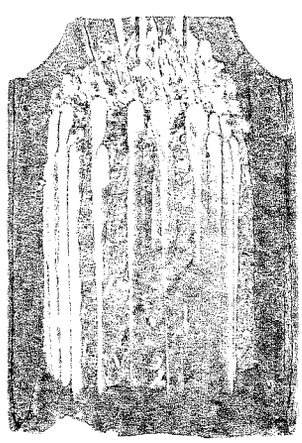
49



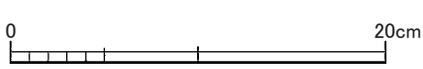


50

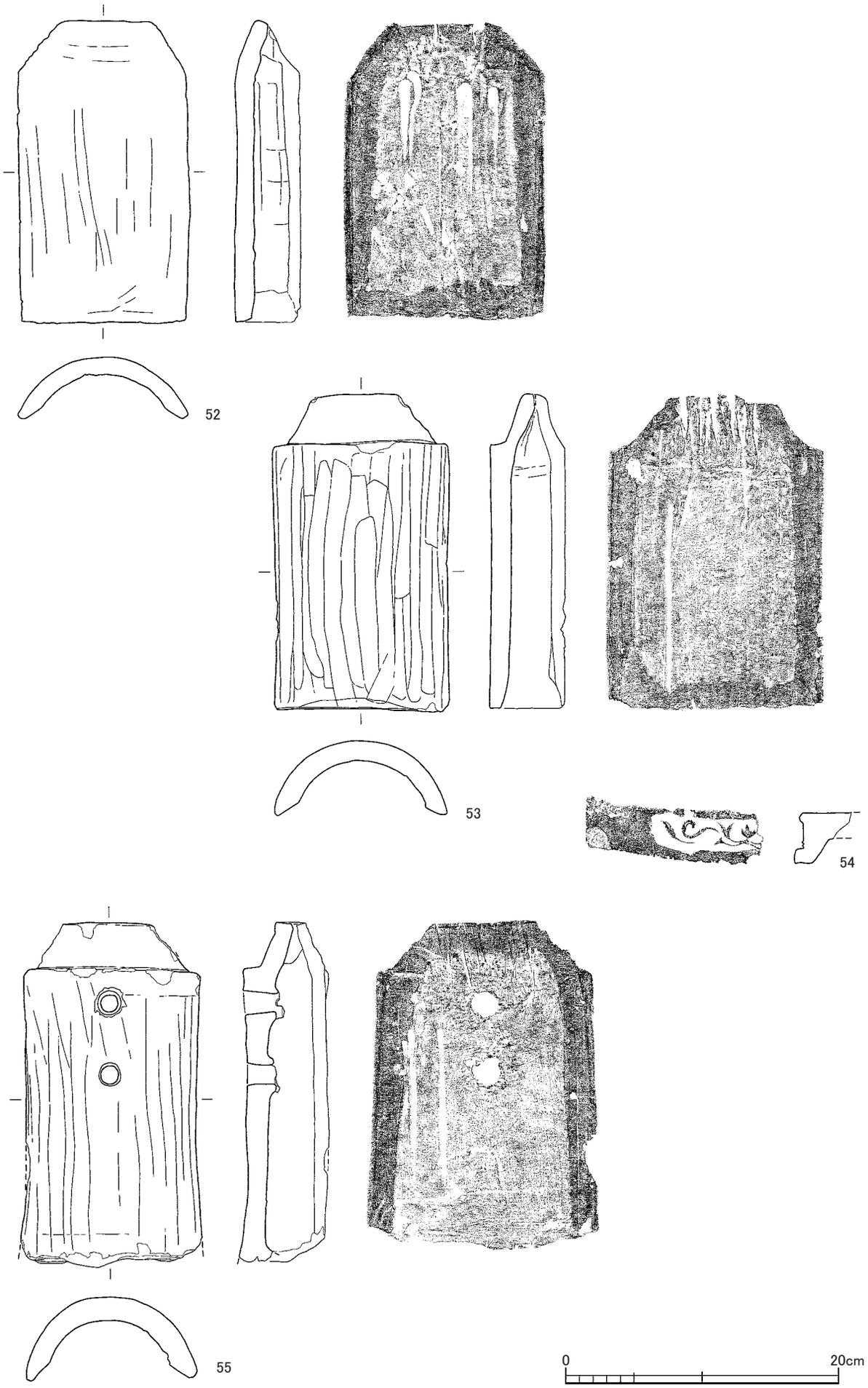




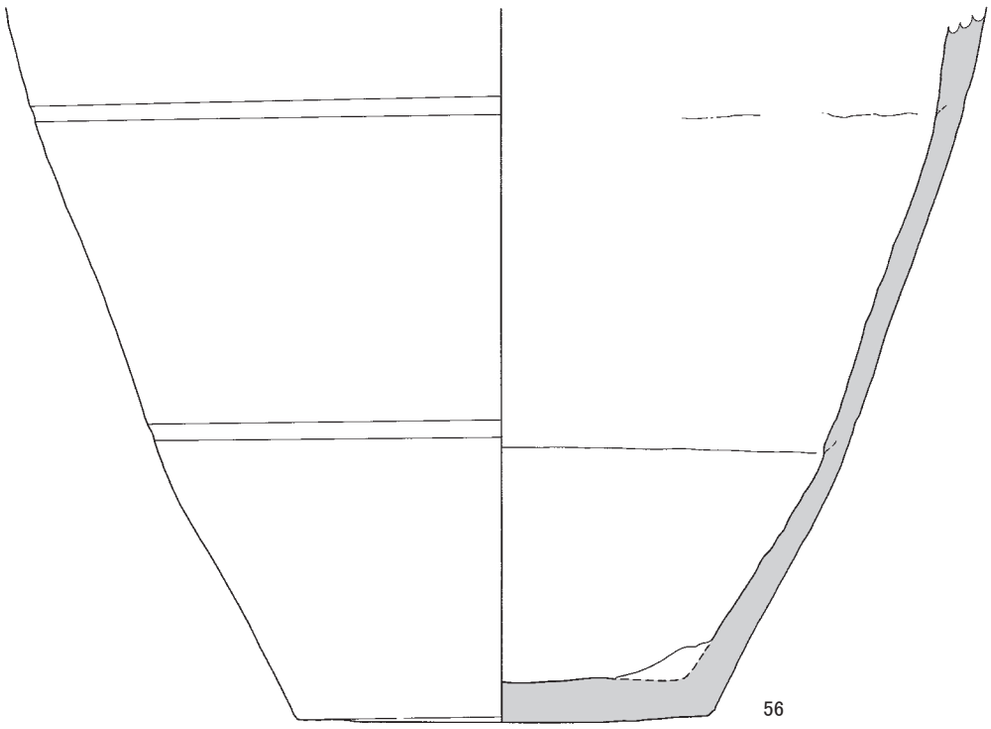
51

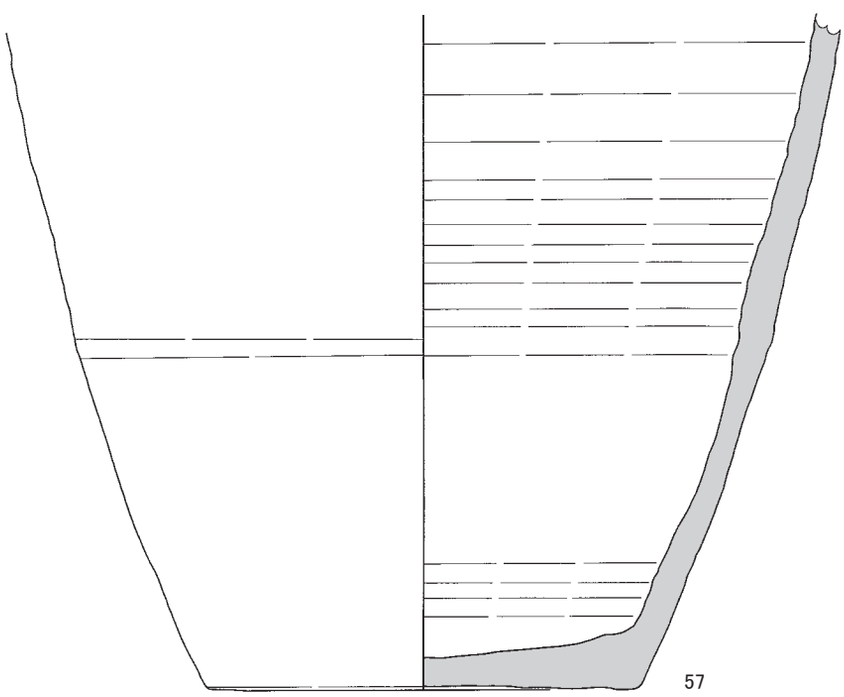


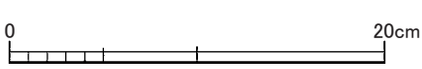
出土土器⑤



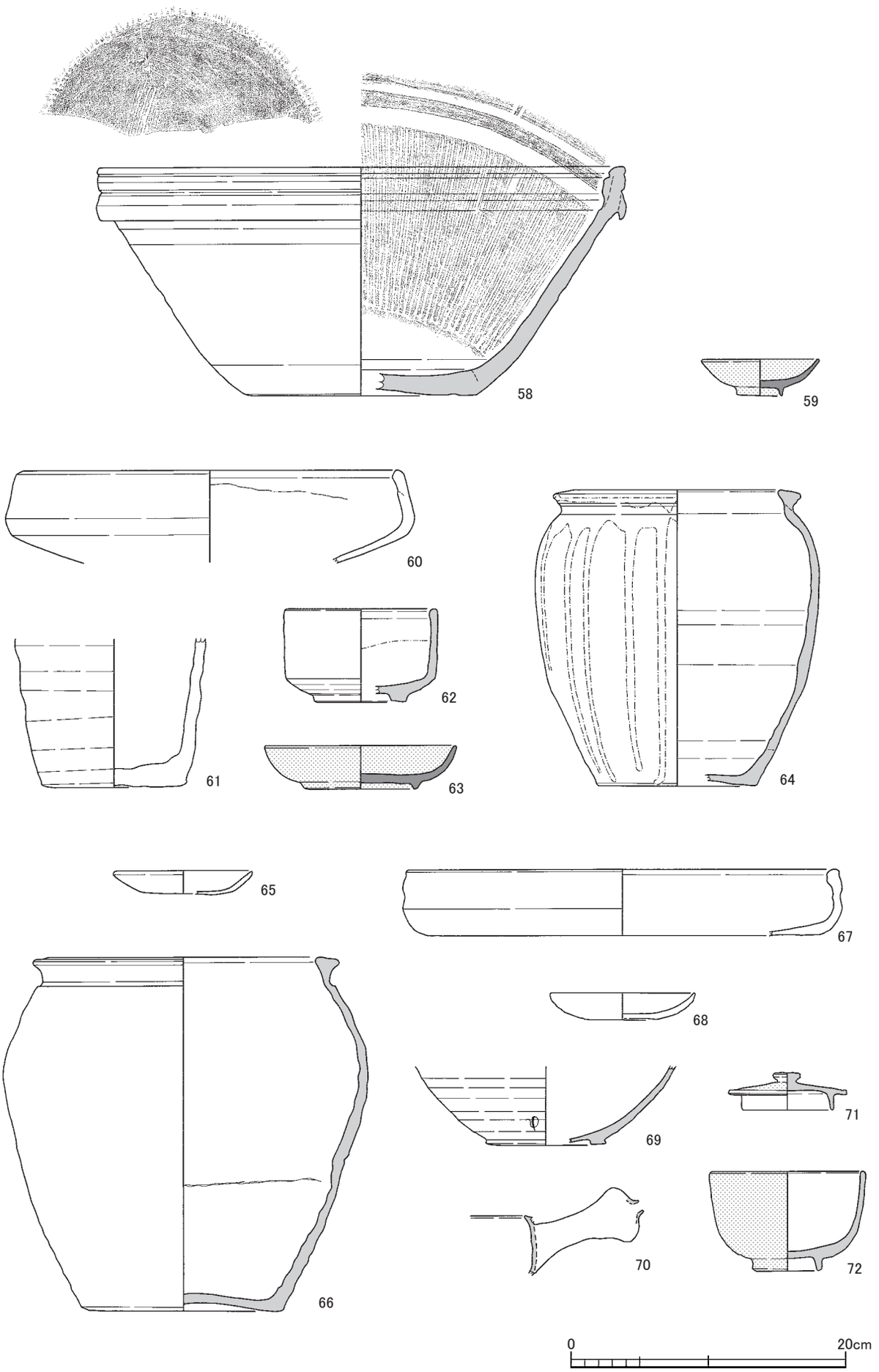
出土土器⑥



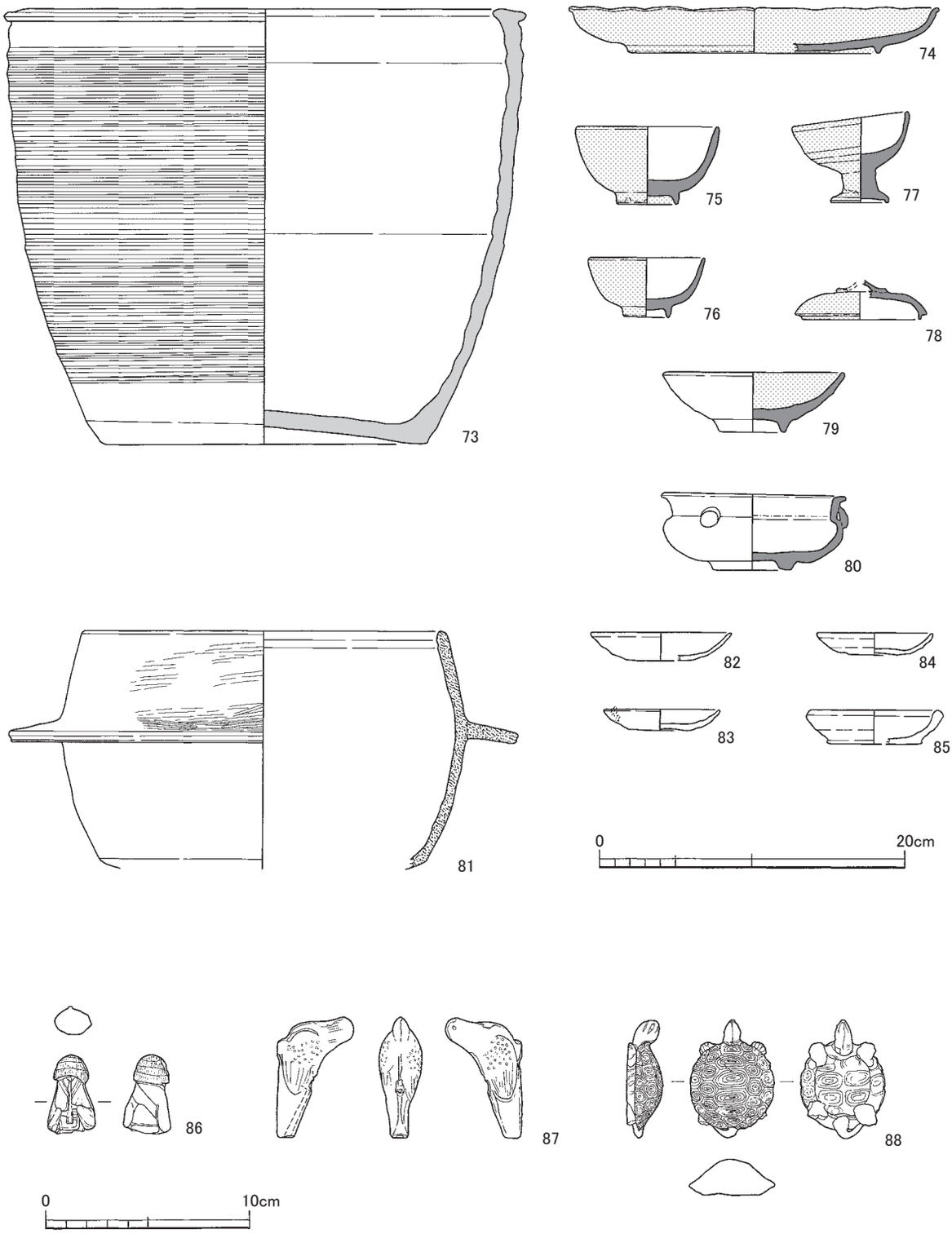


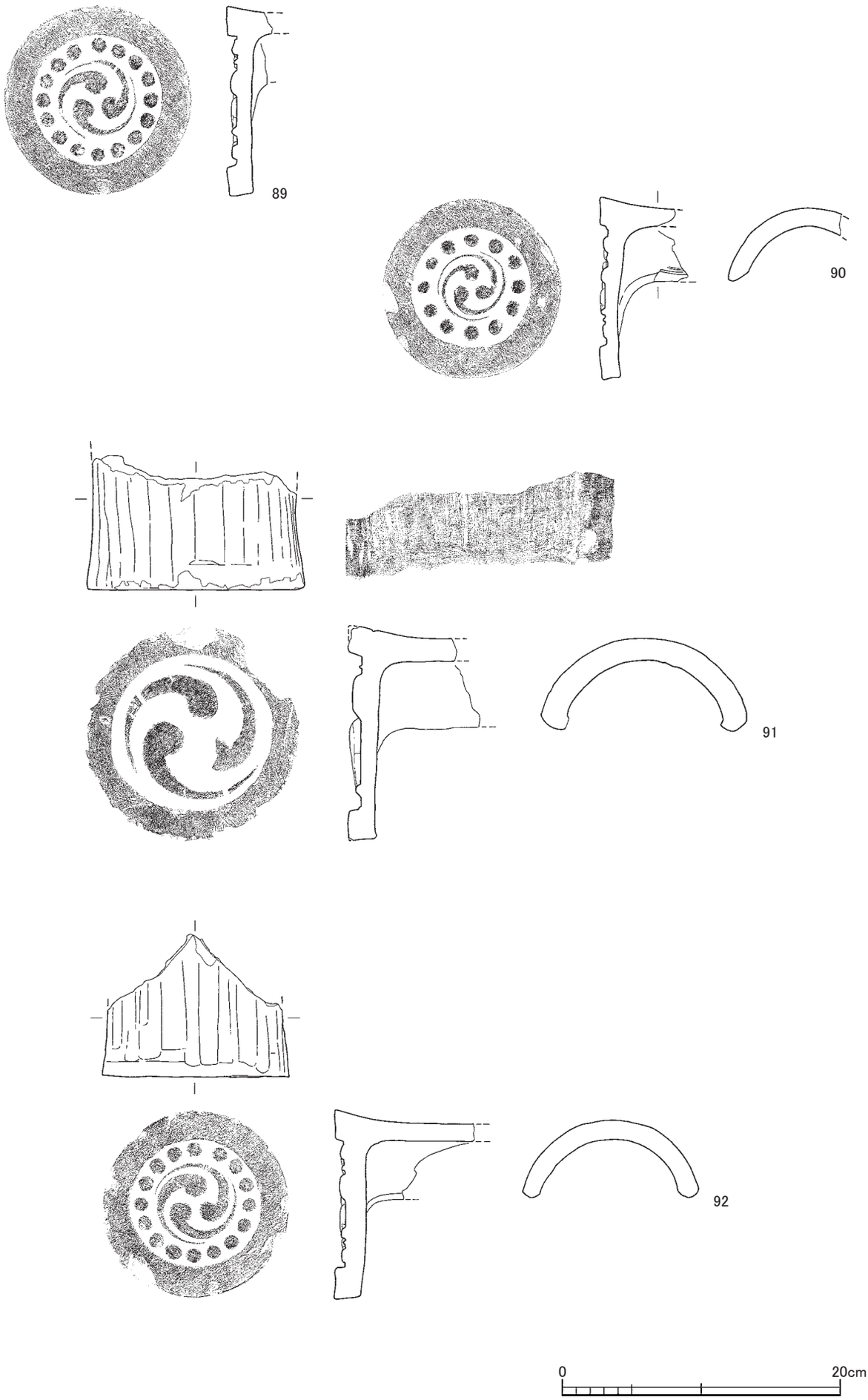


出土土器⑦

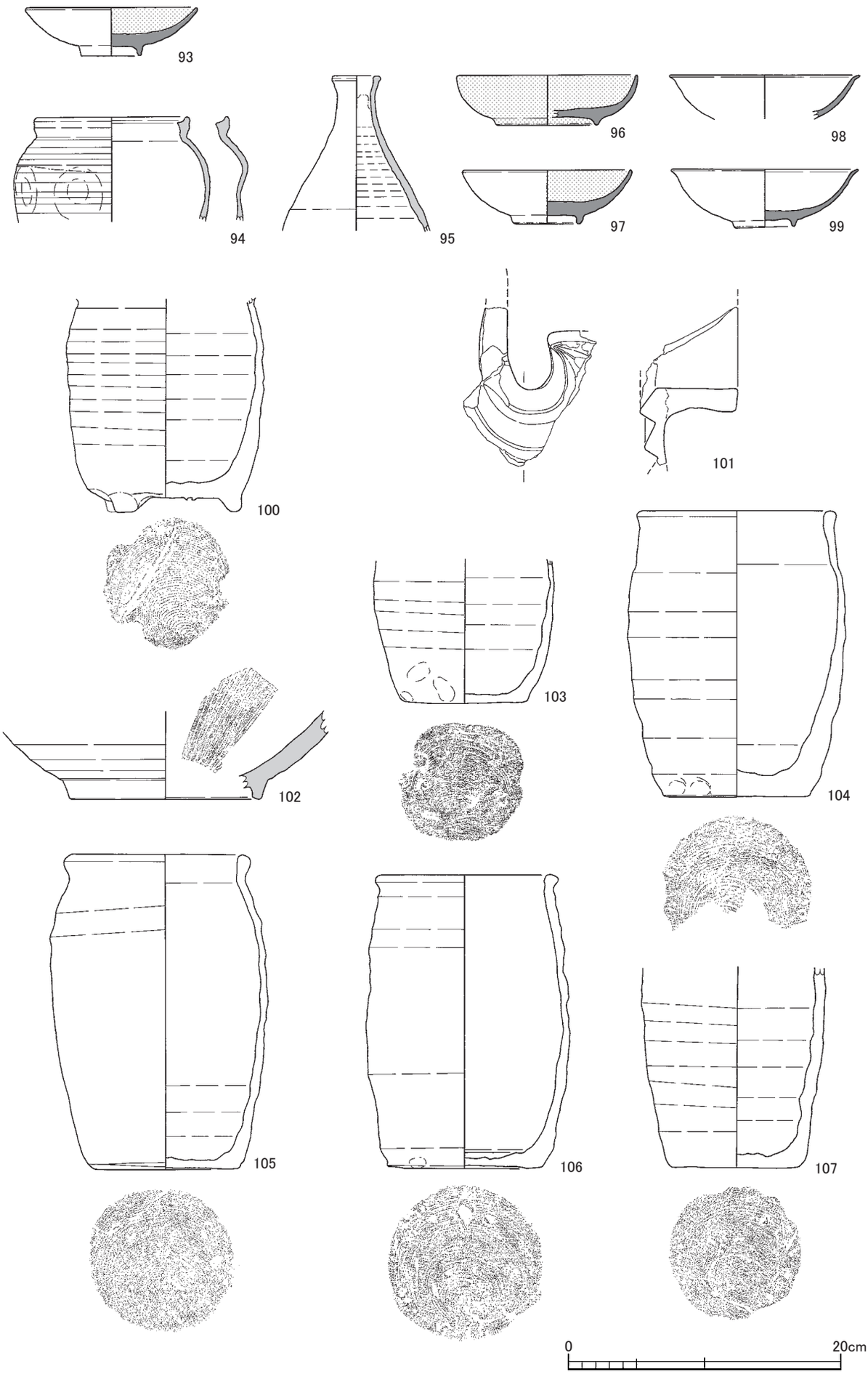


出土土器⑧

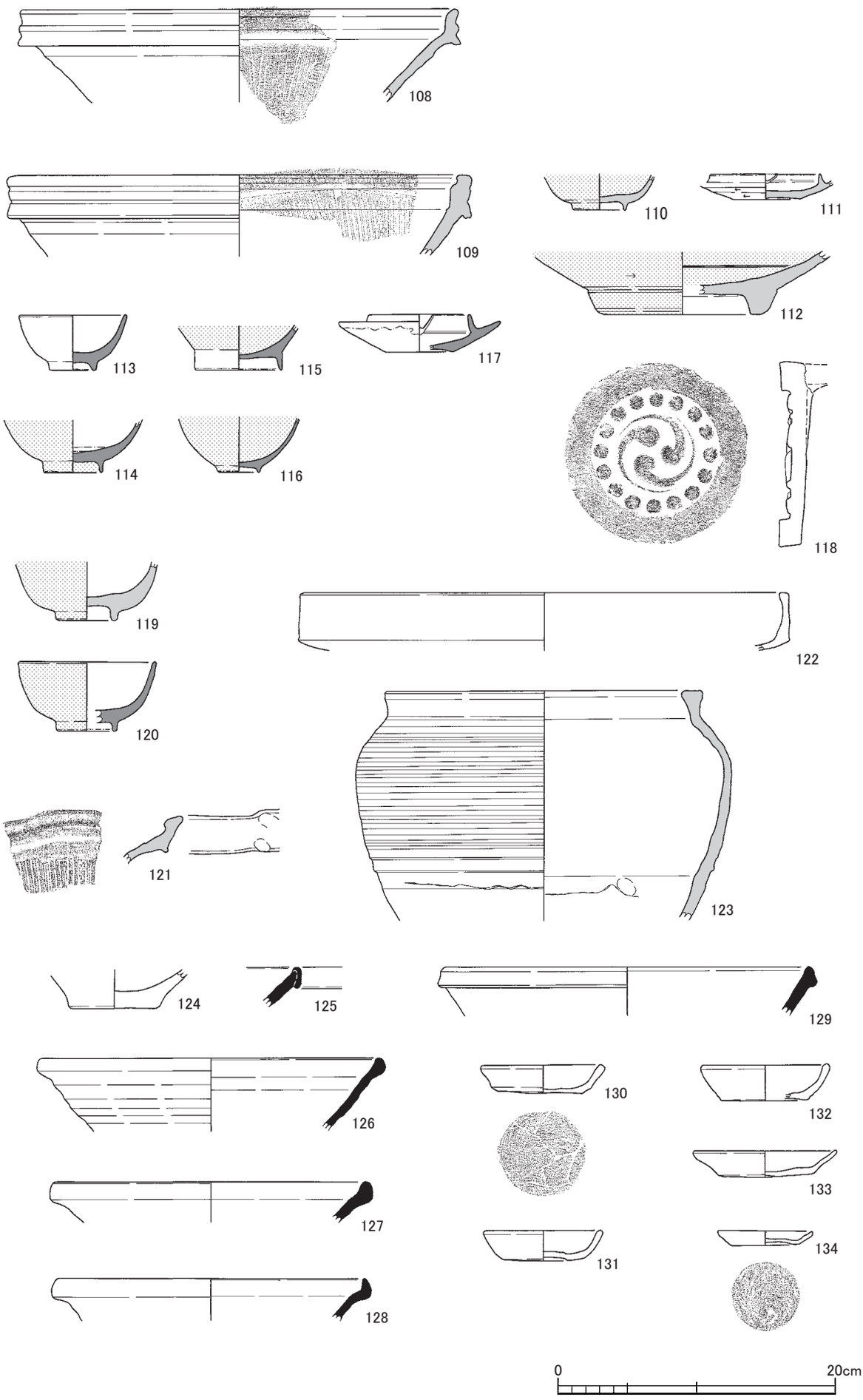

73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
0
20cm
86
87
88
0
10cm



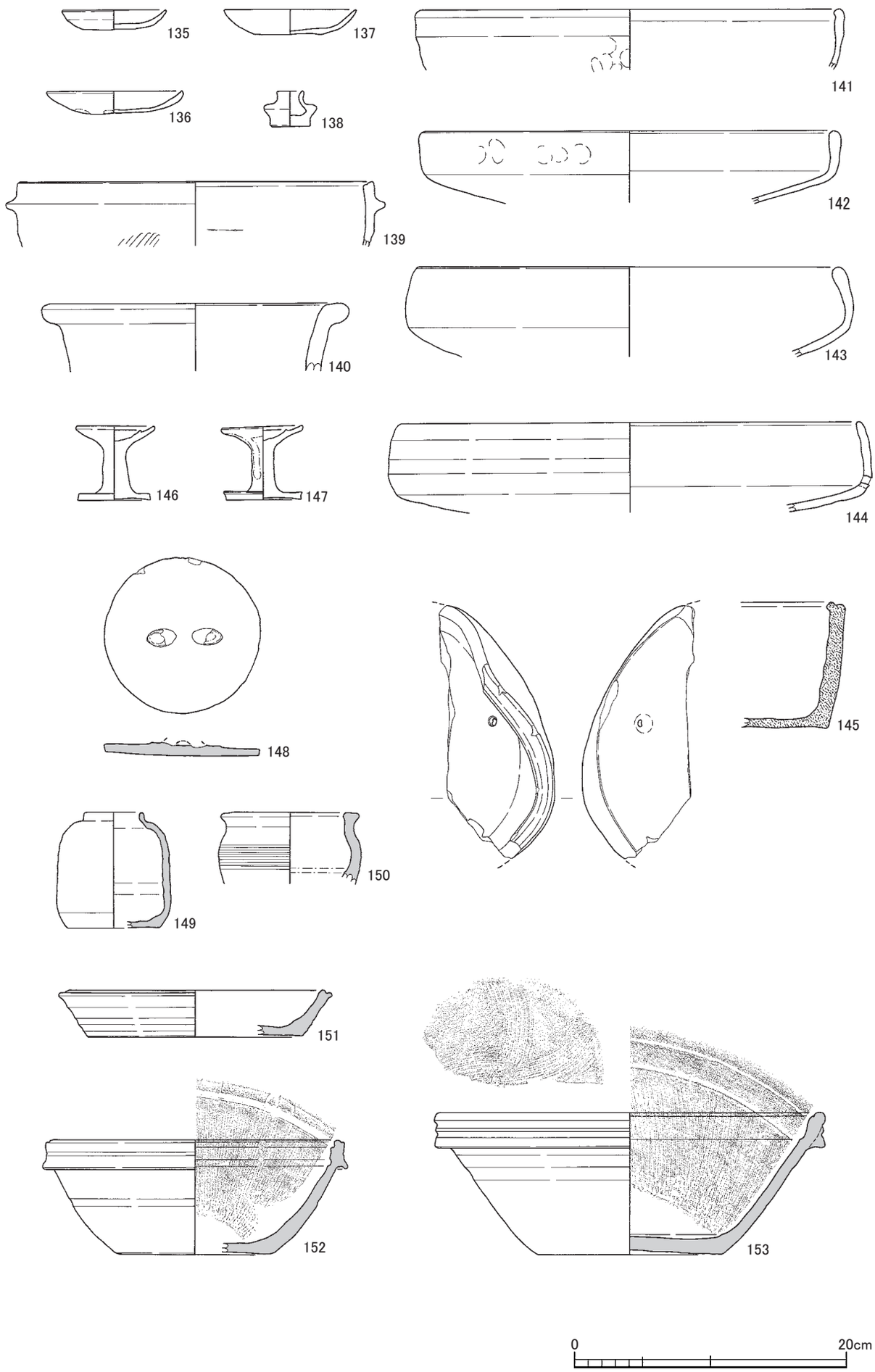
出土土器⑩



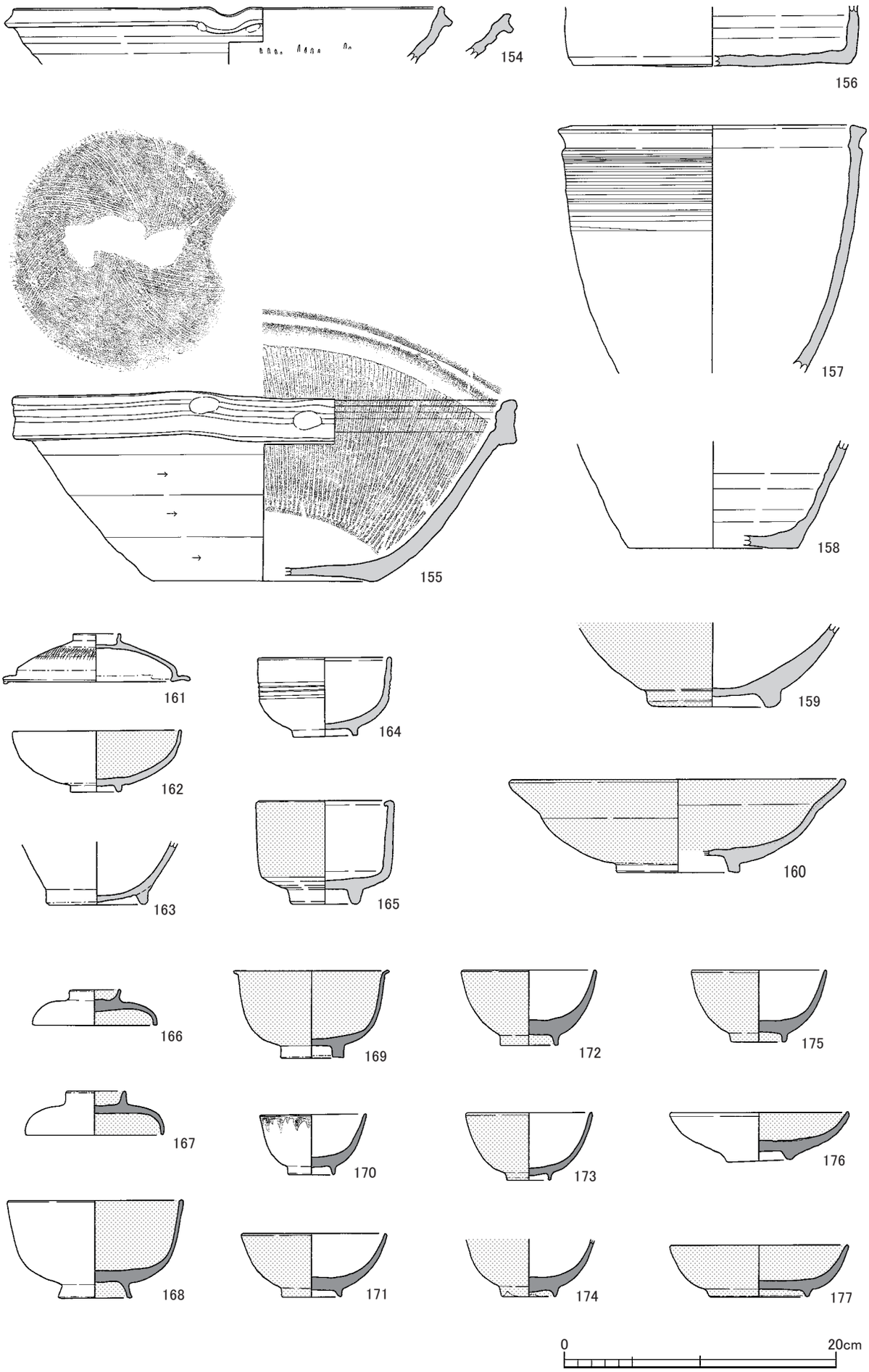
出土土器⑪


108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
0
20cm

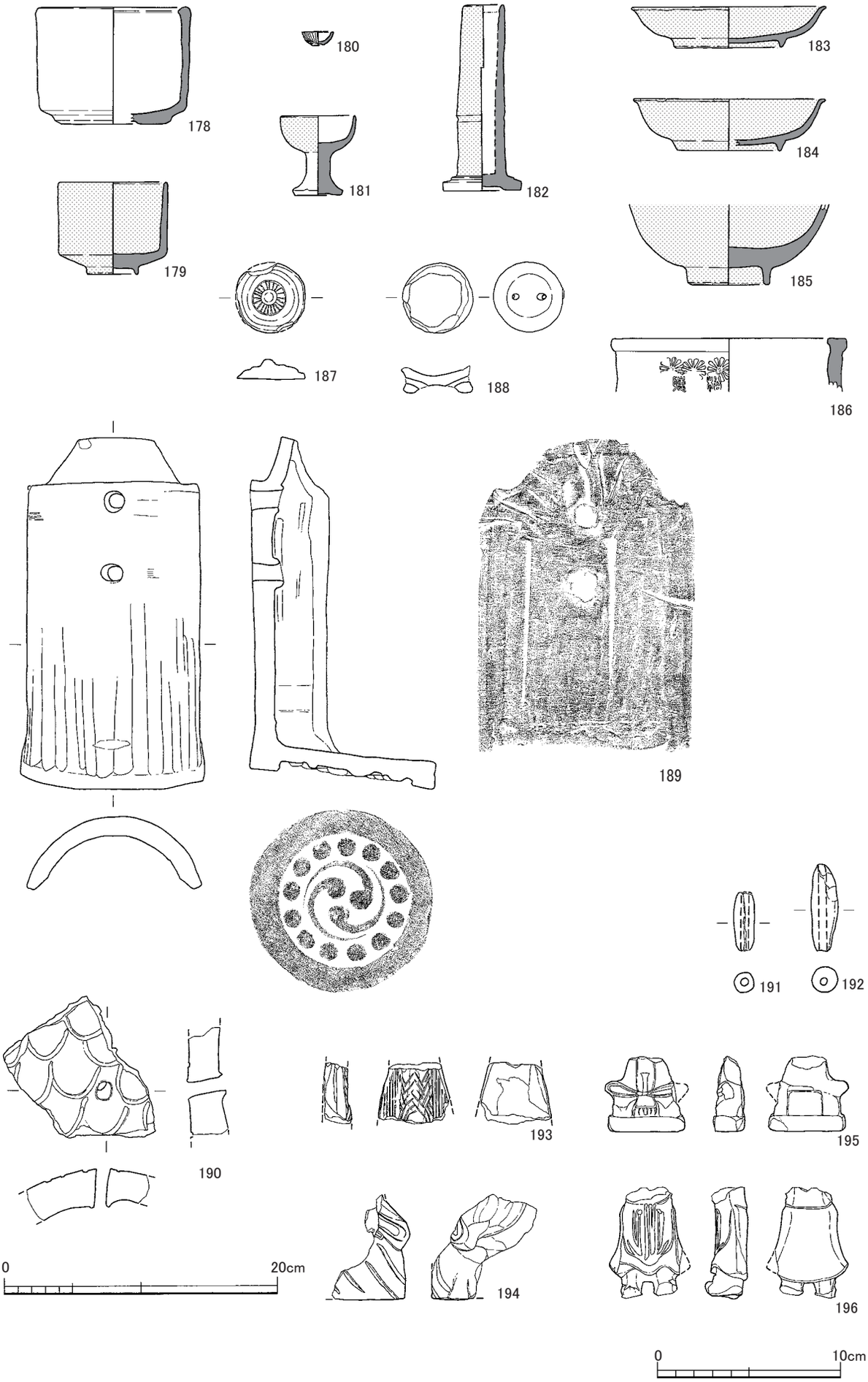
出土土器⑫


135
137
141
136
138
142
139
143
140
146
147
144
145
148
149
150
151
152
153
0
20cm

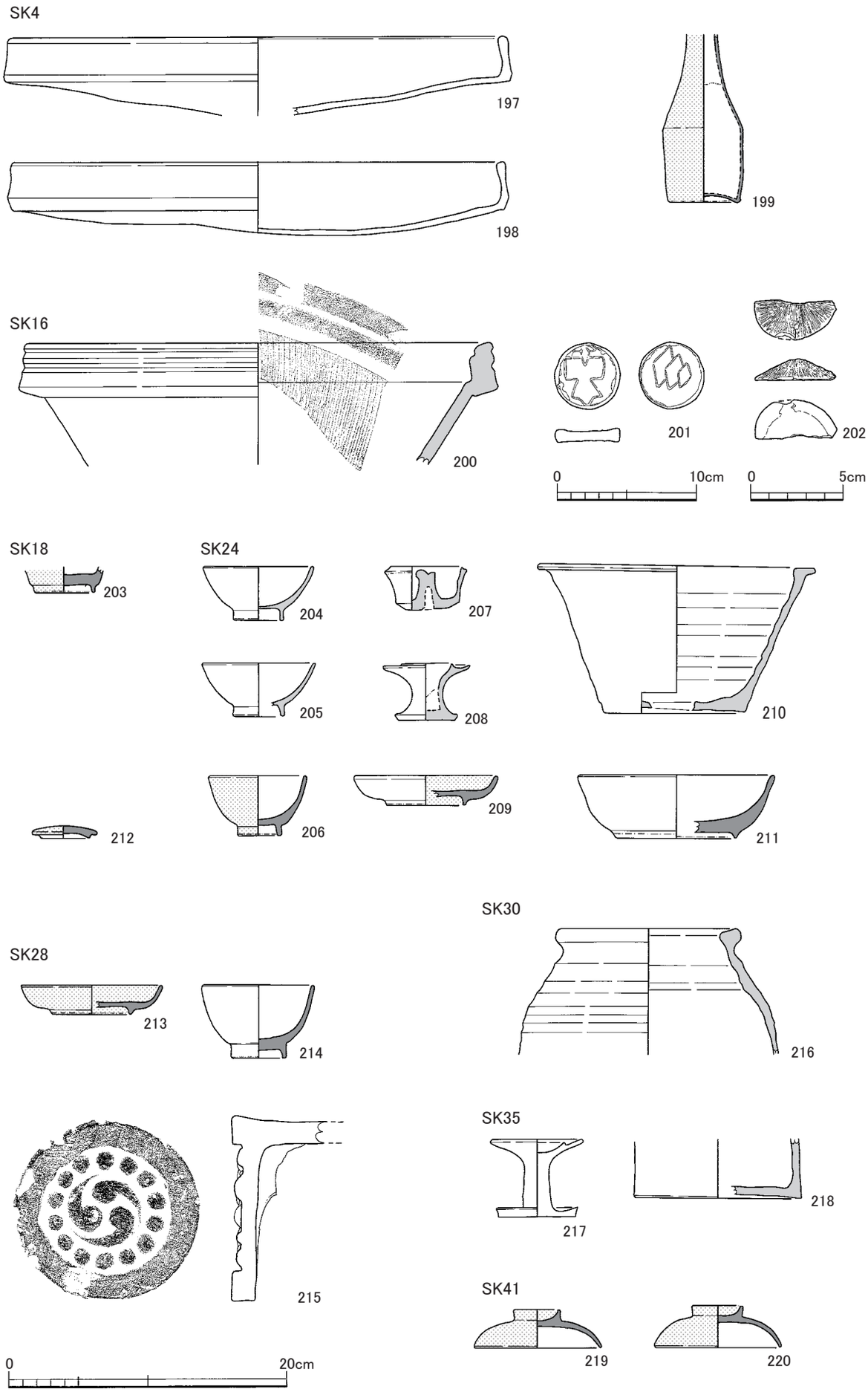
出土土器⑬


154
156
157
155
158
161
164
159
162
160
163
165
166
169
172
175
167
170
173
176
168
171
174
177
0
20cm

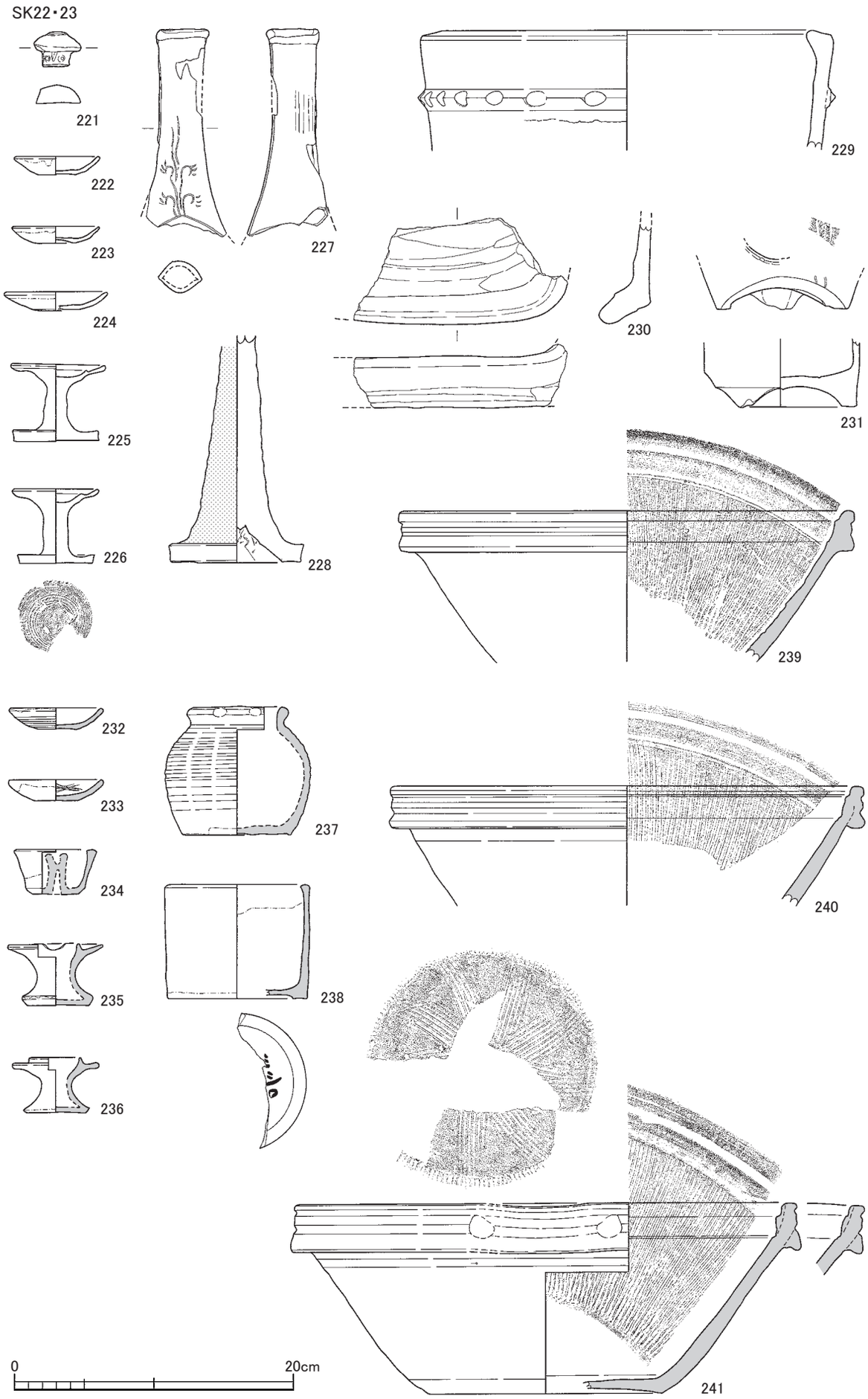
出土土器⑭


178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
0
20cm
0
10cm

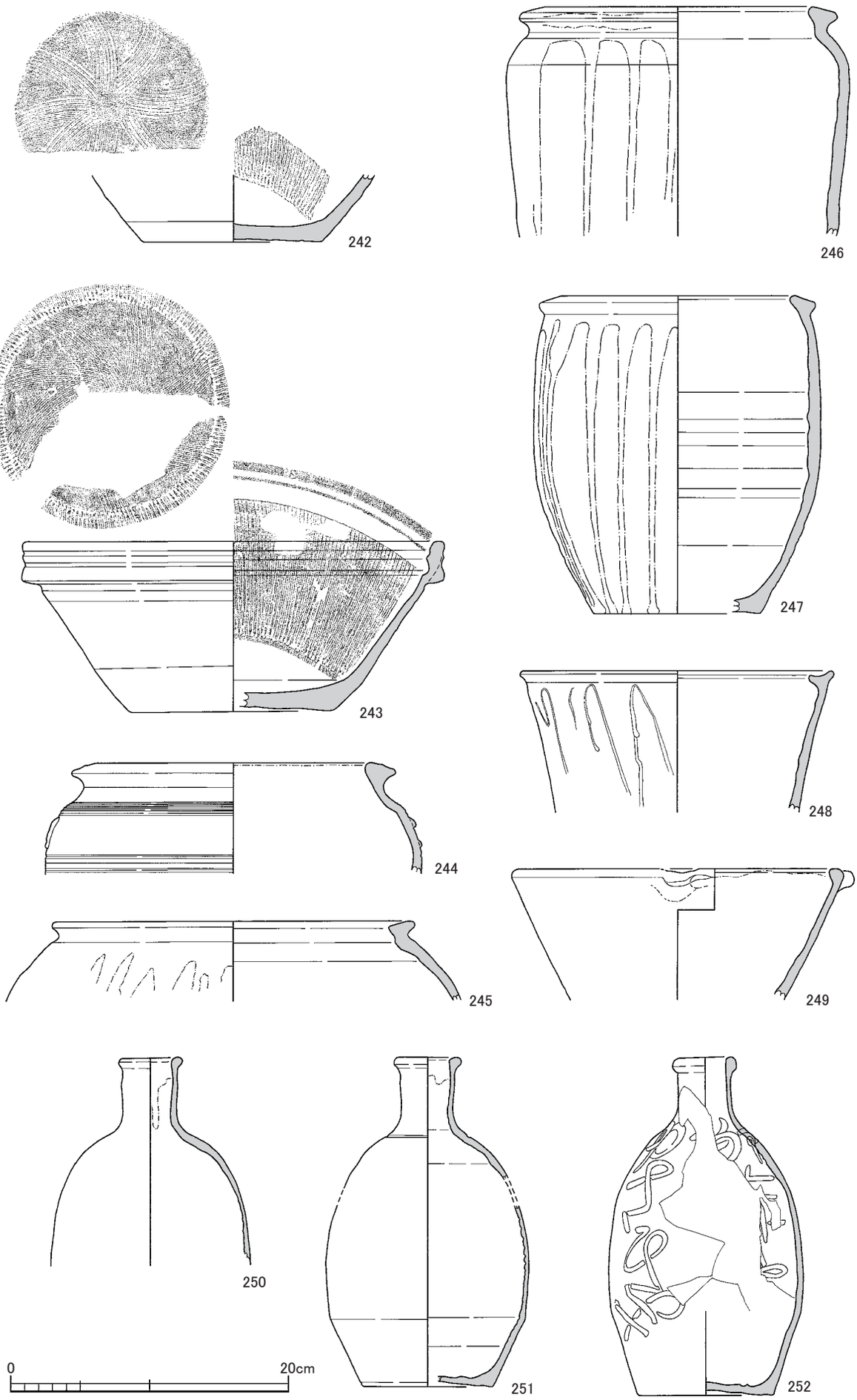
出土土器⑮


SK4
197
198
199
SK16
200
201
202
0
10cm
0
5cm
SK18
203
SK24
204
205
206
207
208
209
210
211
212
SK28
213
214
215
0
20cm
SK30
216
SK35
217
218
SK41
219
220

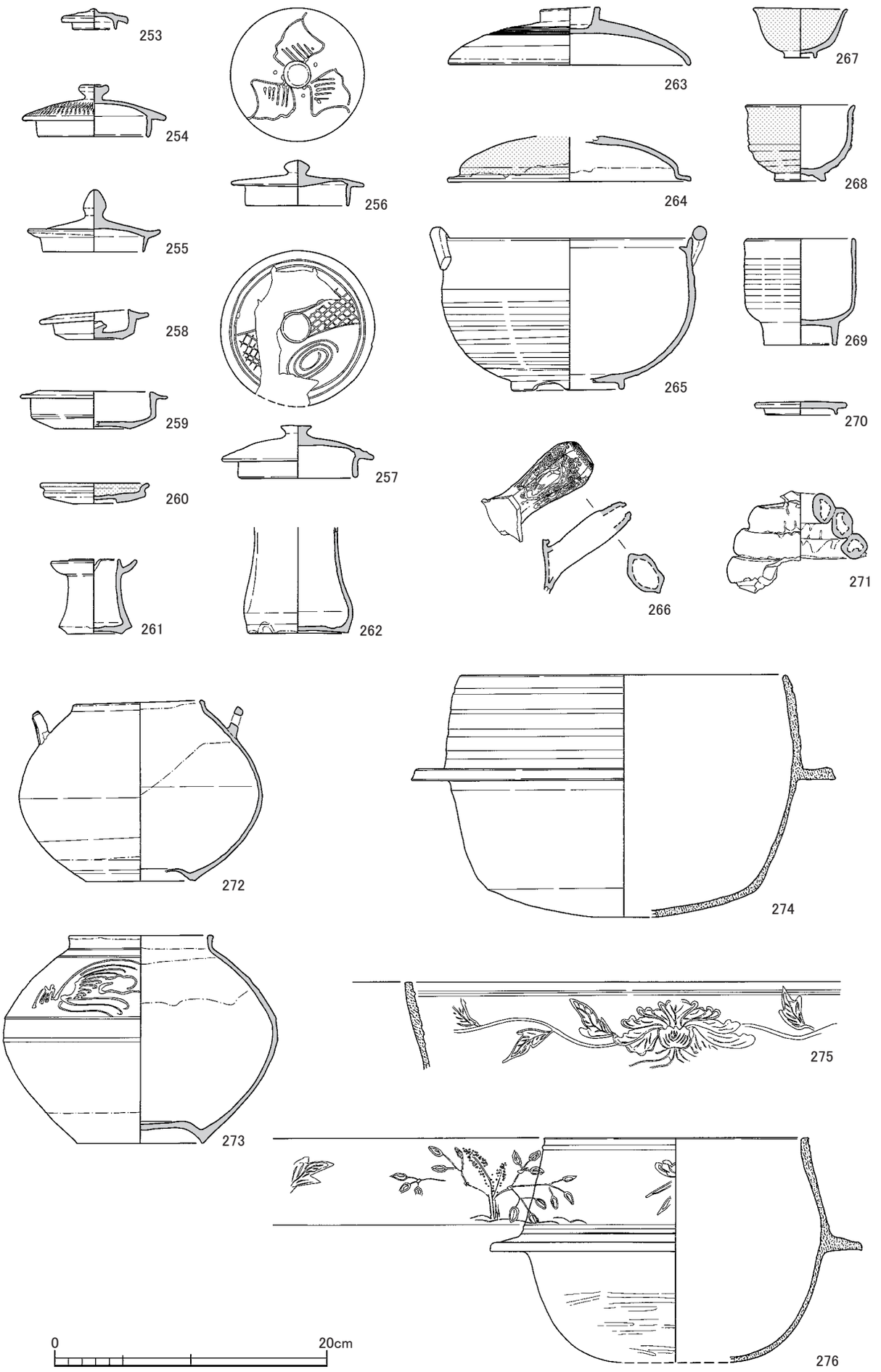
出土土器⑯


SK22・23
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
0
20cm

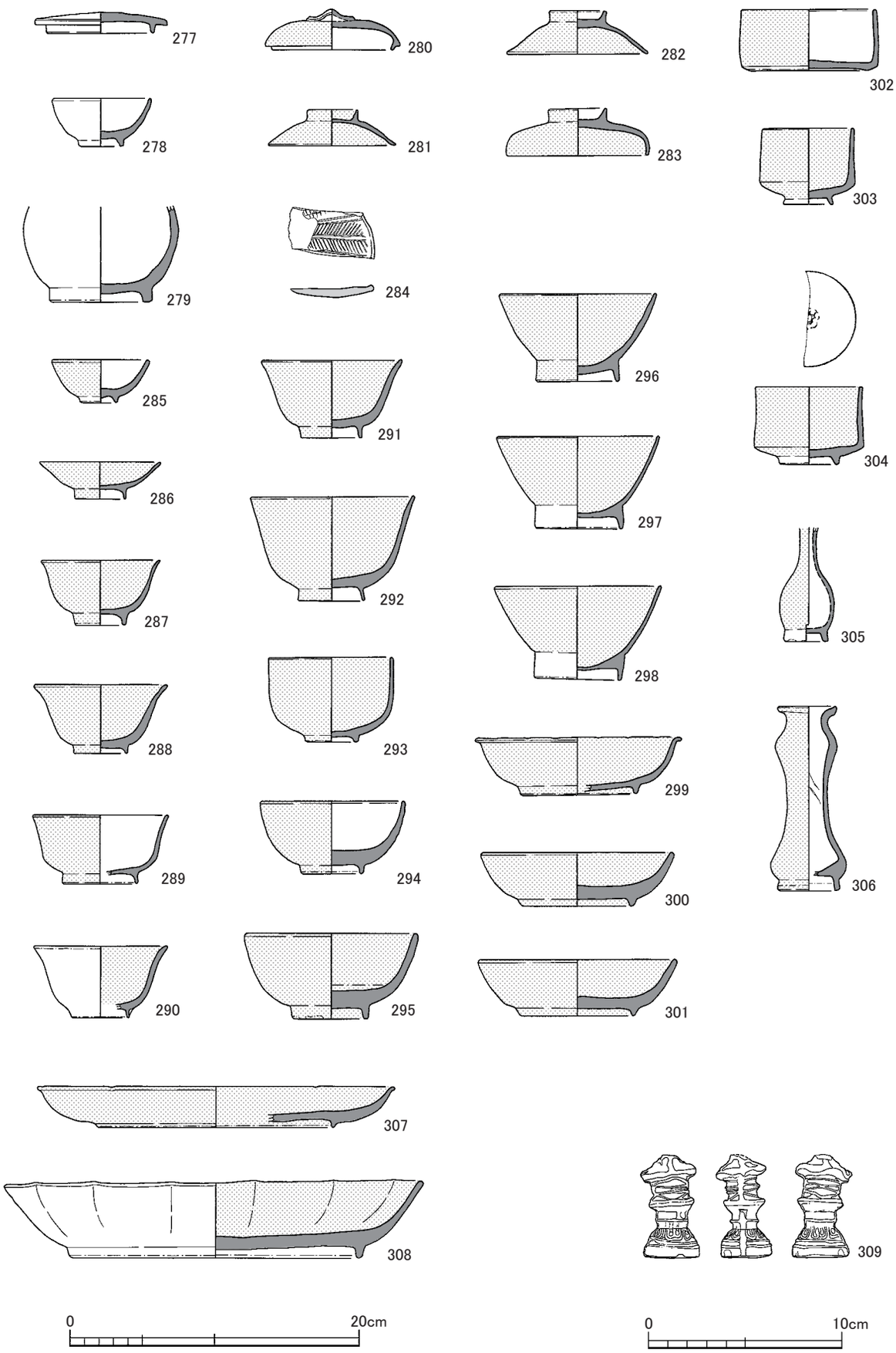
出土土器⑰



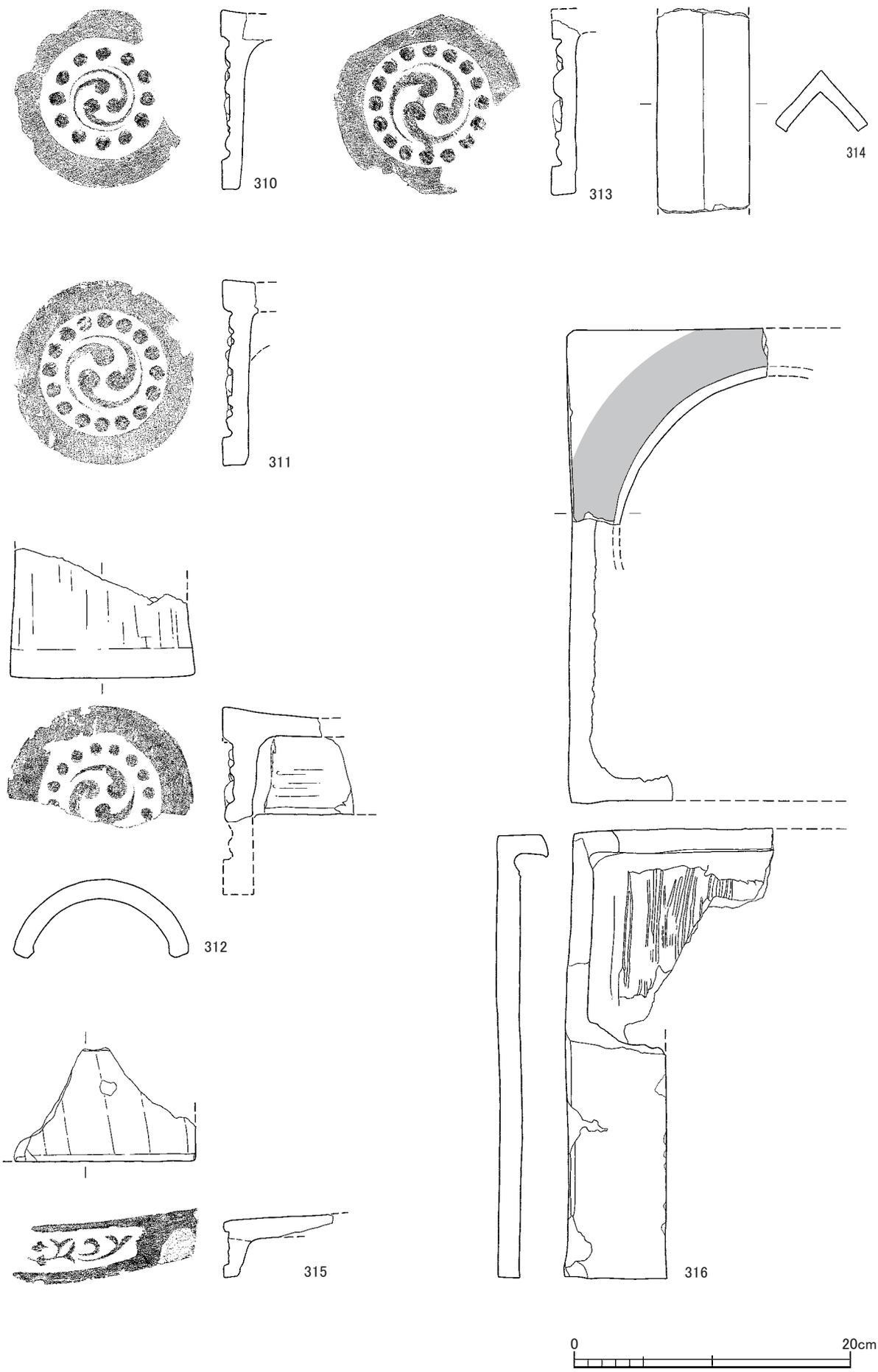
出土土器⑱


253
254
255
258
259
260
261
256
257
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
0
20cm

出土土器⑲

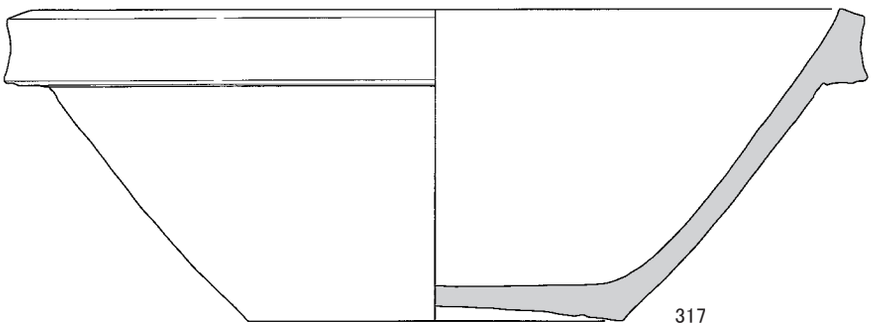

277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
0
20cm
0
10cm

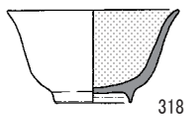
出土土器⑳



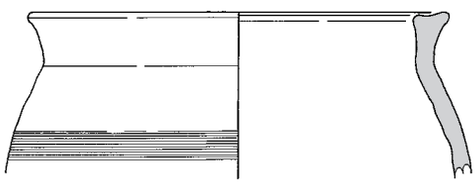
出土土器㉑

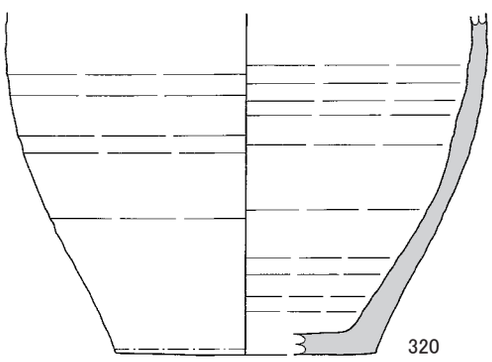
SE15



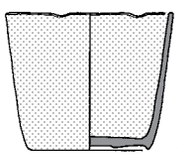


SD12

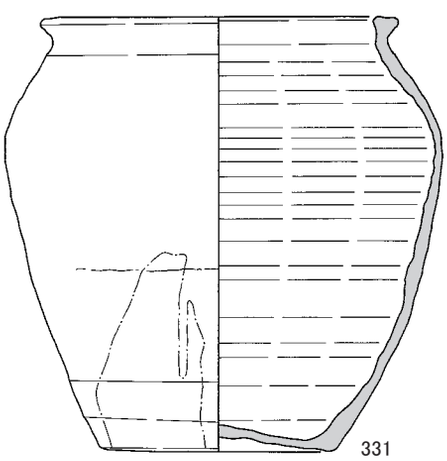




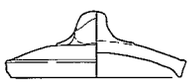
SD27

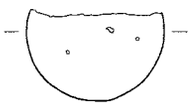


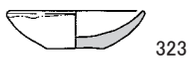
SD33

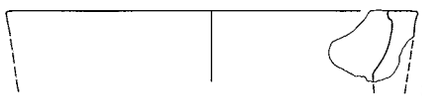


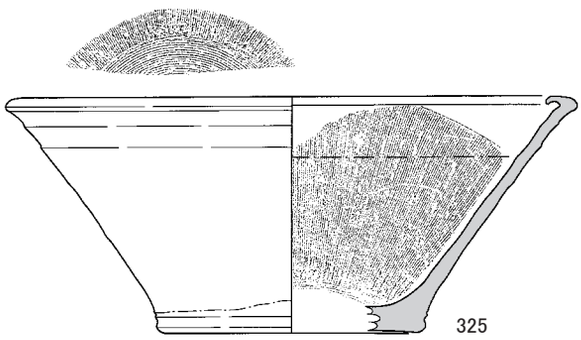
SD25

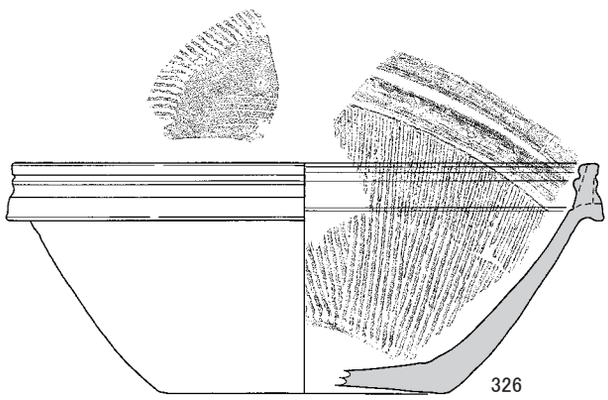


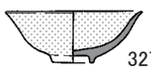


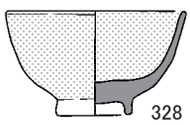


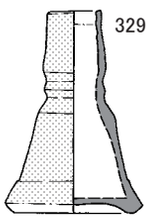


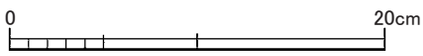




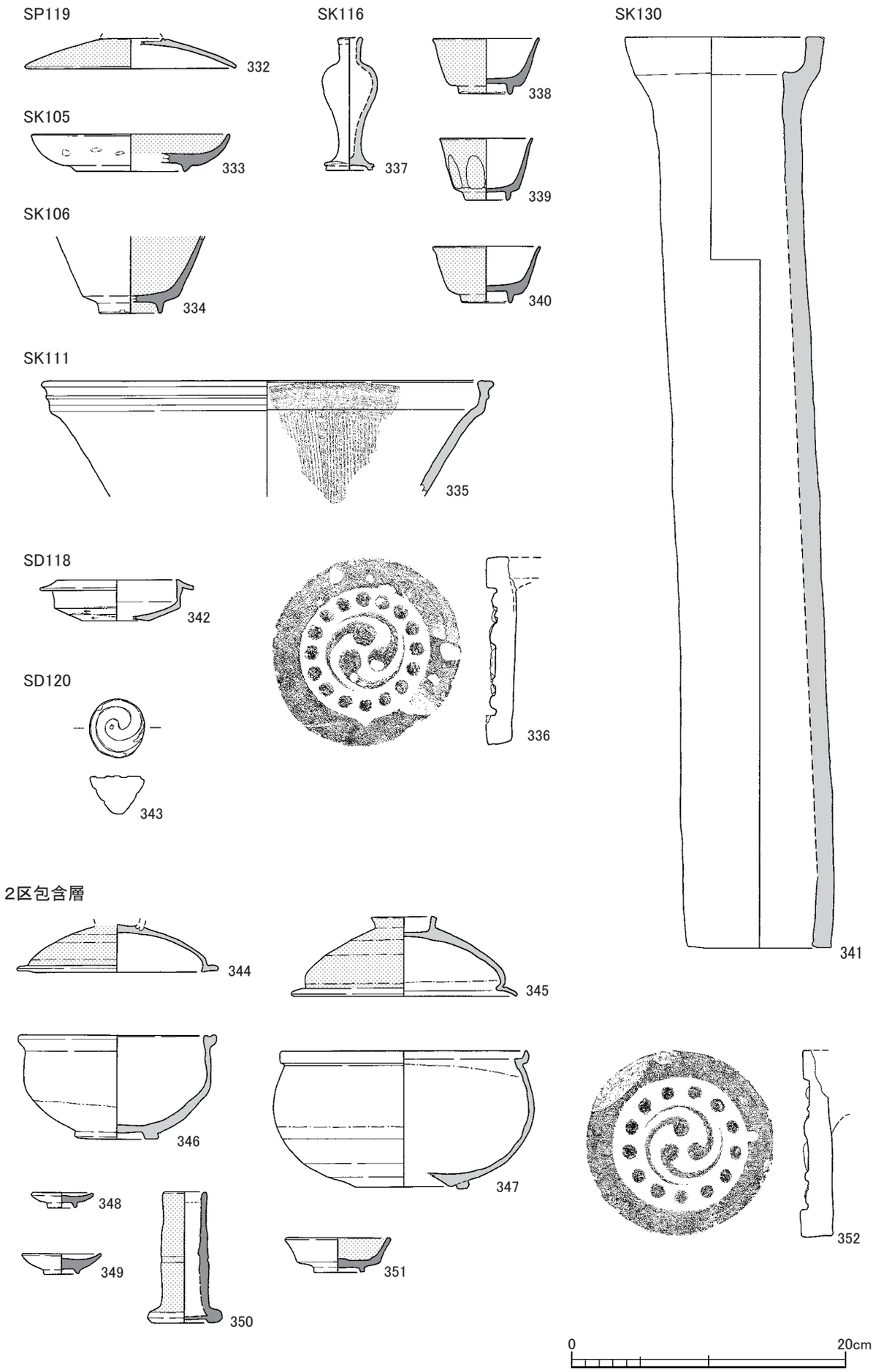






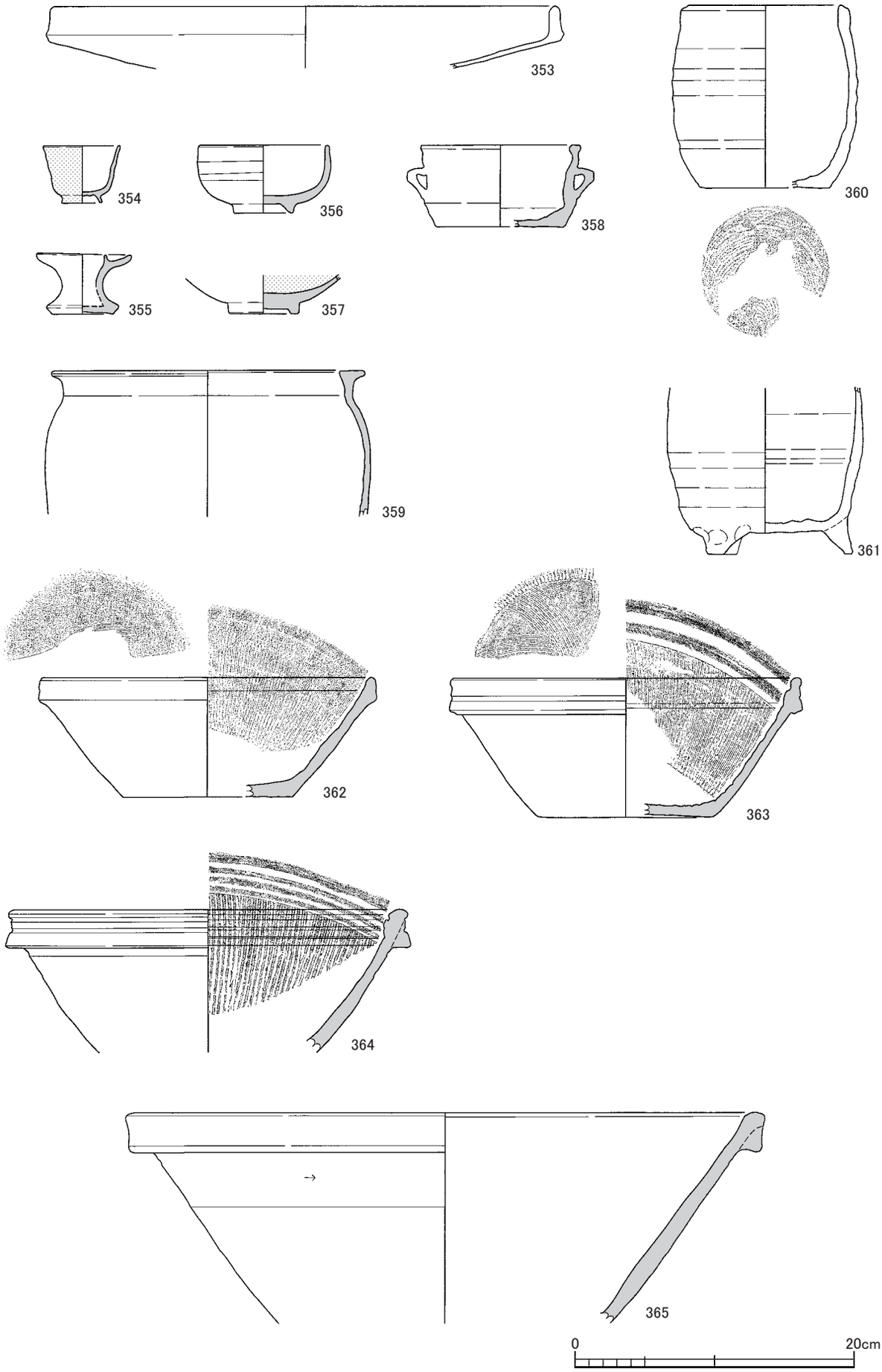


出土土器㉒

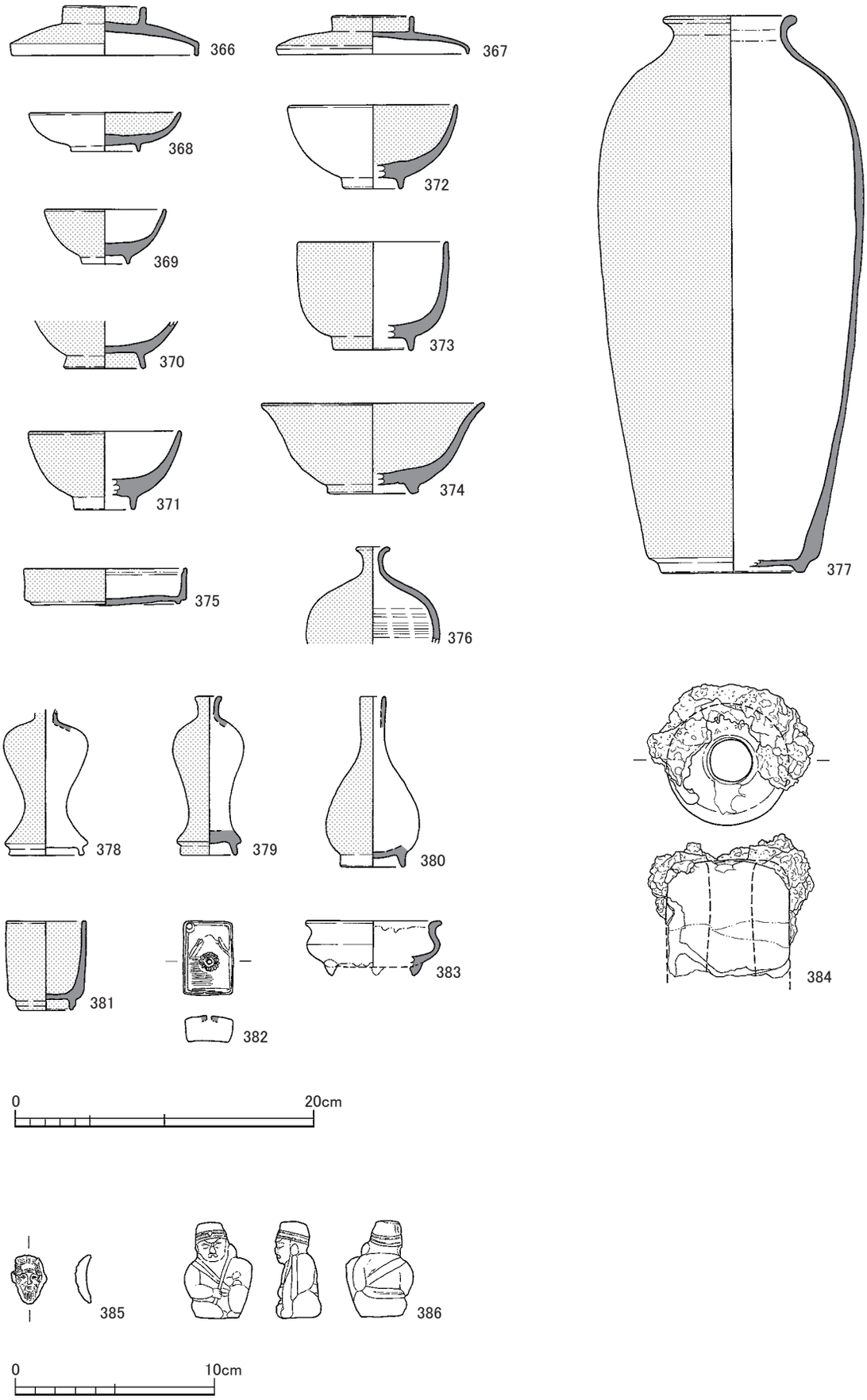

SP119
332
SK105
333
SK106
334
SK116
337
338
339
340
SK130
341
SK111
335
SD118
342
336
SD120
343
2区包含層
344
345
346
347
348
349
350
351
352
0
20cm

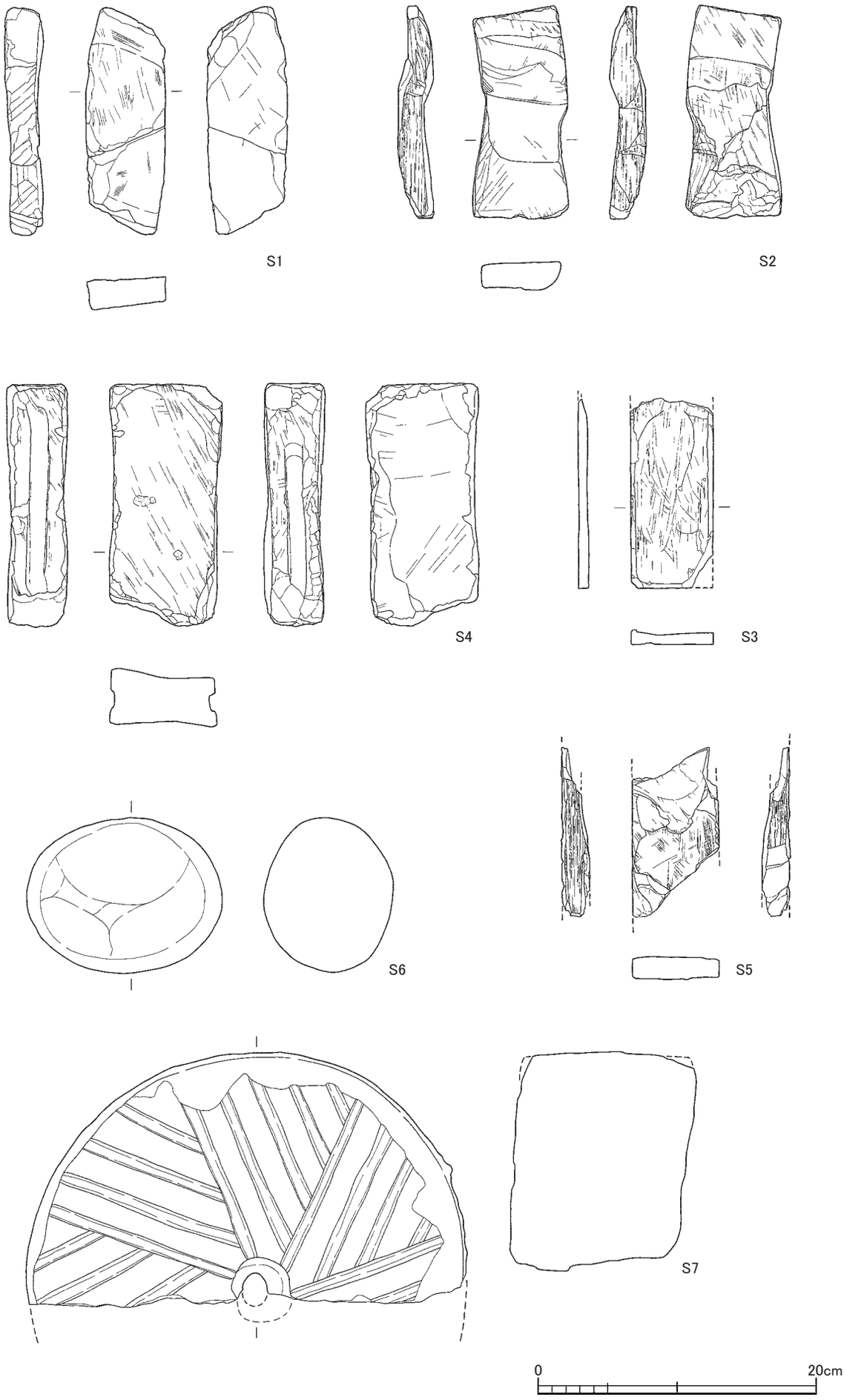
出土土器㉓

1 区包含層

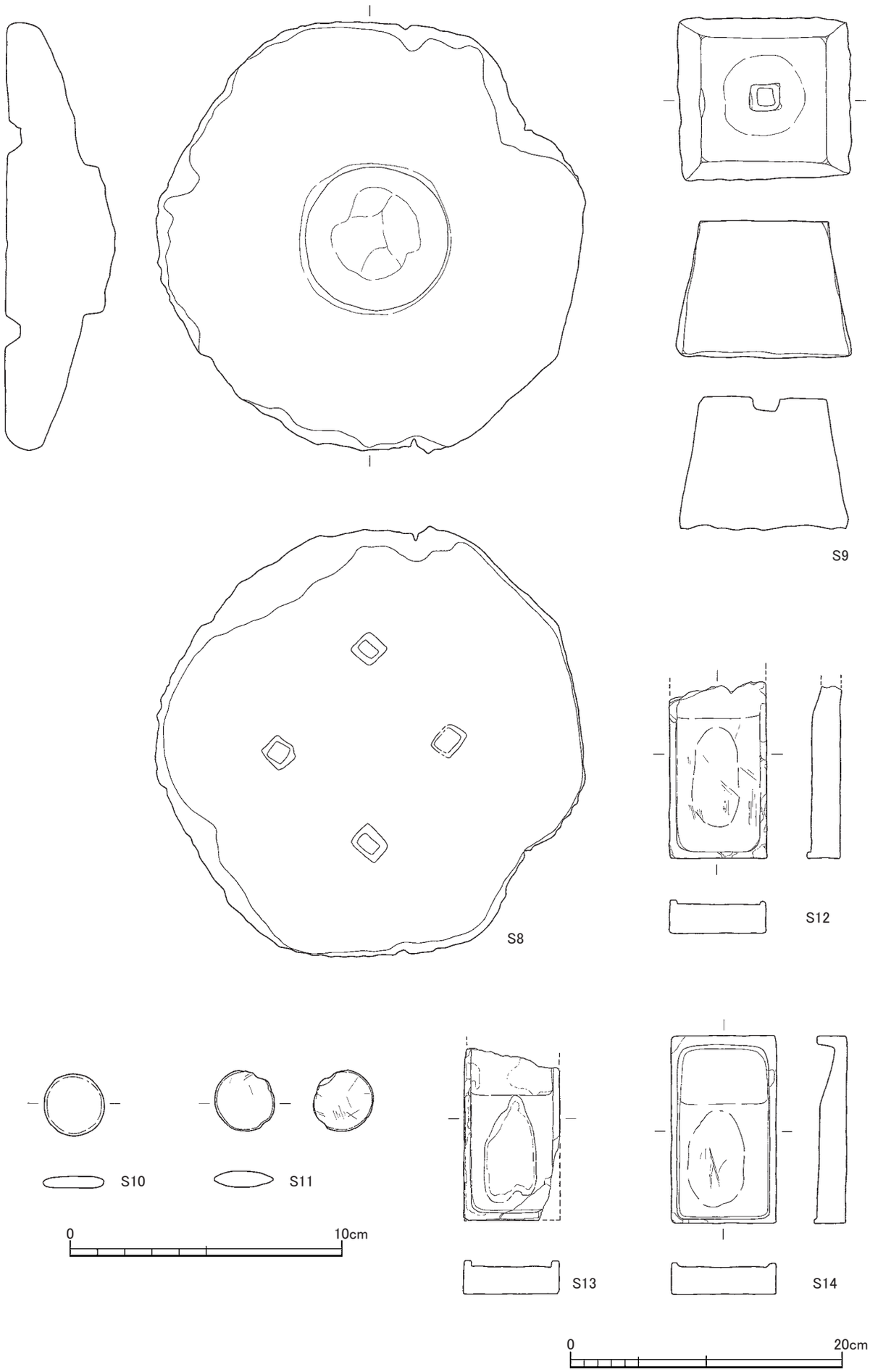


出土土器㉔

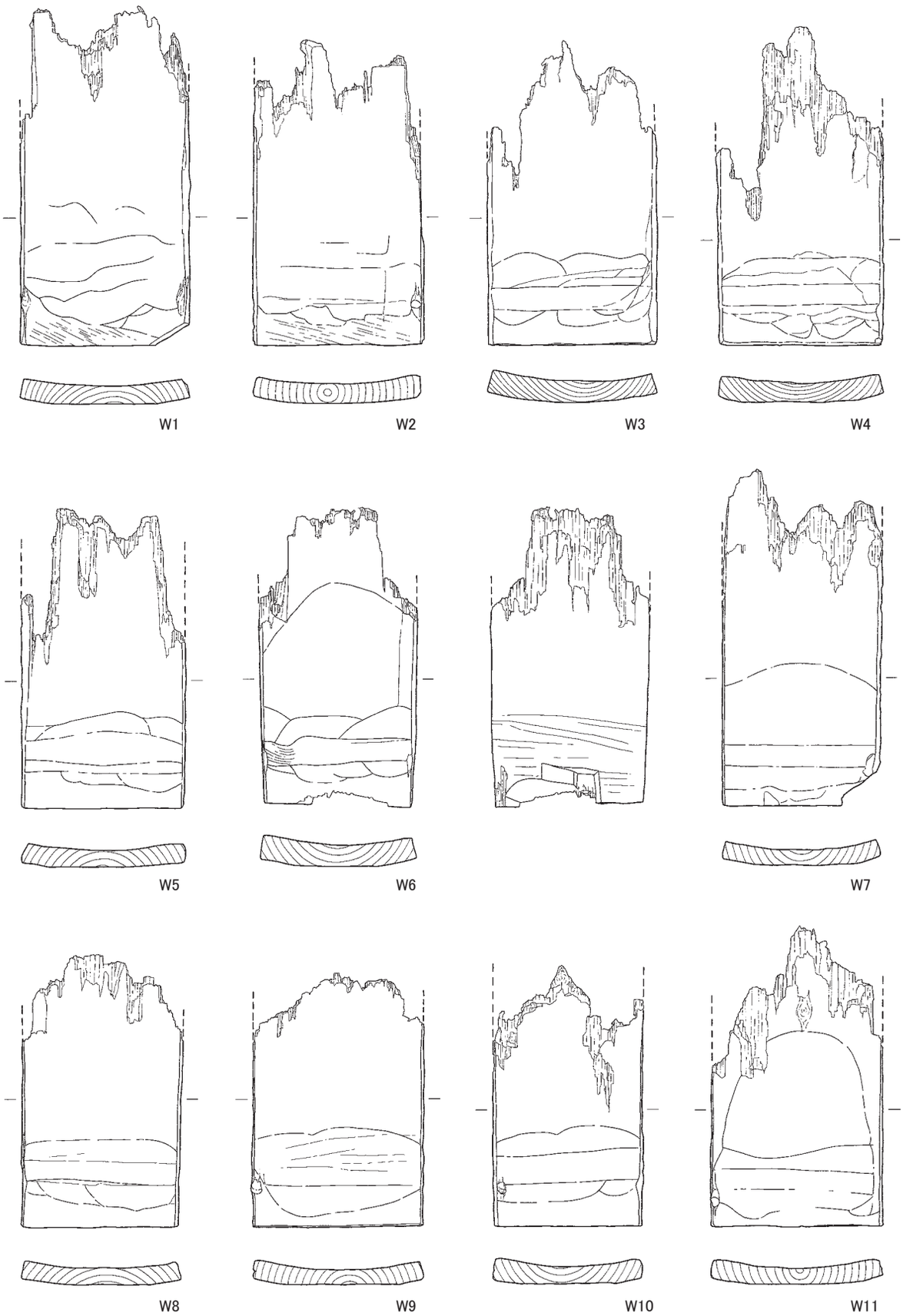

366
367
368
372
369
373
370
374
371
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
0
20cm
385
386
0
10cm



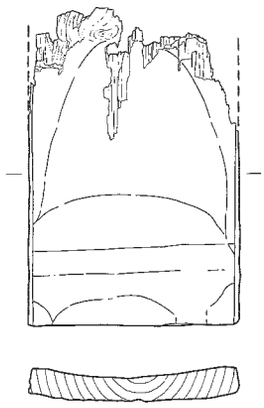
出土石器①



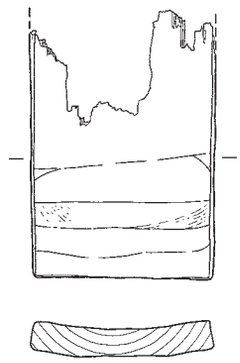
出土石器②



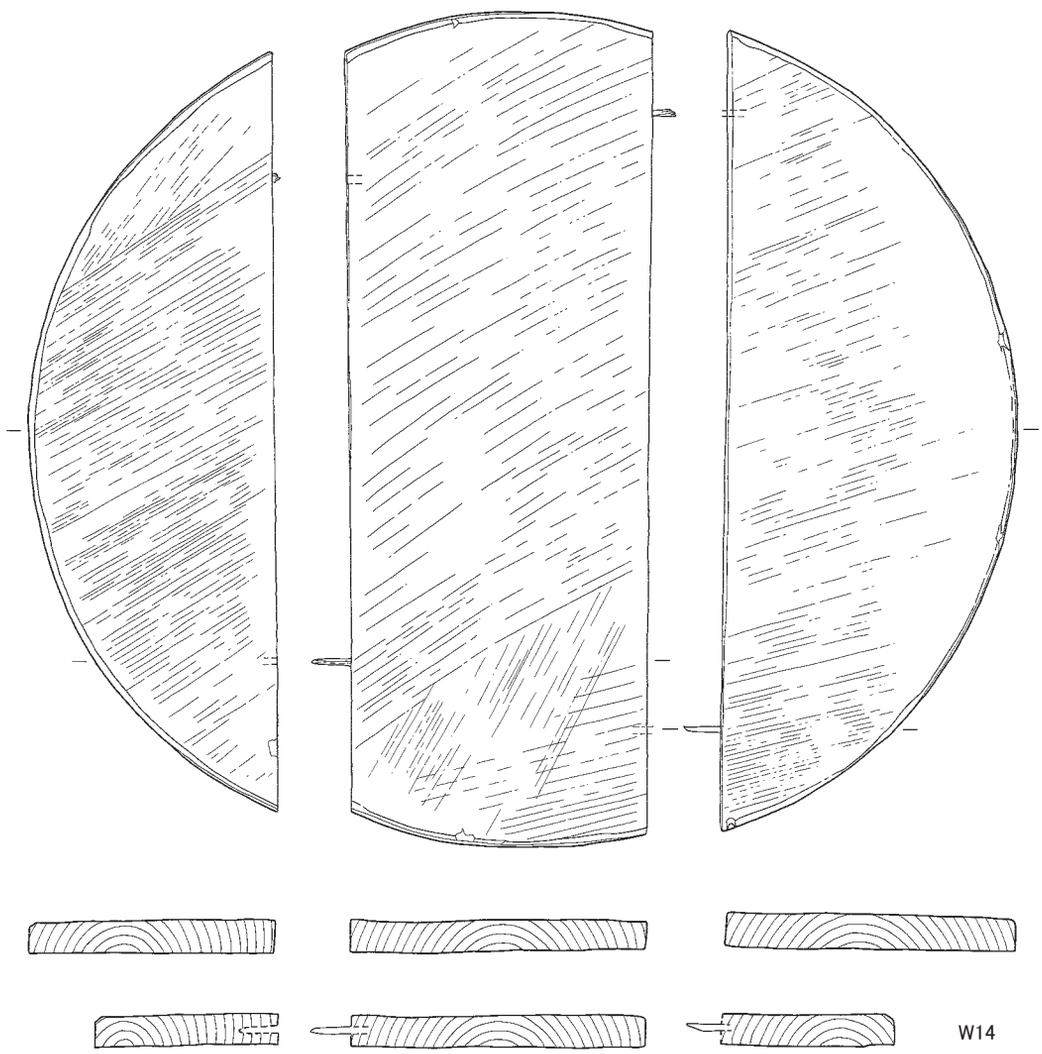
出土木器①



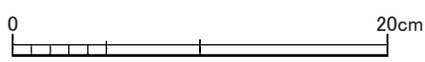
W12



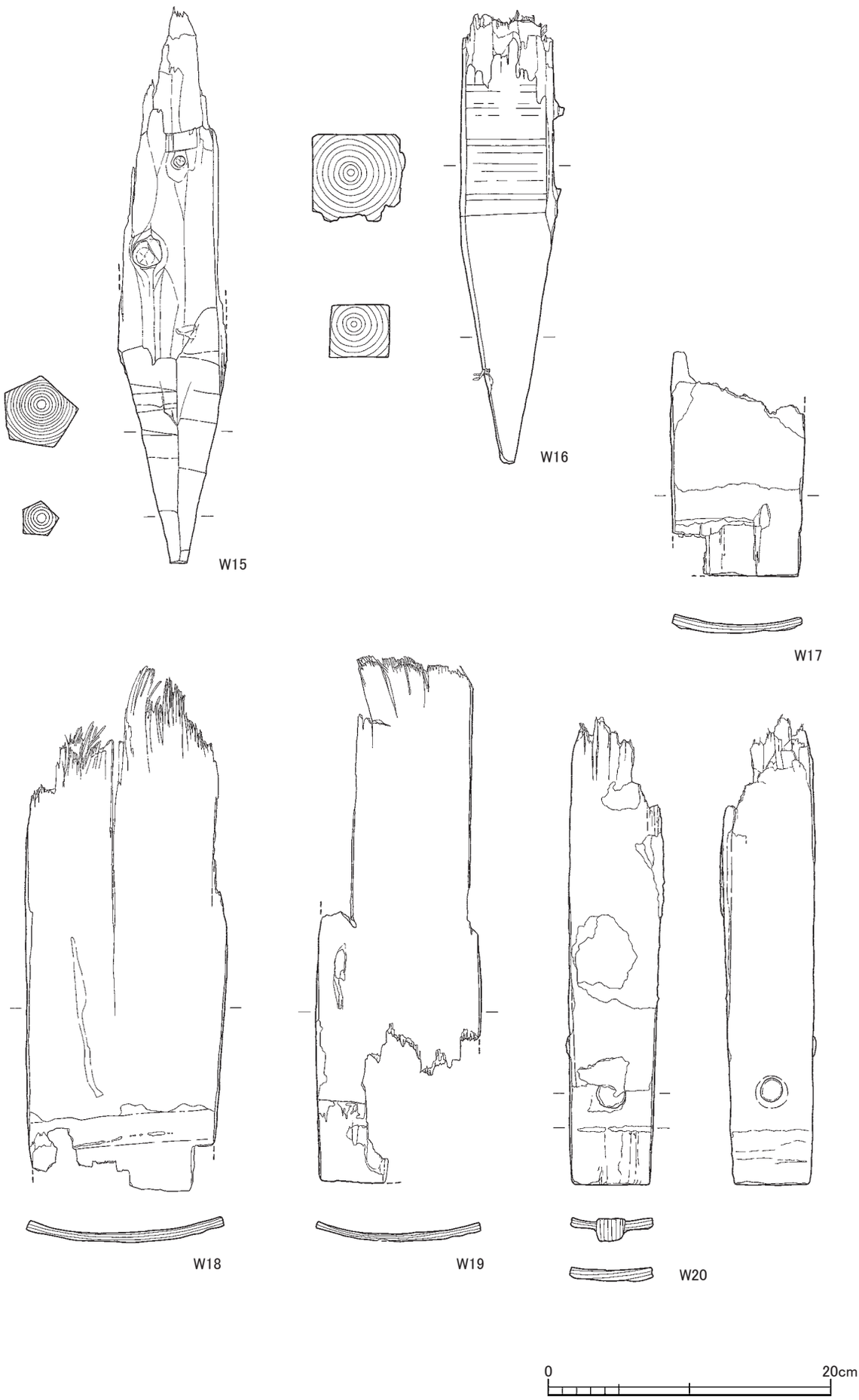
W13



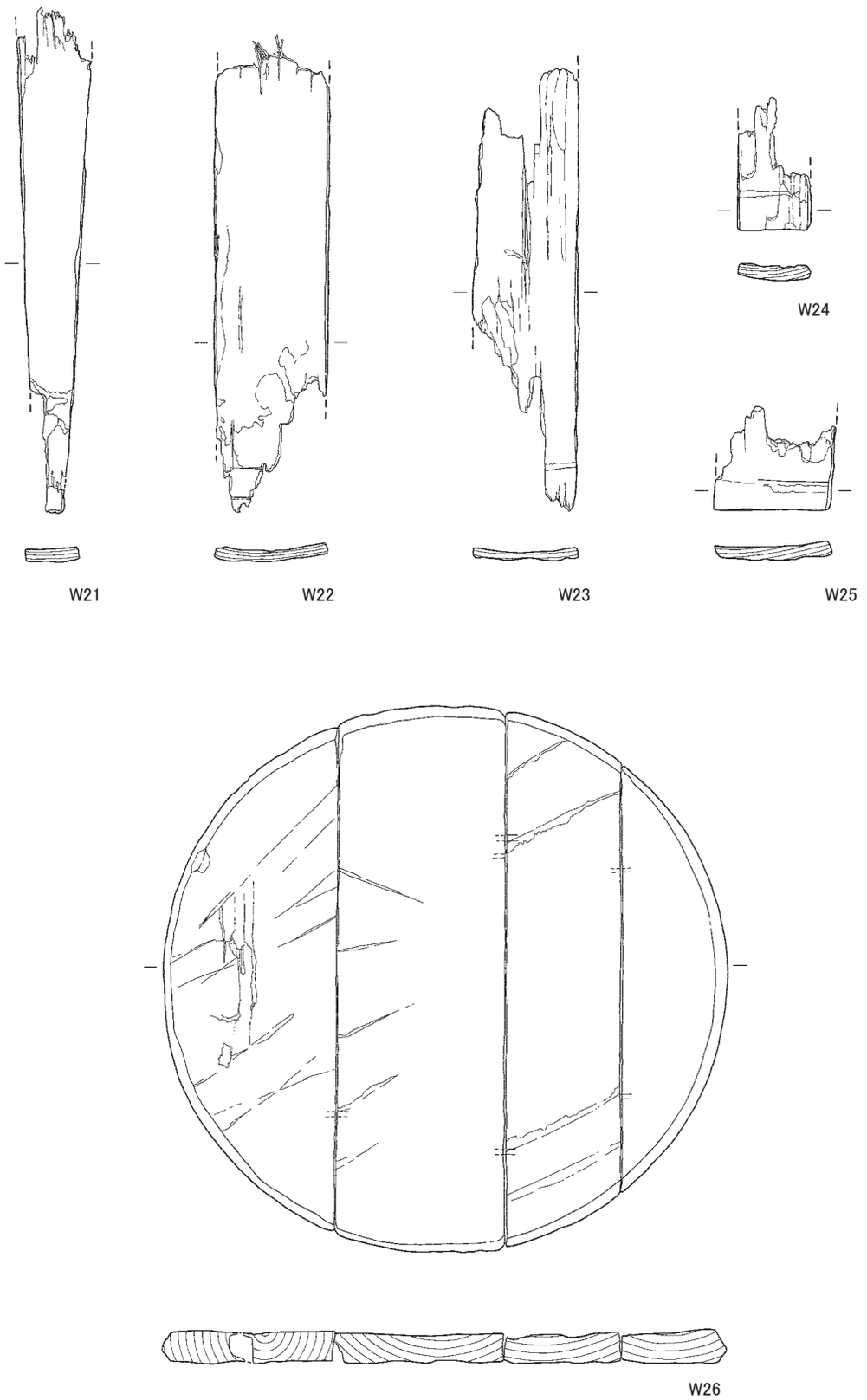
W14



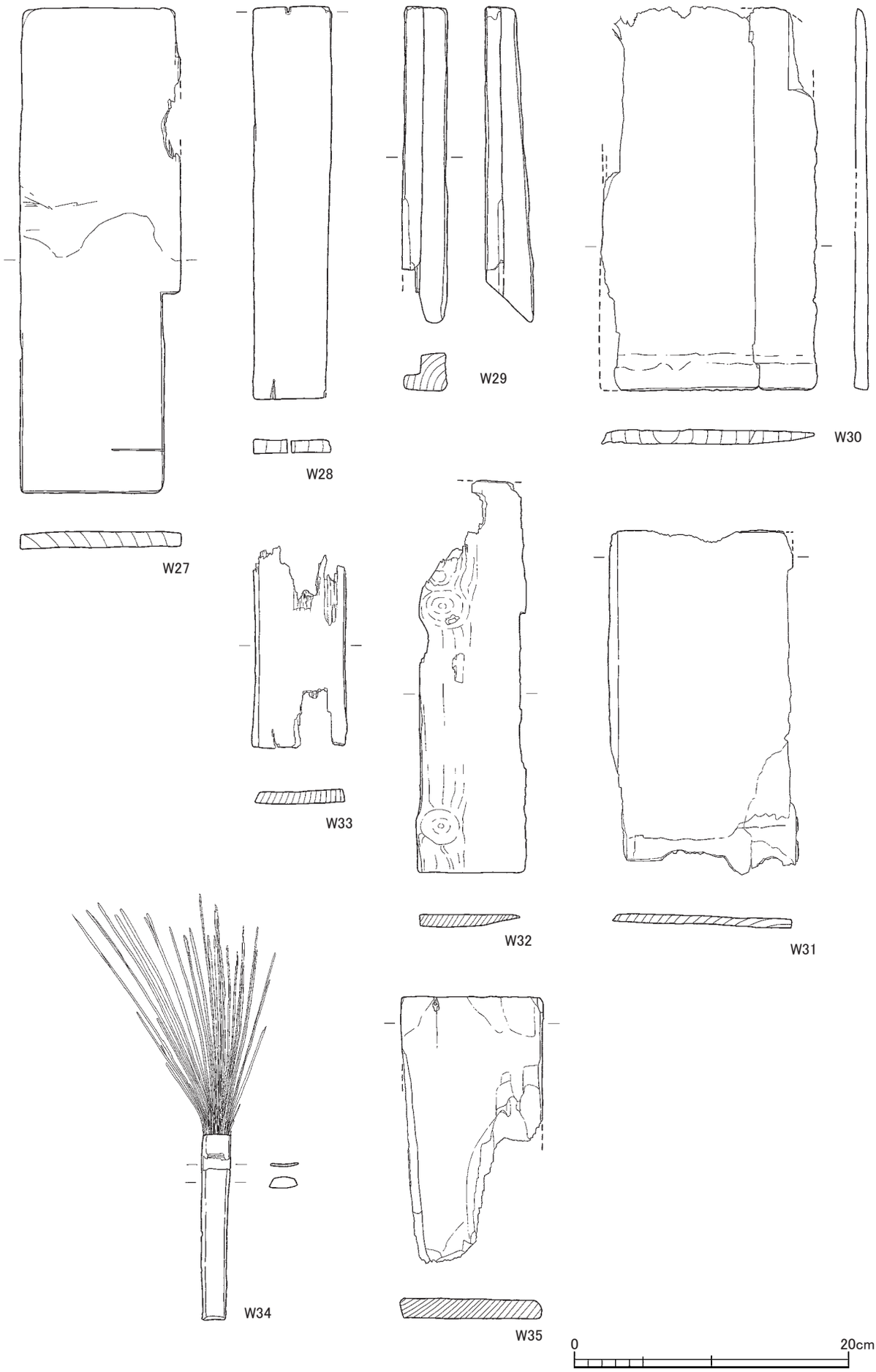
出土木器③



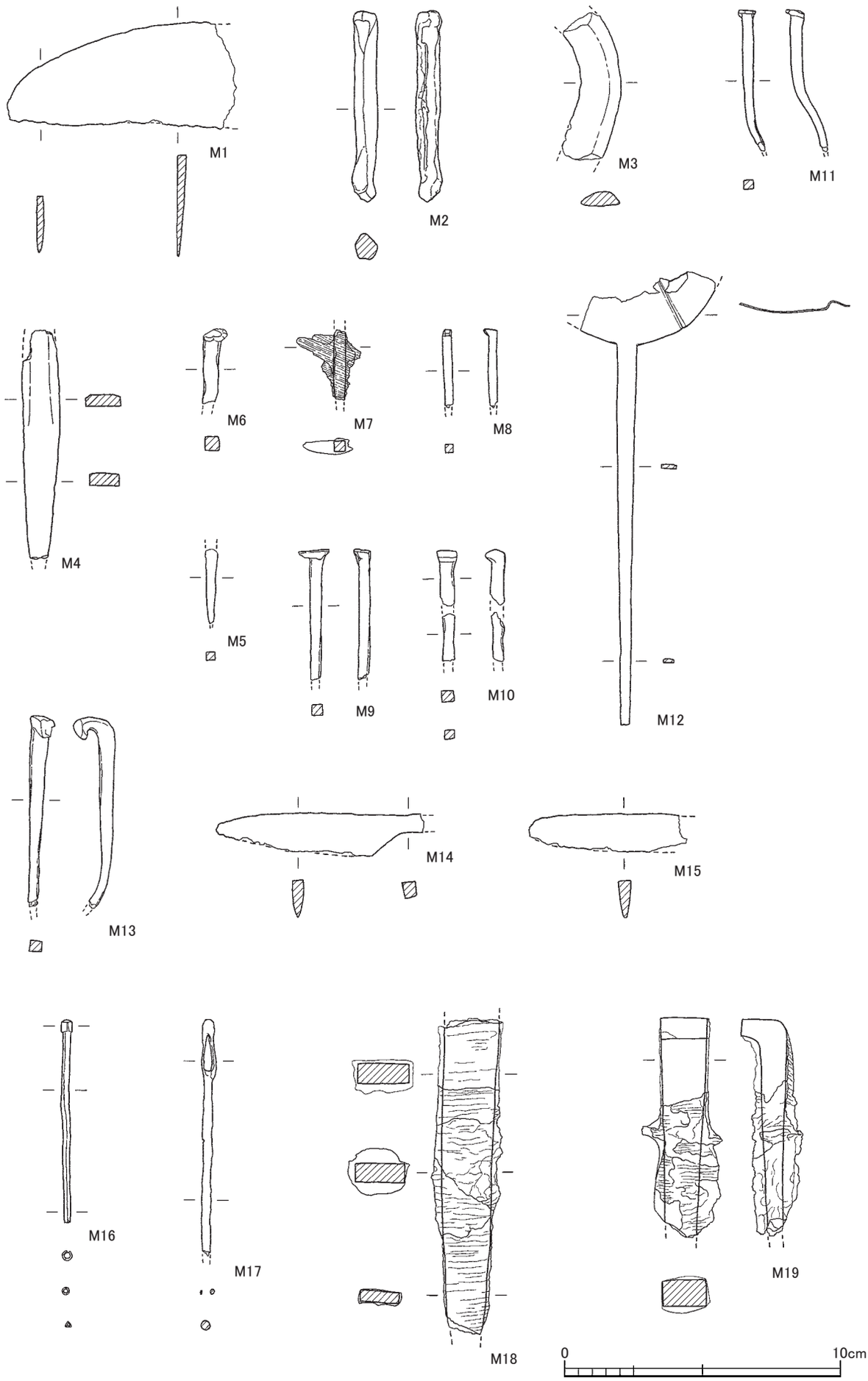
出土木器④



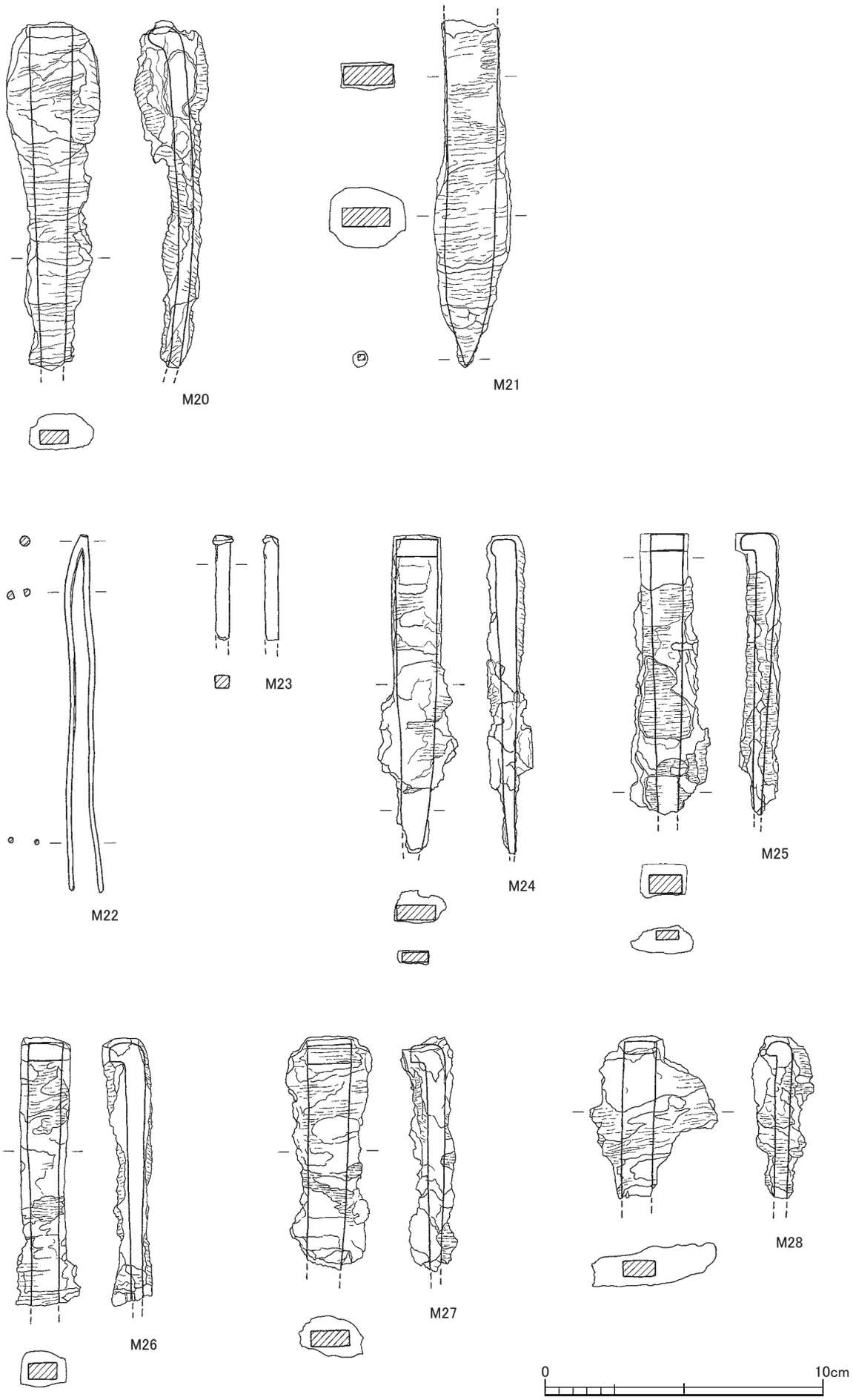
出土木器⑤



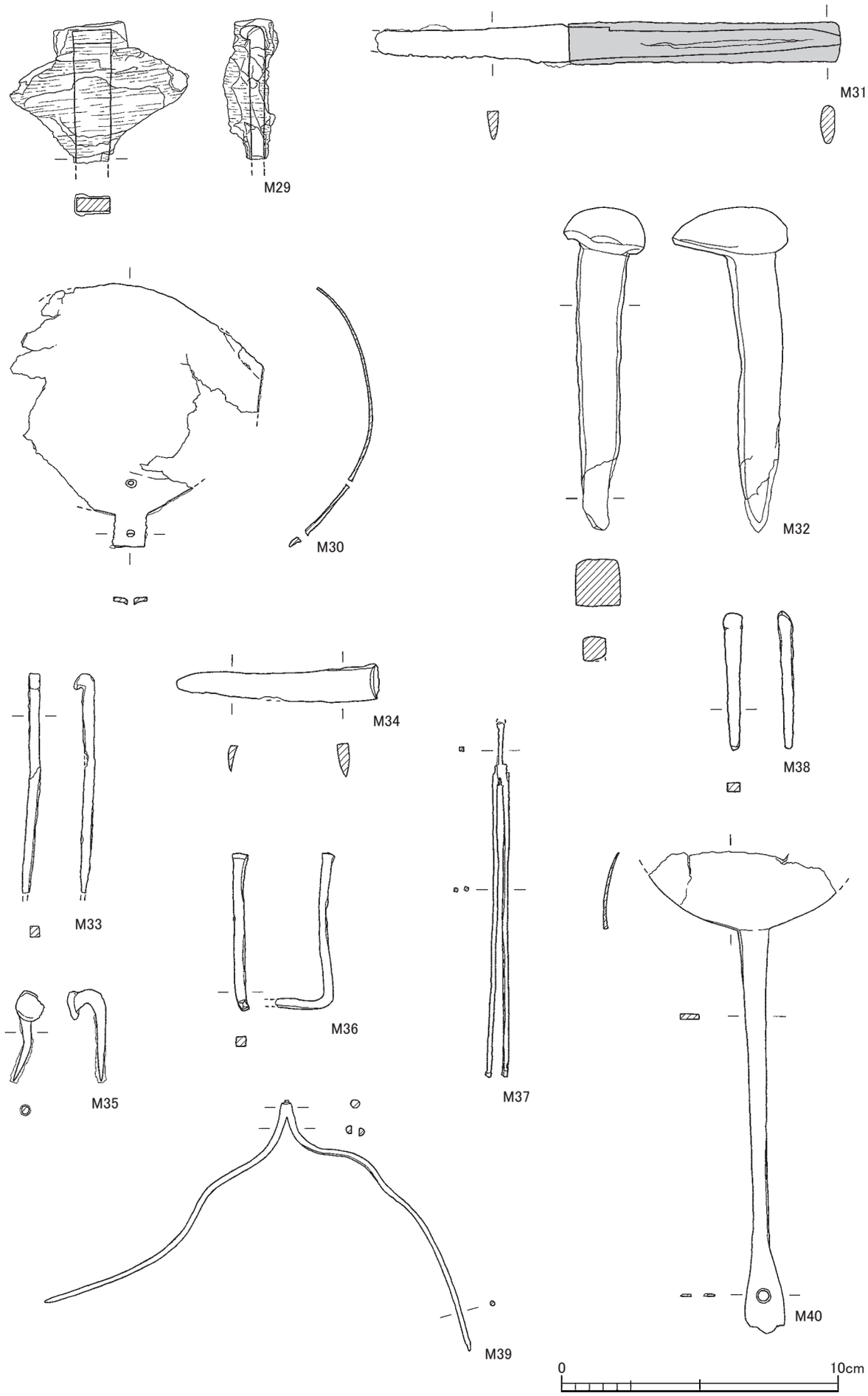
出土木器⑥


M1
M2
M3
M11
M4
M6
M7
M8
M12
M5
M9
M10
M13
M14
M15
M16
M17
M18
M19
0
10cm

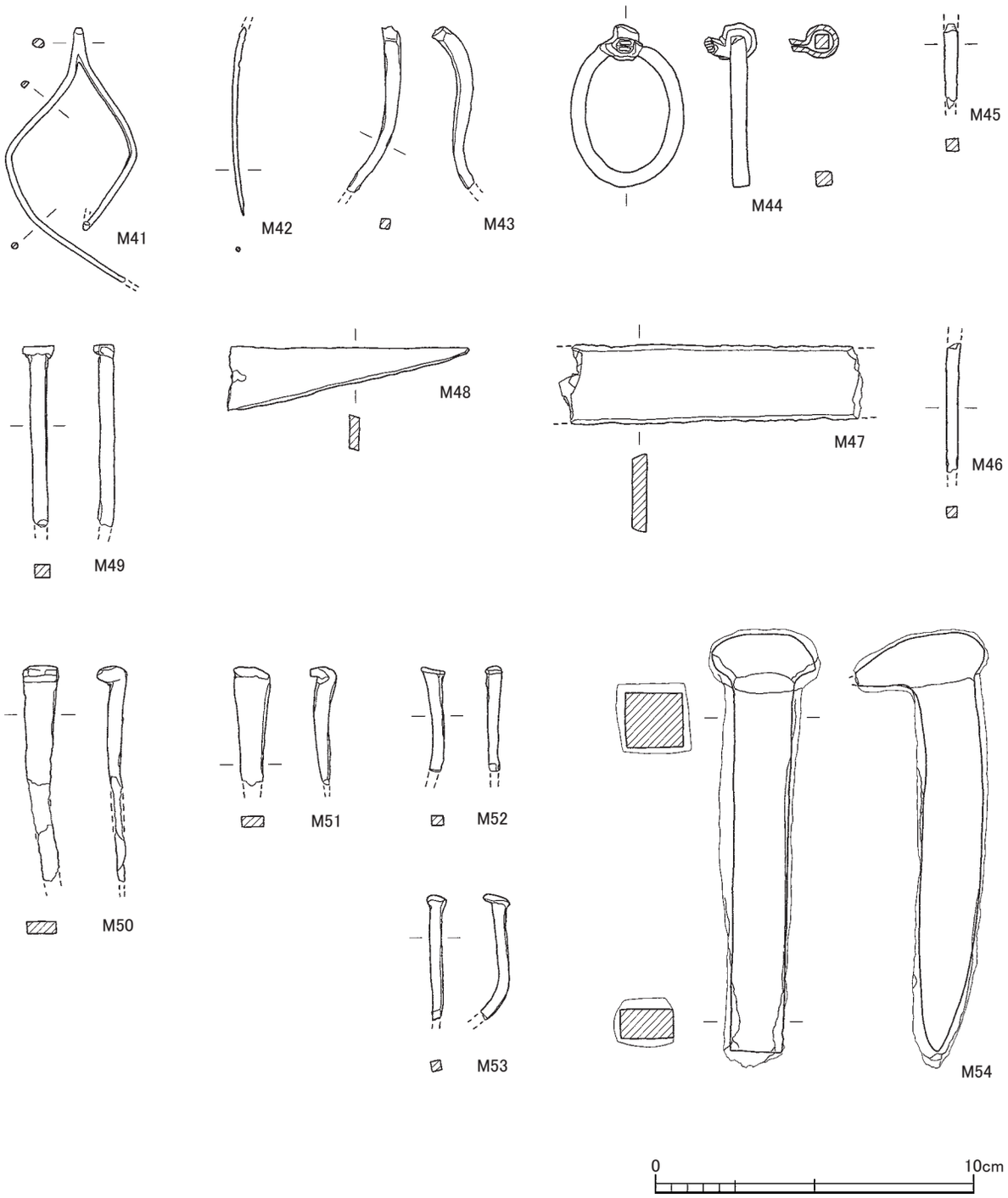
出土金属器①



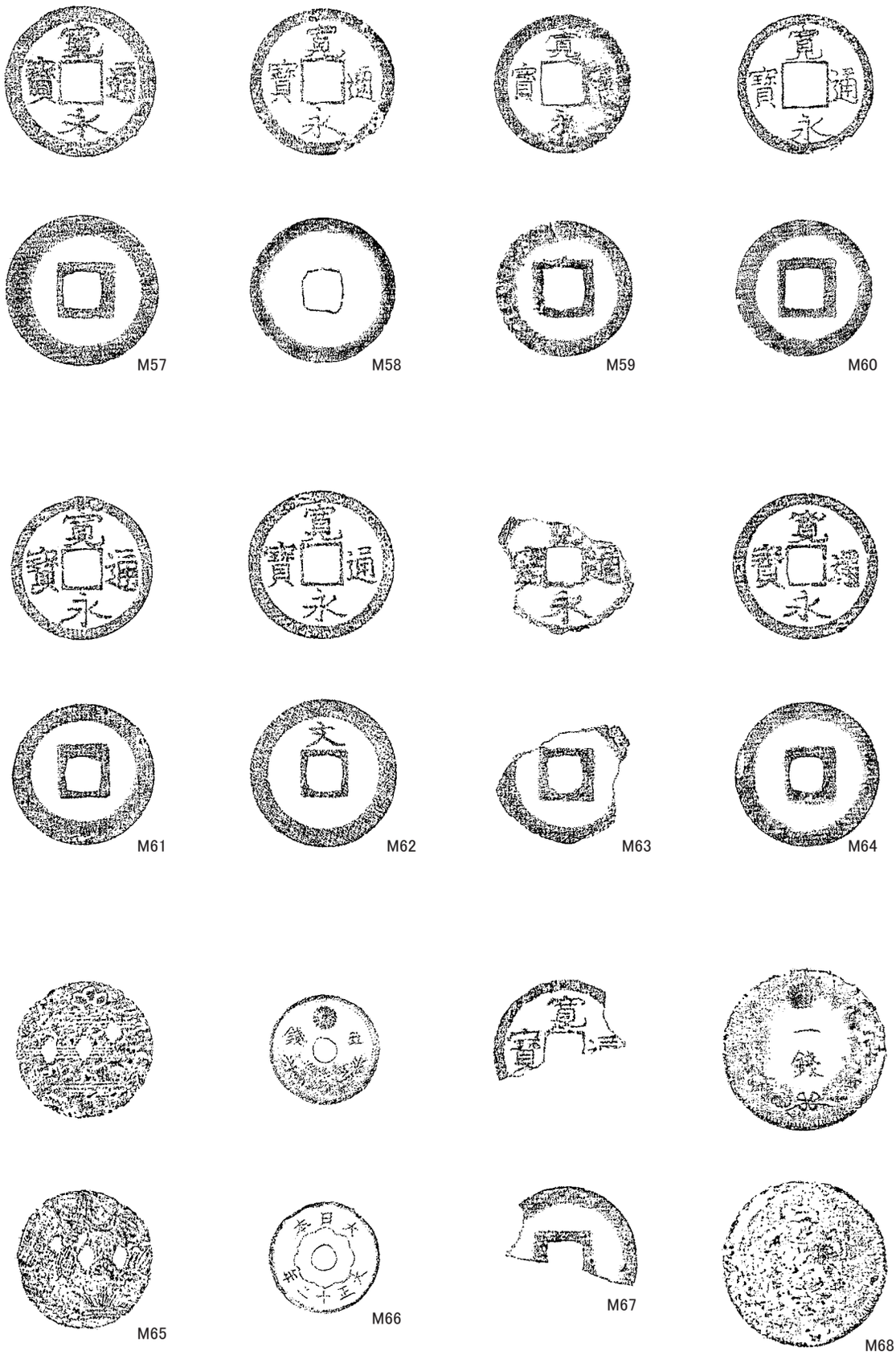
出土金属器②



出土金属器③

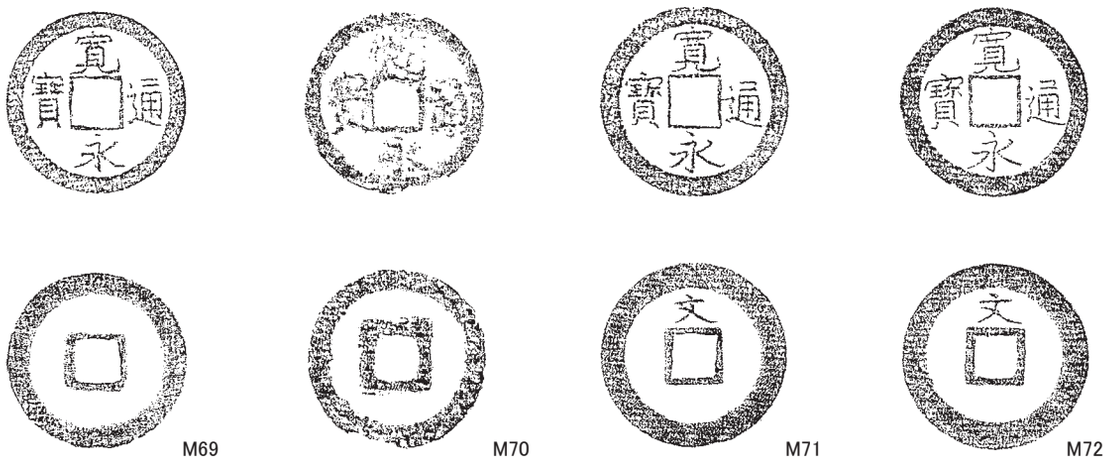


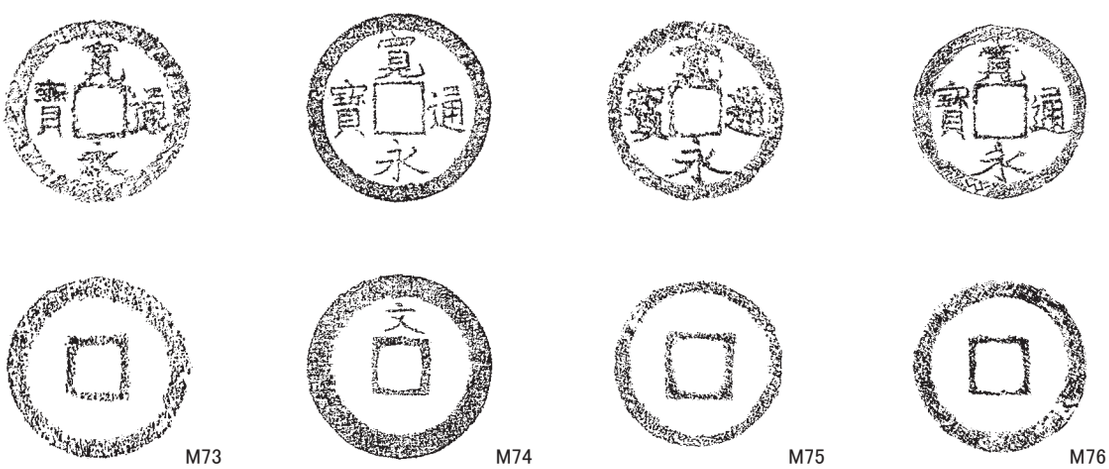
出土金属器④

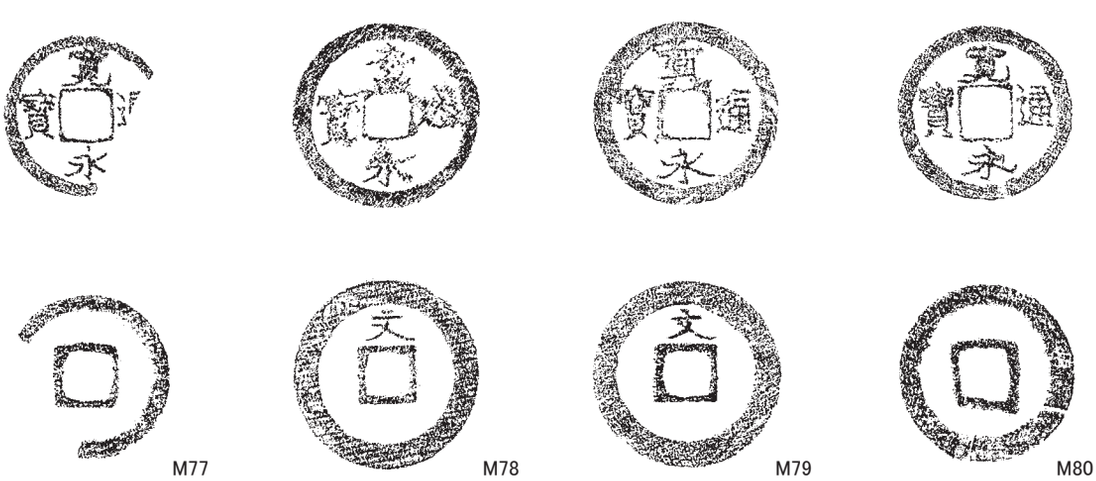


0 5cm

出土金属器⑤

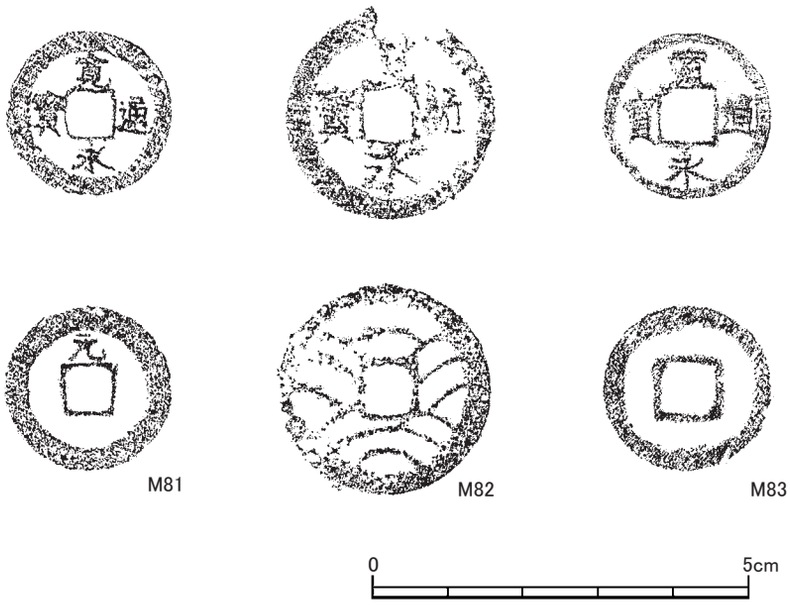


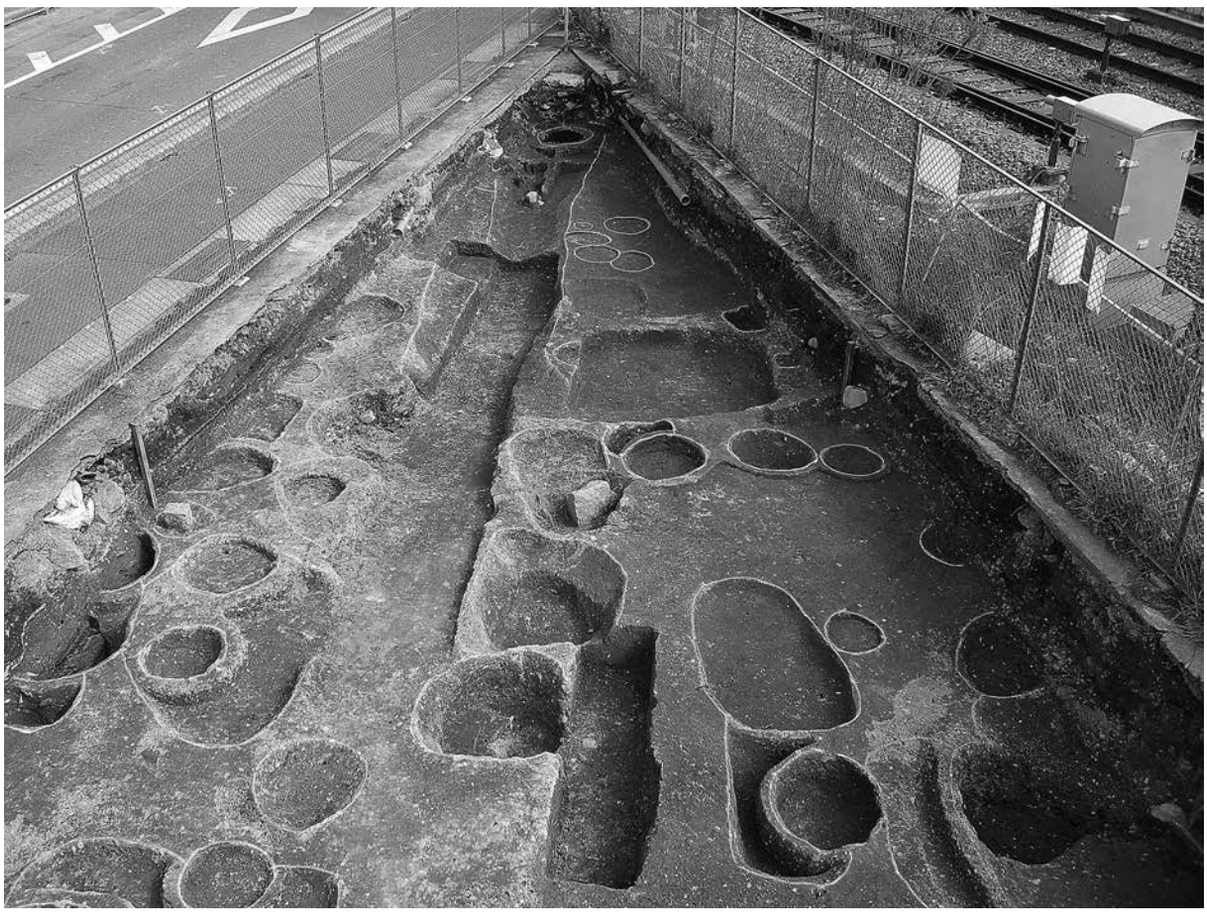




0 5cm

出土金属器⑥


M81
M82
M83
0
5cm



Ａ地区全景（西から）

Ａ地区全景（西から）

Ａ地区全景（東から）

調査区北壁（南東から）

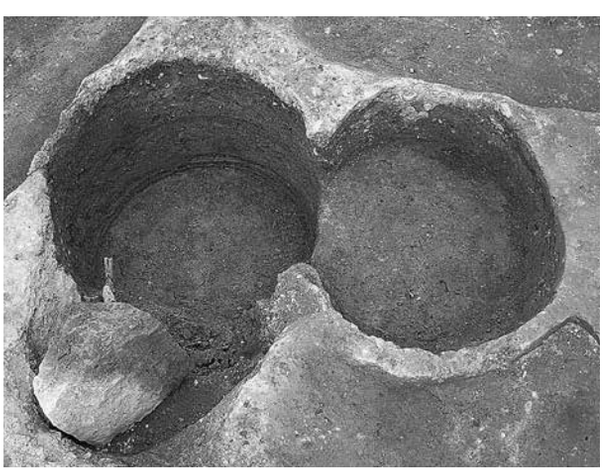
調査区西壁（東から）

埋甕 1・2　胞衣壺 1（北から）

胞衣壺 1（東から）

胞衣壺 2・3（東から）

SK03（南から）



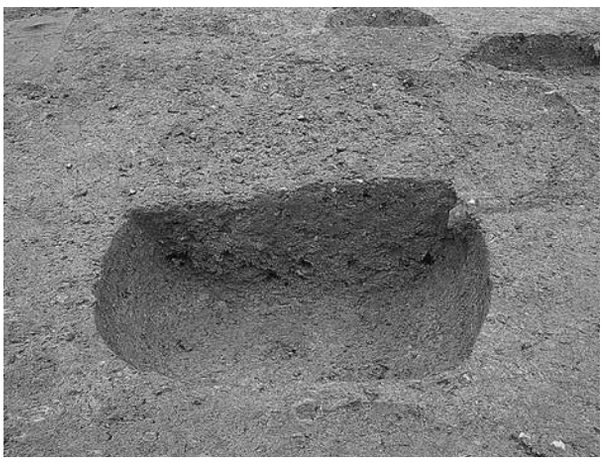
SK04（西から）

SK05 断面（東から）

SK05 漆椀出土状況（南から）

SK06（南から）

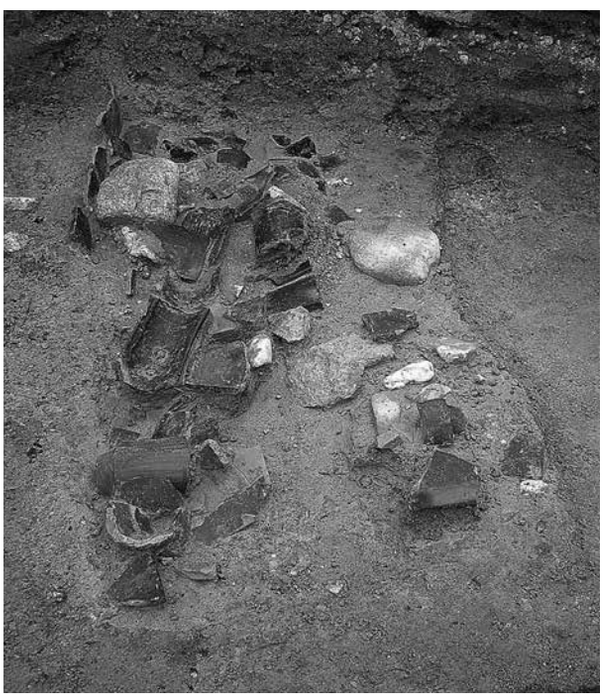
SK09（西から）



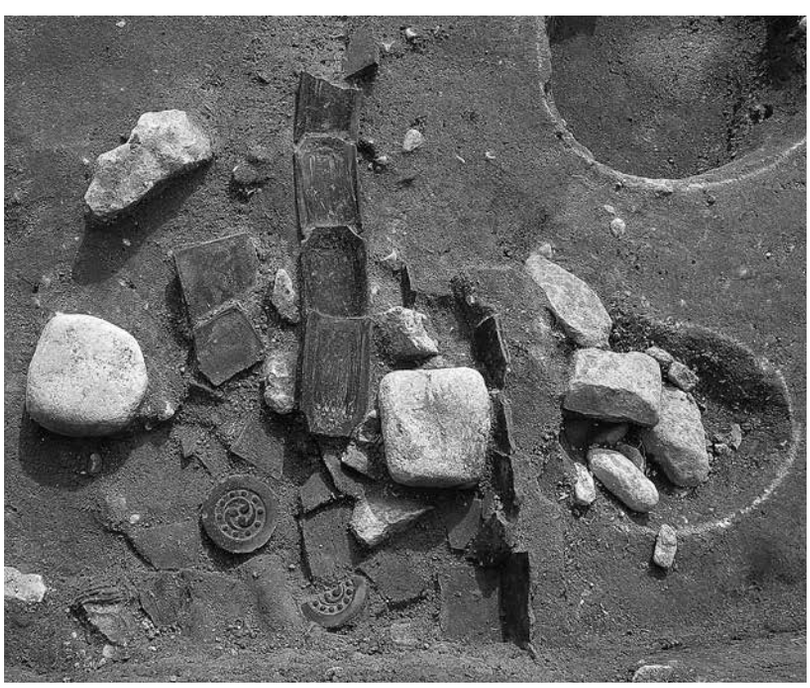
左上：SK14 遺物出土状況（北から）
右上：SK16 断面（東から）
左：SK26・27 断面（南から）

左：SK28 断面（南から）

瓦敷き遺構（上から）



瓦敷き遺構（東から）

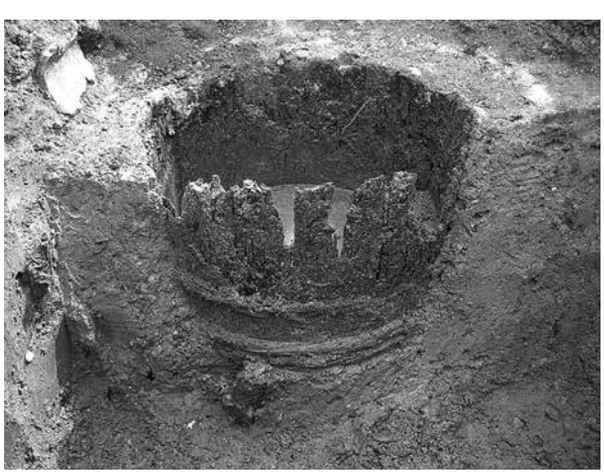


左：瓦敷き遺構下層（上から）

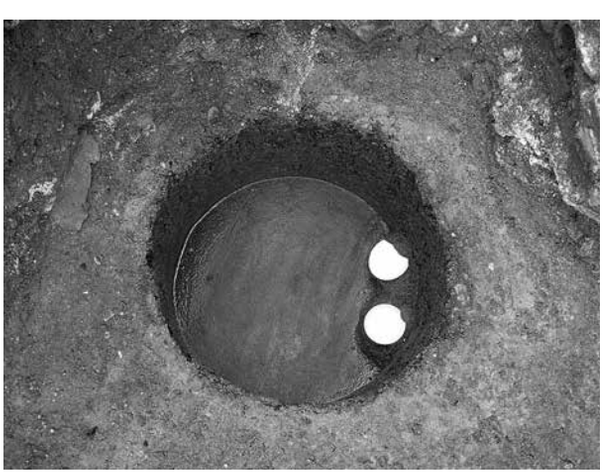
SD01（西から）

SD01 断面（西から）

SD01 板材検出状況（上から）



SD01 埋桶断面（西から）



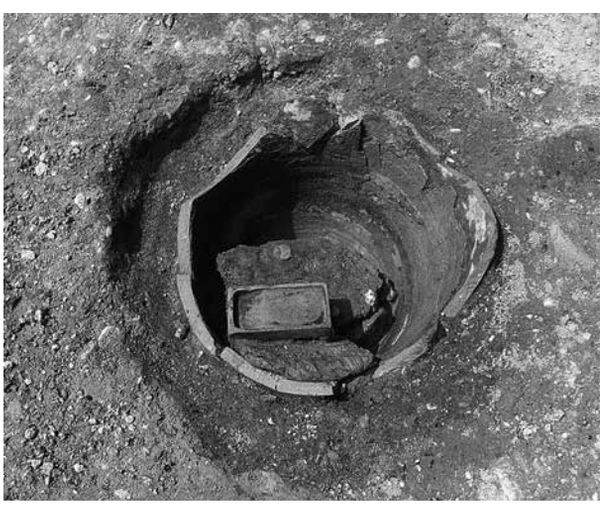
SD01 埋桶（上から）

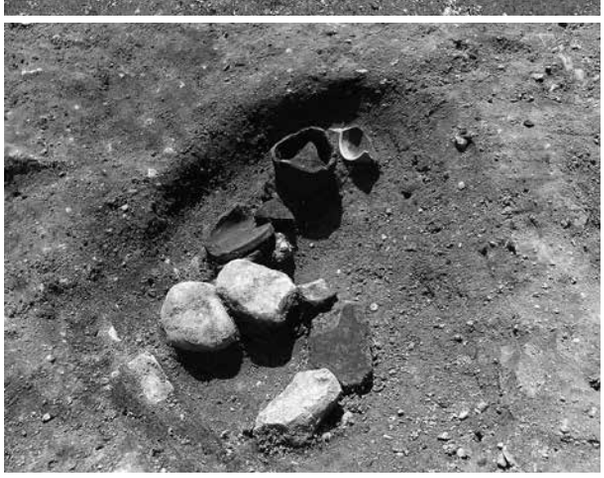
B 地区全景（西から）

B 地区東半部（西から）

B 地区西半部（西から）

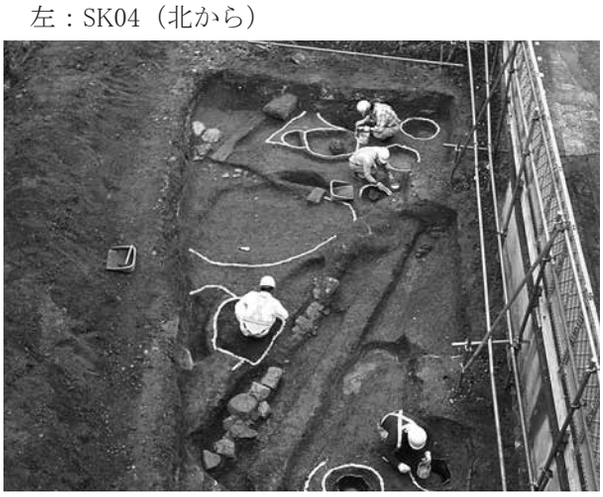
埋甕 1・2（南から）





左上：埋甕 1（西から）
右上：埋甕 2（北から）
左：土坑状遺構（東から）

左上：SK09 遺物出土状況（北から）
右上：SD01 断面（東から）
　左：SK04（北から）



左上：作業状況①
右上：作業状況②
　左：作業状況③

C 地区上層面近景（東から）

C 地区上層面全景（東から）

C 地区上層面全景（西から）

C 地区上層面全景（南西駅舎側から）

煉瓦敷溝（南西から）

SK03 断面（南から）

SK04（北東から）

SK06 断面（北西から）

SK07（南から）

SK08：胞衣壺（南から）

SK08：胞衣壺内部（南から）

SK09 断面（北西から）

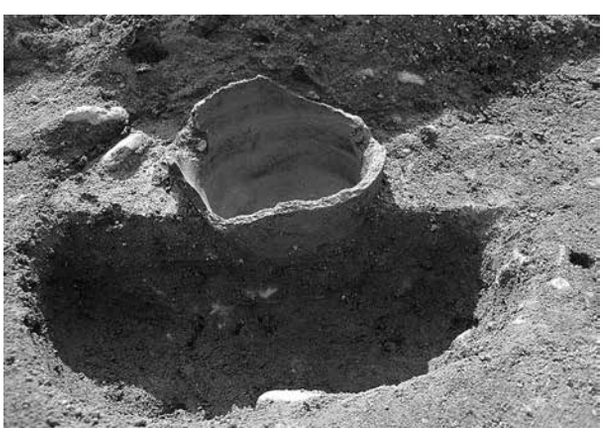
SK12（西から）

SK12 埋桶（西から）

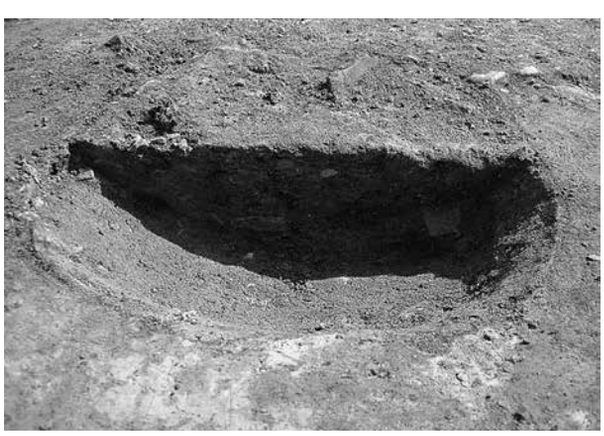
SK13 断面（北東から）

SK14 断面（西から）

SK15 断面（南から）



SK17 断面（東から）



SK18 断面（北から）

SK19（東から）

SD01 断面（東から）

SD02 断面（東から）

SD16 断面（北から）

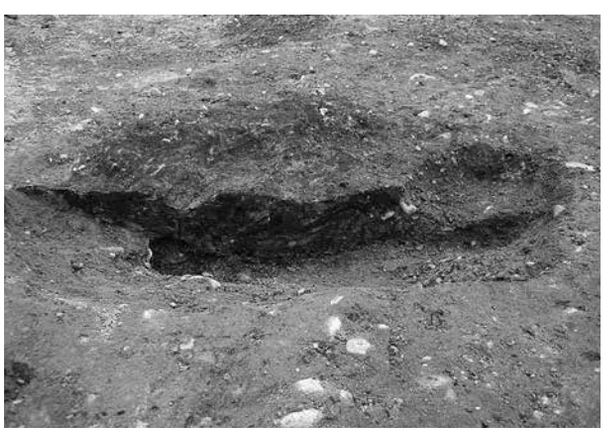
SD20（西から）

C 地区下層面近景（東から）

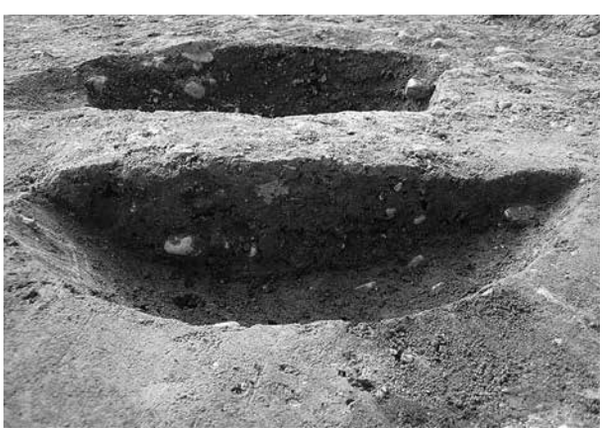
C 地区下層面全景（東から）

C 地区下層面全景（西から）

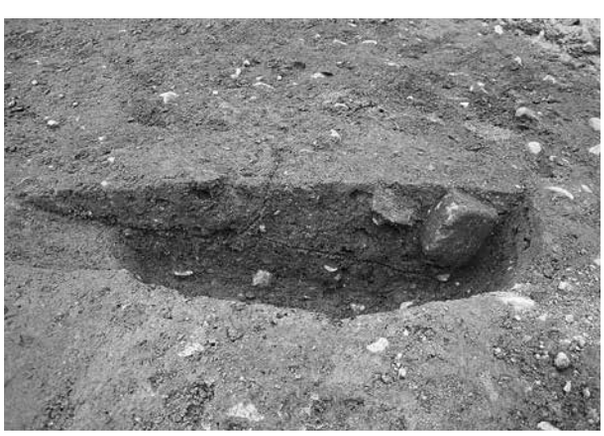
C 地区下層面全景（南西駅舎側から）



SK26 断面（東から）

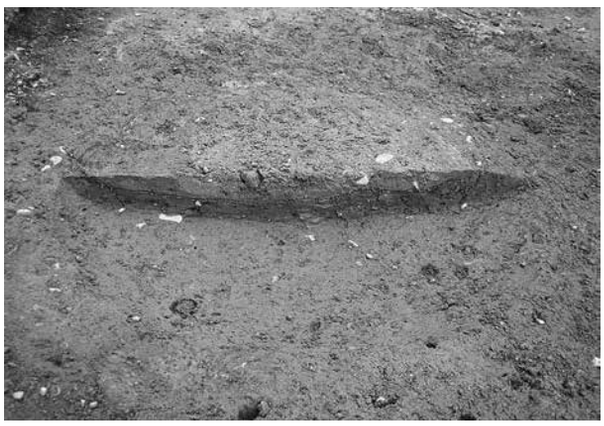


SK28 断面（東から）



SK29 断面（東から）

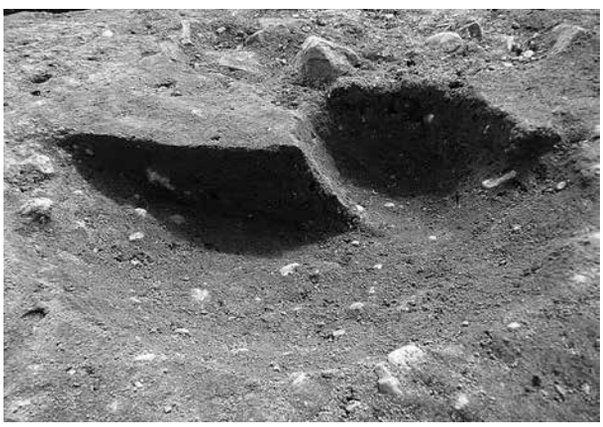
SK30・31（南から）



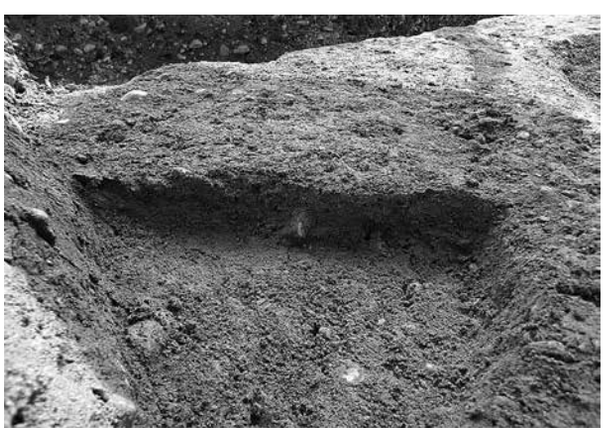
SK32 断面（東から）

SK33 断面（北から）

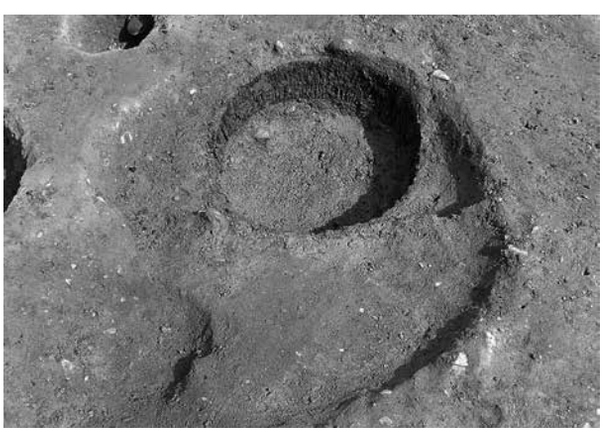
SK35（南から）



SK37 断面（西から）



SK39 断面（北西から）

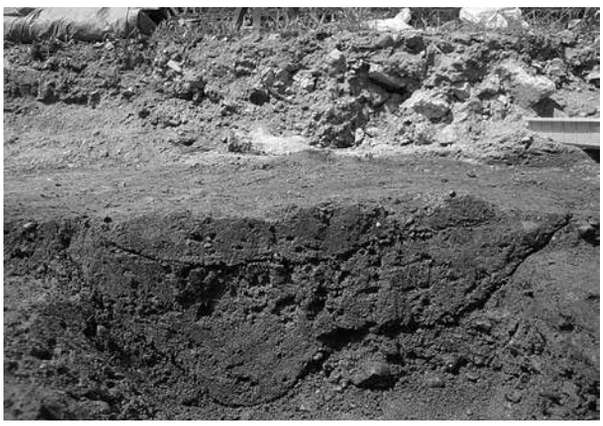


SK40（西から）

SK41 断面（東から）

SK51（南から）

SK52 断面（南から）



SD34 断面（南から）

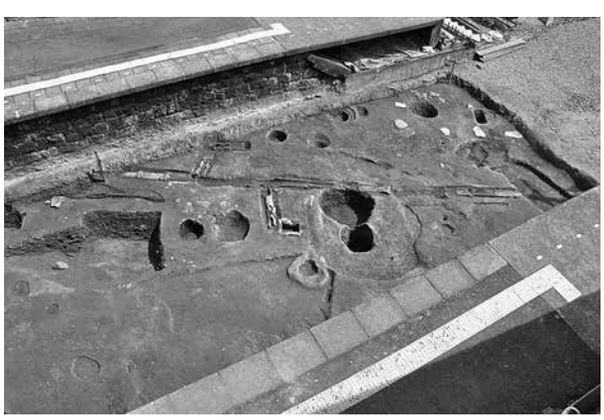
作業状況①

作業状況②

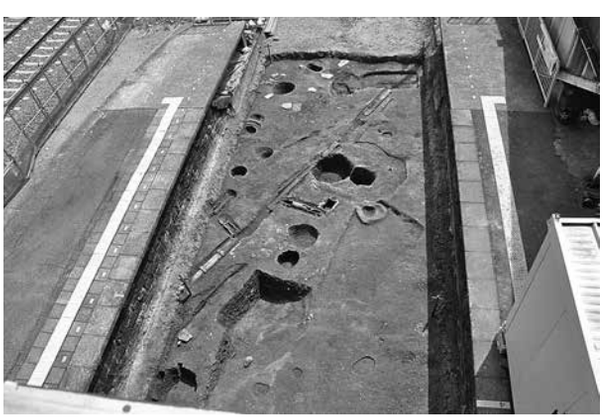
D-1 地区　調査前状況（東から）

D-1 地区　機械掘削状況

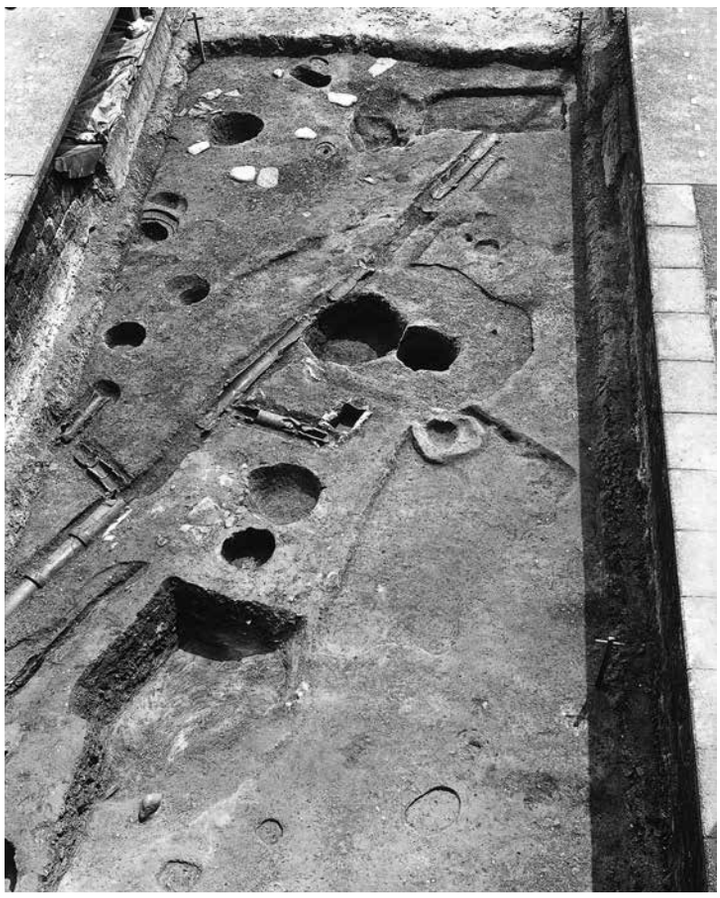
D-1 地区　調査状況



D-1 地区　東半部（南西から）



D-1 地区　東半部（西から）



D-1 地区全景（西から）

D-2 地区全景（東から）

D-1 地区　礎石建物跡（北西から）

D-1 地区　礎石建物跡（南西から）

D-1 地区　SD01・02 重複状況

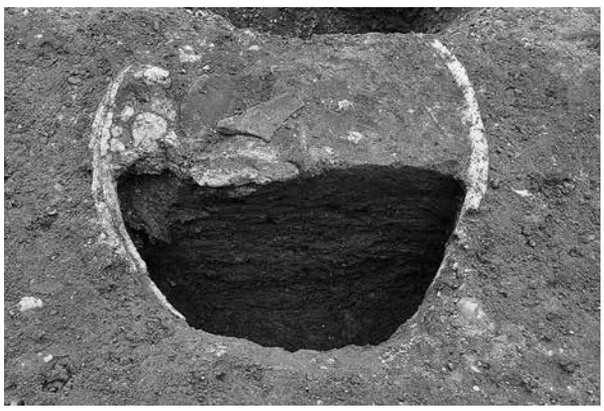
D-1 地区　SD01・08 分岐部の状況

D-1 地区　SK04 断面（南東から）

D-1 地区　SK04 東縁土器出土状況（北西から）

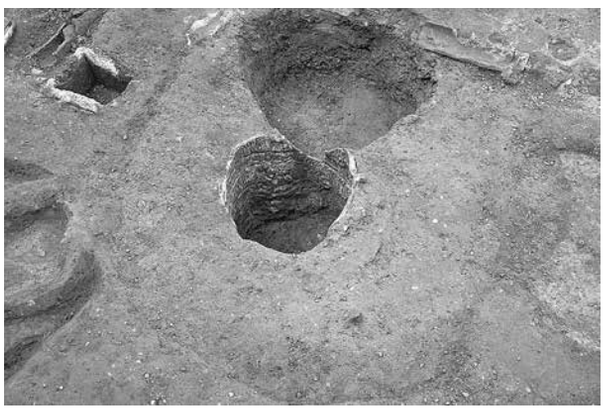
D-1 地区　SK05 完掘状況（南から）

D-1 地区　SK18 完掘状況（南から）



D-1 地区　SE15 井筒部断面（南から）

D-1 地区　SE15（南から）



D-1 地区　SE15 全景（南から）

D-1 地区　SE15 断割断面

D-1 地区　SK16 断面（南から）

D-1 地区　SK16 完掘状況（南から）

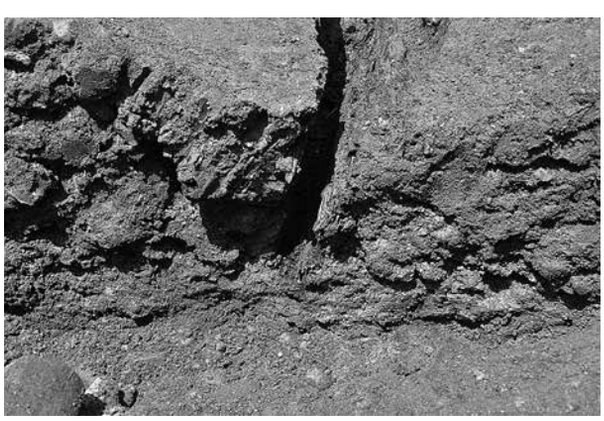
D-1 地区　SK16 全景（南から）

D-1 地区　SK16 断割状況（南から）

D-1 地区　SK22・23 断面（西から）

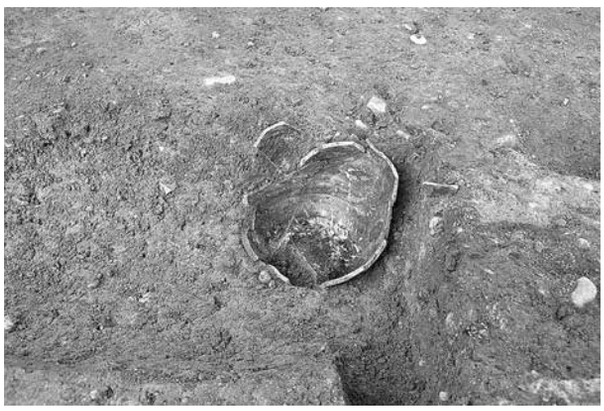
D-1 地区　SK24 断面（南から）

D-1 地区　SK24 遺物出土状況（北から）

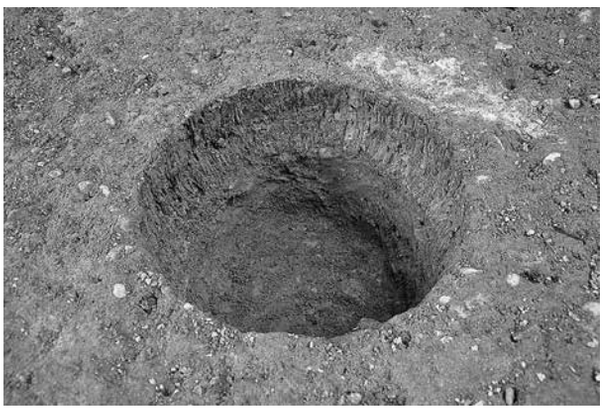


D-1 地区　SD27 木樋断面（東から）

D-1 地区　SK28 断面（東から）



D-1 地区　SD33 内胞衣壺出土状況（北東から）



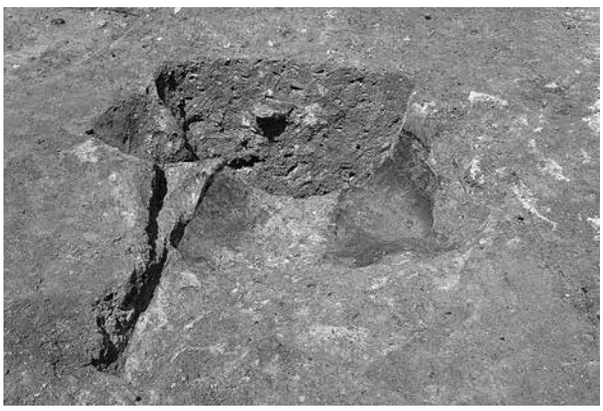
D-1 地区　SK40 完掘状況（北から）

D-1 地区　SX37 検出状況（南から）

D-1 地区　SX37 断面（西から）

D-2 地区西壁　標準地層断面（東から）

D-2 地区　SK112 および周辺土坑群（南から）

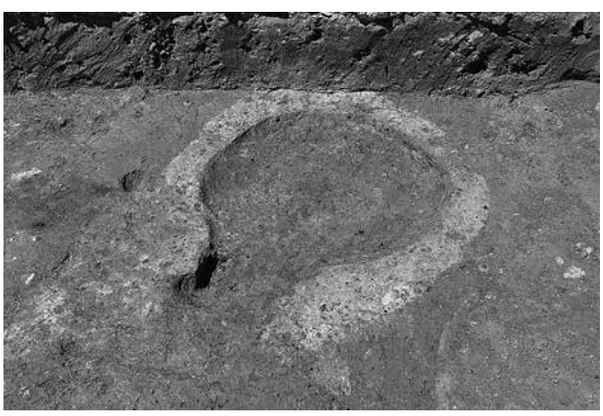


D-2 地区　SK112 検出状況（南から）

D-2 地区　SK112 完掘状況（南から）

D-2 地区　SK112 断面（南から）

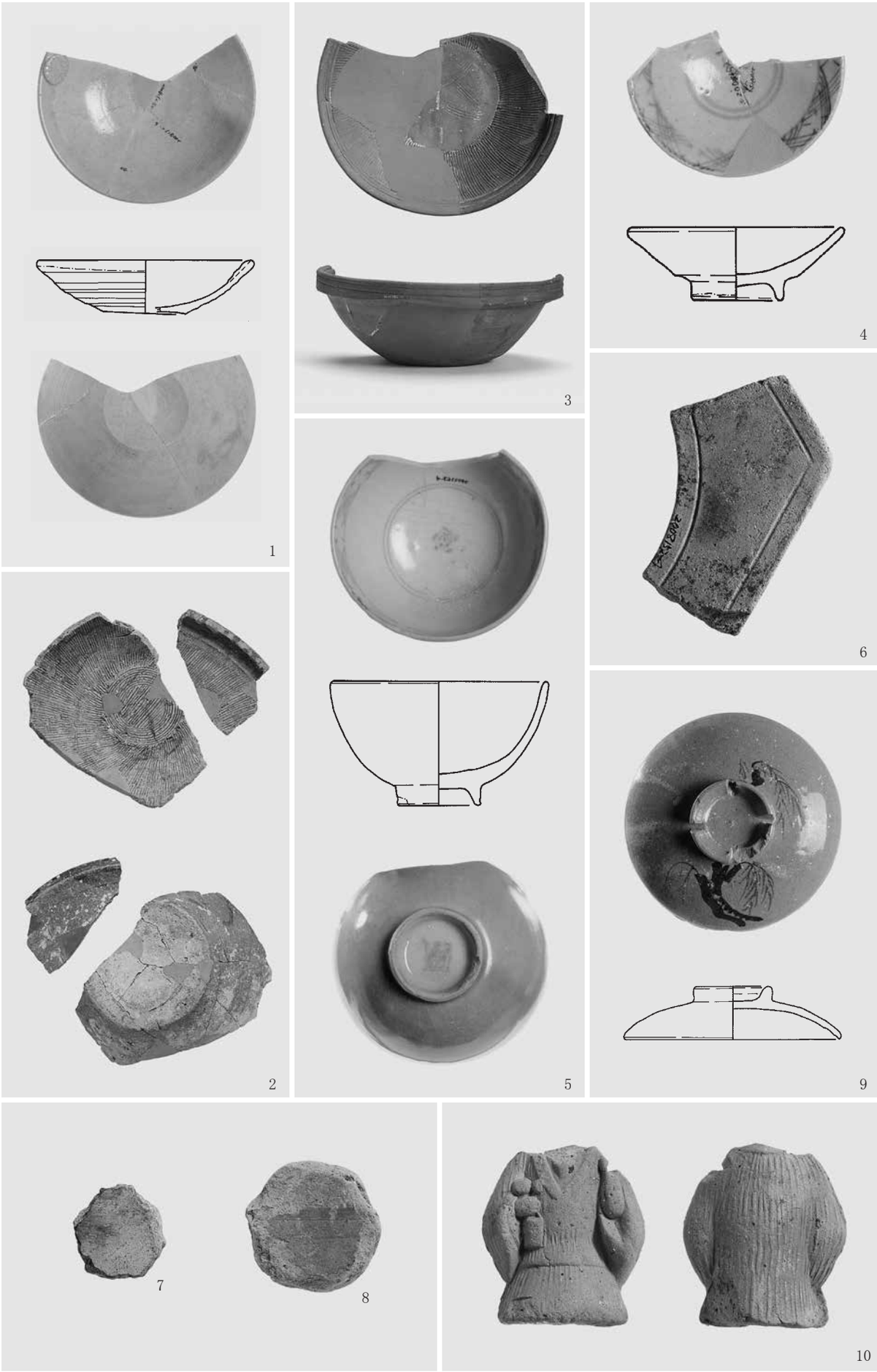
D-2 地区　SK129 検出状況（南から）



D-2 地区　SK129 炭層除去後（南から）

D-2 地区　SK129 断面（南西から）

D-2 地区　SK130 断面（南から）



A 地区出土土器①

11

12

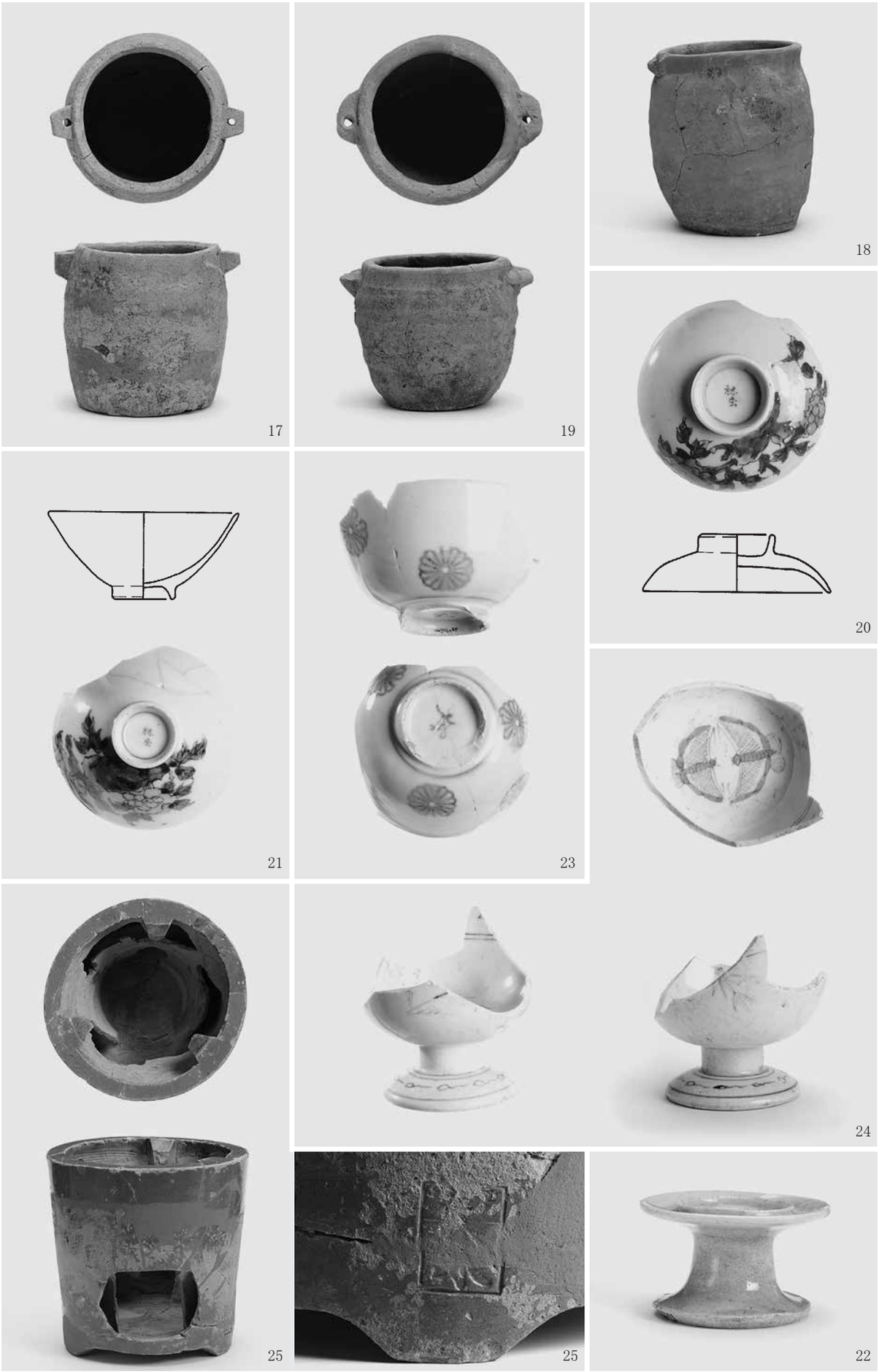
13

15

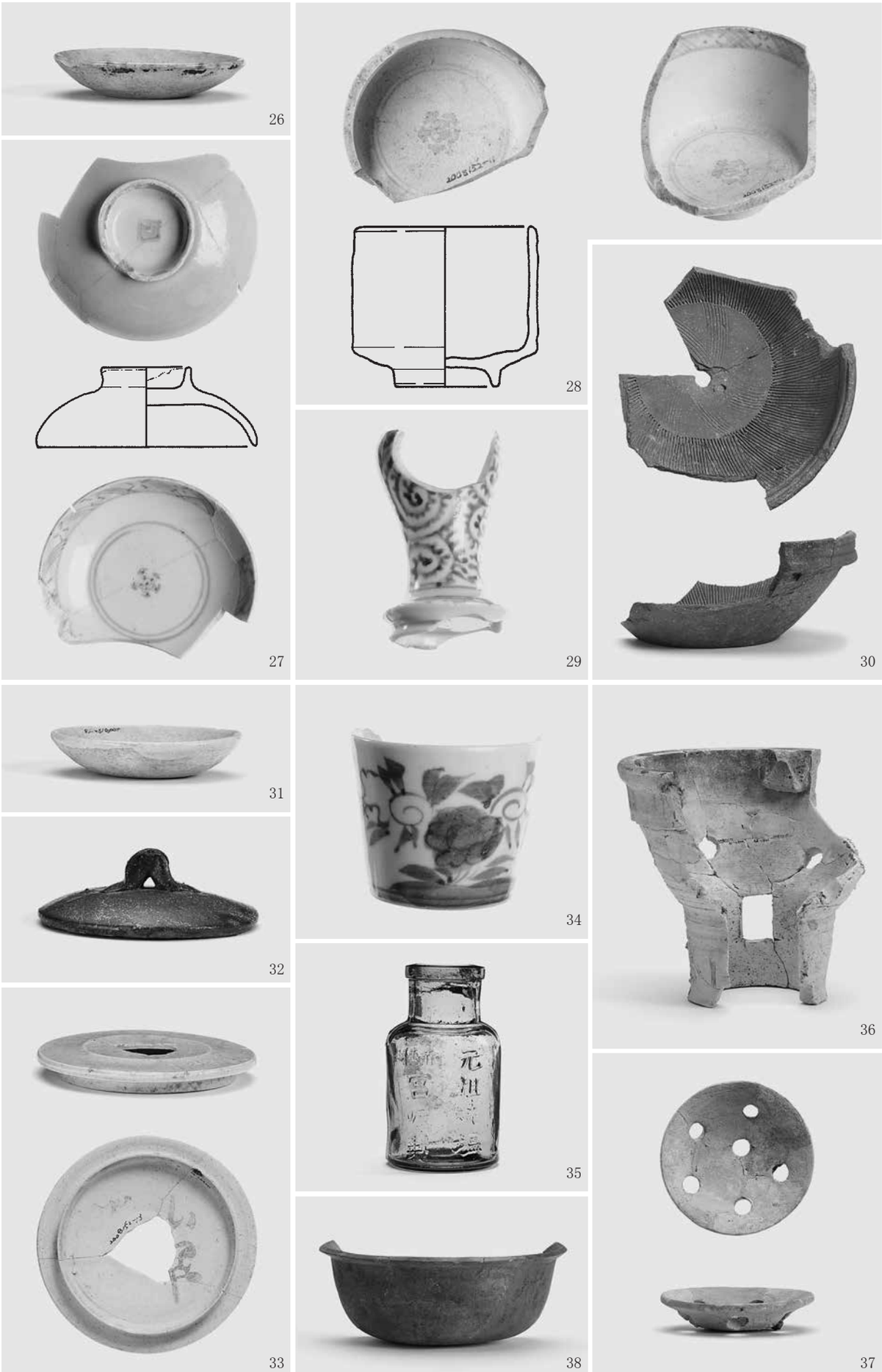
14

16

A 地区出土土器②

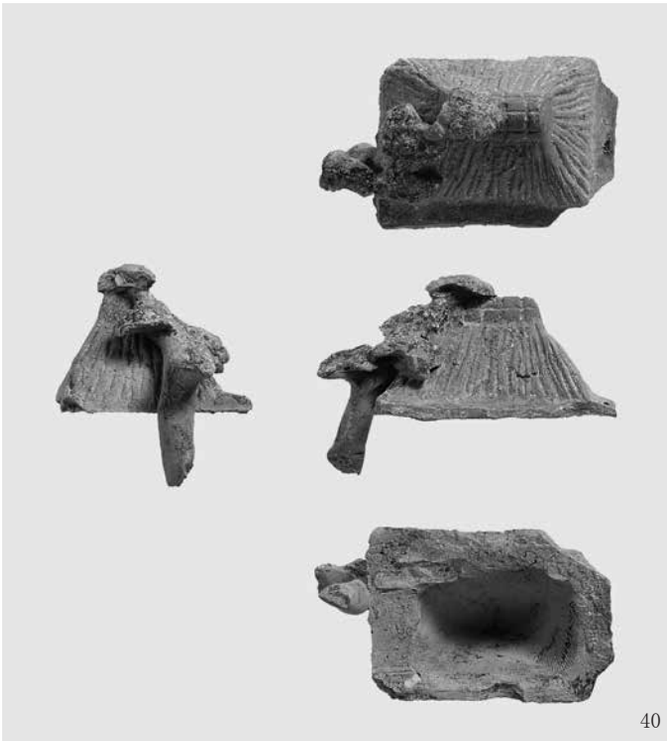


A 地区出土土器③



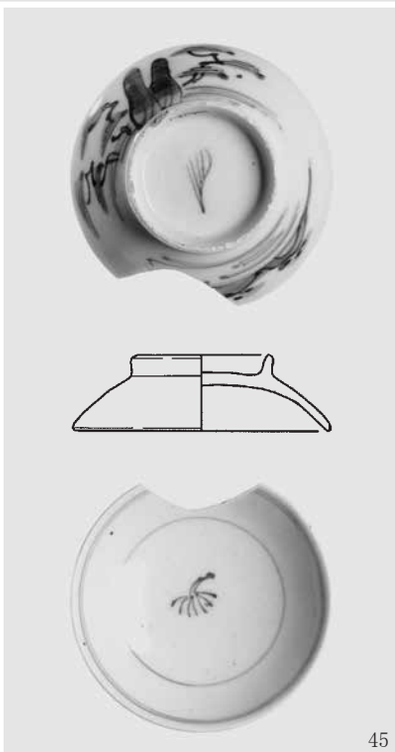
A 地区出土土器④

39

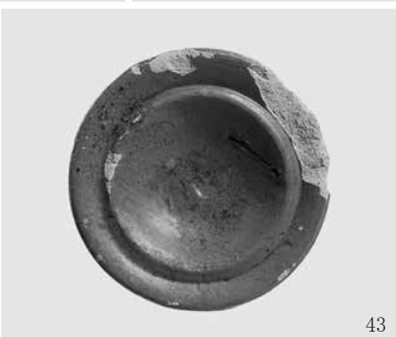

40

41 42

44


45

47


43

48

49

46

A 地区出土土器⑤

50

51

52

53

55

54

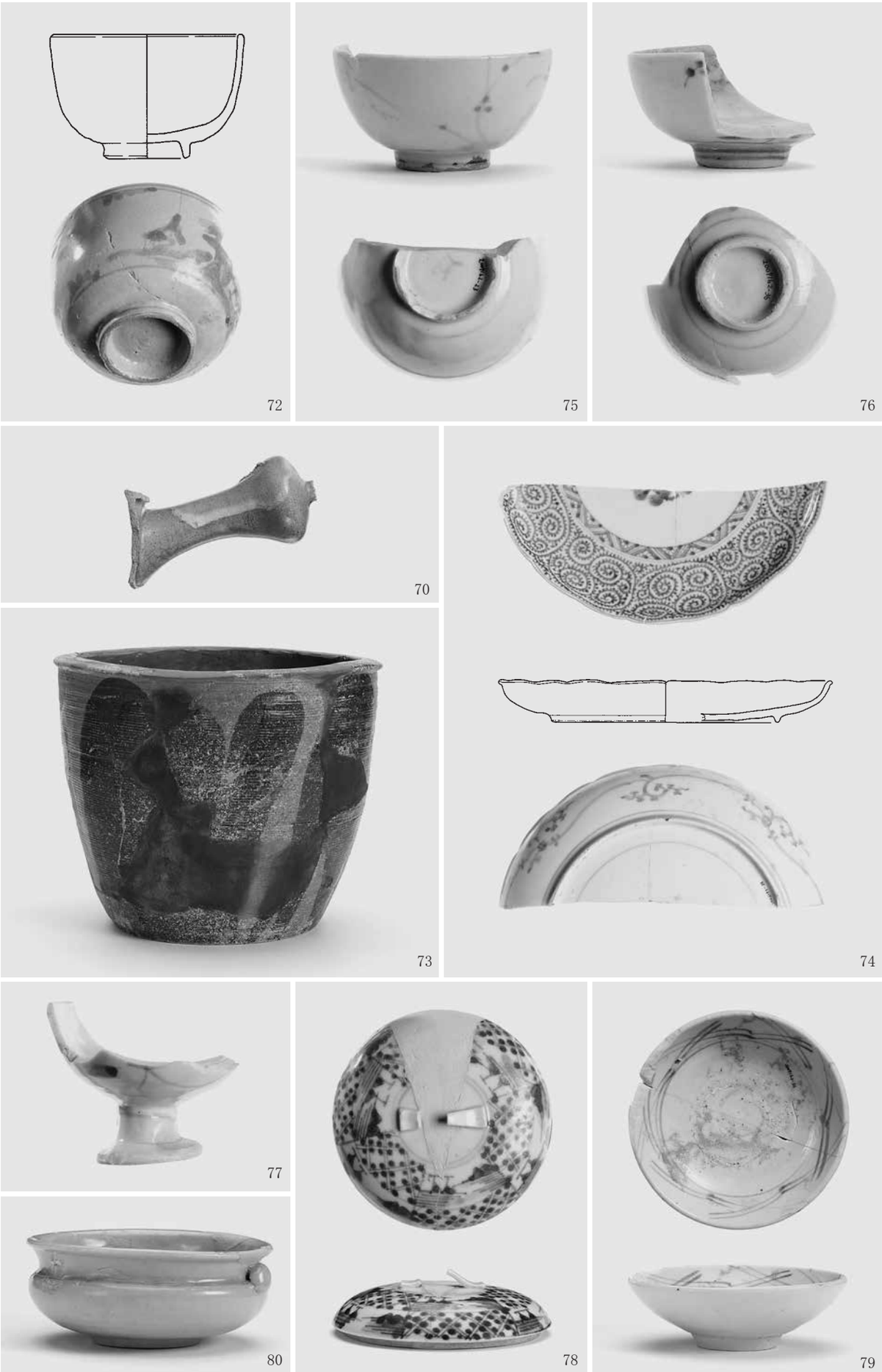
A 地区出土土器⑥

56

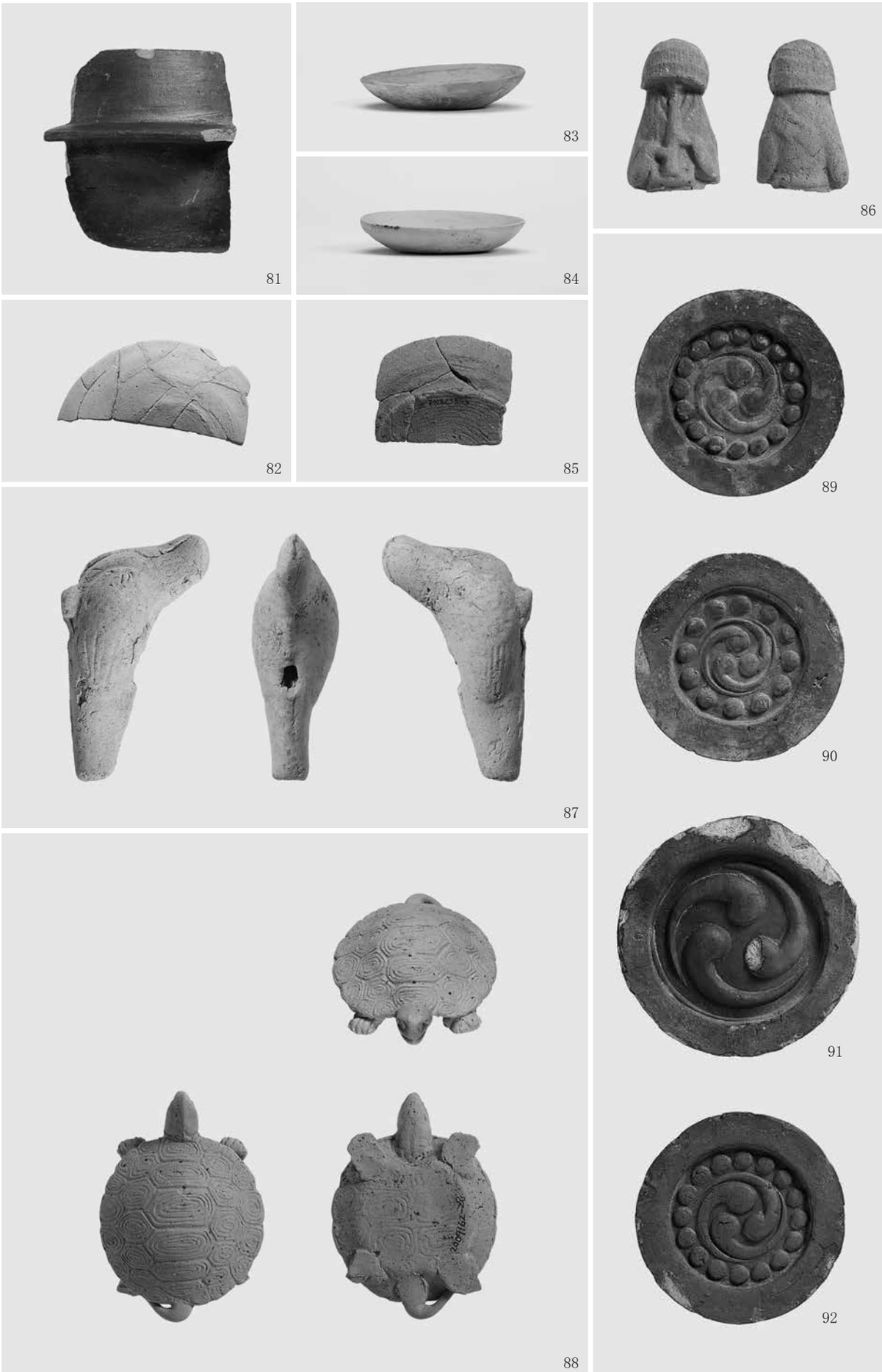
57

B 地区出土土器①

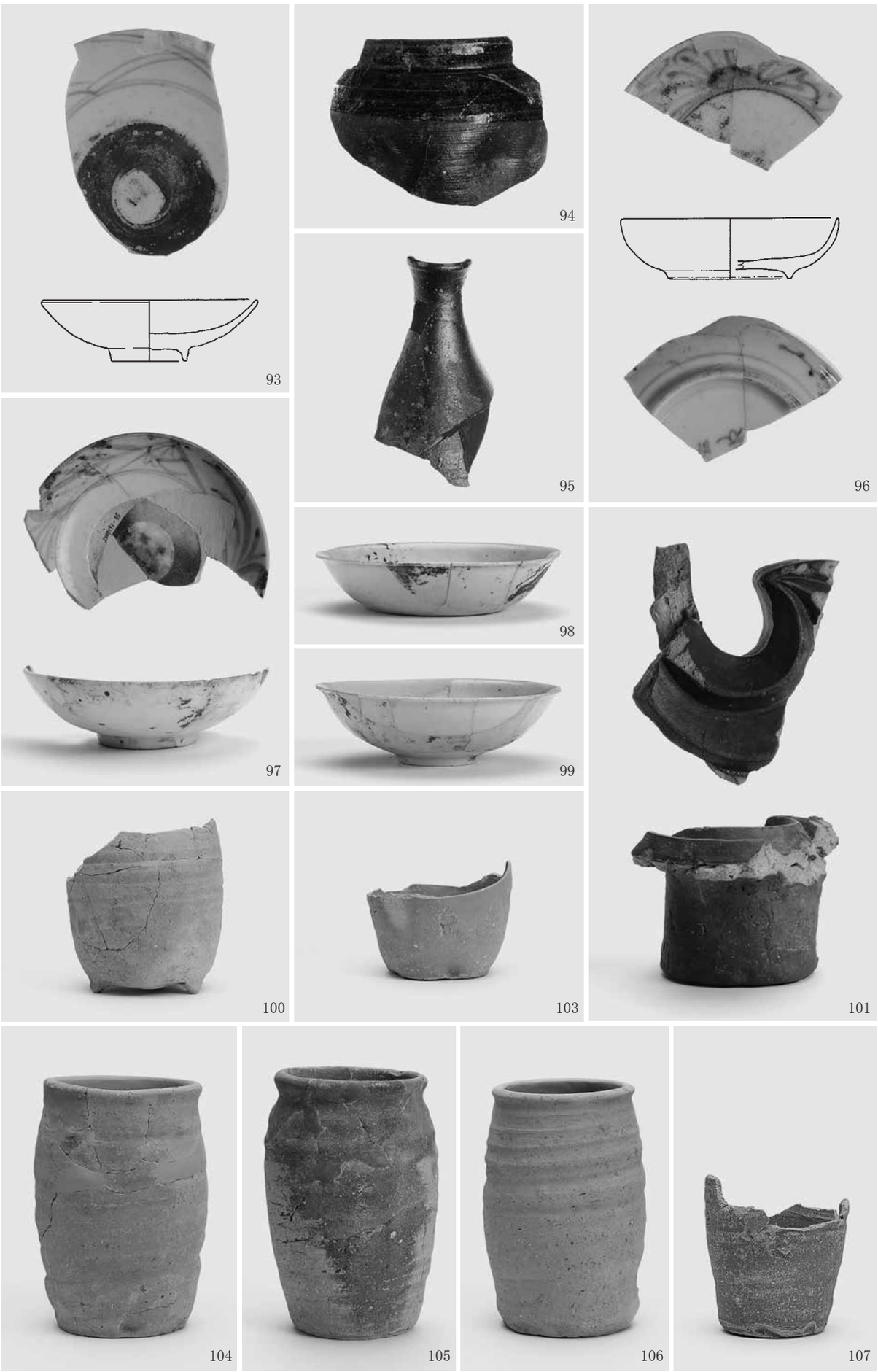
B 地区出土土器②



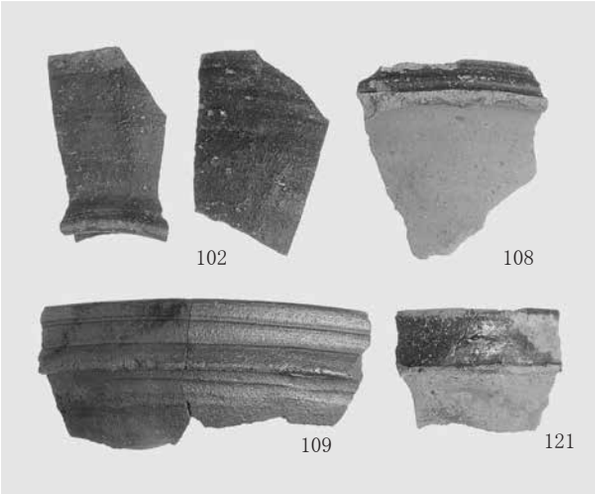
B 地区出土土器③

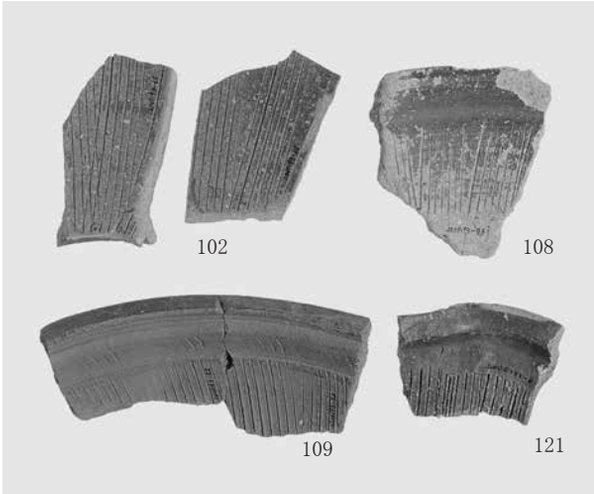


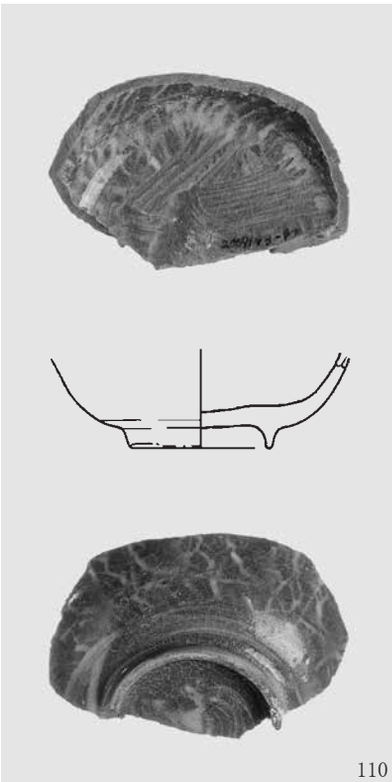
B 地区出土土器④

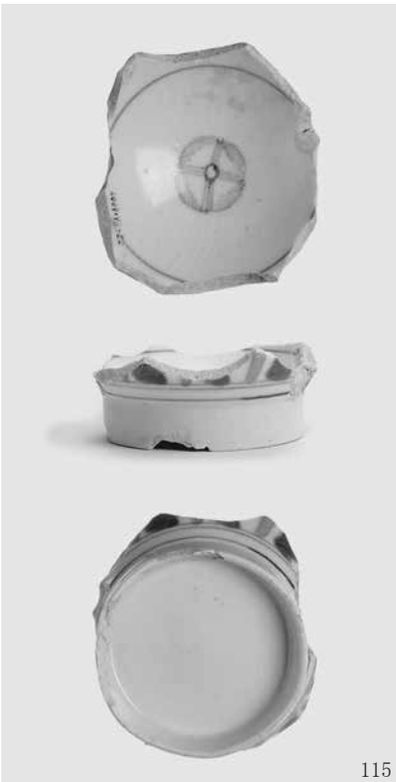


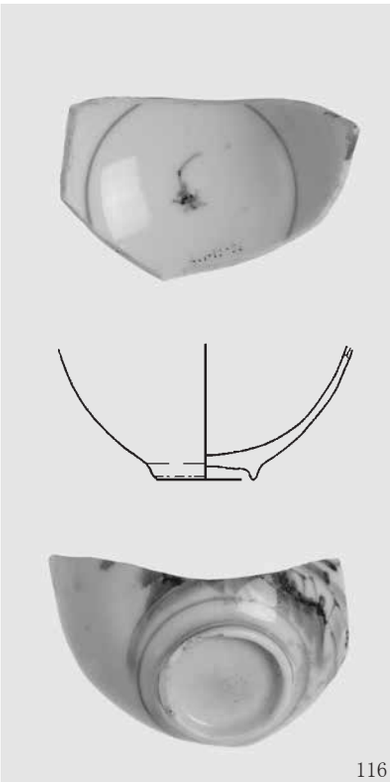
C 地区出土土器①

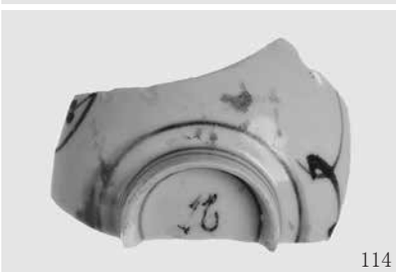


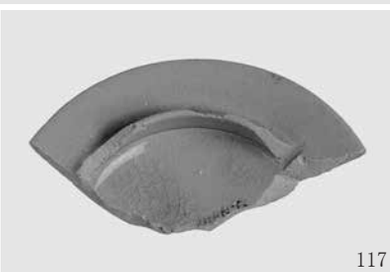




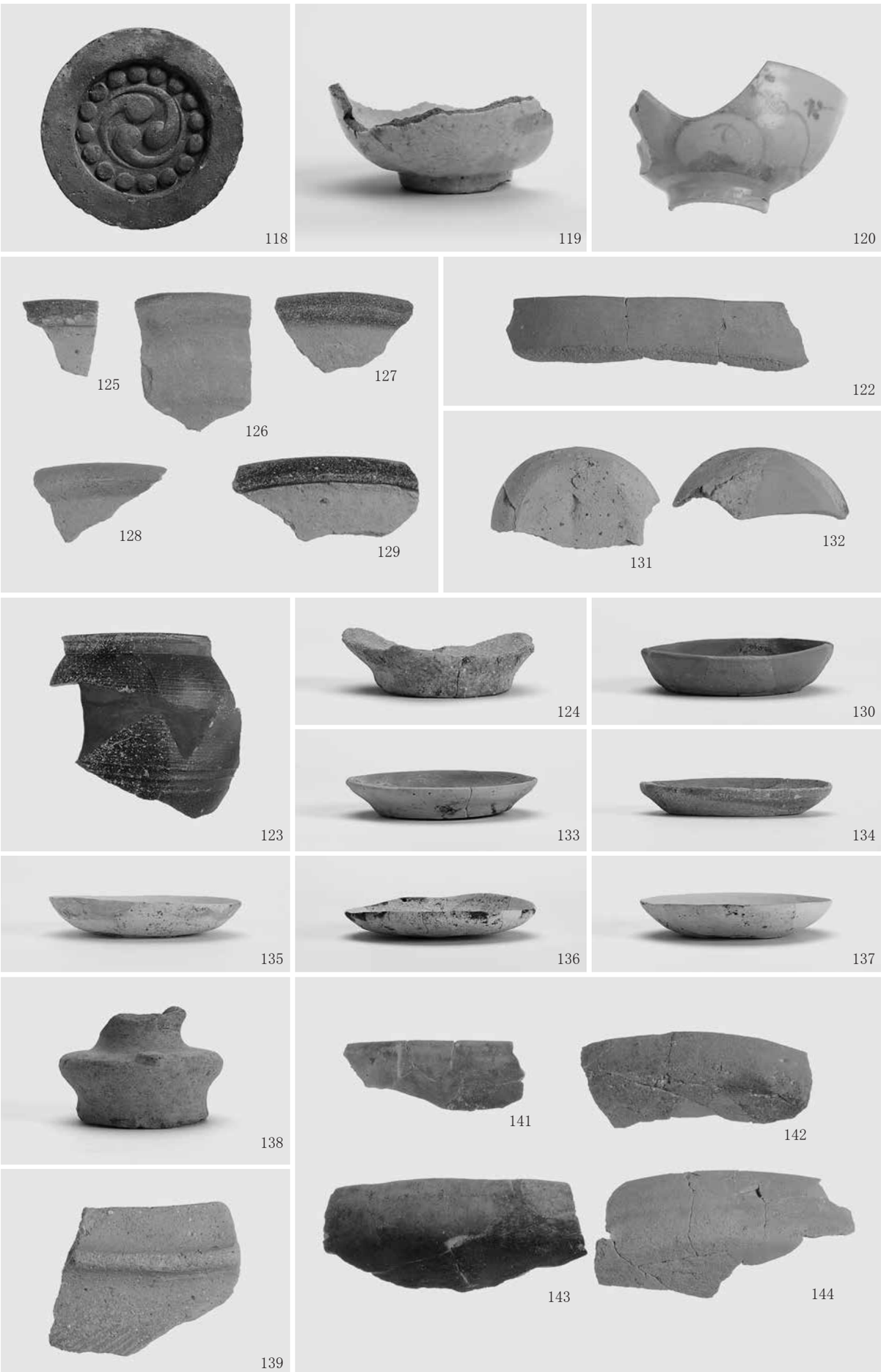








C 地区出土土器②


118
119
120
125
126
127
128
129
122
131
132
123
124
130
133
134
135
136
137
138
141
142
143
144
139

C 地区出土土器③

140

146

147

145

148

149

150

152

153

155

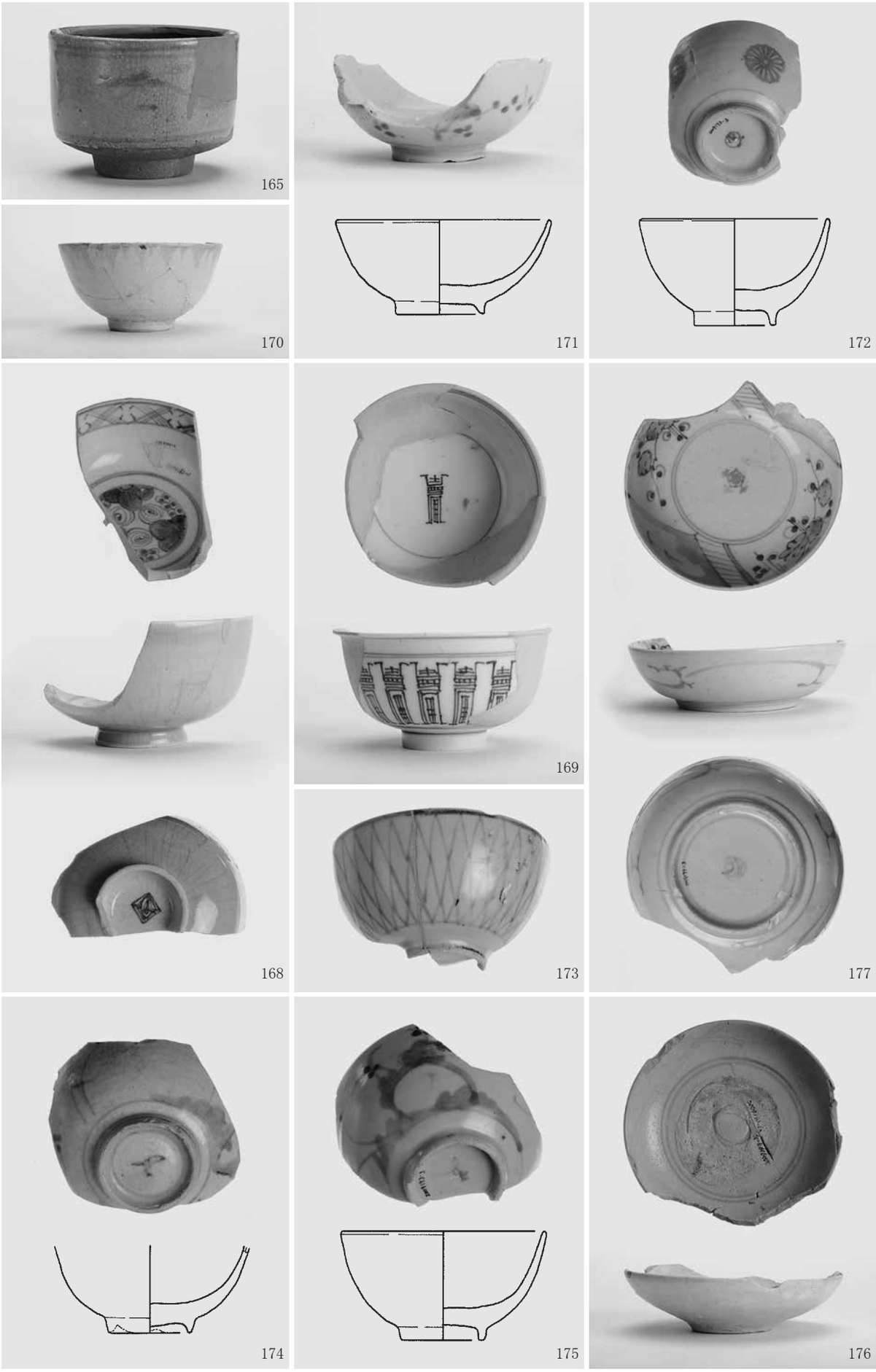
151

154

156

C 地区出土土器④

C 地区出土土器⑤

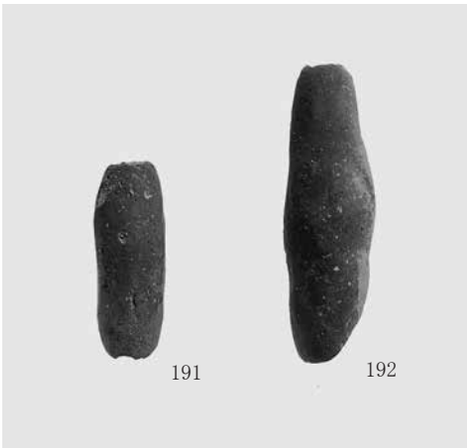


C 地区出土土器⑥

C 地区出土土器⑦

189

190


191 192

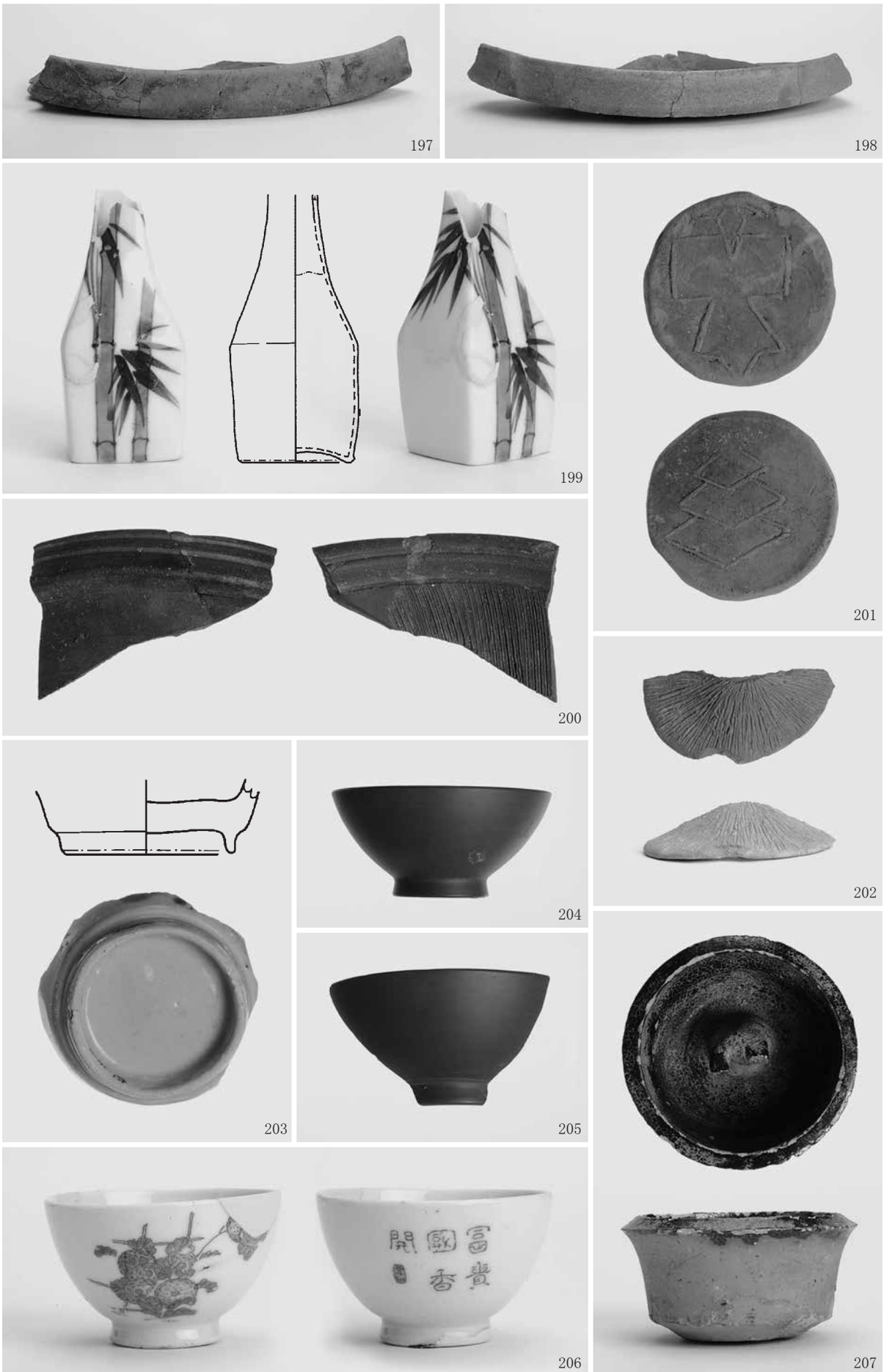
193

195

194

196

C 地区出土土器⑧



D 地区出土土器①

D 地区出土土器②

222

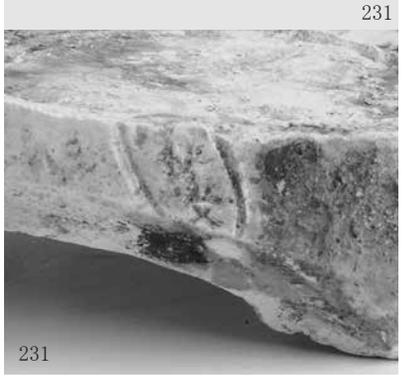
223

224

225

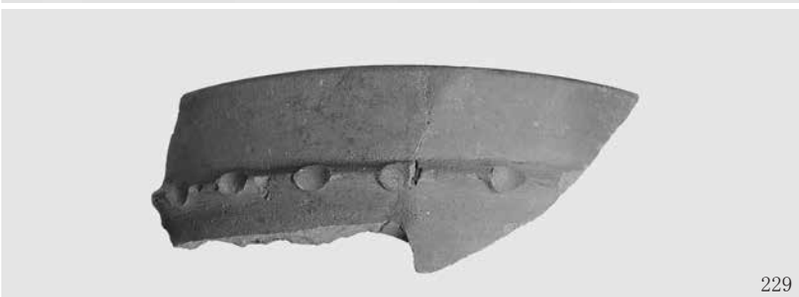
226

231


231

227

228


229

230

232

233

D 地区出土土器③

D 地区出土土器④

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

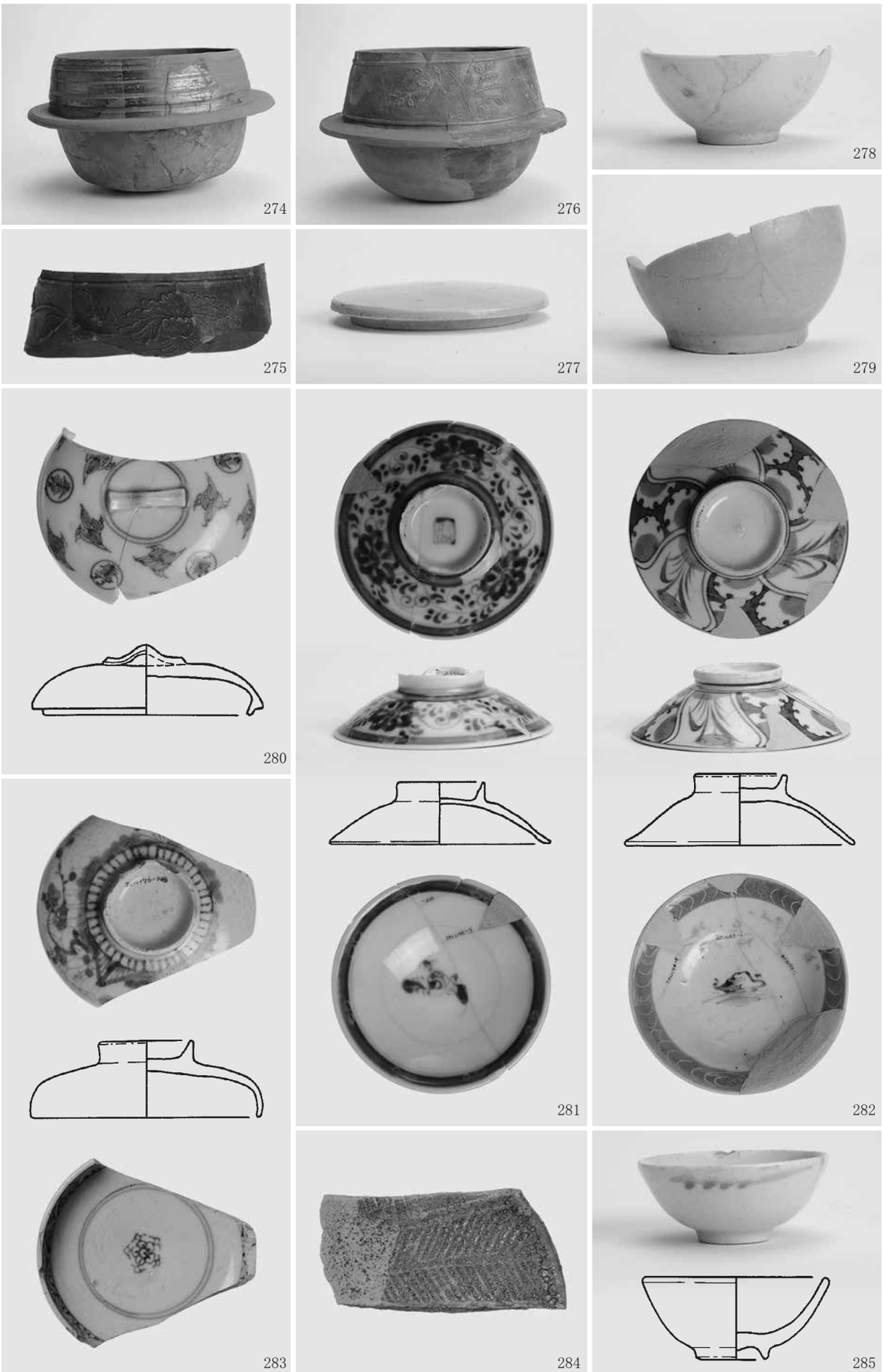
258

256

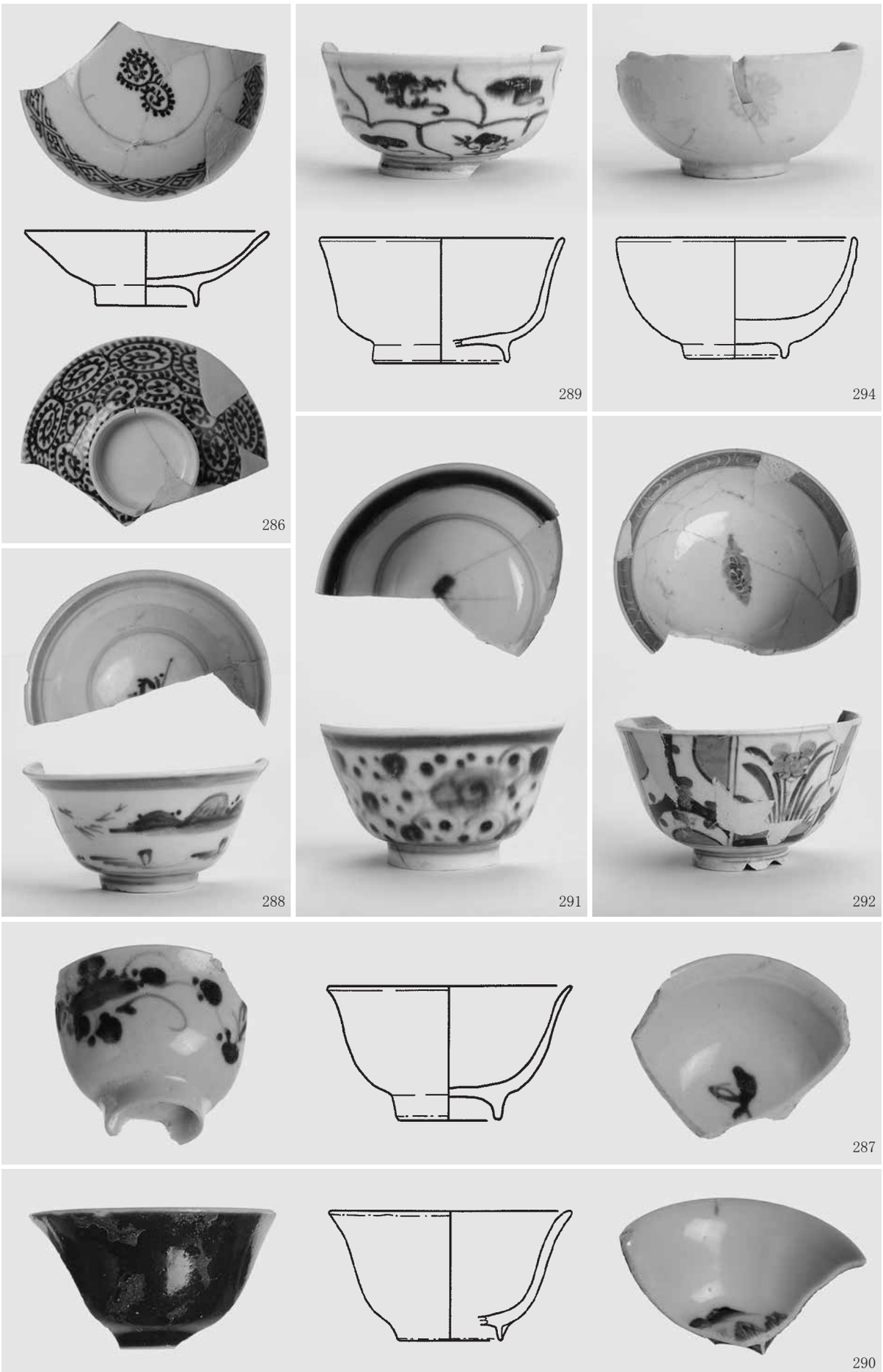
257

D 地区出土土器⑤

D 地区出土土器⑥



D 地区出土土器⑦



D 地区出土土器⑧

D 地区出土土器⑨

D 地区出土土器⑩

D 地区出土土器⑪

D 地区出土土器⑫

D 地区出土土器⑬

338

340

337

339

342

344

343

346

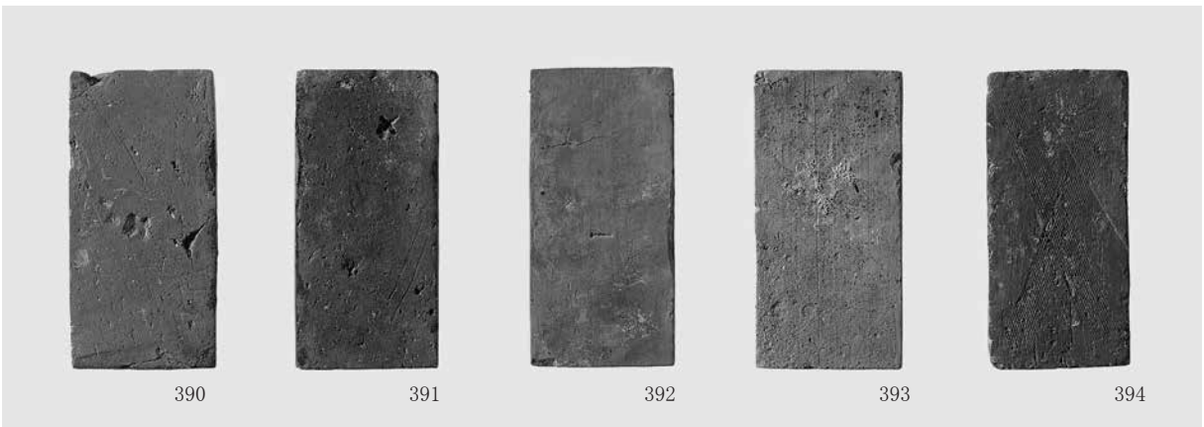
345

348

347

349

D 地区出土土器⑭

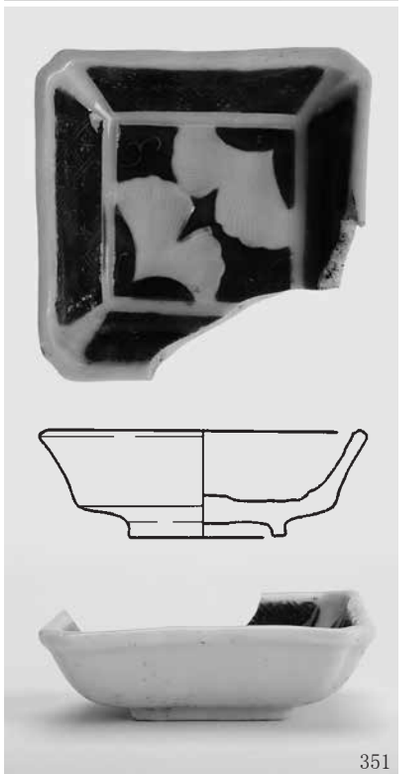


D 地区出土土器⑮

350

352

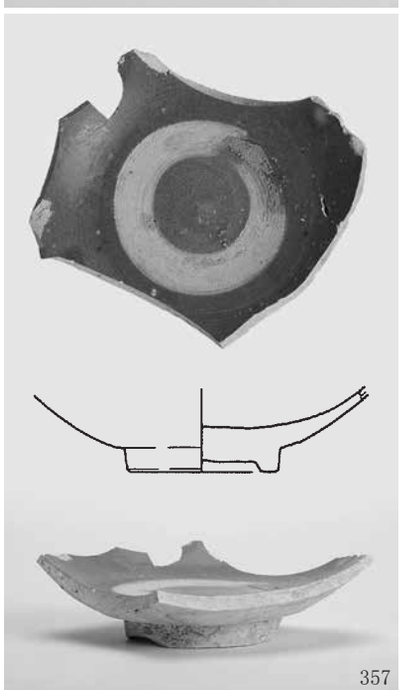
355


351

353

356

354


357

358

359

360

361

D 地区出土土器⑯

362

363

364

365

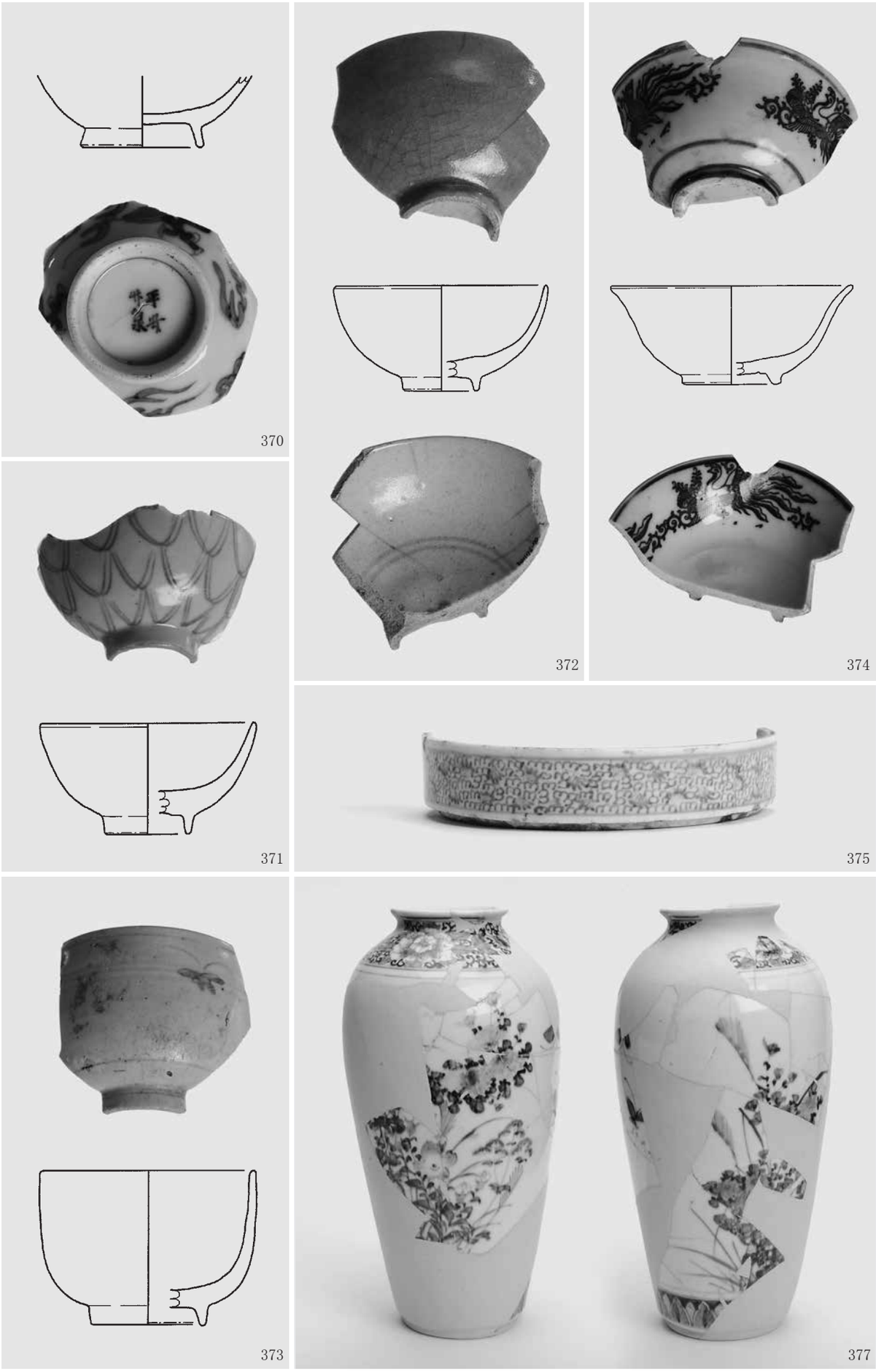
369

366

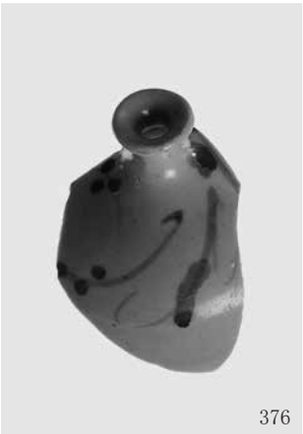
367

368

D 地区出土土器⑰

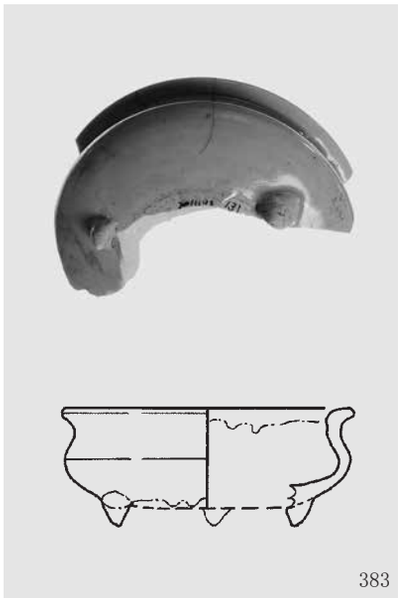


D 地区出土土器⑱


376

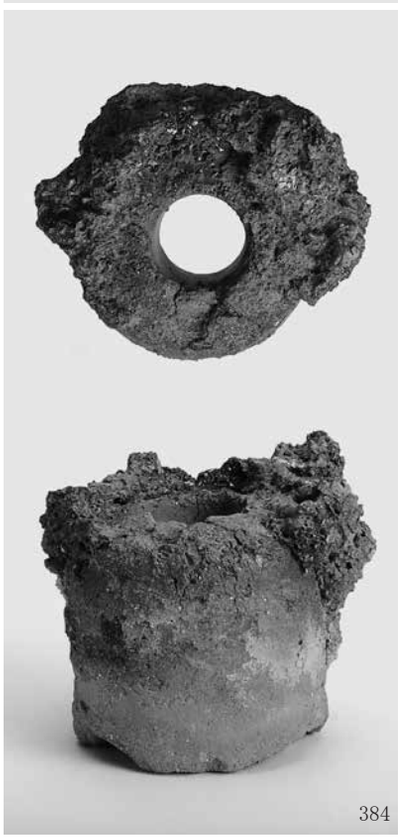
378 379 380

381


383

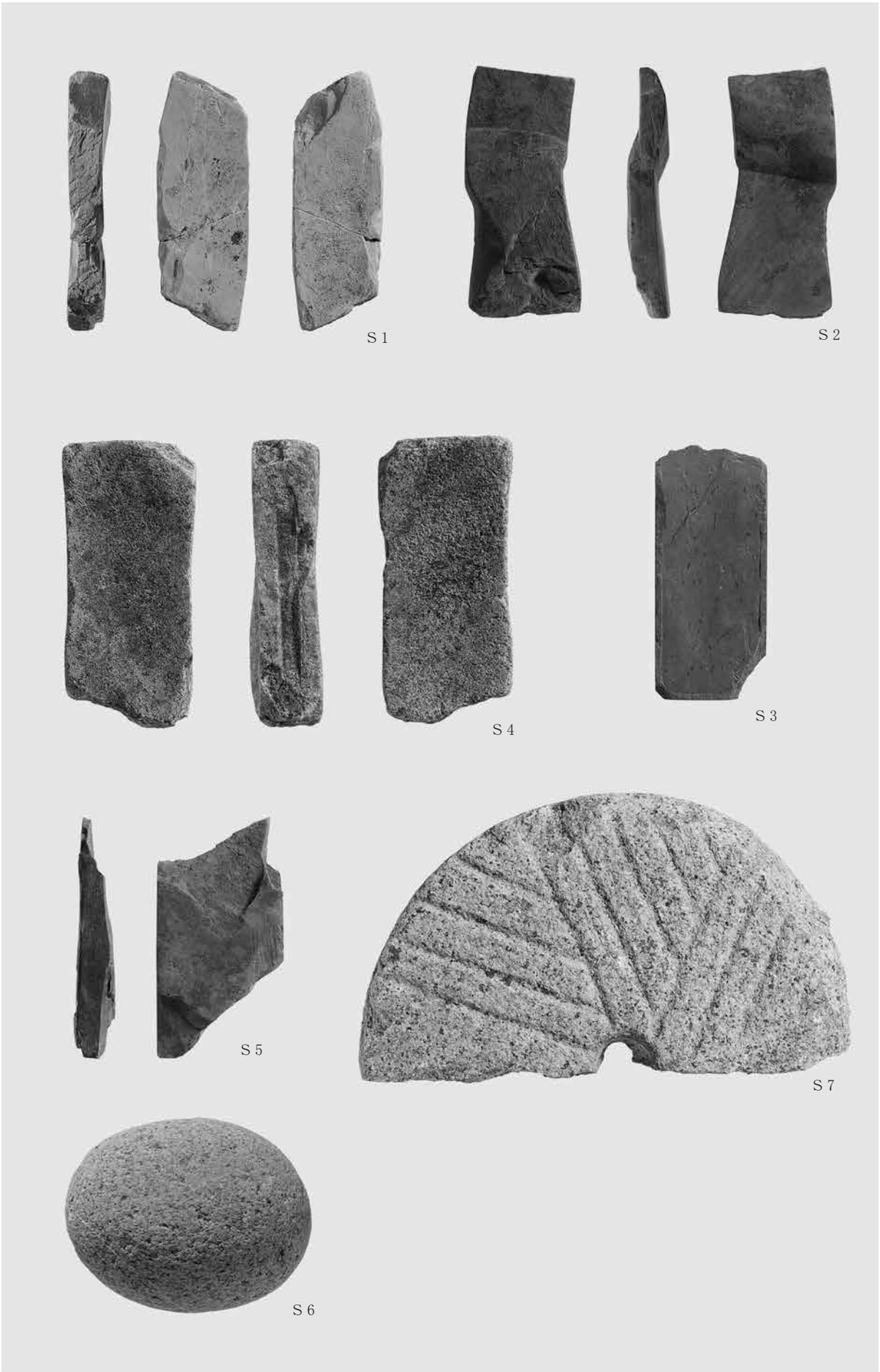
382

385

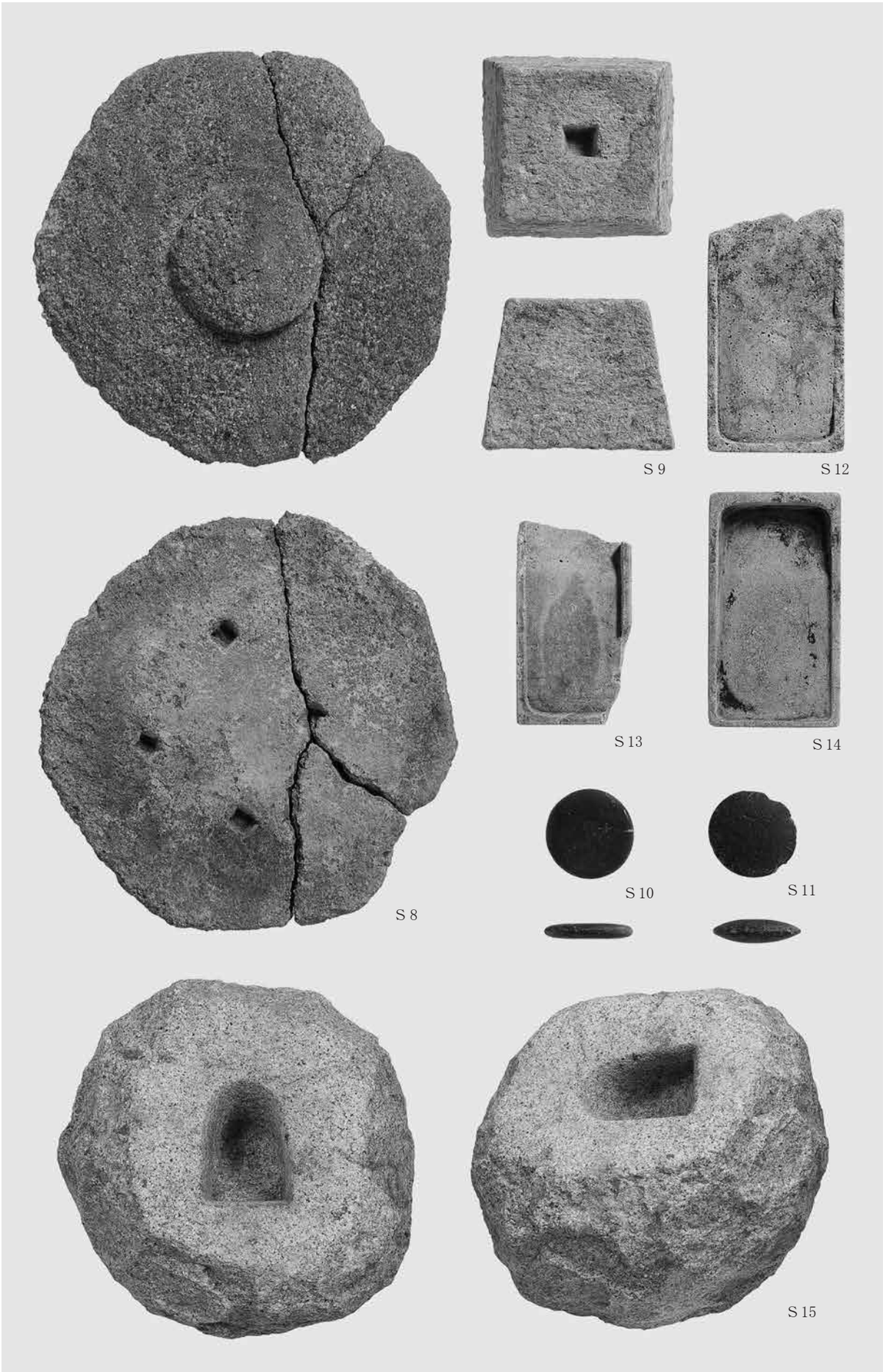

384

386

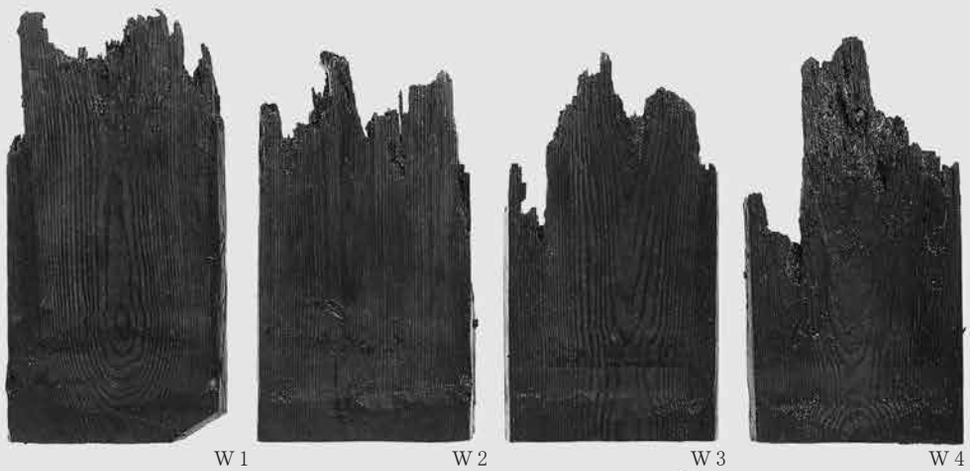
D 地区出土土器⑲



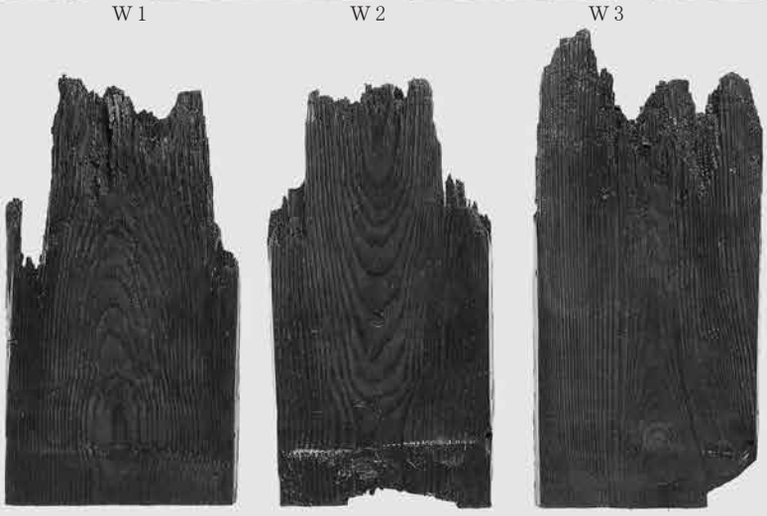
出土石器①



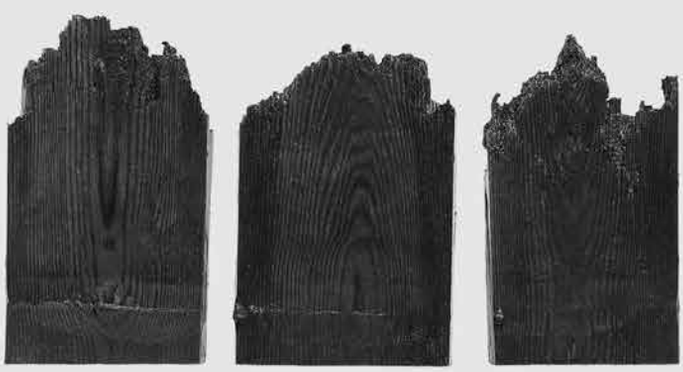
出土石器②



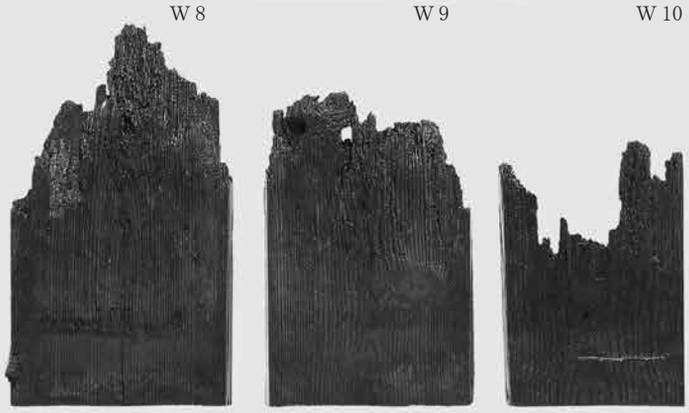
W 1　W 2　W 3　W 4



W 5　W 6　W 7



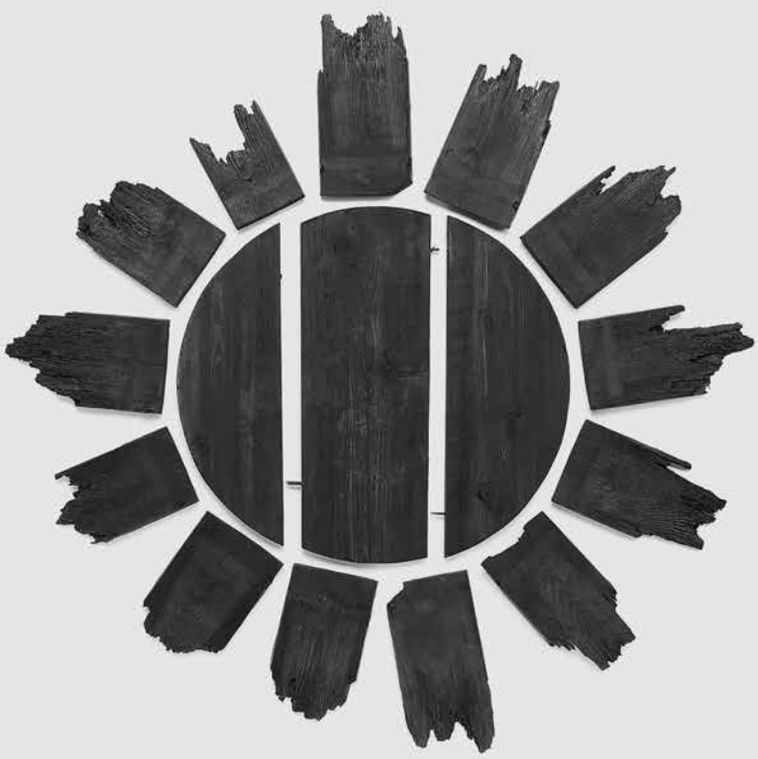
W 8　W 9　W 10



W 11　W 12　W 13

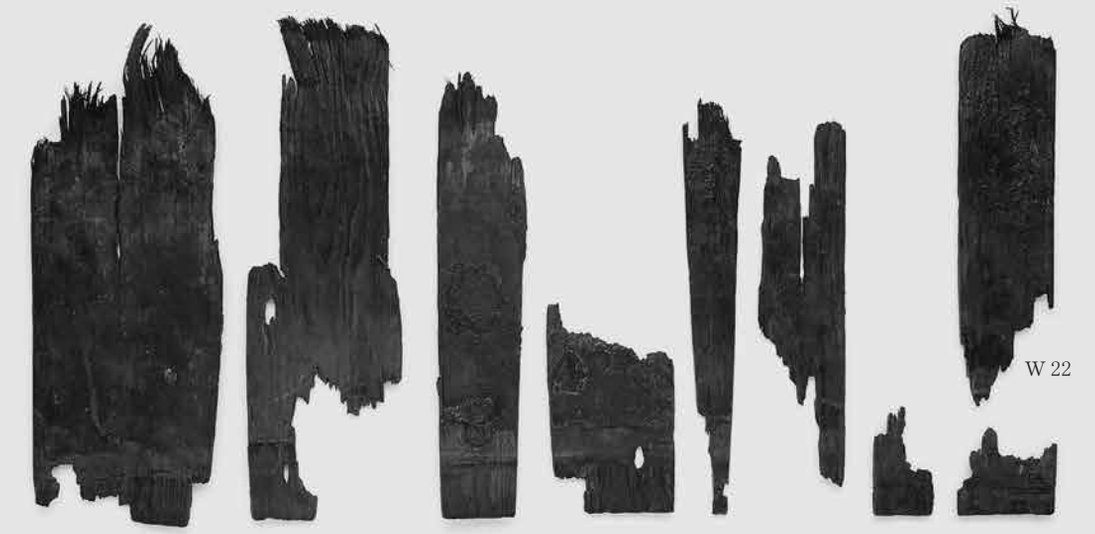
出土木器①

W 14



W 1～14

出土木器②



出土木器③

W 27

W 28

W 29

W 30

W 33

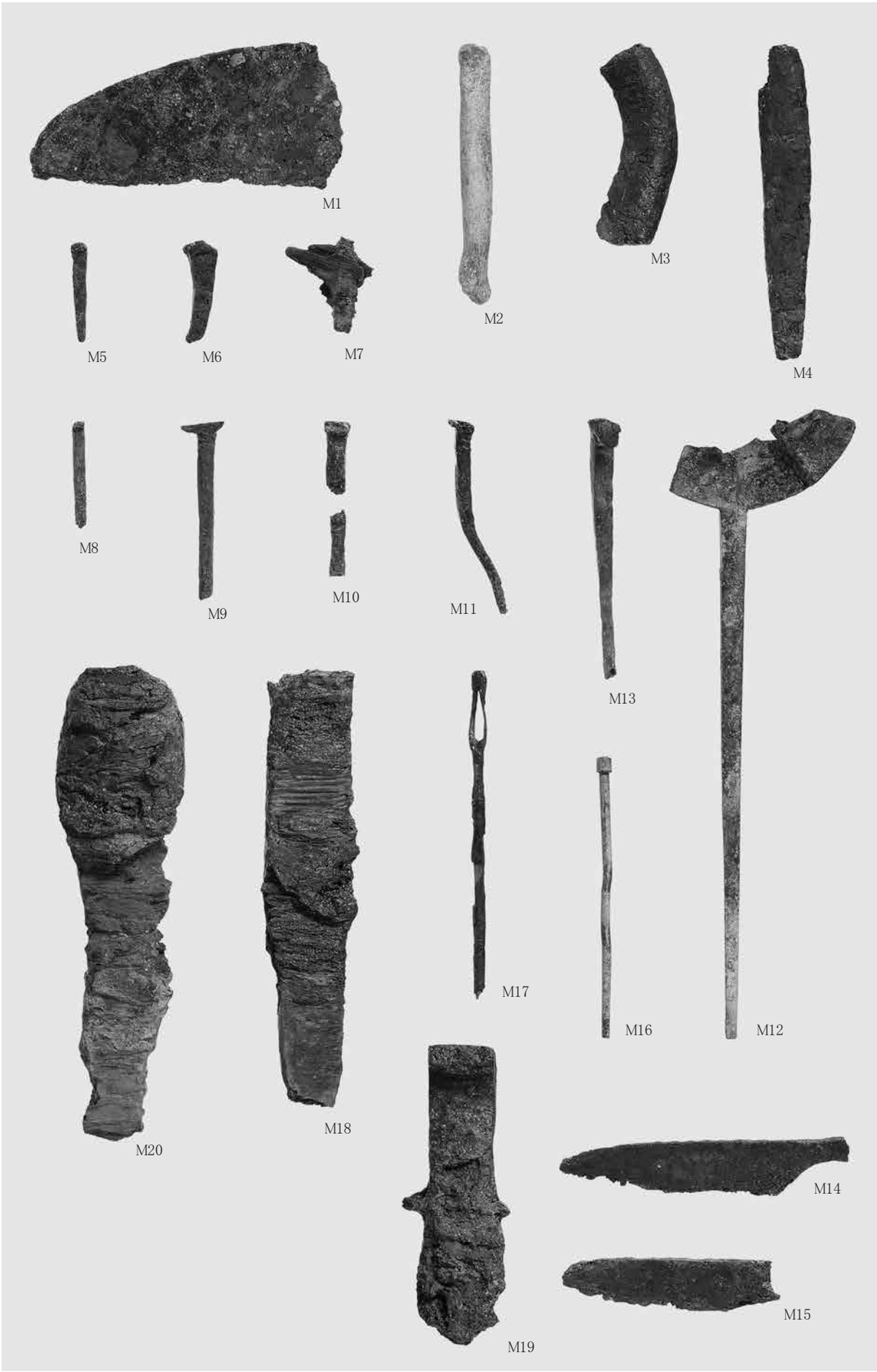
W 32

W 31

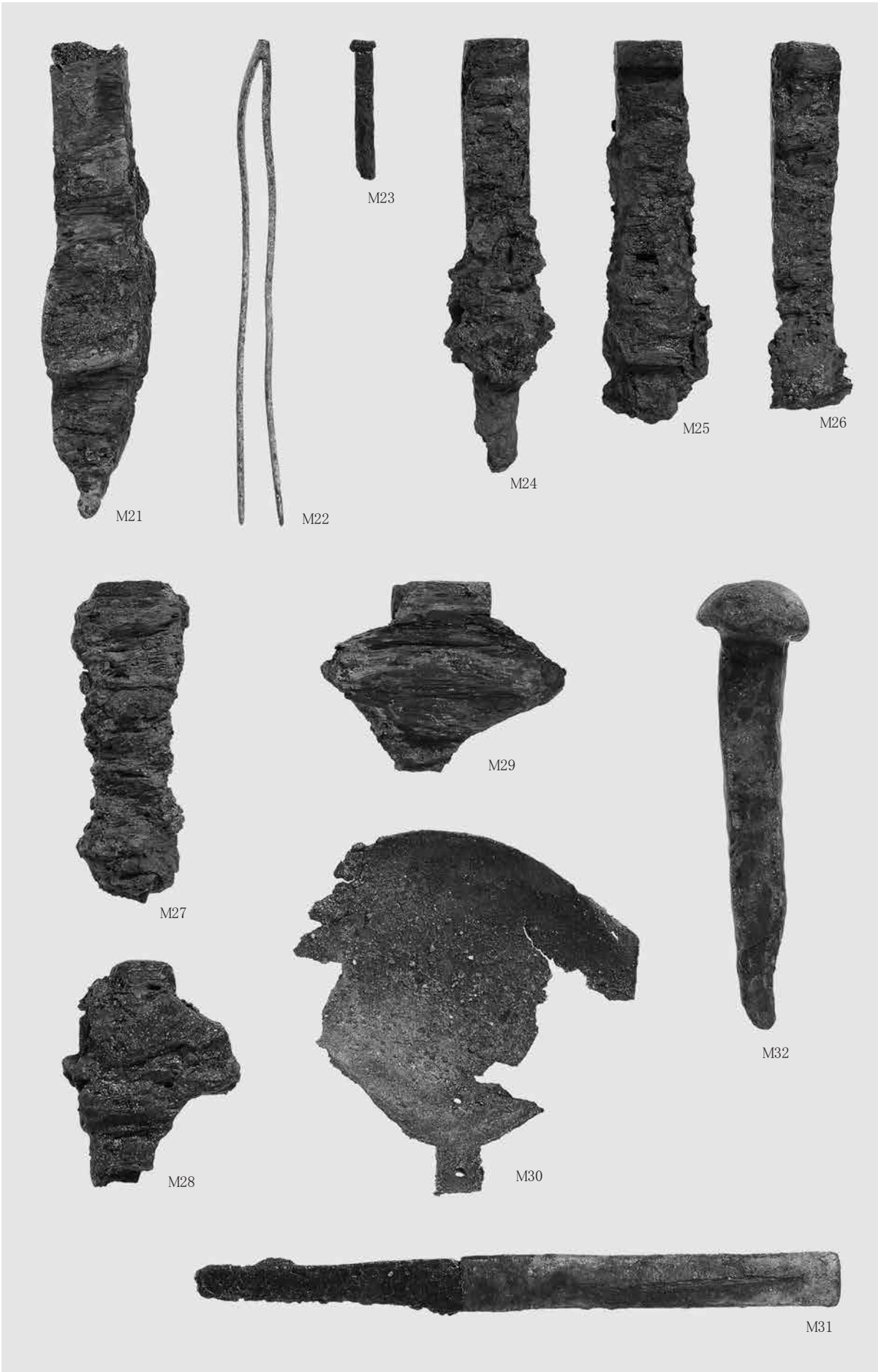
W 34

W 35

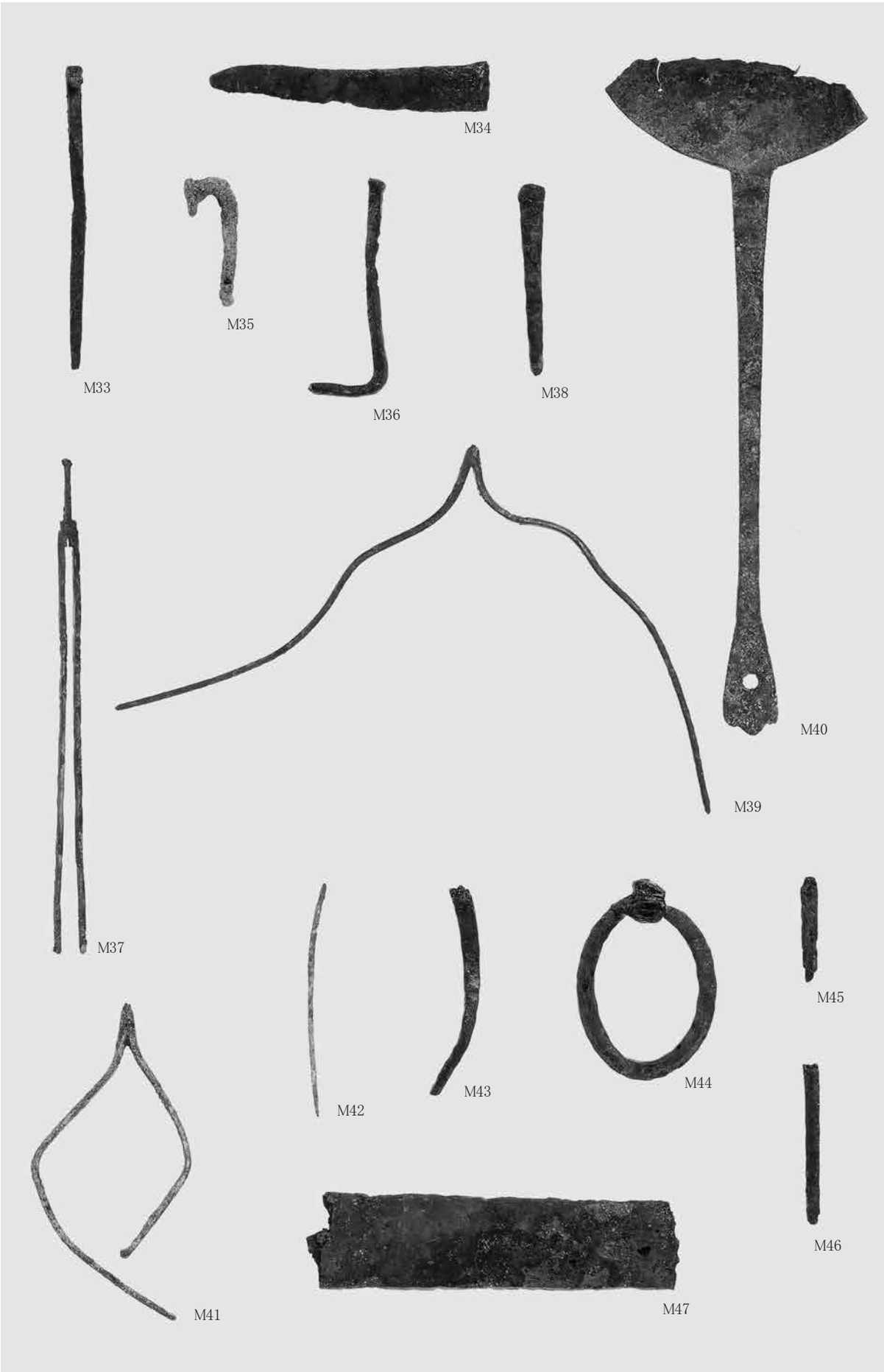
出土木器④


M1
M2
M3
M4
M5
M6
M7
M8
M9
M10
M11
M12
M13
M14
M15
M16
M17
M18
M19
M20

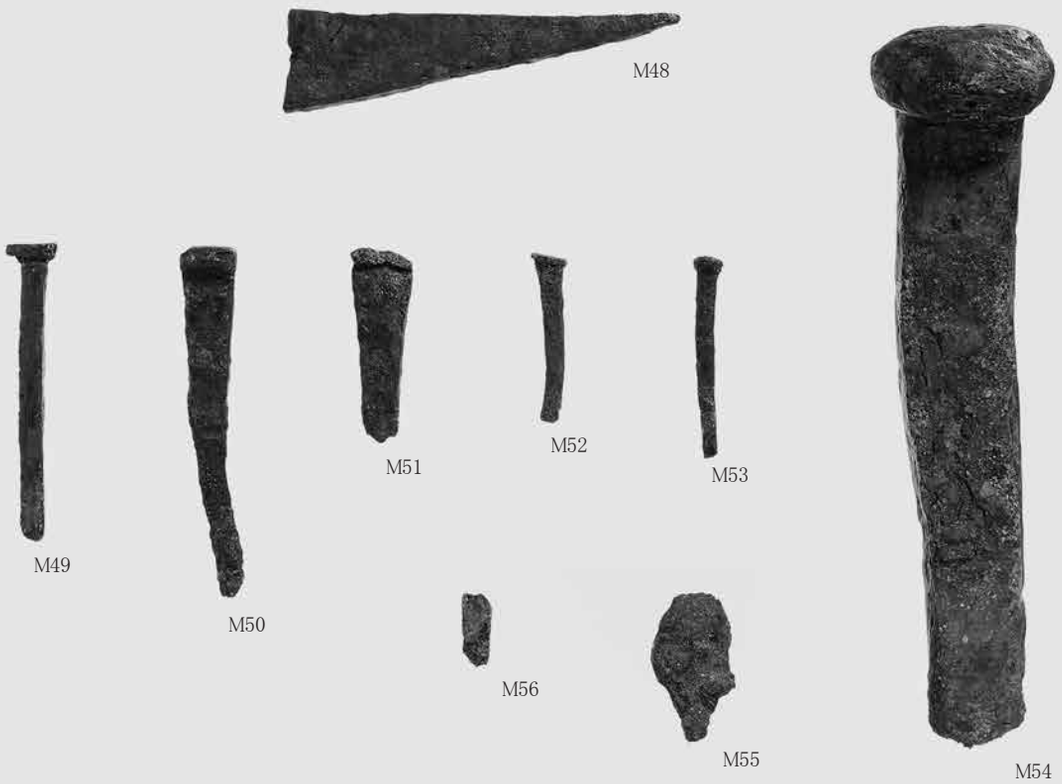
出土金属器①



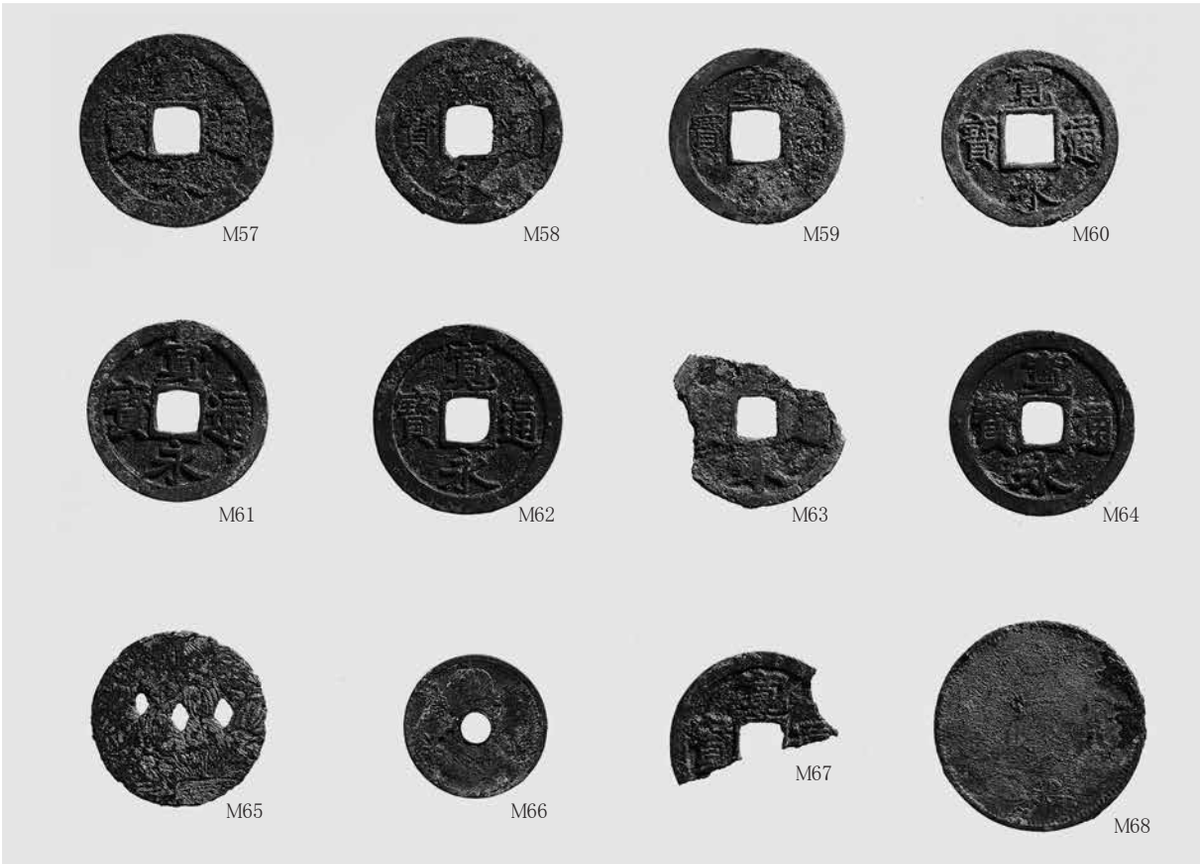
出土金属器②

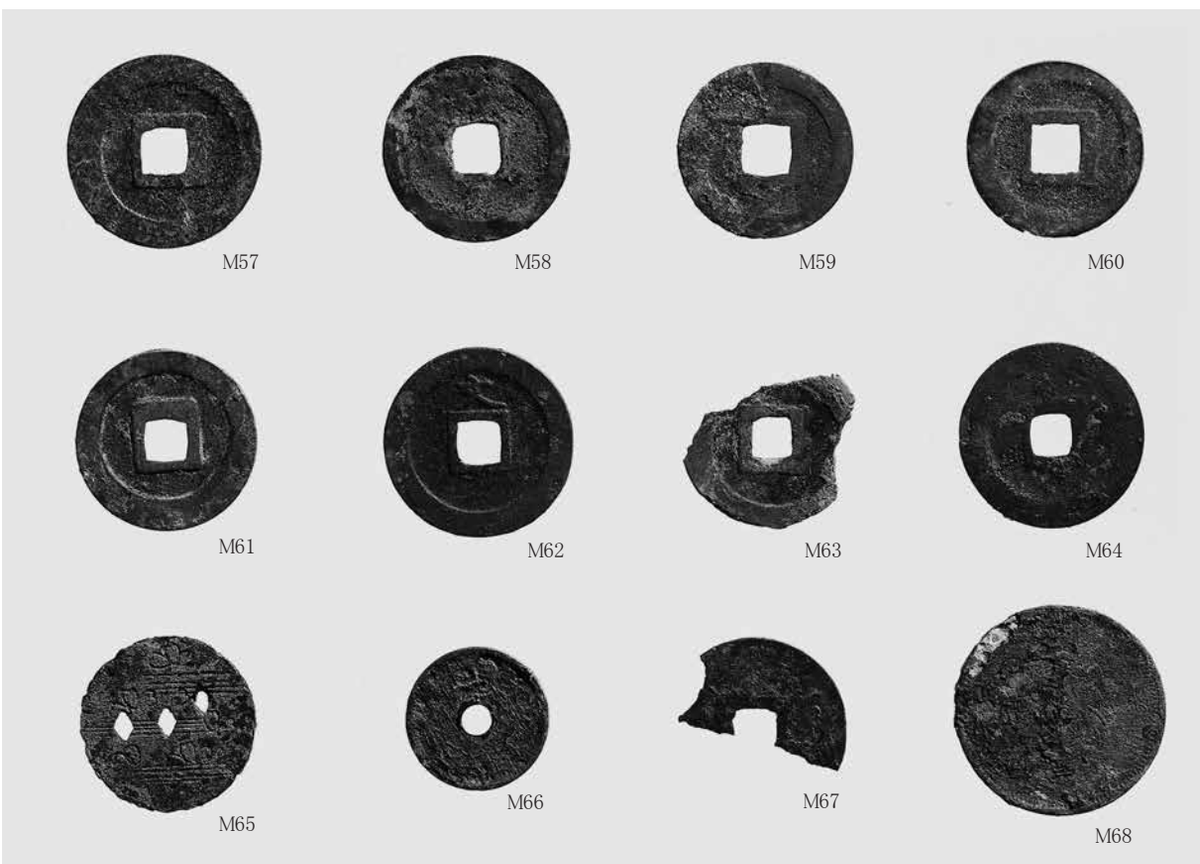


出土金属器③

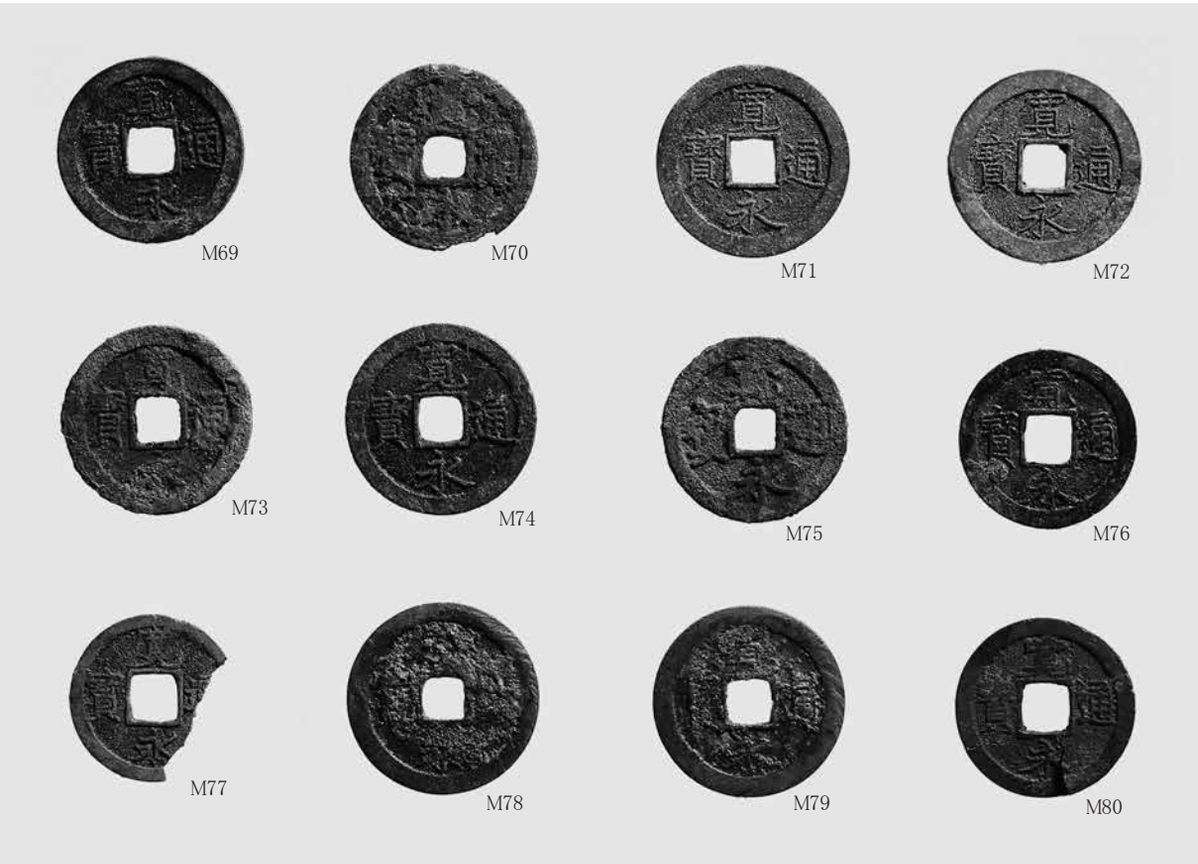


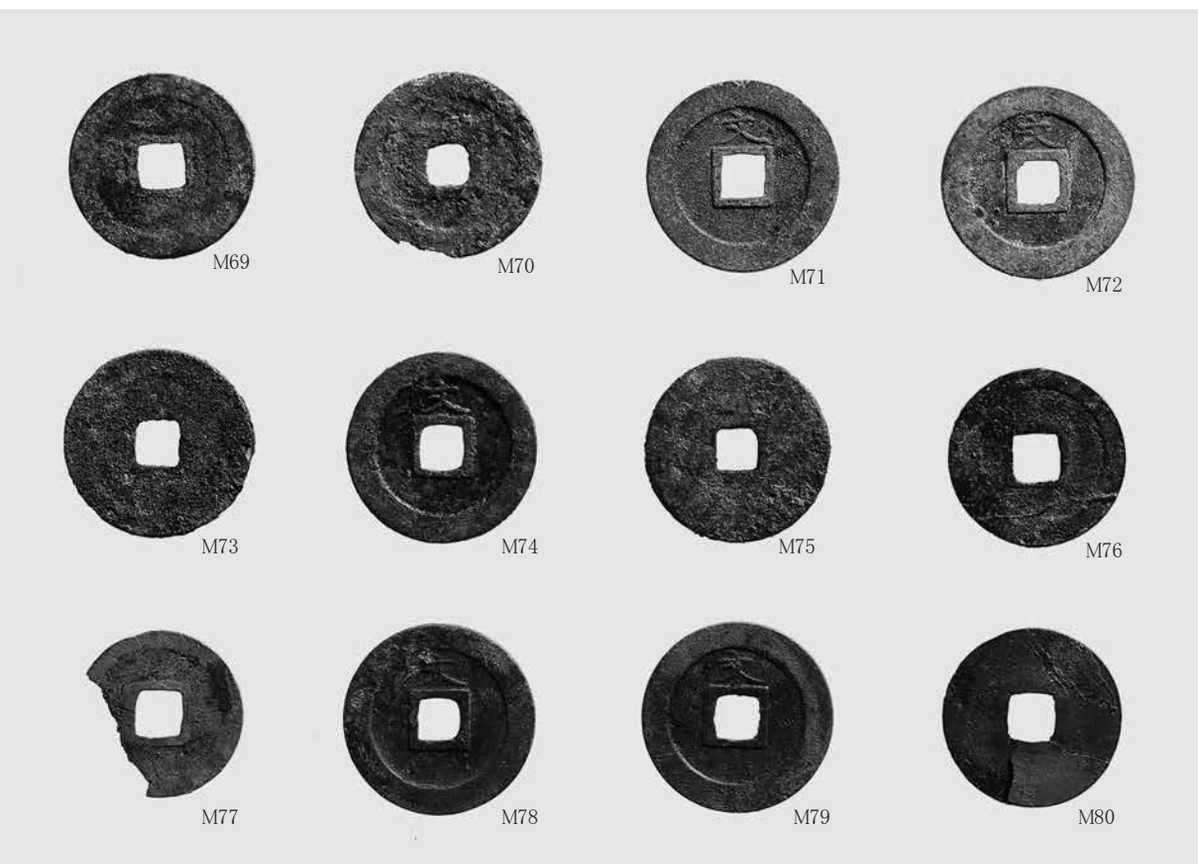
出土金属器④


M57
M58
M59
M60
M61
M62
M63
M64
M65
M66
M67
M68

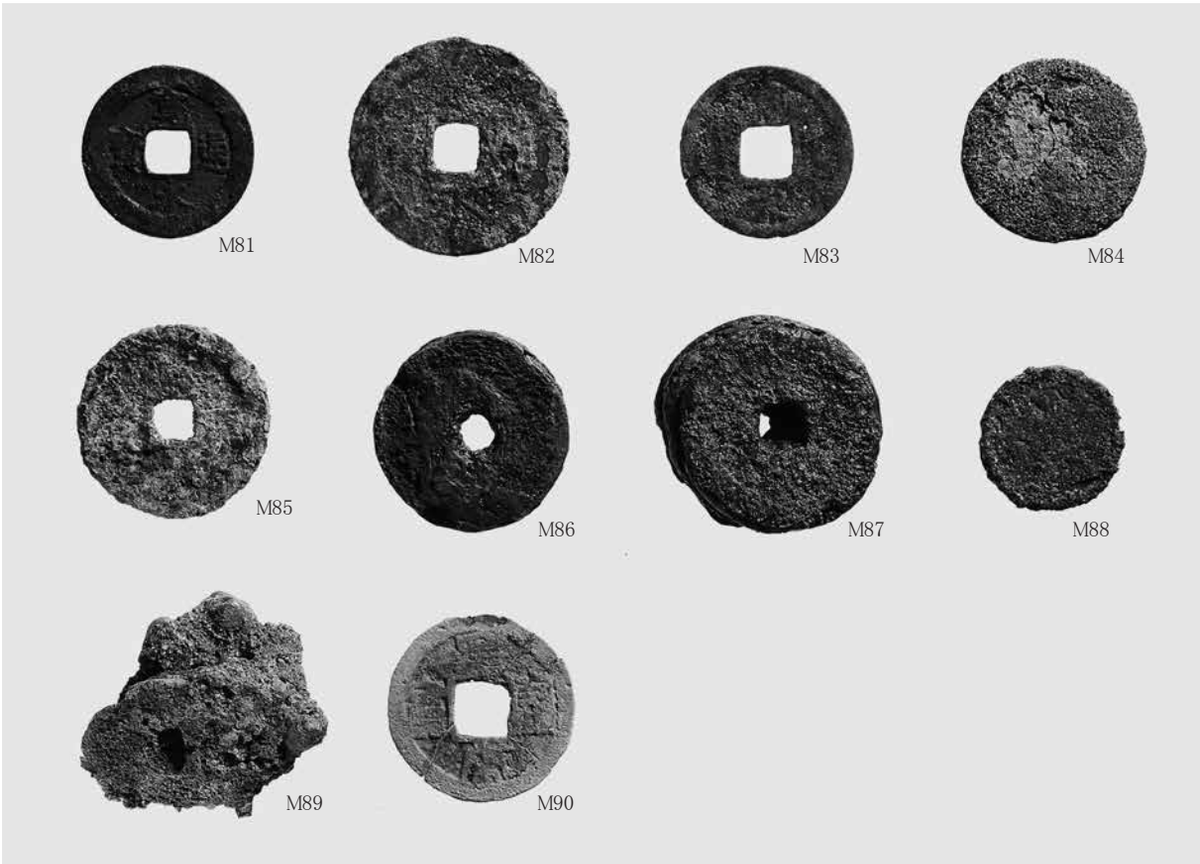

M57
M58
M59
M60
M61
M62
M63
M64
M65
M66
M67
M68

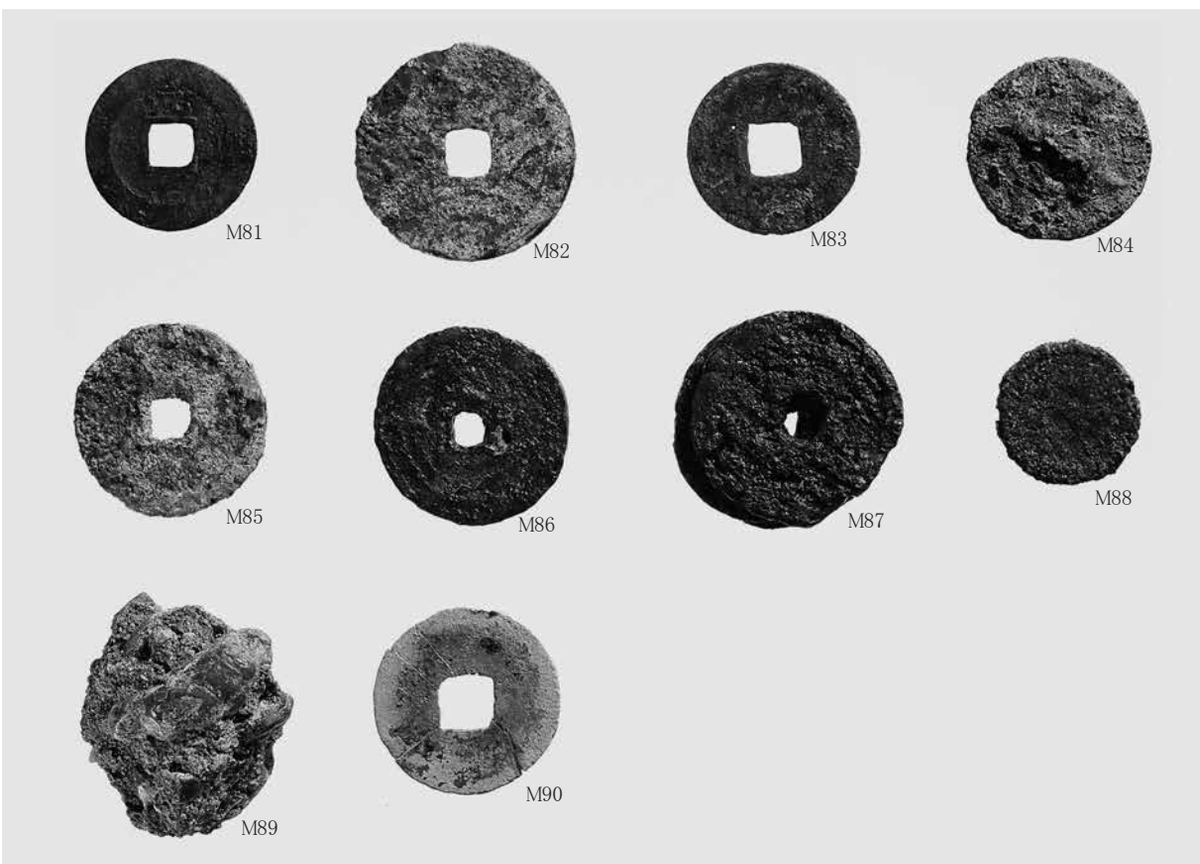
出土金属器⑤（古銭）


M69
M70
M71
M72
M73
M74
M75
M76
M77
M78
M79
M80


M69
M70
M71
M72
M73
M74
M75
M76
M77
M78
M79
M80

出土金属器⑥（古銭）


M81
M82
M83
M84
M85
M86
M87
M88
M89
M90


M81
M82
M83
M84
M85
M86
M87
M88
M89
M90

出土金属器⑦（古銭）

兵庫県文化財調査報告　第460冊

明石市

明石城下町町屋跡

― 山陽電鉄本線（明石Ⅱ期）連続立体交差事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

平成26（2014）年3月28日発行

編 集　公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内）

発 行　兵 庫 県 教 育 委 員 会
〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷　㈱ 岸 本 印 刷 所
〒676-0805　兵庫県高砂市米田町米田400－1